

平成27年度 人材力活性化に関する
調査研究事業

報告書

平成28年3月

総務省地域力創造グループ地域自立応援課
人材力活性化・連携交流室

<< 目 次 >>

序章 調査の目的	1
1. 調査の目的	1
2. 調査研究事業	1
第Ⅰ章 全国地域づくり人財塾	2
1. 全国地域づくり人財塾とは	2
2. 今年度の実施状況	3
第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編	11
1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは	11
2. ケーススタディ型の実施状況	11
3. フィールドワーク型の実施状況	13
4. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修	15
第Ⅲ章 「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査	17
1. 「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査報告	17
2. 調査結果の分析	17
3. 「全国地域づくり人財塾」において講師として招聘した修了者の地域づくり活動調査及び事例報告	38
第Ⅳ章 人材力活性化研究会	92
1. 第17回研究会	93
2. 第18回研究会	96
第Ⅶ章 本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性	98
1. 本年度の調査研究事業の成果と課題の確認	98
2. 今後の展開に向けて	103
参考資料	
参考資料1. 全国地域づくり人財塾初級編 受講者アンケート	105
参考資料2. 全国地域づくり人財塾課題解決編 受講者アンケート	247
参考資料3. 全国地域づくり人財塾修了者に対するフォローアップ調査票	261
参考資料4. 地方創生関係資料(地方創生人材プラン・新型交付金ほか)	279

序章 調査の目的

1. 調査の目的

総務省では、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、NPO・企業等の「民」と国・地方公共団体等の「官」の連携方策も含めた課題を抽出したうえで、地方公共団体や地域活性化に関わる団体等が、人材力の活性化に取り組む場合の参考として用いることを想定し、「地域づくり人」を育成するために3つのテキスト（「人材力活性化プログラム」「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」及び「地域づくり人の育成に関する手引き」）及びこれらを取りまとめた「地域づくり人育成ハンドブック」を作成するとともに、地域づくり人育成のための研修会を開催し、地域づくり人の広がりや質の向上を図ってきたところである。

平成27年度においては、これらを基本テキストとした人材力活性化のための講座開催や今後の展開を念頭に置いた各種の調査研究等を行う。

2. 調査研究事業

本年度行った調査研究事業は、以下のとおり。

研修事業	調査研究事業
■全国地域づくり人財塾 ●全国地域づくり人財塾 ■全国地域づくり人財塾 課題解決編 ●ケーススタディ型 ●フィールドワーク型	■「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査 ■人材力活性化研究会

第 I 章 全国地域づくり人財塾

1. 全国地域づくり人財塾とは

地域活性化の取組においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切である。

このような状況を生み出すため、地域づくりに関する行政職員および NPO などの民間団体のスタッフ等を対象に、年 3 回、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成する全国地域づくり人財塾を開催している。

図表 これまで実施された全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 23 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H23.8.8～9
	全国市町村国際文化研修所	H23.12.13～15
	市町村職員中央研修所	H24.3.12～14
平成 24 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H24.7.26～27
	全国市町村国際文化研修所	H25.1.9～11
	市町村職員中央研修所	H25.3.11～13
平成 25 年度 全国地域づくり人財塾	自治大学校	H25.8.1～2
	全国市町村国際文化研修所	H25.9.25～27
	市町村職員中央研修所	H25.10.30～11.1
平成 26 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26.6.18～20
	自治大学校	H26.7.24～25
	市町村職員中央研修所	H26.10.29～31
平成 24 年度 「域学連携」地域づくり人 育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○最上のまちづくり地域リーダー塾（山形県最上市）12月～1月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○近江地域づくり人交座（滋賀県彦根市）1月～2月 ○きくち地域づくり人育成塾（熊本県菊池市）11月～2月 ○やんばる地域づくり人育成講座（沖縄県浦添市）11月～2月 	
平成 25 年度 地域づくり人育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○「たまるくと地域づくり人」育成講座（東京都多摩六市）2月 ○平成 25 年度石川地域づくり塾（石川県内）11月～2月 ○愛媛県中予地域づくり人育成事業（愛媛県中予地域）12月～2月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○「域学連携」地域づくり人育成支援事業（沖縄県やんばる地域）11月～2月 	

図表 今年度実施した全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 27 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H27.5.12～14
	自治大学校	H27.6.4～5
	市町村職員中央研修所	H27.10.28～30

2. 今年度の実施状況

(1) 全国市町村国際文化研修所（J I A M）編

①開催概要

- 日時：平成27年5月12日（火）～14日（木）
- 場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
- 参加者数：45名（自治体職員37名、その他8名）
- 研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした2泊3日の合宿型研修。

座学による講義のほか、講師との直接対話、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
5月12日（火）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00～ 入寮受付 11:30～ 昼食 12:45～ 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【導入】 (13:00～13:15) 「人材力の活性化について」 野竹司郎(総務省人材力活性化・連携交流室長) 【実践事例】 (13:15～14:10) 「NPO フュージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永一夫(NPO フュージョン長池会長)
	4限目	14:25 ～ 15:35	【実践事例】 「地域再生 ～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重哲郎(柳谷自治公民館長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	【実践事例】 「『農山村』再生の実践と課題」 小田切徳美(明治大学農学部教授)
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30)

月日	時限	時間	講義内容
5月13日(水)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「地域に飛び出し翻訳こんにやく家になろう！」 前神有里(一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【実践事例】 「ただ話す、ではなく、伝わるように話す ～「心に響き、目にも焼きつき、耳にも残る」話し方の基礎を学ぶ～」 森吉弘(森ゼミ代表)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【講師との直接対話】 (13:00～17:00)
	4限目	14:25 ～ 15:35	富永一夫(NPO フェュージョン長池会長) 豊重哲郎(柳谷自治公民館長) 前神有里(一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	森吉弘(森ゼミ代表) 野竹司郎(総務省人材力活性化・連携交流室長)
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30)
5月14日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【事例報告】 豊山希巳江(千葉県山武市さんぶの森図書館主任司書) 竹内蘭(岐阜県養老町 NPO 法人ヨロスト代表理事) 青野敬(兵庫県三田市地域支援課長)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【実践事例】 「地域づくりのマネジメント –効果的なプラットフォームのつくり方–」 飯盛義徳(慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
	4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講・事務連絡】 (14:10～14:20)

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- もう少し実践事例報告を増やすべきではないか。成果報告もよいが、最初の苦労話や手法に重点を置いたお話を希望する。
- 直接対話の講師に係る情報を事前に周知し、課題にマッチした講師を選択できるようにすべきではないか。
- グループワーク（ワークショップ）の時間を長く取るべきではないか。フリートークの時間を設け、各団体の悩みや新しい企画などの話せる場を設けるべき。
- 講義外の時間で仲間づくりの時間を確保すべきではないか。

（今後受けたいステップアップ研修について）

- （東日本・西日本よりも）身近な地域でのフォローアップの場を確保できないか。
- 良い事例がある現場での研修や、OBOG、まちづくり関係者と会える機会があるとよいのではないかな。
- 具体的な実践事例を通じて課題を持ち寄っての対話研修が重要ではないか。
- 各市町における活動発表（大会）を開催し、相互に刺激し合えるイベントがあれば良いのではないかな。



直接対話（富永講師）



実践事例（小田切講師）



直接対話（前神講師）



実践事例（森講師）

(2) 自治大学校編

①開催概要

■日時：平成 27 年 6 月 4 日（木）～5 日（金）

■場所：自治大学校（東京都立川市）

■参加者数：112 名（自治体職員）

■研修概要：自治大学校「政策専門課程」受講生を対象とした研修。学識者や実践者による講義を通じて、人財塾 OB の事例報告を通じて、地域づくりについて学習した。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
6月4日(木)	2限目	10:50 ～ 12:00	【開講挨拶】 (10:50～11:00) 原田淳志(総務省地域力創造審議官) 【合同講義】 (11:00～12:00) 「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」 飯盛義徳(慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【合同講義】 「人口減少時代と、地方公務員に求められる力」 富野暉一郎(龍谷大学名誉教授)
	4限目	14:25 ～ 15:35	
	5限目	15:50 ～ 17:00	【合同講義】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重哲郎(柳谷自治公民館長)
6月5日(金)	1限目	9:25 ～ 10:35	【合同講義・実習】 「地域ブランド戦略」 棟方信彦(松山東雲女子大学・短期大学 学長)
	2限目	10:50 ～ 12:00	
	3限目	13:00 ～ 14:10	【合同講義】 「地域ブランド化実践事例から学ぶ実務のコツ」 枳尾圭亮(地域力創造アドバイザー、 (株)船井総合研究所プロジェクトマネージャー)
	4限目	14:25 ～ 15:35	【合同講義】 「NPO フェュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永一夫(NPO フェュージョン長池会長)

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- 失敗から反省、そして成功例という一連の事例研修が必要ではないか。
- 講義を深く理解できるよう、講義内容等をできるだけ事前に情報提供いただき質問項目などを受講側がしっかりと準備できるよう配慮していただけないか。
- 地域でコーディネーターとして活躍する方を講師として迎え、そのノウハウについて学ぶ時間が欲しい。また、後継者育成のための研修が必要ではないか。
- 人財塾（総務省）として地方公務員の自主性のみ委ねるのではなく、次の段階に移行すべきではないか。

（今後受けたいステップアップ研修について）

- （市民サイドではなく）行政側がどのように関与すると成功に導くことができるか、という観点からの研修が必要ではないか。
- 具体的な地域課題や地域おこしの具体策をグループワークする研修が必要。
- 実際地域のフィールドにおいて、数日間地域の人たちと意見交換できる場があればより実践的な研修となるのではないか。
- 先進的な実践の例を数多く知ることができる研修が必要ではないか。



合同講義（富野講師）



合同講義・演習（棟方講師）



合同講義（朽尾講師）

(3) 市町村アカデミー（JAMP）編

①開催概要

■日時：平成24年10月28日（水）～10月30日（金）

■場所：市町村アカデミー（千葉県千葉市）

■参加者数：86名（自治体職員76名、その他10名）

■研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした2泊3日の合宿型研修。

座学による講義のほか、講師との直接対話、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやハウツー等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
10月28日（水）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00～ 入寮受付 11:30～ 昼食 12:30～ 開講オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【導入】 (13:00～13:15) 「人材力の活性化について」 野竹司郎(総務省人材力活性化・連携交流室長) 【実践事例】 (13:15～14:10) 「NPO フュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永一夫(NPO フュージョン長池会長)
	4限目	14:25 ～ 15:35	【実践事例】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重哲郎(柳谷自治公民館長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	【実践事例】 「農村文化の継承と地域づくり～足元は宝の山～」 北川静子(農業法人せいわの里まめや 代表取締役)
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30)

月日	時限	時間	講義内容
10月29日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくり」 飯盛義徳(慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【実践事例】 「『能力を磨く』という人材育成の考え方」 玉沖仁美(株式会社紡 代表取締役)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【講師との直接対話】 飯盛義徳(慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授) 富永一夫(NPO フュージョン長池会長)
	4限目	14:25 ～ 15:35	豊重哲郎(柳谷自治公民館長) 玉沖仁美(株式会社紡代表取締役) 小澤浩子(赤羽消防団副団長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	前神有里(一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長) 牧野益巳(日本マイクロソフト株式会社社会長室業務執行役員シチズンシップリード) 宮城治男(特定非営利活動法人 ETIC.代表理事) 野竹司郎(総務省人材力活性化・連携交流室長)
課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30)	
10月30日(金)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【事例報告】 渡辺大樹(千葉市保健福祉局保護課) 都竹亜耶(長野県木曾町農林振興課スローフード木曾事務局)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【事例報告】 鶴田智恵(NPO 法人「日本で最も美しい村」連合(宮崎県綾町から出向)) 村上将司(愛媛県宇和島市総務部企画情報課)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講式】 (14:10～)	

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修時間・参加人数関係）

- ・日程延長若しくは講師を減らすなど、もっと余裕のある日程として欲しい。
- ・直接対話は時間を延長して講師と対話できるようにして欲しい。
- ・短い日程なので、受講生を半数程度とし、もっと交流できるようにして欲しい。

（ステップアップ研修の要望等）

- ・各講師の方の活動場面を直で体験するフィールドワーク型に参加したい。
- ・講師先生を招へいし、地元の関係者に聞いてもらいたい。
- ・全国の地域ごとにステップアップ研修を開催すべきではないか（是非参加したい）。
- ・直接対話形式で地域課題をどうしていくか解決手法を学ぶ研修に参加してみたい。

（フォローアップについて）

- ・全国の地域ブロックごとの活動報告会や情報交換会などがあれば参加したい。



実践実例（飯盛講師）



実践実例（玉沖講師）



講師との直接対話（宮城講師）



講師との直接対話（小澤講師）

第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編

1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは

「全国地域づくり人財塾課題解決編」は、「全国地域づくり人財塾」等の修了生等を初め、地域づくりの実践活動を始めた方等を対象に、課題解決の糸口発見や更なる活動へのステップアップの場として実施している。

今年度も、事前課題とグループワークを通じて地域づくりの実行計画を策定する「ケーススタディ型」と、事前課題とフィールドワークを通じて地域づくりの実行計画を策定する「フィールドワーク型」を開催した。

2. ケーススタディ型の実施状況

(1) 開催概要

- 日時：平成27年9月14日（月）～15日（火）〔1泊2日〕
- 場所：幕張セミナーハウス（千葉県千葉市）
- 参加者数：9名（自治体職員3名、その他6名） ※定員：10名
- 研修概要： 地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした1泊2日の合宿型研修。

ただし、参加にあたっては市区町村等職員＋地域づくりに取り組むNPO関係者等の2名1組での参加を要件とし、2名のうち1名は、「地域づくり人育成講座」または「全国地域づくり人財塾」もしくは平成24年度『域学連携』地域づくり人育成支援事業、平成25年度「地域づくり人育成支援事業」の各講座の修了生とした。

カリキュラムは、グループワークを中心に構成。各自の事前課題プレゼンテーションの後、グループ毎（1グループ4名）にその中からケーススタディのテーマとして選択し、課題解決策の検討・実行計画案を策定する演習を行い、最終日にその発表を行った。このような学習作業を通じて、課題解決力およびプレゼンテーション力の向上を図った。

(2) カリキュラム

月日	時間	内容
9月14日（月）	12:00～	受付
	13:00～ 13:30	開講・オリエンテーション
	13:30～ 18:00	【事前課題の発表】 ① 各ペアからの事前課題プレゼンテーション ② 講評
	19:00～ 21:00	【グループワーク①】テーマ選定 事前課題発表を踏まえて、グループ毎にケーススタディとして取り上げるテーマの選定と討議。

月日	時間	内容
9月15日(火)	9:00～ 12:00	【グループワーク②】 実行計画の作成と、プレゼンテーションの準備
	13:00～ 15:00	【最終発表】 グループワーク成果を発表と講師講評
	15:00～ 15:15	閉講式

(3) 受講者の評価 (受講者アンケート抜粋)

(研修全般)

- 実地視察やフィールドワークを組み合わせた研修として欲しい。
- 一緒に参加する NPO の方への財政負担への配慮が欲しい。
- 1泊2日とする必要があるのか、内容や時期を再検討すべきではないか。
- より多くの参加者によるネットワークを構築できる研修として欲しい。
- (事前にテーマを周知した上で) ディスカッション形式の研修を取り入れて欲しい。

(フォローアップについて)

- 受講者専用 Facebook ページなどを立ち上げて個々の活動を可視化するのが効果的ではないか。



事前課題発表



グループワーク



成果発表



まとめの講義

3. フィールドワーク型の実施状況

(1) 開催概要

- 日時：平成 27 年 11 月 5 日（木）～7 日（土）〔2 泊 3 日〕
- 場所：伊勢シティホテル（三重県伊勢市）
- 参加者数：6 名（自治体職員 6 名） ※定員：15 名
- 研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及び NPO 関係者等を対象とした 2 泊 3 日の合宿型研修。

参加対象は、「地域づくり人育成講座」または「全国地域づくり人財塾」もしくは平成 24 年度『『域学連携』地域づくり人育成支援事業』、平成 25 年度「地域づくり人育成支援事業」の各講座の修了生とした。

カリキュラムは、グループワークを中心に構成。各自の事前課題プレゼンテーションの後、グループでケーススタディのテーマとして選択し、課題解決策の検討・実行計画案を策定する演習を行い、最終日にその発表を行う。また、その検討を踏まえ、地域に帰ってからの個人の実行計画（行動宣言）も作成する。

研修二日目には、地域づくりの現場を訪ねるフィールドワークを行い、地域課題の解決方法等の理解を深める。

このような学習作業を通じて、課題解決力およびプレゼンテーション力の向上を図った。

(2) カリキュラム

月日	時間	内容
11月5日 (木)	12:30～	受付
	13:00～ 13:15	開講・オリエンテーション
	13:15～ 17:00	【事前課題の発表】 ① 前課題プレゼンテーション ② 講評
	17:30～ 19:00	【グループワーク①】 テーマ選定 事前課題発表を踏まえて、ケーススタディとして取り上げるテーマの選定と討議。
11月6日 (金)	10:00～ 12:00	【フィールドワーク①】 せいわの里まめや視察。
	12:30～ 15:00	【フィールドワーク②】 第3回全国高校生”S”のセレクション視察。
	16:30～ 19:00	【グループワーク②】 グループ討議 実行計画の作成と、プレゼンテーションの準備。
	22:00～	【課外作業】 グループ討議 実行計画の作成と、プレゼンテーションの準備。

月日	時間	内容
11月7日(土)	8:30～ 9:35	【最終発表】 グループワーク成果を発表と講師講評
	9:50～ 11:40	【個人ワーク①】 行動宣言作成・発表
	11:45～ 12:00	閉講式

(3) 受講者の評価 (受講者アンケート抜粋)

(研修全般)

- すべての受講生が今後取り組む活動に活用できる充実した研修と評価。
- すべての受講生がフィールドワーク先について、非常に参考になると評価。
- 開催場所のアクセスについて考慮して欲しい。

(ステップアップ研修の要望等)

- 研修一年後の(行動宣言)活動状況などを報告し合える意見交換の場が更に交流を深めるためには効果的ではないか。
- 課題を更に特定した形で議論を深めるような研修が効果的ではないか。



事前課題の発表



グループワーク



現地講義 (せいわの里まめや)



現地講義 (第3回全国高校生”S”のセレクション)



課外でのグループ討議



成果発表に対する講評

4. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

(1) 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修とは

これまで実施した「全国地域づくり人財塾」の修了生が自主的に集まり、定期的に勉強会（フォローアップ研修）を実施している。

(2) 今年度の実施状況

①全国地域づくり人財塾・東日本支部

1) 概要

- ・平成 24 年度の全国地域づくり人財塾（市町村アカデミー編）の修了生が中心となって企画・開催している。
- ・平成 25 年 4 月以降、3 か月毎に開催し、平成 26 年度までに 8 回開催されている。
- ・原則、平日に開催され、人財塾の未受講生を含め、東京都および近隣県の市町村職員を中心に 1 回あたり 20 名程度が参加している。
- ・平成 26 年度末に今後の運営のあり方について意見交換を行った結果、平成 27 年度以降は、参加者による持ち回り担当制とすることとなり、第 9 回（H27.4.15：地域活性化センター）で当面の開催地や日程等を確認しあった後、第 10 回 東京都八王子市（H27.7.29：長池公園自然館）、第 11 回 東京都小平市（H25.10.21：ルネこだいら）、第 12 回 埼玉県志木市（H28.1.21：フォーシーズンズ志木）で開催された。

2) 研修の内容等

- ・人材力活性化研究会の構成員や大学講師を招聘した講義のほか、参加者から自分の地域の取組等についてプレゼンテーションを行い、それに対する他の参加者からの質疑応答や意見、アイデア提案等を通じて、フィードバックとする形式で開催している。

開催の様子



左上：第 10 回：学識者講義



右上：第 11 回：事前課題発表



右下：第 12 回：グループワーク発表

②全国地域づくり人財塾・西日本 in 河内長野市

1) 概要

- ・平成 27 年度は 9 月に大阪府河内長野市で開催した。
- ・平成 26 年度の全国地域づくり人財塾（市町村アカデミー編）で活動事例報告を行った修了生が中心となって企画・開催した。
- ・関西圏の市町村、NPO 職員を中心に 10 名程度が参加した。

2) 研修の内容等

- ・参加者が所属する各地域での活動状況の報告に加え、開催地における地域づくり事例（中山間地の活動拠点整備・運用、地区まちづくり会の活動）の視察を行い、各々の活動状況や気付きにつき意見交換。市内 2 地区のそれぞれの地域特性に応じた若者による地域づくりの取組を題材として、フィールドワーク、意見交換を行った。



受講生の取組プレゼンテーション



プレゼンテーション後の意見交換

第三章 「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査

1. 「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査報告

「全国地域づくり人財塾」の修了者が実践している地域づくりの活動状況を網羅的に把握するとともに、今後の「全国地域づくり人財塾」運営検討のための基礎資料とすることを目的に、「全国地域づくり人財塾」の修了者を対象としたアンケート調査を実施した。

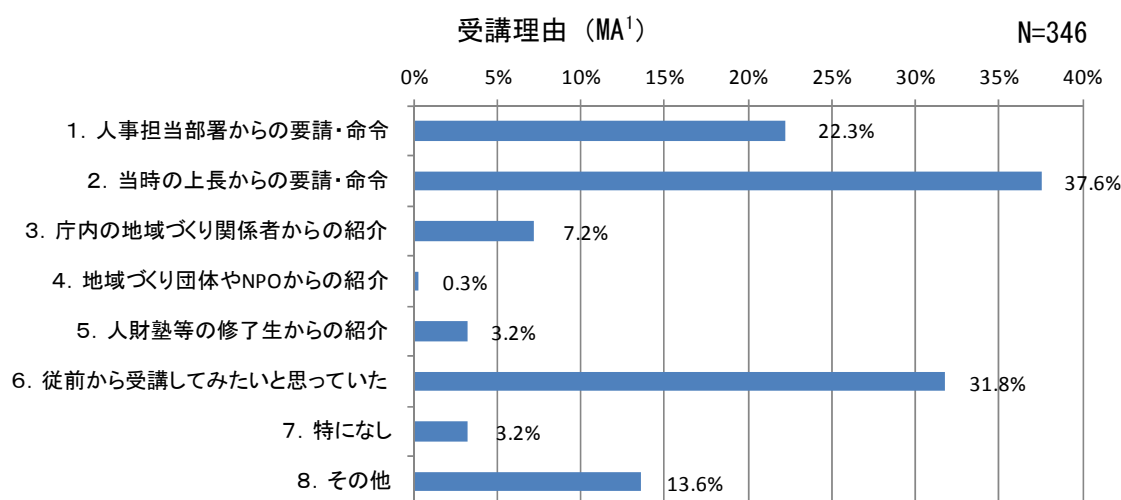
- 調査方法：平成27年度までの全国地域づくり人財塾（平成24年度までに実施された「地域づくり人育成講座」を含む。ただし、自治大学校における政策専門課程の研修生を除く。）の修了者（既に退職されて連絡先が把握できない者を除く。）を対象として、関係市町村及び関係法人の人事担当を通じて調査票を配布・回収した。
- 調査期間：平成27年8月26日（水）～平成27年9月30日（水）
- 回収率：初級編54.1%（配布数639通、回答数346通）
課題解決編42.9%（配布数42通、回答数18通）

2. 調査結果の分析

（1）初級編

①受講理由

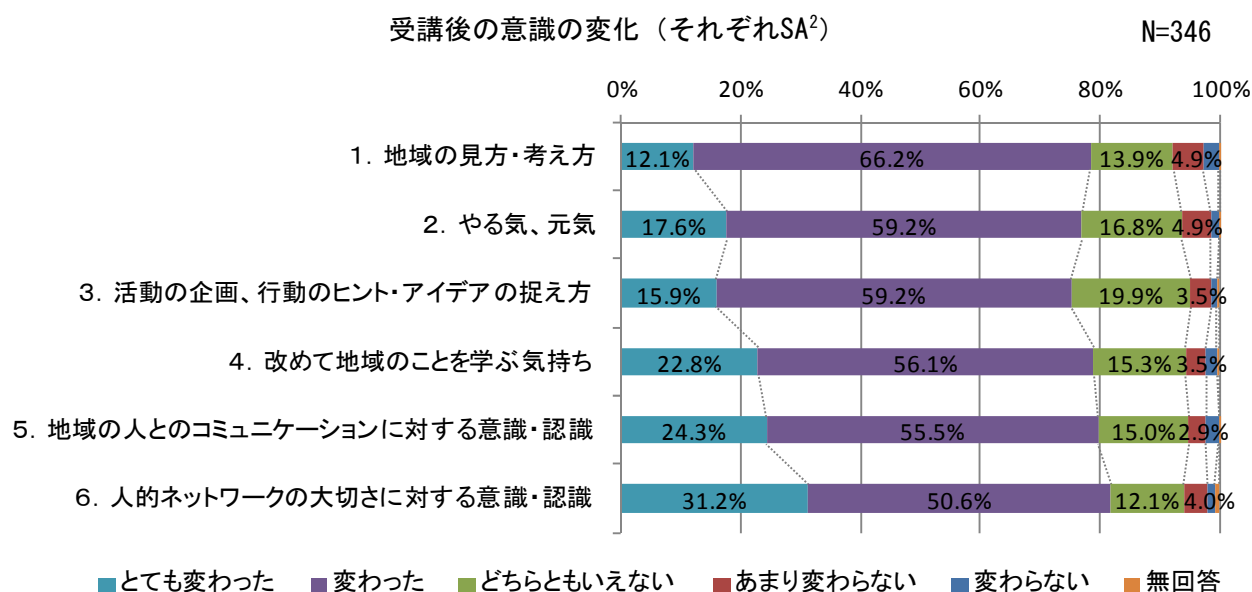
- ・受講理由は、「当時の上長からの要請・命令」が37.6%と最も高く、次いで「従前から受講してみたいと思っていた」（31.8%）、「人事担当部署からの要請・命令」（22.3%）の順となっている。
- ・「その他」の回答では、地域づくりへの関心・興味や、研修内容への興味などの個人の興味・関心に係る回答のほか、人事担当部署や担当部署の紹介といった案内・照会に係る回答が多く見られた。
- ・なお、これまで派遣者数が多い地域（一市町村あたり5名以上）の受講生の回答を見ると、「当時の上長からの要請・命令」が54.8%と最も高く、上長からの要請・命令の割合が高い。



¹ マルチアンサー (multi answer)：質問に対して回答を複数選ぶもの。以下、MA という。

②受講後の「意識」の変化

- ・受講後の「意識」の変化を5段階でたずね、「とても変わった」+「変わった」の割合の高い順に見ると、「人的ネットワークの大切さに対する意識」が81.8%、「地域の人とのコミュニケーションに対する意識」(79.8%)、「改めて地域のことを学ぶ気持ち」(78.9%)、「地域の見方・考え方」(78.3%)、「やる気・元気」(76.9%)、「活動の企画・行動のヒント・アイデアの捉え方」(75.1%)の順となった。
- ・特に、「人的ネットワークの大切さに対する意識」、「地域の人とのコミュニケーションに対する意識」、「改めて地域のことを学ぶ気持ち」の、全国地域づくり人財塾が重視している人や学びの姿勢に関する項目が「とても変わった」の割合が2割以上となっており、意識の変化の高さがうかがわれた。



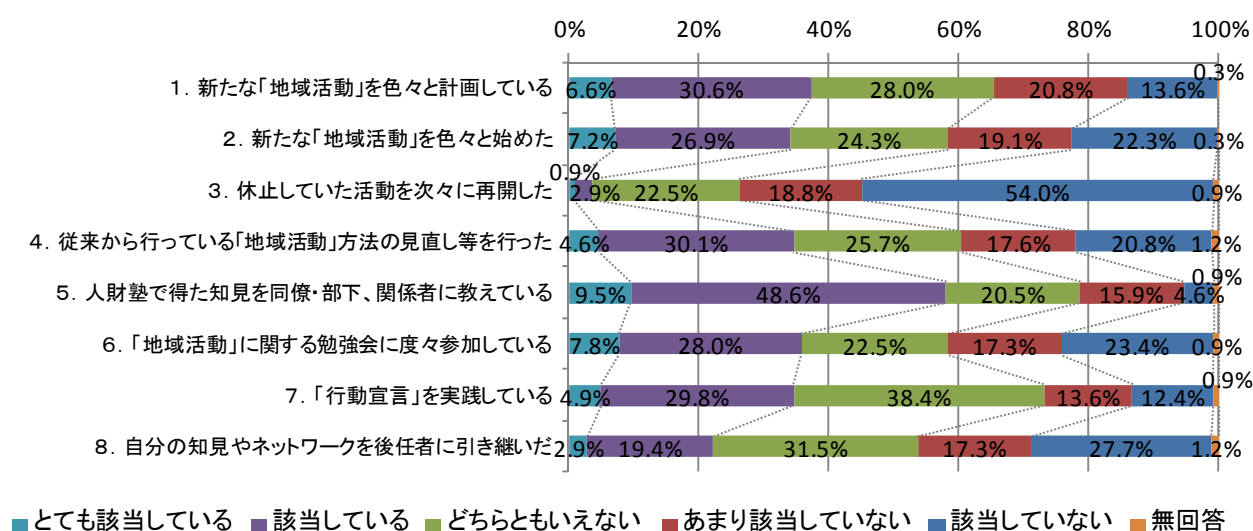
③受講後の「行動」の変化

- ・受講後の「行動」の変化を5段階でたずね、「とても変わった」+「変わった」の割合の高い順に見ると、「知見を同僚、関係者に教えている」(58.1%)、「新たな地域活動を計画している」(37.8%)、「地域活動に関する勉強会への参加」(35.8%)、「「行動宣言」を実践している」(34.7%)、「地域活動方法の見直し等」(34.7%)、「新たな地域活動を始めた」(34.1%)の順となった。
- ・特に、学んだ事項を同僚や関係者に伝えている修了生が6割近くとなっており、知識等の移転が行われていることがうかがえる。
- ・また、3割以上の修了生が新たな地域活動の立案や実践をしていると回答しており、受講が行動に結びついている傾向がうかがえる。

² シングルアンサー (single answer) : 質問に対して回答を1つ選ぶもの。以下、SA という。

受講後の行動の変化（それぞれ SA）

N=346

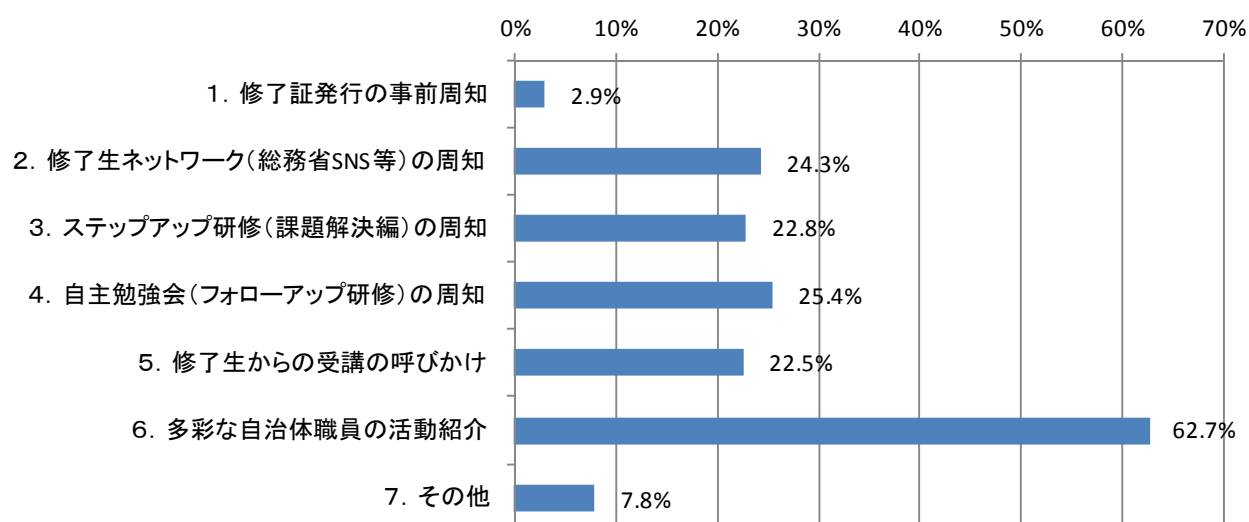


④人財塾の受講意欲を高める方法

- ・人財塾の受講意欲を高める方法についてたずねたところ、「多彩な自治体職員の活動紹介」が 62.7% と最も高く、次いで「自主勉強会（フォローアップ研修）の周知」（25.4%）、「修了生ネットワーク（SNS 等）の周知」（24.3%）と続いている。
- ・これを見ると、カリキュラムで多彩な活動等を紹介することが有効である一方で、フォローアップ研修や修了生ネットワークの周知などアフターフォローの体制の存在が受講意欲を高めることがうかがえる。

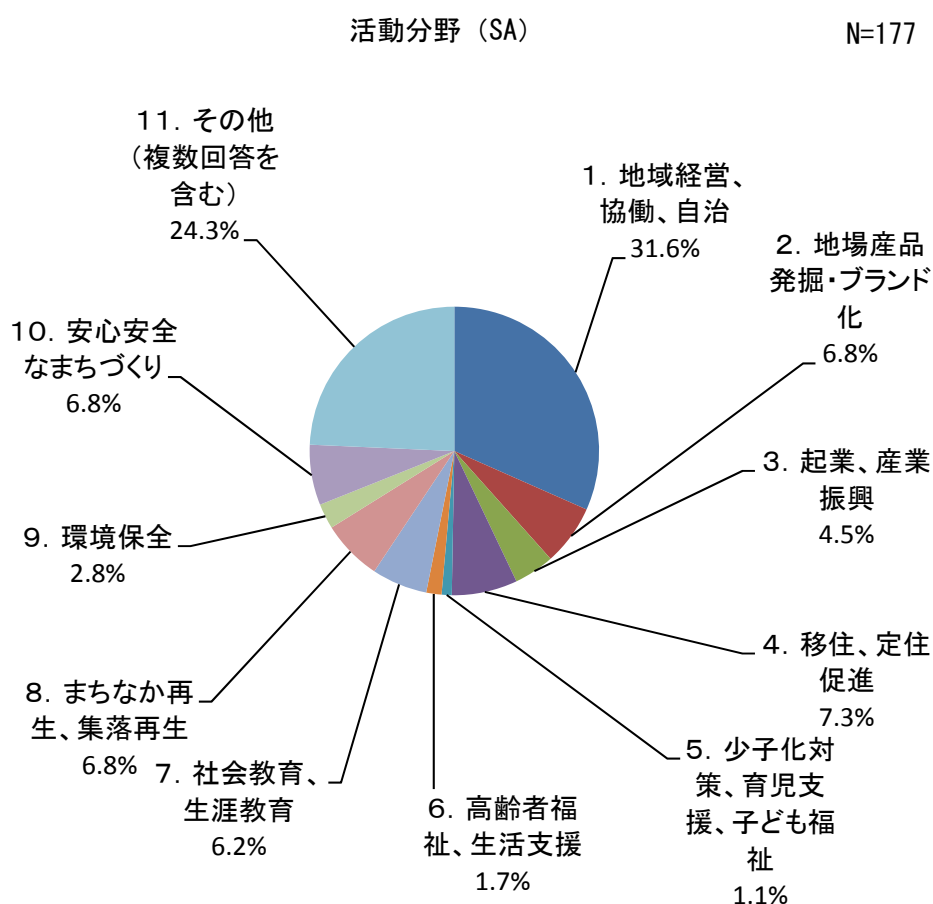
人財塾の意欲を高める方法（MA）

N=346



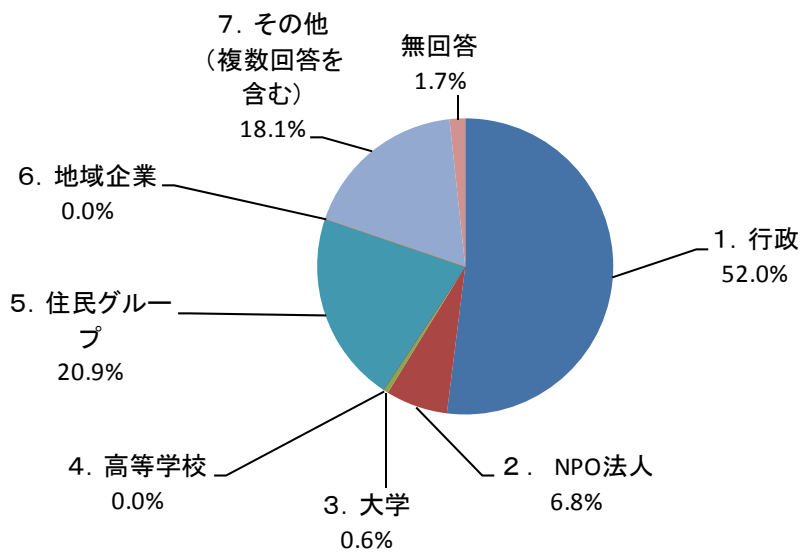
⑤現在「業務」として行っている地域活動

- ・現在、業務として行っている「地域活動」についてたずねたところ、51.2%の修了生が回答し、177事業が紹介された。
- ・主な活動分野をたずねたところ、「地域経営、協働、自治」が31.6%と最も高く、次いで「移住・定住促進」(7.3%)、「地場産品発掘・ブランド化」(6.8%)、「まちなか再生・集落再生」(6.8%)、「安心・安全なまちづくり」(6.8%)、「社会教育、生涯教育」(6.2%)と続いている。
- ・活動の主体については、「行政」(52.0%)が最も高く、次いで「住民グループ」(20.9%)となっている。
- ・活動の範囲については、「市町村エリア」(46.3%)が最も高く、次いで「小学校区エリア」(17.5%)、「中学校区エリア」(10.2%)と続いている。



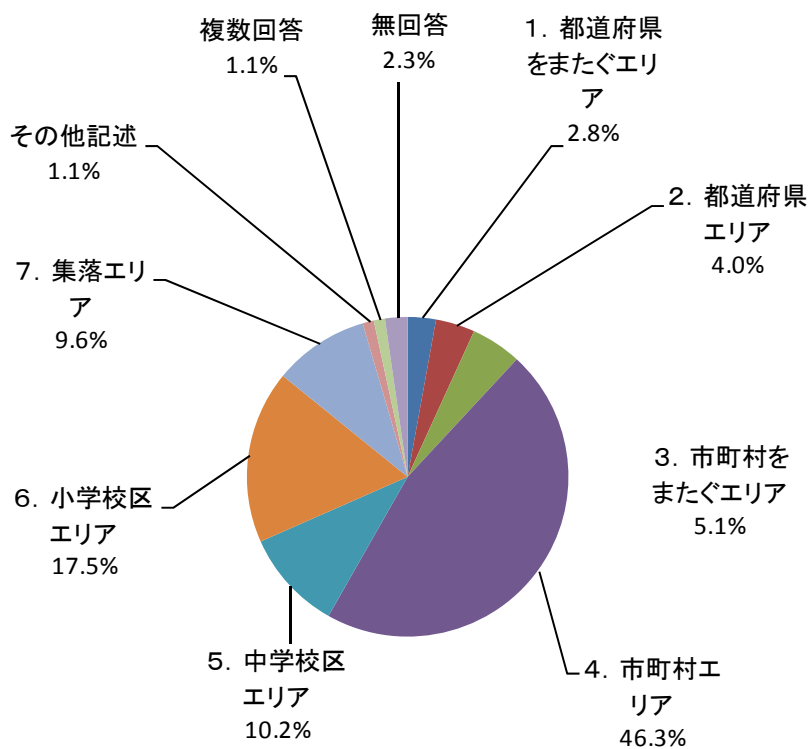
活動の主体 (SA)

N=177



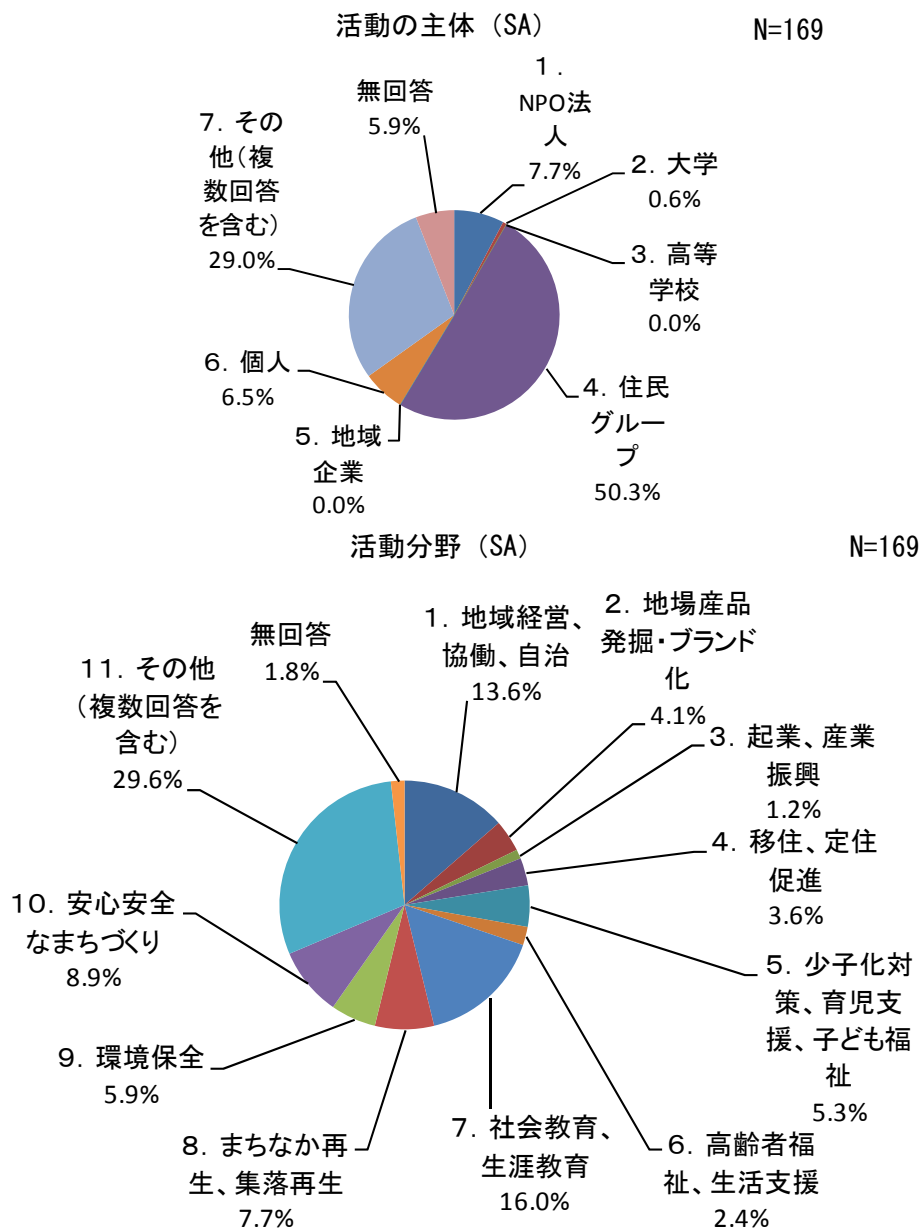
活動の範囲 (SA)

N=177



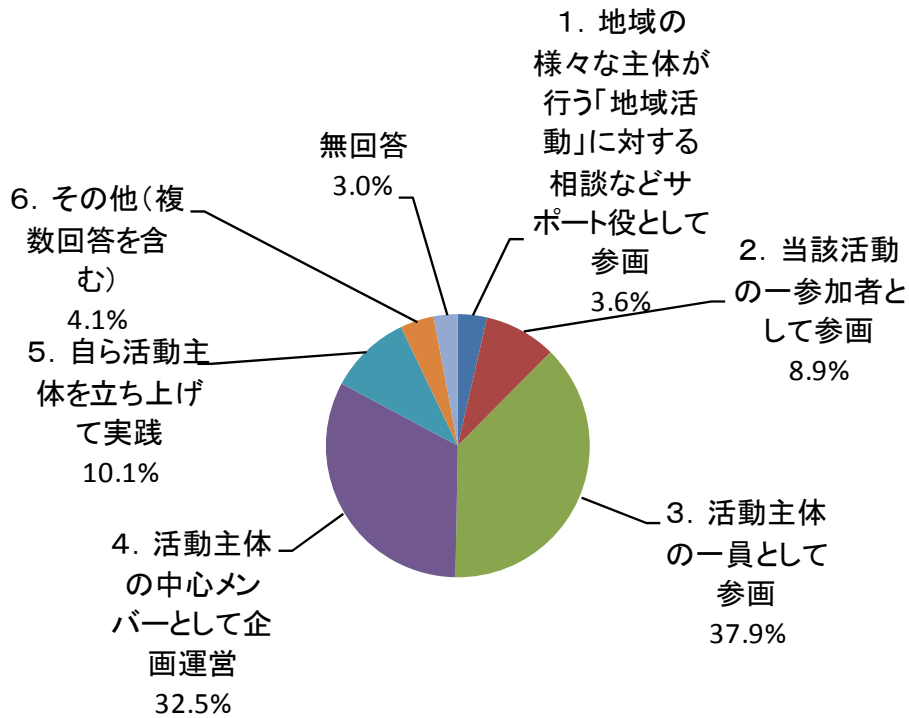
⑥「業務外」で行っている地域活動

- ・現在、業務外で行っている「地域活動」についてたずねたところ、48.8%の修了生が回答し、169事業が紹介された。
- ・活動の主体については、「住民グループ」が50.3%と最も高く、次いで「NPO法人」(7.7%)、「個人」(6.5%)となっている。
- ・主な活動分野をたずねたところ、「社会教育、生涯教育」が16.0%と最も高く、次いで「地域経営、協同、自治」(13.6%)、「安心・安全なまちづくり」(8.9%)、「まちなか再生・集落再生」(7.7%)、「環境保全」(5.9%)、「少子化対策、育児支援、子ども福祉」(5.3%)と続いている。
- ・活動主体における貴方の役割についてたずねたところ、「活動主体の一員として参画」が37.9%と最も多く、次いで「活動主体の中心メンバーとして企画運営」(32.5%)、「自ら活動主体を立ち上げて実践」(10.1%)と続いている。
- ・活動の範囲については、「市町村エリア」(34.3%)が最も高く、次いで「集落エリア」(20.1%)、「小学校区エリア」(13.0%)と続いている。



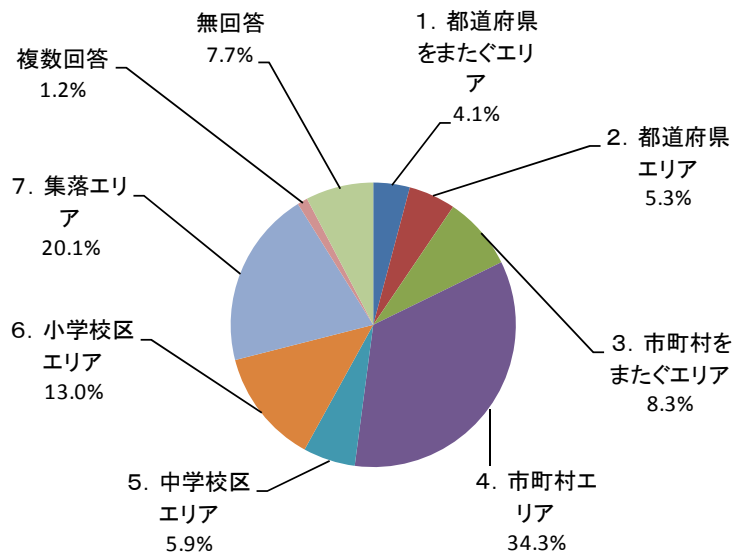
活動主体における貴方の役割 (SA)

N=169



活動範囲 (SA)

N=169

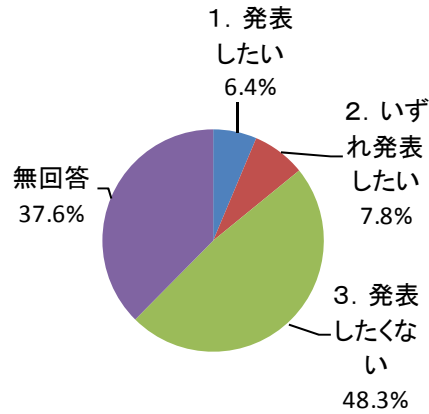


⑦人財塾で報告することは可能か

・自身の活動を人財塾で報告（または発表）していただくことは可能かどうかをたずねたところ、「発表したくない」が 48.3%と最も高く、「いずれ発表したい」（7.8%）、「発表したい」（6.4%）と続いている。

人財塾で報告することは可能か（SA）

N=346

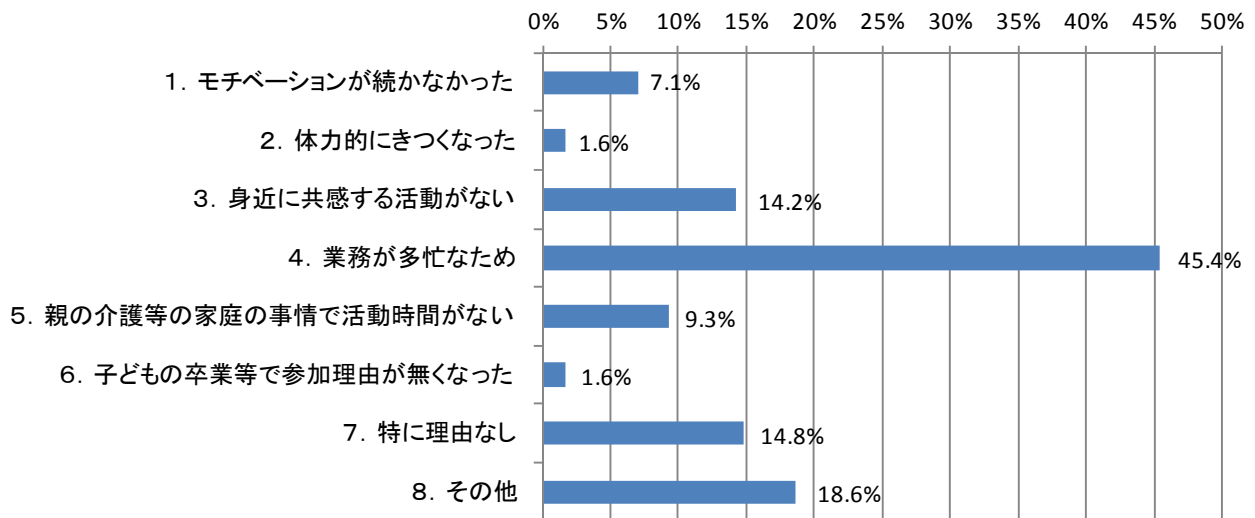


⑧業務外で地域活動を行っていない理由

・業務外で地域活動を行っていない理由をたずねたところ、「業務が多忙なため」が 45.4%と最も高く、次いで「特に理由なし」（14.8%）、「身近に共感する活動がない」（14.2%）と続いている。

業務外で地域活動を行っていない理由（MA）

N=183

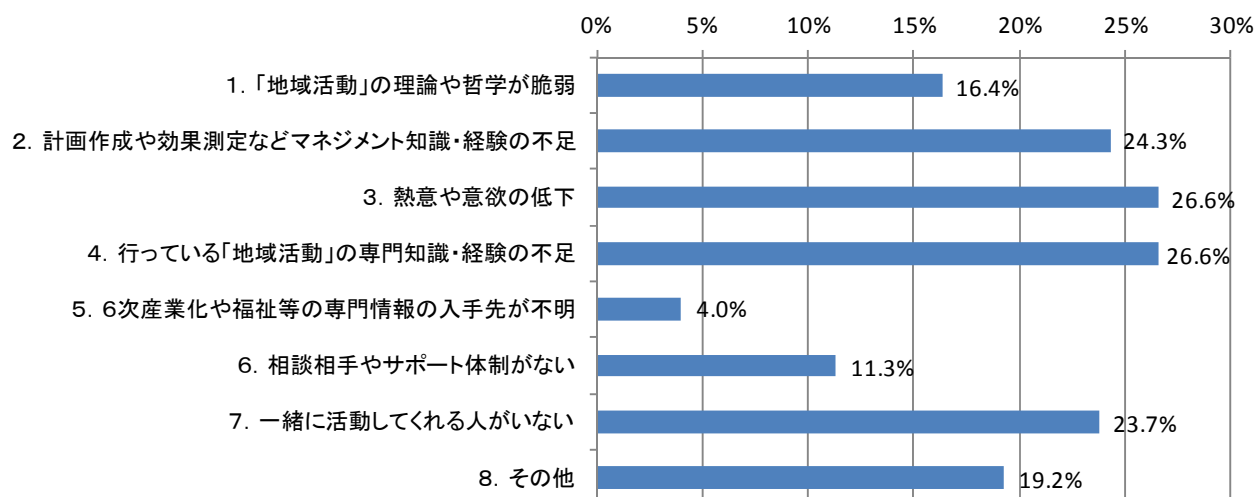


⑨地域活動で感じている問題意識・課題

・現在行っている地域活動で感じている問題意識や課題についてたずねたところ、「熱意や意欲の低下」、「行っている『地域活動』の専門知識・経験の不足」が共に 26.6%と最も高く、次いで「計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足」(24.3%)、「一緒に活動してくれる人がいない」(23.7%)となっている。

地域活動で感じている問題意識・課題 (MA)

N=177

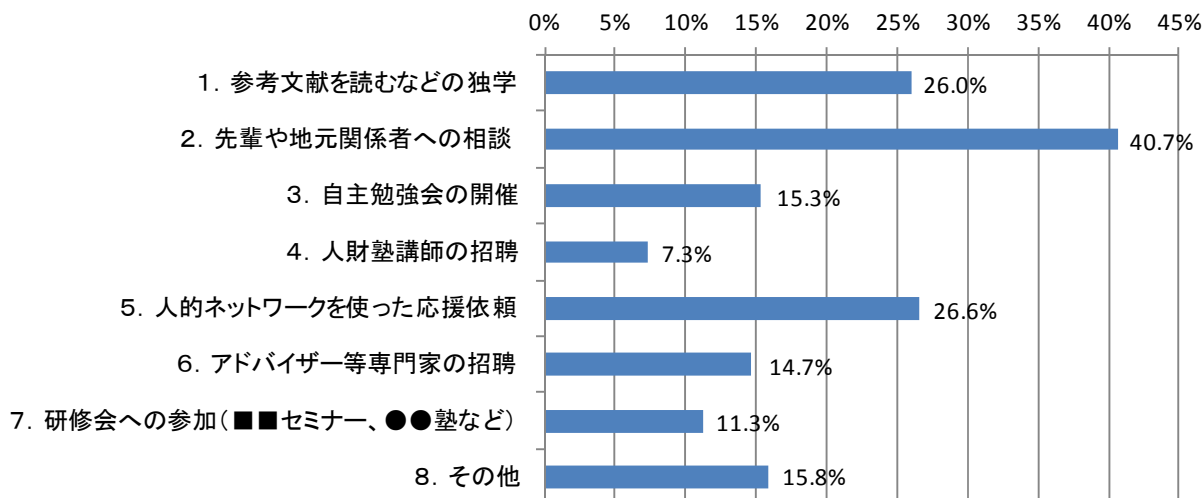


⑩感じている問題意識や課題の解消方法

・現在感じている問題意識や課題の解消の方法についてたずねたところ、「先輩や地元関係者への相談」が 40.7%と最も高く、次いで「人的ネットワークを使った応援依頼」(26.6%)、「参考文献を読むなどの独学」(26.0%)と続いている。

問題意識や課題の解消方法 (MA)

N=177

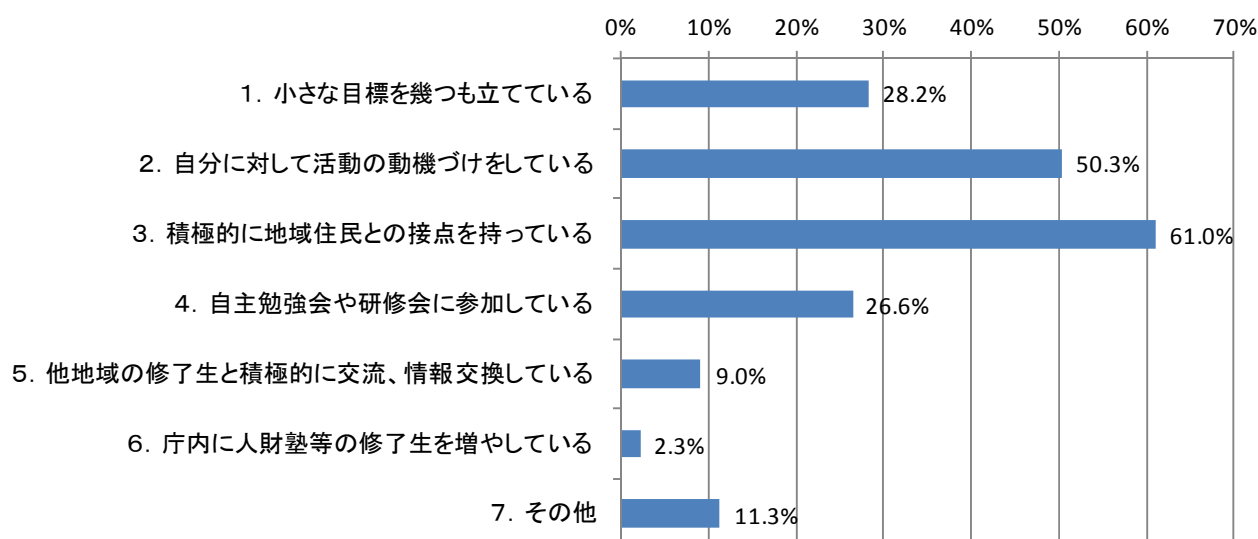


⑪地域活動を続けていくモチベーション維持の方法

- ・地域活動を続けていくモチベーション維持の方法についてたずねたところ、「積極的に地域住民との接点を持っている」が61.0%と最も高く、次いで「自分に対して活動の動機づけをしている」(50.3%)、「小さな目標を幾つも立てている」(28.2%)、「自主勉強会や研修会に参加している」(26.6%)となっている。

地域活動を続けていくモチベーション維持の方法 (MA)

N=177

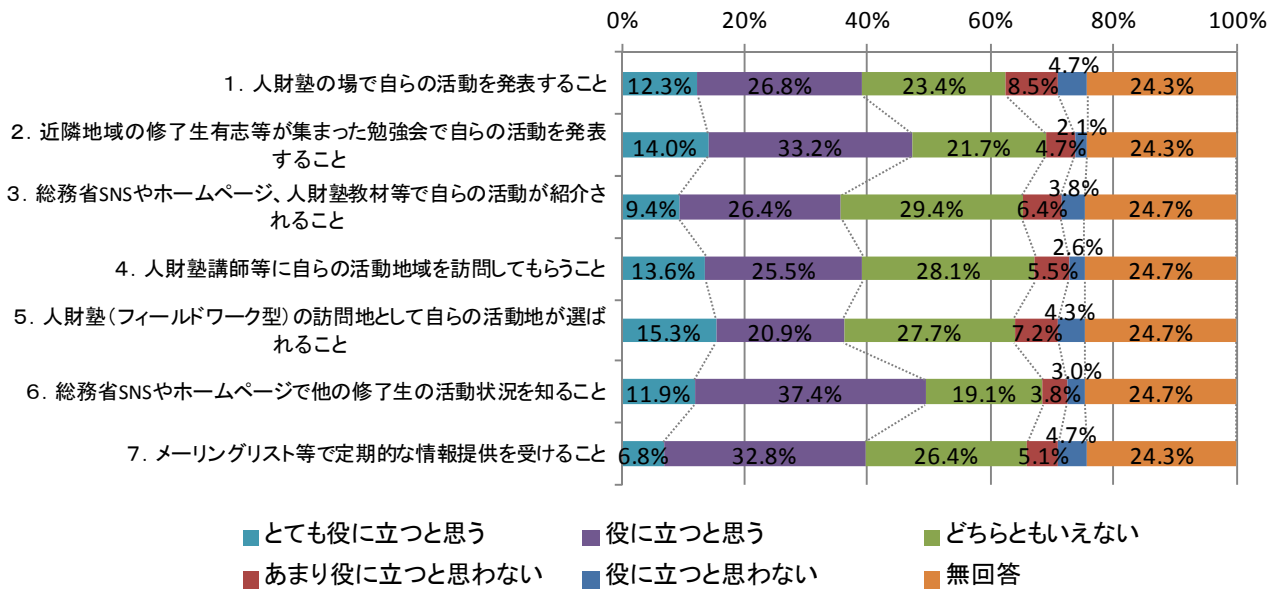


⑫地域活動のモチベーション維持に向けた人財塾等の活かし方

- ・「地域活動」のモチベーション維持に向けた人財塾等の活かし方について5段階でたずね、「とても役に立つと思う」+「役に立つと思う」の割合の高い順に見ると、「総務省 SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」(49.4%)、「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること」(47.2%)、「メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること」(39.6%)、「人財塾の場で自らの活動を発表すること」「人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらうこと」(39.1%)、「人財塾(フィールドワーク型)の訪問地として自らの活動地が選ばれること」(36.2%)、「総務省 SNS やホームページ、人財塾教材等で自らの活動が紹介されること」(35.7%)の順となった。
- ・これを見ると、特に、身近な場所で「地域活動」を発表したり、他の修了生が行っている「地域活動」を知ることがモチベーションの維持に役立つことがうかがえる。

地域活動に対するモチベーション維持に向けての人財塾等の活用（それぞれ SA）

N=235

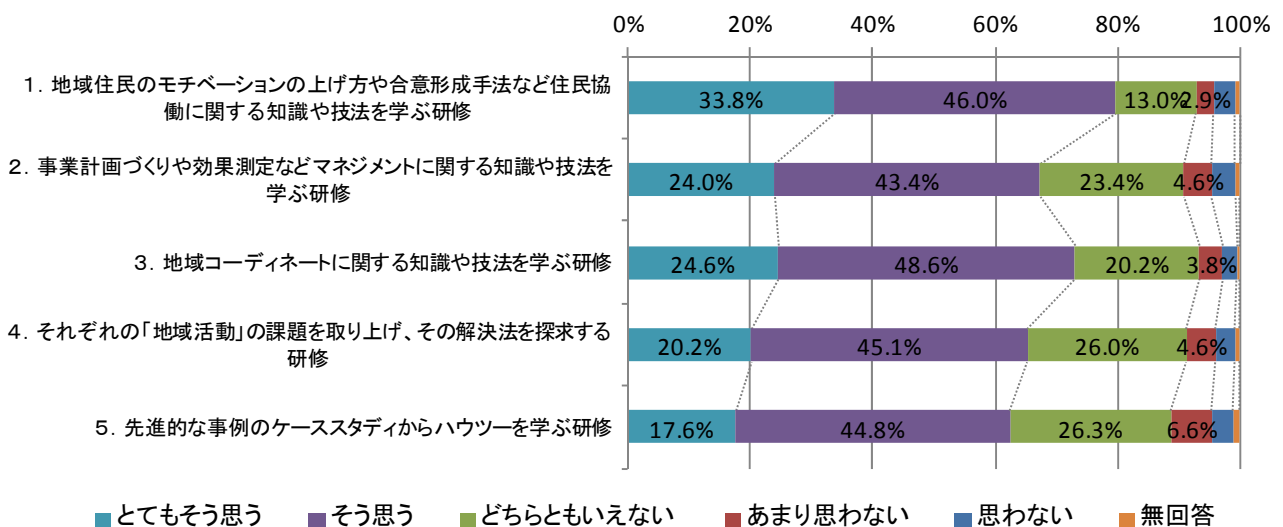


⑬受講したいと考える研修内容

- 今後受講したいと考える研修内容について 5 段階でたずね、「とてもそう思う」+「そう思う」の割合の高い順に見ると、「地域住民のモチベーションの上げ方や合意形成手法など住民協働に関する知識や技法を学ぶ研修」が 79.8%と最も高く、次いで「地域コーディネートに関する知識や技法を学ぶ研修」(73.1%)、「事業計画づくりや効果測定などマネジメントに関する知識や技法を学ぶ研修」(67.3%)、「それぞれの『地域活動』の課題を取り上げ、その解決法を探求する研修」(65.3%)、「先進的な事例のケーススタディからハウツーを学ぶ研修」(62.4%)と続いている。
- これを見ると、特に、やる気の醸成や合意形成、コーディネートなどといった、受講生が地域に関わるための知識や技法を学びたいとする傾向がうかがえる。

受講したいと考える研修内容（それぞれ SA）

N=346

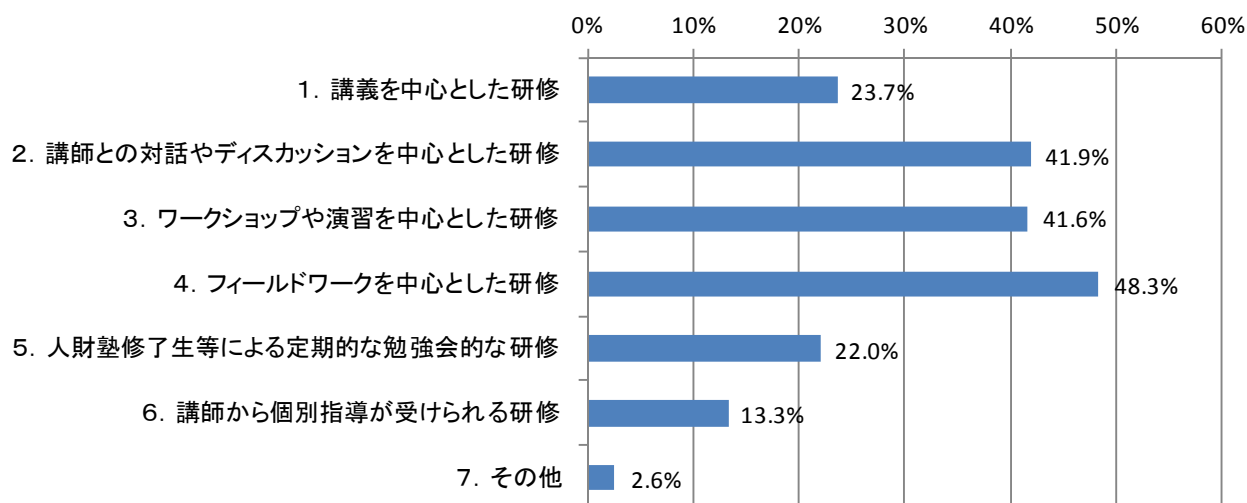


⑭今後受講したいと考える研修の内容・スタイル

- 今後受講したいと考える研修の内容・スタイルについてたずねたところ、「フィールドワークを中心とした研修」が48.3%と最も高く、次いで「講師との対話やディスカッションを中心とした研修」(41.9%)、「ワークショップや演習を中心とした研修」(41.6%)となっている。

今後受講したいと考える研修の内容・スタイル (MA)

N=346



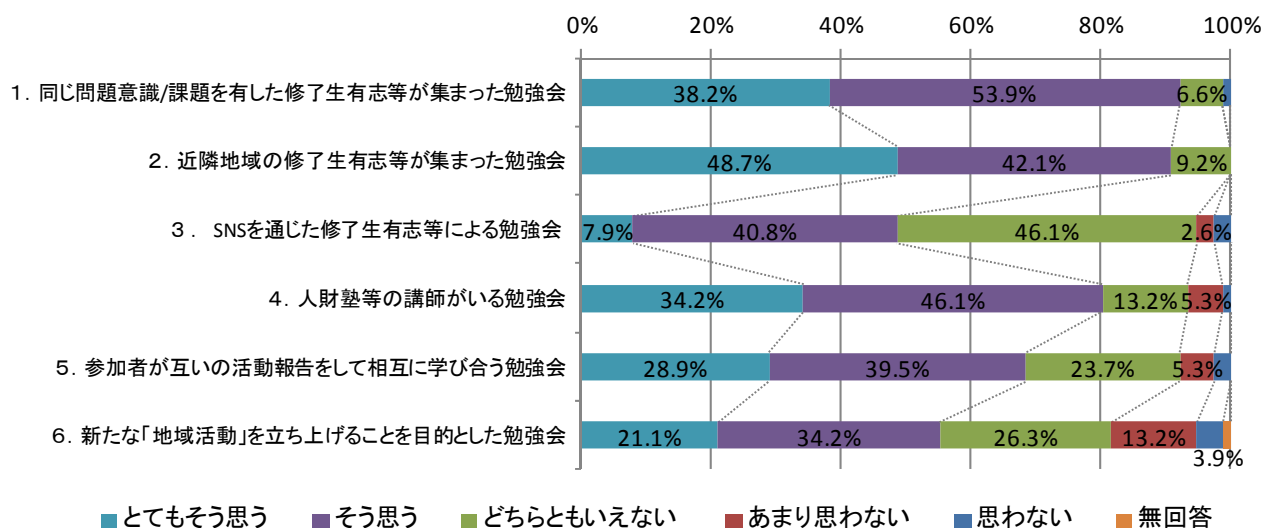
⑮人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修としてどのようなスタイルが良いか

- 人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修としてどのようなスタイルが良いか 5段階でたずね、「とてもそう思う」+「そう思う」の割合の高い順に見ると、「同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会」が92.1%と最も高く、次いで「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会」(90.8%)、「人財塾等の講師がいる勉強会」(80.3%)、「参加者が互いの活動報告をして相互に学び合う勉強会」(68.4%)、「新たな『地域活動』を立ち上げることを目的とした勉強会」(55.3%)、「SNSを通じた修了生有志等による勉強会」(48.7%)となっている。
- これを見ると、同じ問題意識・課題を共有できる場や、身近に集まれる場に対するニーズが強いことがうかがえる。

人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修としてどのようなスタイルが良いか

(それぞれ SA)

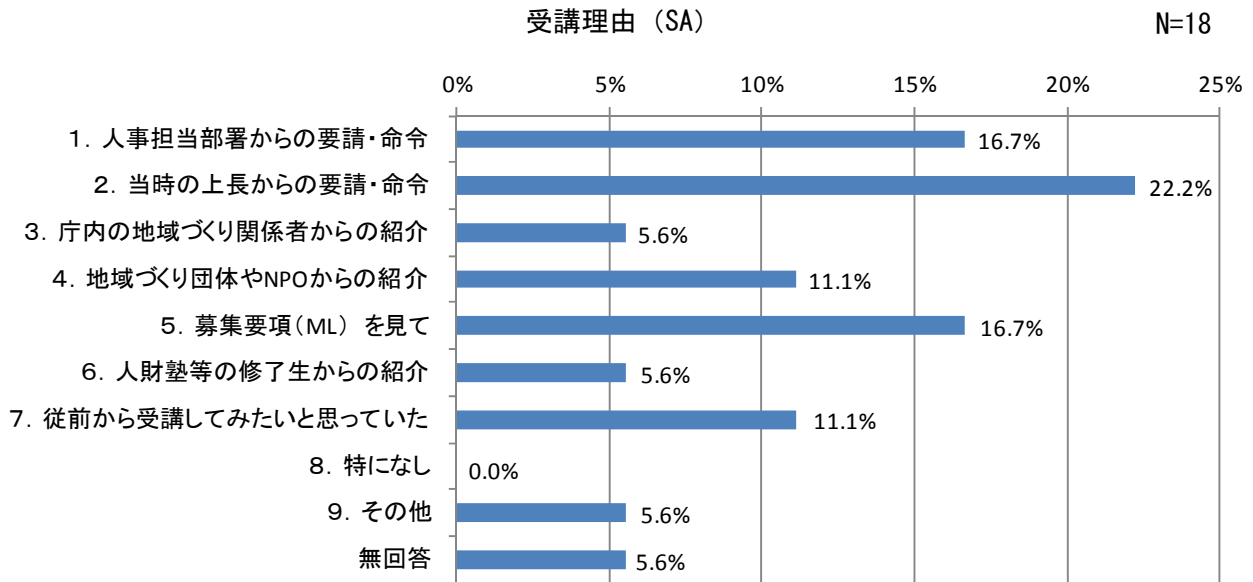
N=76



(2) 課題解決編

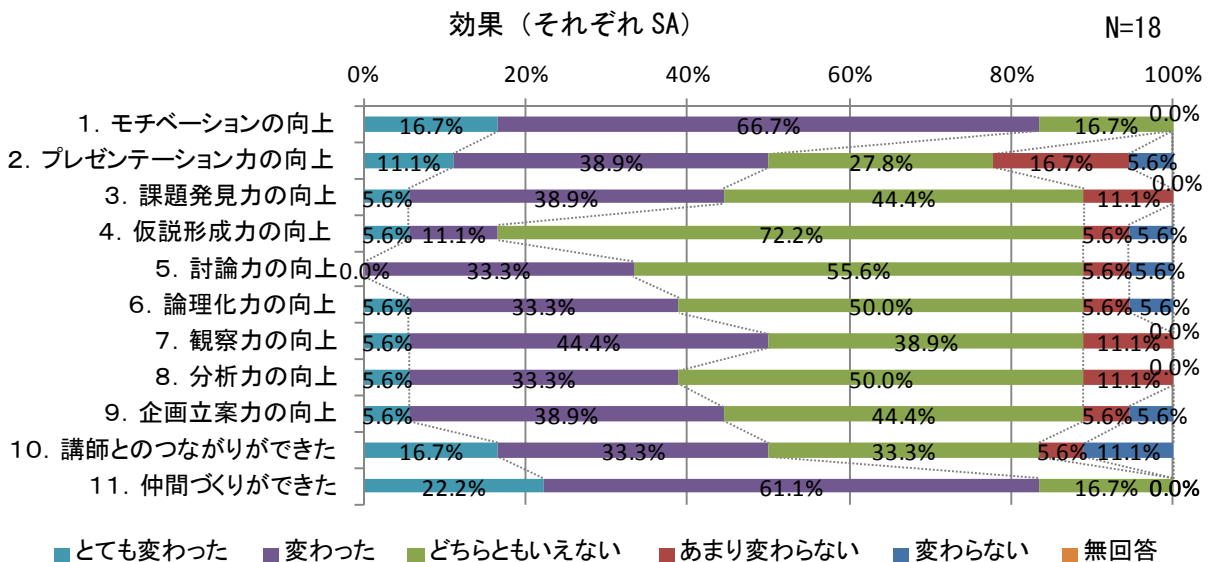
①受講理由

- ・受講の理由は、「当時の上長からの要請・命令」が 22.2%と最も高く、次いで「人事担当部署からの要請・命令」「募集要項 (ML) を見て」(16.7%)、「地域づくり団体や NPO からの紹介」「従前から受講してみたいと思っていた」(11.1%) と続いている。



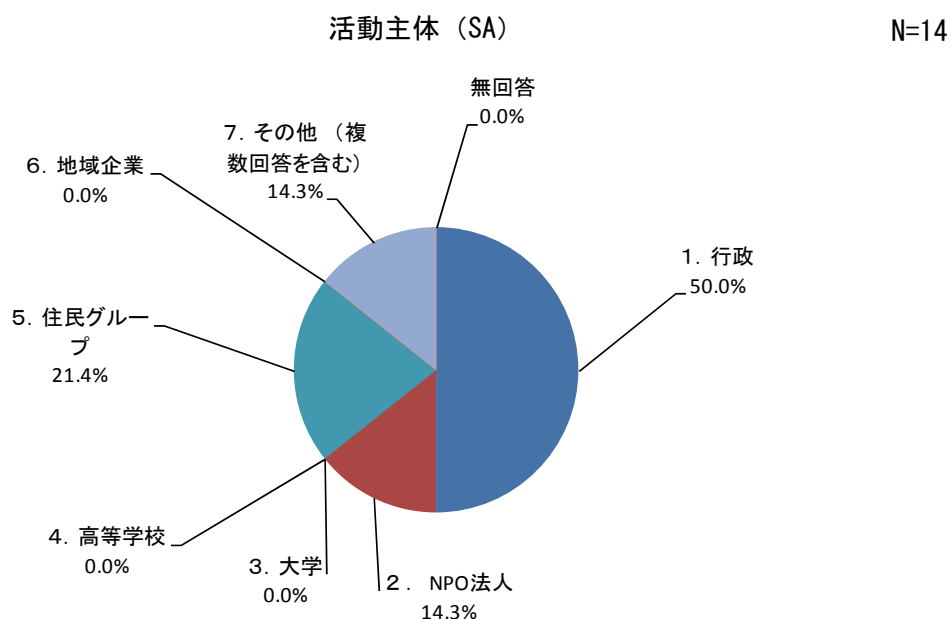
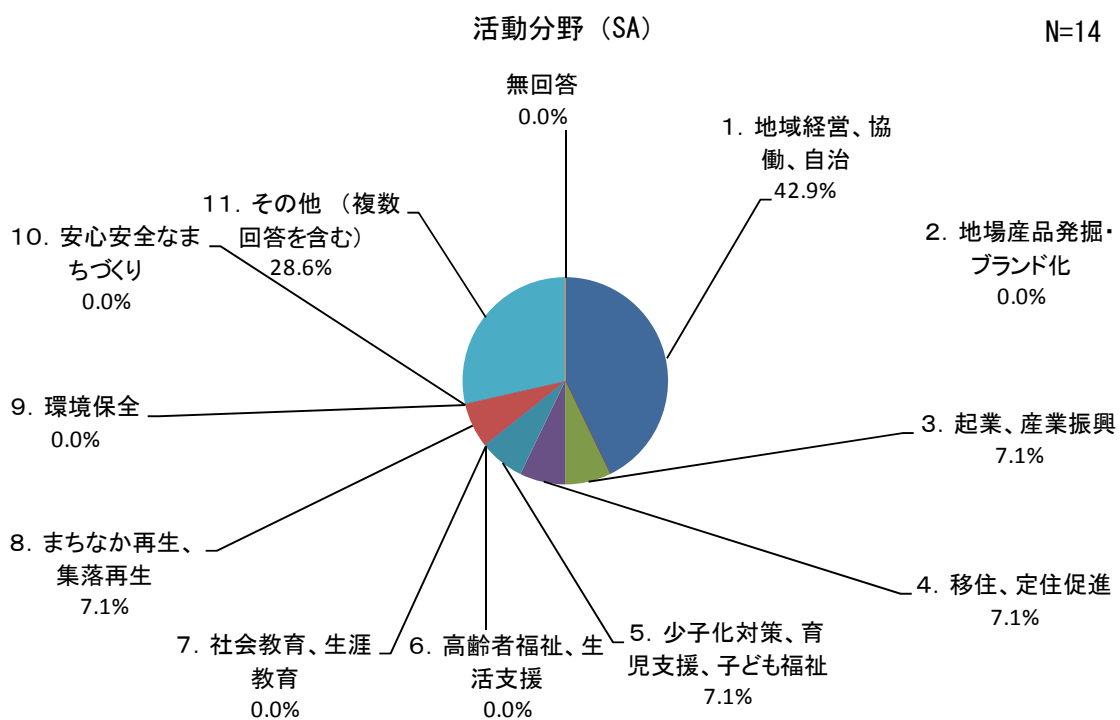
②効果

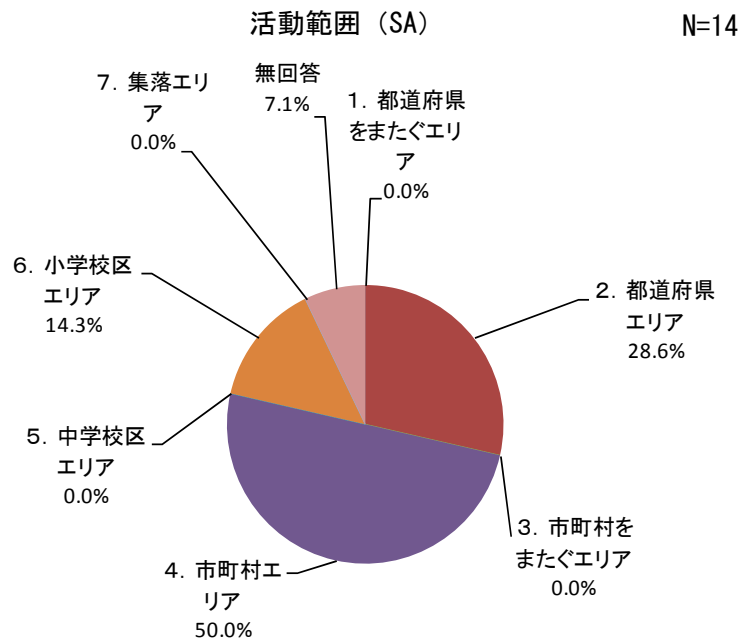
- ・効果について 5 段階でたずね、「とても変わった」+「変わった」の割合の高い順に見ると、「モチベーションの向上」「仲間づくりができた」が共に 83.3%と最も高く、次いで「プレゼンテーション力の向上」「観察力の向上」「講師とのつながりができた」(50.0%) となっている。
- ・これを見ると、少人数制という環境が意欲や姿勢への刺激や、受講生の関係づくりに大きな効果を生み出していることがわかる。
- ・一方で、スキル系では「プレゼンテーション力」、「観察力」、「課題発見力」、「企画立案力」が 4~5 割と、事前課題とワークショップに直接関わることで効果として実感されている。



③「業務」として行っている地域活動

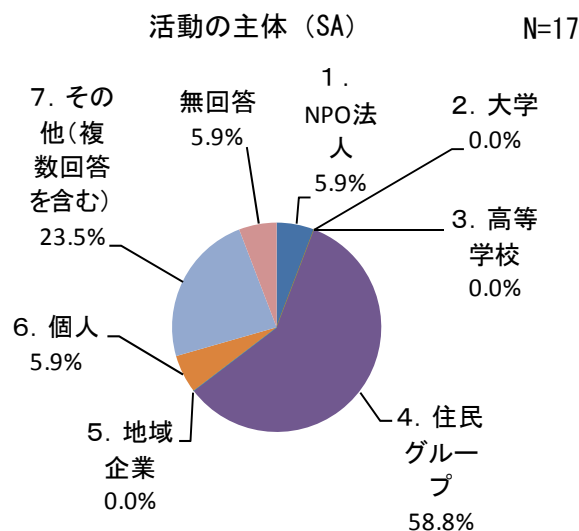
- ・現在、業務として行っている「地域活動」についてたずねたところ、77.7%の修了生が回答し、14事業が紹介された。
- ・主な活動分野をたずねたところ、「地域経営、協働、自治」が42.9%と最も高く、次いで「起業、産業振興」「移住、定住促進」「少子化対策、育児支援、子ども福祉」「まちなか再生、集落再生」(7.1%)と続いている。
- ・活動の主体については、「行政」(50.0%)が最も高く、次いで「住民グループ」(21.4%)、「NPO法人」(14.3%)となっている。
- ・活動の範囲については、「市町村エリア」(50.0%)が最も高く、次いで「都道府県エリア」(28.6%)、「小学校区エリア」(14.3%)と続いている。

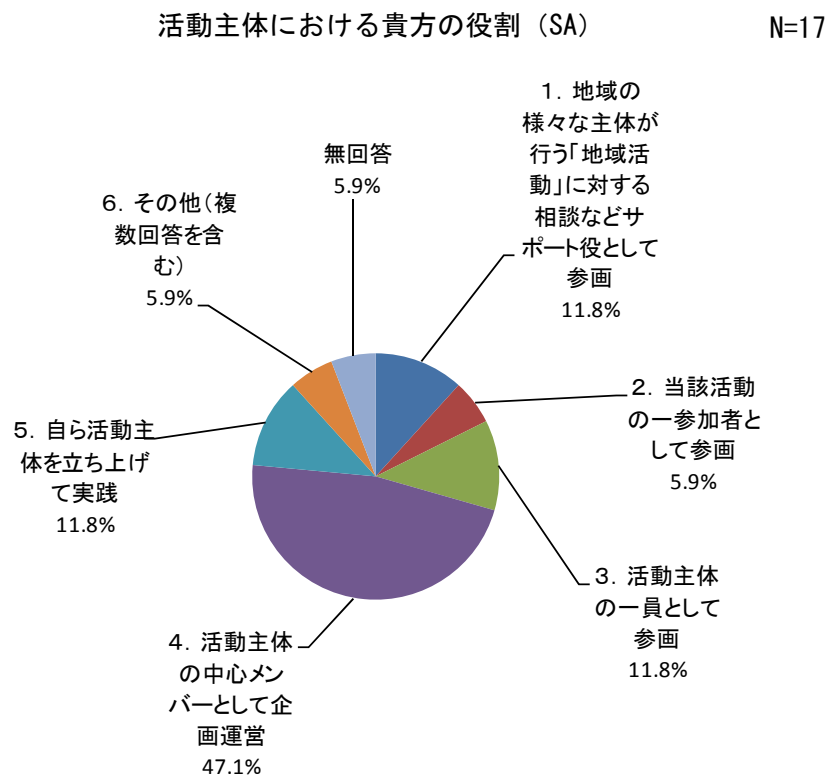
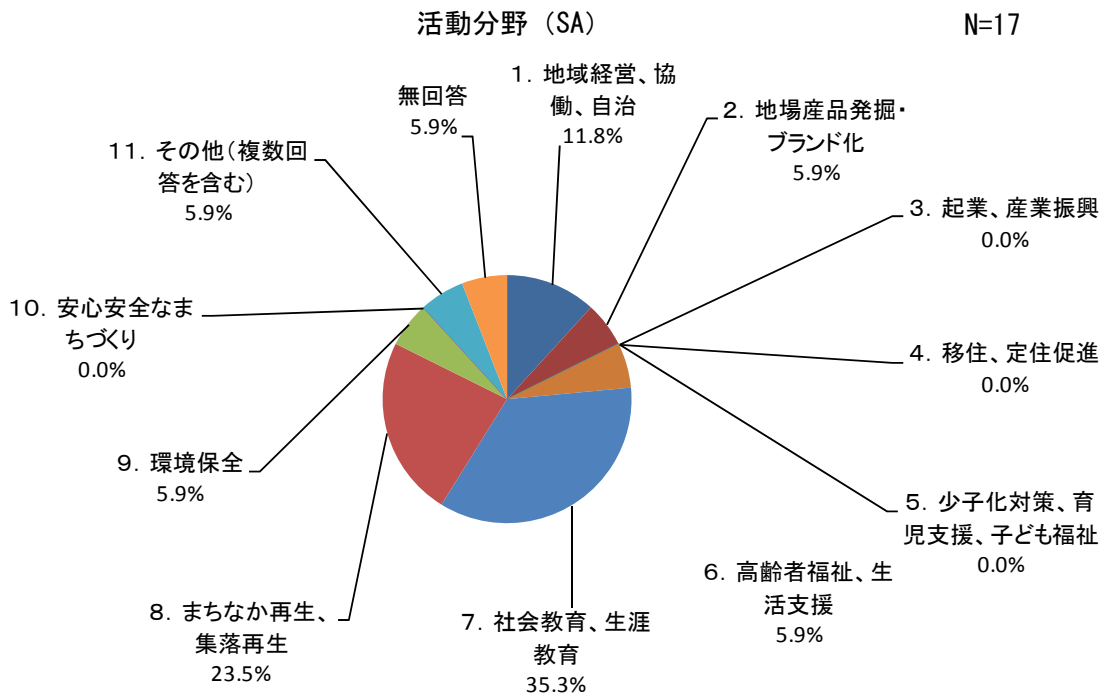


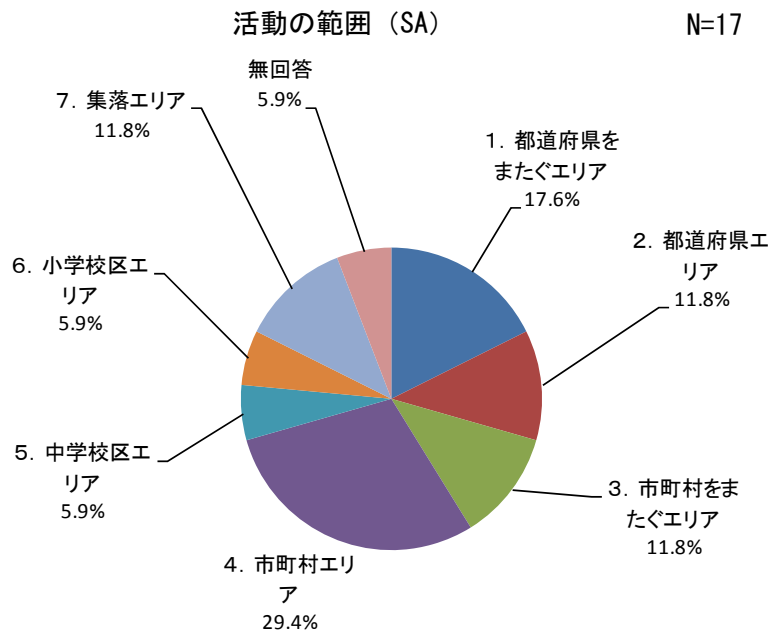


④ 「業務外」で行っている地域活動

- ・現在、業務外で行っている「地域活動」についてたずねたところ、94.4%の修了生が回答し、17 事業が紹介された。
- ・活動の主体については、「住民グループ」が 58.8%と最も高く、次いで「NPO 法人」「個人」(5.9%)となっている。
- ・主な活動分野をたずねたところ、「社会教育、生涯教育」が 35.3%と最も高く、次いで「まちなか再生・集落再生」(23.5%)、「地場産品発掘・ブランド化」「高齢者福祉、生活支援」「環境保全」(5.9%)と続いている。
- ・活動主体における貴方の役割についてたずねたところ、「活動主体の中心メンバーとして企画運営」が 47.1%と最も多く、次いで「地域の様々な主体が行う『地域活動』に対する相談などサポート役として参画」「活動主体の一員として参画」「自ら活動主体を立ち上げて実践」(11.8%)と続いている。
- ・活動の範囲については、「市町村エリア」が 29.4%と最も高く、次いで「都道府県エリア」「市町村をまたぐエリア」「集落エリア」(11.8%)と続いている。



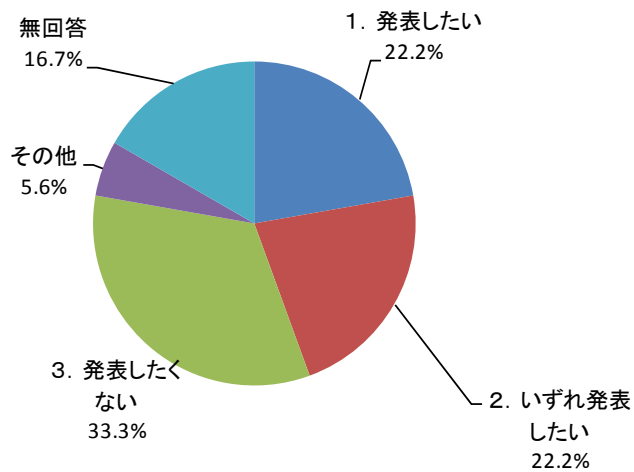




⑤人財塾で報告することは可能か

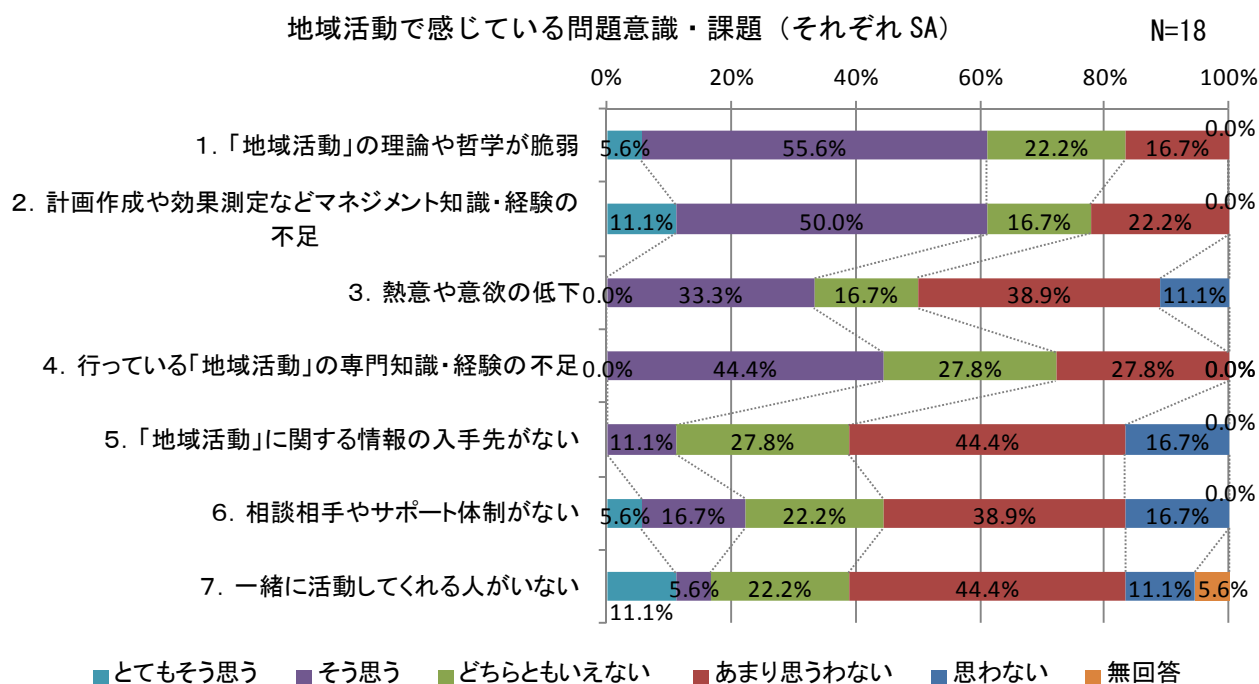
・貴方の活動を人財塾で報告（または発表）していただくことは可能かどうかをたずねたところ、「発表したくない」が 33.3%と最も多く、次いで「発表したい」「いずれ発表したい」(22.2%) となっている。

人財塾で報告することは可能か (SA) N=18



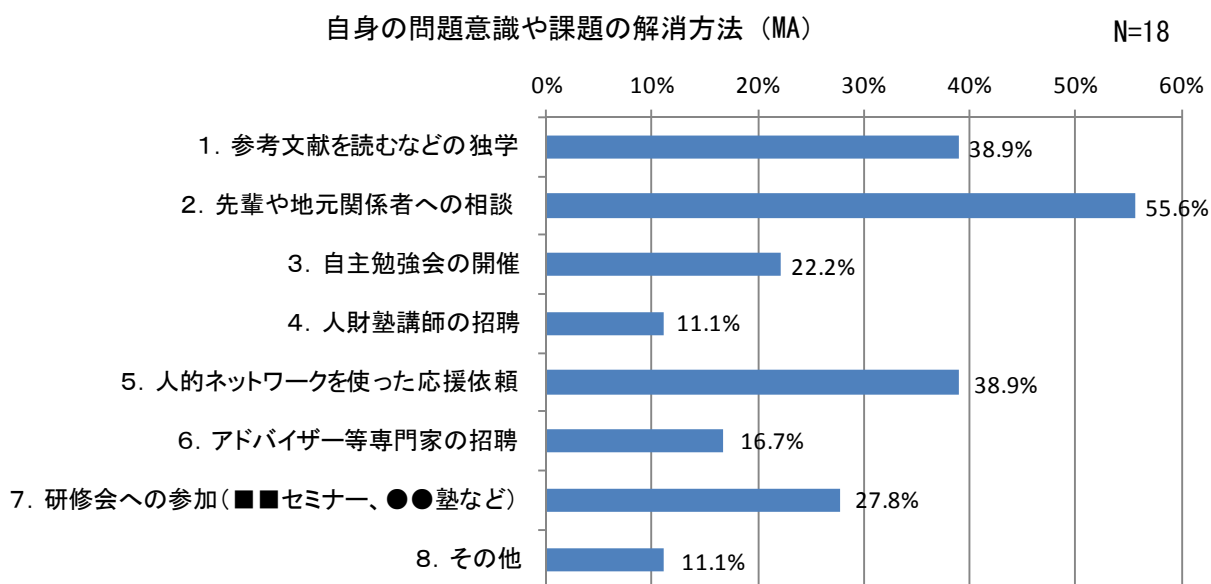
⑥地域活動で感じている問題意識・課題

- ・現在行っている地域活動で感じている問題意識・課題について5段階でたずね、「とてもそう思う」+「そう思う」の割合の高い順に見ると、『地域活動』の理論や哲学が脆弱」「計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足」が61.1%と最も高く、次いで「行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足」(44.4%)、「熱意や意欲の低下」(33.3%)となっている。
- ・初級編修了生に比較して「理論や哲学」、「マネジメント知識・経験」に対する問題意識や課題を感じている割合が高い。



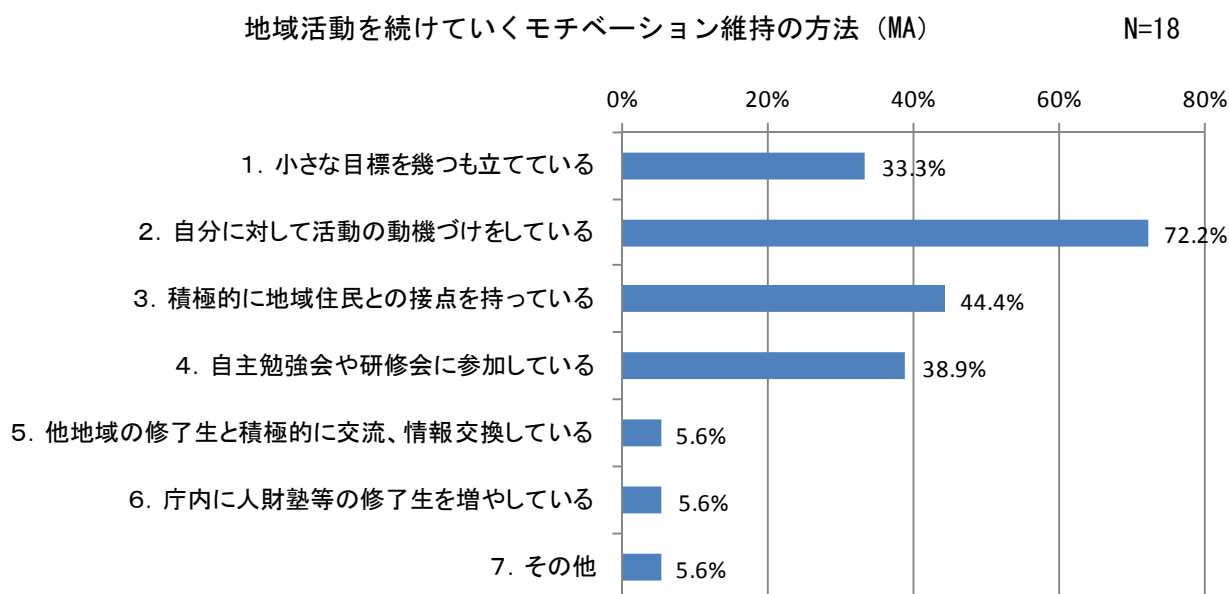
⑦感じている問題意識や課題の解消方法

- ・現在感じている問題意識や課題の解消の方法についてたずねたところ、「先輩や地元関係者への相談」が 55.6%と最も高く、次いで「参考文献を読むなどの独学」「人的ネットワークを使った応援依頼」（38.9%）、「研修会への参加」（27.8%）と続いている。
- ・初級編修了生との比較で見ると、全体的な傾向と概ね同じであるが、「研修会への参加」を通して解消する割合が初級編修了者より高くなっている。



⑧地域活動を続けていくモチベーション維持の方法

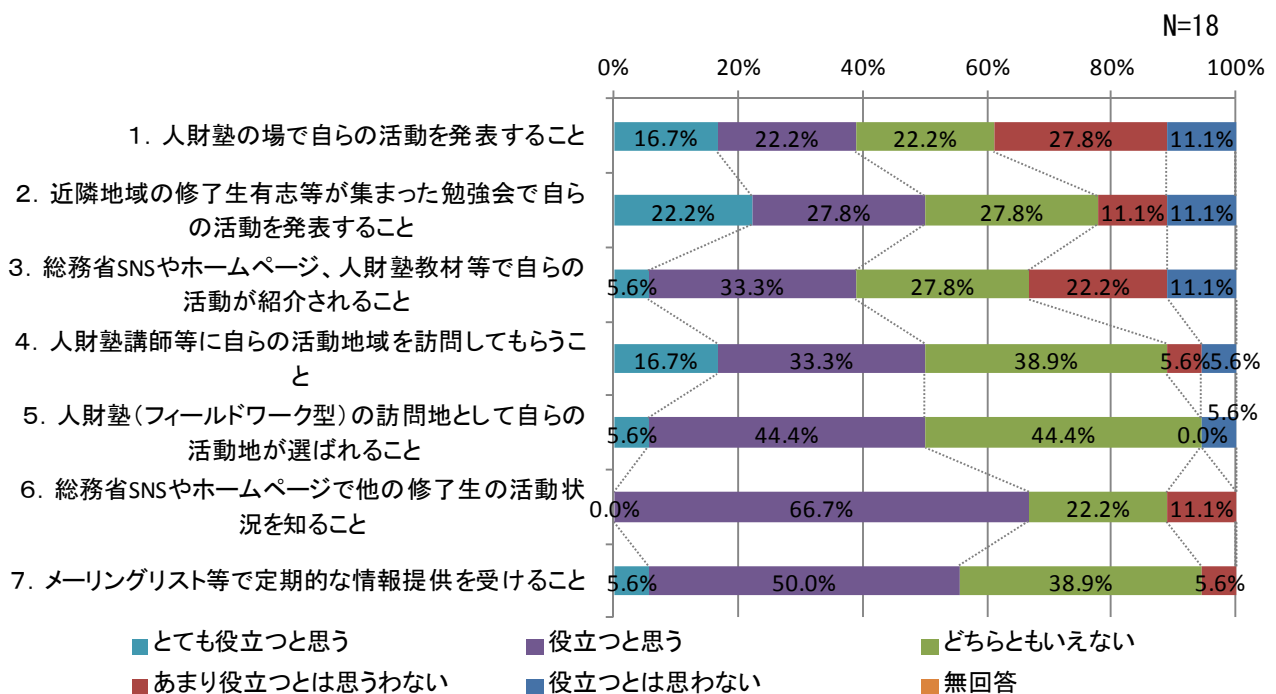
- ・地域活動を続けていくモチベーション維持の方法についてたずねたところ、「自分に対して活動の動機づけをしている」が 72.2%と最も高く、次いで「積極的に地域住民との接点を持っている」(44.4%)、「自主勉強会や研修会に参加している」(38.9%)、「小さな目標を幾つも立てている」(33.3%)となっている。



⑨地域活動のモチベーション維持に向けた人財塾等の活かし方

- ・「地域活動」のモチベーション維持に向けた人財塾等の活かし方について5段階でたずね、「とても役に立つと思う」+「役に立つと思う」の割合の高い順に見ると、「総務省 SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」が66.7%と最も多く、次いで「メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること」(55.6%)、「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること」「人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらうこと」「人財塾(フィールドワーク型)の訪問地として自らの活動地が選ばれること」(50.0%)の順となった。
- ・これを見ると、特に、他の修了生が行っている「地域活動」を知ることや、「定期的な情報取得」がモチベーションの維持に役立つことがうかがえる。
- ・初級編修了生との比較で見ると、「人財塾講師に自らの地域を訪問してもらう」、「人財塾の訪問地として訪れてもらう」の位置付けが初級編修了者より高くなっている。

地域活動に対するモチベーション維持に向けての人財塾等の活用(それぞれ SA)

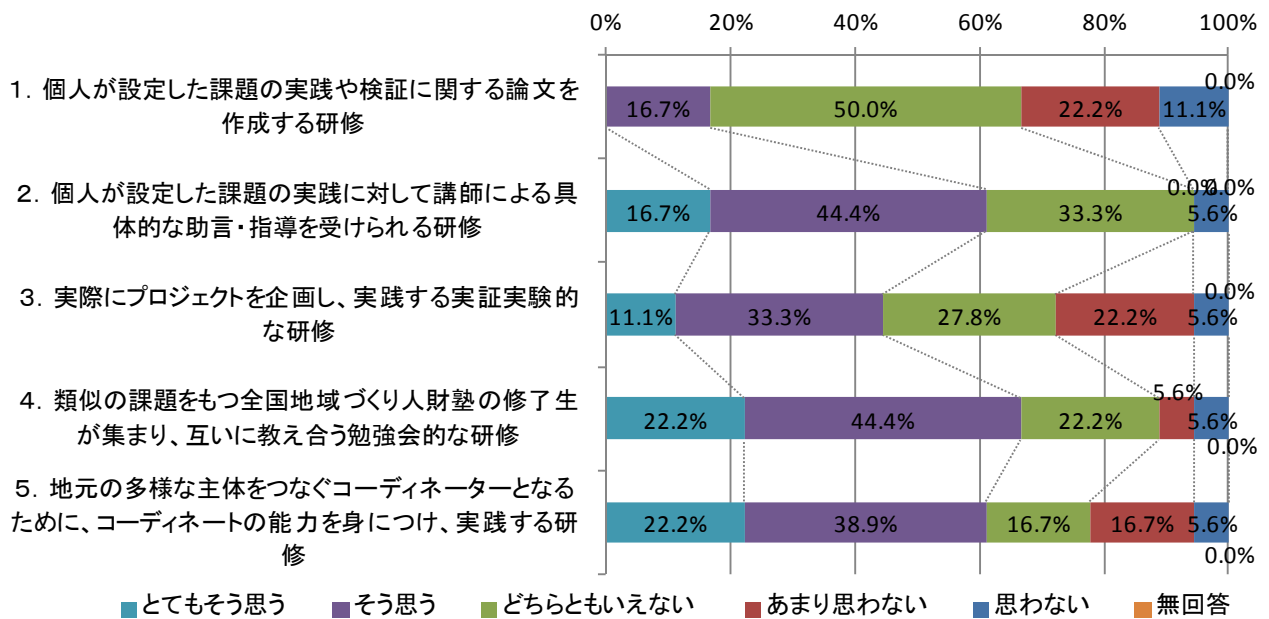


⑩今後受講したいと考える研修の内容・スタイル

- ・今後受講したいと考える研修の内容・スタイルについて5段階でたずね、「とてもそう思う」+「そう思う」の割合の高い順に見ると、「類似の課題をもつ全国地域づくり人財塾の修了生が集まり、互いに教え合う勉強会的な研修」が66.7%と最も高く、次いで「個人が設定した課題の実践に対して講師による具体的な助言・指導を受けられる研修」「地元の多様な主体をつなぐコーディネーターとなるために、コーディネート能力を身につけ、実践する研修」(61.1%)となっている。
- ・これを見ると、大きくは「コーディネート力の養成」と、「自らの活動課題の解消」につながる研修に対する受講ニーズが大きいことがうかがえる。

今後受講したいと考える研修の内容・スタイル（それぞれ SA）

N=18



3. 「全国地域づくり人財塾」において講師として招聘した修了者の地域づくり活動調査及び事例報告

全国地域づくり人財塾では、修了後、受講生それぞれが行う地域活動の姿をより具体的にイメージしてもらうことを目的に、修了生を講師として招聘し地域活動の様態について報告してもらう時間を設けている。

		所属	氏名	これまでの取組	受講目的
1		山形県 山形市	後藤 好邦	主として東北全体をフィールドに人つなぎのための活動を行っていたが、徐々に、その活動を山形市内でも展開していくようになった。	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の効果的で効率的な実践方法を学ぶ。 全国各地で活動している地域づくり実践者との交流。
4	平成25年度発表	山形県 米沢市	相田 隆行	業種や世代、立場の枠にとらわれないネットワークづくり・コミュニティづくりを目指し、積極的に地域に飛び出し、仲間と一緒に自発的な活動を続けてきた。	<ul style="list-style-type: none"> 団体等に所属していない若者(学生も含め)の地域活動のきっかけづくり。 世代を超えたネットワークづくり、若者主体の活動を促進させる環境づくり。
2		東京都 国分寺市	増本 佐千子	地域の当事者同士が顔見知りの関係を構築し、それぞれの課題やニーズを共有・把握し合うよう、積極的に協働のコーディネートに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 行政職員が地域に出ていく仕組みをどう構築していけるのか、先駆的事例を学び、本市での活動の参考にしたい。 他の自治体職員と交流し意見交換したい。
3		徳島県 徳島市	阿部 知彦	該当なし。 (人財塾受講後に活動を開始したため)	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代よりボランティアなど、地域活動にかかわっていた。 市職員となってから如何に活動を行っていくか模索していた。 全国の自治体職員が、どのように地域活動に取り組んでいるか知りたかった。
5	平成26年度発表	岡山県 高梁市 地域おこし協力隊	長野 エドウィン・タケル	・「地域おこしをしない」活動スタート。	<ul style="list-style-type: none"> 全国で活動されている講師や受講生(仲間)の状況や主な事例など知る機会がほしかった。
6		大阪府 河内長野市	東 映道	市では、市民の自由な意見交換の中から、身近な地域課題を洗い出し、具体的な取組や課題解決に結びつけていく取組を進めていた。	<ul style="list-style-type: none"> 大都市圏のベッドタウンにおける急速な少子高齢化、人口減少の先進地域等を知る。


学んだこと/受講後の取組	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・豊重先生に教えていただいた「人の心を動かすのは感謝と感動のみ」という言葉は私の行動指針となっている。 ・ワクワク朝活プロジェクトのスタート。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ編では、各地域での実践課程の課題について、参加者同士で共有・解決の糸口を掴むことで、その後の活動において多面的な視点から活かすことができた。 ・SNSでそれぞれの活動を発信、経過報告することで、お互い「刺激・気づき・学び」が生まれ、継続的な地域活動・人材育成の「原動力」になっている。 ・学生サークル「アクセルリンク米沢」設立。 ・高校生×大学生×社会人の出会いづくり。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップにおいては参加者の熱意と郷土愛に触れ、また講義においては講師各位の懐の深さや示唆に富んだ事例紹介に日頃の業務を見直す大きな契機となった。 ・各地域および参加者による「地域を巻き込む」力や視点、広報活動の具体例には非常に啓発され、地域のお祭りの情報収集や事業者とのイベント共催につながった。 ・これまでの活動をさらに発展させ、各事業に学生や商店街・地元企業などとも連携をはかり、参加者が地域の活動を多面的かつ横断的に捉えられるよう工夫した。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者である全国の自治体職員の熱意に感銘を受けた。 ・自分が地域課題と考えている事柄に、職務外で取り組もうと決意。 ・飯盛義徳講師にプラットフォーム（多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらすコミュニケーション基盤）の考え方について学ぶ。 ・地域資源「阿波おどり」をキーワードに、プラットフォーム構築に挑戦する。 ・地域の若者が活躍する場づくりを目指し、域外へのボランティアツアーを計画。 ・毎年、参加者を募集しツアーを継続するとともに、メンバーからの提案を受け、徳島市内でイベントを実施するなど、新たな活動にも発展してきている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動をしていくことは自分の潜在意識と出会うきっかけになることを学んだ。 ・互学互習のスタンス。 ・カフェ裏駅 開業。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・中でも、豊重先生から受けた感動、感銘、衝撃は大きく、その後の地域づくりへの刺激策として活用することができた。また、これをきっかけとして、SNSを通じて行政職員のネットワークが広がり、様々な情報収集や交流につながった。 ・地域の課題解決に向けて住民主体での取組を実現するためには、まず職員が外へ出て、市民と行政の距離感を近づけて、市民に「参加してもらおう」のではなくて、職員のほうが「参加させてもらおう」という感覚、意識を持つことが大事である。

		所属	氏名	これまでの取組	受講目的
10	平成26年度発表	東京都小平市	谷合謙太	地域の魅力発信を目的とする業務・自主研究グループの活動に携わってきた。	市制施行50周年企画で「こだいらの魅力」について発信したことが楽しかったので、地域づくりについて学びたかった。
9		NPO法人あいまち門真ステーション	東田正	地域住民の共通したテーマである「防災のまちづくり」をきっかけに、地域づくりの担い手となる人財の育成を狙いとした。	・地域づくりの担い手になる次世代の人財探索、リーダーを育て、継続できる仕組みを構築したい。
7		山口県周南市	國兼裕司	・地域コミュニティの課題である若い世代の地域参画、次世代の育成の支援を目的に、若者が楽しみながら活動できるための土壌づくりを目的として事業を行った。	・全国の地域づくり事例及び手法を、実践者から直接伺うこと。 ・地域づくり人財の育成の手法や、地域づくり支援のための手法を学ぶこと。
8		NPO法人えひめリソースセンター	安永依里子	・クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出。 ・県内NPOの取材。	・全国の仲間づくり、ネットワークづくり。 ・全国の自治体の取組やNPOとの協働に関する事例や関わる人の意識を知りたいと思ったから。
11	平成27年度発表	千葉県山武市	豊山希巳江	通常の業務を超えた部分での人脈づくり、連携。	・公共施設でできる街づくりへの貢献。 ・行政課題の認識と支援。 ・情報発信。
12		特定非営利活動法人ヨロスト	竹内蘭	「ヨロスト」の活動目的である、養老町の若返りと活性化を目指して、これまで行ってきた。	・NPO法人化後の活動。 ・実践的な活動を知りたい。
13		兵庫県三田市	青野敬	・地域力、市民力の向上による協働のまちづくりを推進するため、環境整備を行う。	・モチベーションの向上。 ・好事例の習得。 ・仲間づくり。

学んだこと/受講後の取組	
10	<ul style="list-style-type: none"> 先生と直接面談する機会にアドバイスをいただき、今後も地域活動をしていきたいと考えるようになり、現在も業務外の活動ではあるが地域活動を行っている。 全国地域づくり人財塾・東日本支部のフォローアップ研修（年4回）に自主的に参加することで多種多様な事例にふれ互学互習の場を持つことができるようになった。 庁内で行う職員提案制度に応募するなど地域について考えるようになった。 フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。
9	<ul style="list-style-type: none"> 知識を深め、広い視野を持てるようになった。 多様な世代の方々との出会い、交流。 国の政策の方向性を理解し、地域づくり推進の指針になった。 地域づくりの取組を先導的に推進、取り組んだ地域リーダーが自信を持つ。
7	<ul style="list-style-type: none"> 多くの仲間に出会うことができ、SNSなどで常に刺激を受けている。人財塾で出会った仲間の存在が、情報の広がりやモチベーションの向上に繋がっている。 「地域で活躍する若者の交流会」の実施。
8	<ul style="list-style-type: none"> 全国の自治体職員の方のお話を聞くことができ、行政の仕組みやルール、考え方を知ることができた。行政との協働を進めるにあたり、じっくりといろいろな話のできたのはとても学びが多かった。 協働環境調査報告会の開催。 多様なセクターとの勉強会開催。
11	<ul style="list-style-type: none"> 心境の変化：ないものねだりをするのではなく、「今あるもの」を最大限活用する大切さを痛感した。 業務の変化：出先機関でできることは限られているが、市役所との連携、地域住民との連携を持つことで、魅力化することができる可能性を感じるようになった。 固定概念を捨て、市民に役立つ図書館づくりのために何ができるかを考えるように。
12	<ul style="list-style-type: none"> 今も受講で聞いた話が大変役に立っている。「これはあの先生が言っていたことなのか」など受講内容を振り返ることで、冷静に考えることができたり、バランスのとれた行動が可能となっている。 新しい人財創出、新しい企画を実施中。
13	<ul style="list-style-type: none"> 講師から学ぶことで地域担当として果たすべき役割について整理することができた。 課題解決編ケーススタディ型で出会った受講生の活動や想いに触発され、私もそのようになりたいという想いが強く生じた。 地域担当離任後は、業務としてではなくプライベートで地域活動に関与している。 人財塾で市民活動の楽しさや生き甲斐を学び、離任後も担当していたフラワータウン地区の市民活動にプロボノとして参加。人脈がより広がり仕事にも役立っている。

山形県山形市 ワクワク朝活プロジェクト～ 市民がつながる場づくりを目指して

山形市行政推進課 後藤 好邦 (H25.3 JAMP 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口：252,632人（2015年10月1日現在）、面積（381.3km²） 東に奥羽山脈、西に朝日連峰を望む自然豊かな城下町。明治以降は、県都として山形県の政治、経済の中心として発展してきた。 		
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	2009年に東北地方の自治体職員を中心としたネットワーク「東北まちづくりオフサイトミーティング」を立ち上げる。その後、山形市周辺でも人と人が繋がるための場づくりに取り組んでいる。	
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 山形市では地域コミュニティごとに設置していた20の地区公民館を、平成23年度までにコミュニティセンター化し、地域住民団体を運営主体として施設の維持管理を委託している。そして、同センターを中心とした住民主体による地域づくりを推進している。 		
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンターを活用した住民主体による地域づくりを進めようとしているが、地区により温度差があり、また、人同士、地区同士がつながる場が少ない。 		
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<ul style="list-style-type: none"> 受講前までは、主として東北全体をフィールドに人つなぎのための活動を行っていたが、徐々に、その活動を山形市内でも展開していくようになった。 		
	開始年月	事柄	概要
	H21.6月	東北まちづくりオフサイトミーティング発足	東北各地の自治体職員と連携しながらネットワークを立ち上げ、定期的な勉強会の開催やITを活用した情報交換を行ってきた。
	H21.10月	西山形の酒を造る会への参加	平成17年よりスタートしていた西山形の酒を造る会の活動に参加し、住民主体による地域活性化の取組に地域住民とともに取り組んでいる。
H24.9月	映画「ふるさとがえり」上映会	自分にとっての「ふるさと」とは何かを山形市の方々に考えていただくきっかけの場として映画「ふるさとがえり」の自主上映会を開催した。その後、山形市内や山形市周辺市町村での上映会に波及している。	
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の効果的で効率的な実践方法を学ぶ 全国各地で活動している地域づくり実践者との交流 		
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 豊重先生に教えていただいた「人の心を動かすのは感謝と感動のみ」という言葉は私の行動指針となっている。 		
受講後の 取組	年月	事柄	概要
	H25.12月	ワクワク朝活プロジェクトのスタート	毎週第2土曜の朝に、山形市周辺で地域づくりやまちづくりに向け実践したいことがあるにも関わらずノウハウや人脈がないことで一歩踏み出す勇気を持ってない人たちにプレゼンターを務めていただき、一歩踏み出すためのヒントや仲間を得るための場づくりを行なっている。

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 東北まちづくりオフサイトミーティング発足（H21年6月）

東北管内における地域づくりやまちづくりに資する人財育成を目指し、2009年6月6日に発足。「敷居は低く、されど志は高く」というコンセプトを掲げ、①勉強会をはじめとした各種イベントの開催と②ホームページやメーリングリスト、Facebookなどを活用した情報交換・情報発信という2本柱で活動を行っている。



恒例の芋煮会



被災地・釜石でのチャリティライブ 復興を考えたワークショップ



●STEP2 西山形の酒を造る会への参加（H21年10月）

「西山形の酒を造る会」の活動は「地元の米と水で自分たちの美味しい酒を造る」という熱い想いを持った地域住民の方々が始めた活動で、平成17年にスタートを切った。地元で穫れた山形県産米「出羽燦々」と白鷹山系の湧水を男山酒造に持ち込みお酒を造ってもらい、一方で、「自分たちの酒を造ろう」との触れ込みで幅広く会員を募った。会員になると1口1万円の会費を支払わなければならないが、その代わりに、柏倉門傳が四合瓶で8本支給される。そうした仕組みづくりを行ない、この売り上げの一部を地域振興に活かすことで、持続可能な活性化事例として多方面から評価を受けている。この活動に平成21年度から参加し、地域住民の方々と共に活動している。



酒米の収穫



西山形の酒を造る会の酒・柏倉門傳



●STEP3 映画「ふるさとがえり」上映会（H24年9月）

山形市役所の若手・中堅職員と実行委員会を立ち上げ、岐阜県恵那市を舞台に「ふるさと」について問いかける映画「ふるさとがえり」の上映会を山形市内で実施した。そして、山形市民をはじめとした参加者の皆さんと共に、ふるさとや地域、家族について考える場を創った。



参加者による集合写真（左）と上映会終了後に開催したパネルディスカッション（右）

■取組を進める過程で生じた課題

- ・メンバー間の活動に対する方向性の違い（東北まちづくりオフサイトミーティング）
- ・世代交代（東北まちづくりオフサイトミーティング・西山形の酒を造る会）
- ・住民とのコミュニケーション（西山形の酒を造る会）
- ・資金調達（「ふるさとがえり」上映会）
- ・共感の伝播方法（すべての活動）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●一人ひとりが主役になれる仕掛けづくり

様々な活動に共通していえることだが、その活動を成功に導くためには、メンバー一人ひとりが、その活動を自分事として感じながら主体的に取り組むことができるかが、重要なポイントだといえる。そのため、若いメンバーや参加して日が浅いメンバーに対しても、司会や事例報告など、重要な役割を任せ、その活動の一員なんだと感じるような仕掛けづくりを行なった。



「ふるさとがえり」上映会の冒頭で挨拶する
若手メンバー



若手メンバーが上映会

●感謝の気持ちを感動でお返しする仕掛けづくり

自分たちが主催している活動に参加していただいた感謝の気持ちを感動でお返しする仕掛けづくりを様々な形で実行した。例えば、東北まちづくりオフサイトミーティングの勉強会を福島県内で開催した時には、福島県以外の46都道府県から福島県の方々に対する応援メッセージ写真を集めエンディングムービーを上映したり、また、陸前高田で勉強会を開催した時などは、三陸沿岸で復興に向け全力を尽くしているの方々から復興に向けたメッセージを語っていただいたりした。このような心に響く感動を呼び起こすような仕掛けづくりを行なったことが、東北まちづくりオフサイトミーティングのリピーターを増やした要因となっている。なお、東北まちづくりオフサイトミーティングのメンバーは発足当初の28名から現在は850名を超えるまでに成長している。



福島県の皆さんへのメッセージ写真

■成果

東北全体、そして、山形市周辺で人と人がつながる場を創ることができた。

特に、東北まちづくりオフサイトミーティングの活動を通して、東北内での地域間のつながり（三陸沿岸交流会など）や東北の被災地とそれ以外の地域とのつながりが生まれ、復興に向けた一助となっている。

また、西山形の酒を造る会の活動に関しては、我々が参加したことにより、山形市外からの参加者が増え、地域住民の方々のモチベーションを高めることができた。

いずれにしても、つながりの輪が広がれば広がるほど、それぞれの活動の可能性が広がっていくことを実感できている。



三陸沿岸交流会（ワークショップ）



東北の活動に触発されて発足した
九州まちづくりオフサイトミーティング

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・持続可能な組織づくり
- ・住民の巻き込み方

■受講後の取組、今後の方向性

●ワクワク朝活プロジェクトのスタート

山形市周辺に住む想いのある人同士がつながる場を創ろうと、平成26年12月に仲間と協力しながらワクワク朝活プロジェクトをスタートさせた。企画担当者を月ごとに交代する当番制とし、特定のメンバーに負担が偏らないようにしている。毎回、地域づくり等に向け実践したいことがあるにも関わらず一歩踏み出す勇気を持たない人たちにプレゼンターを務めていただいているが、彼らのプレゼンをきっかけに想いを持った人同士が繋がり、新たな取組へと発展するケースも現れ始めている。



参加者による集合写真（左）とワークショップを楽しむ様子（右）

山形県米沢市 学生との連携による地域づくり ～地域に飛び出す若者ネットワーク

米沢市総合政策課 相田 隆行 (H24.3 JAMP、H25.2 ステップアップ編 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<p>・人口：85,811人（平成27年12月末現在）、面積：548.74km² ・山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰などに囲まれた盆地で、山形県の一番南の玄関口に位置する。 米沢藩は戦国の名将：上杉謙信を家祖とし、初代藩主：上杉景勝、その家臣の直江兼続や前田慶次、藩政改革を行った上杉鷹山などにゆかりのある「上杉の城下町」でもある。</p>		
<p>活動主体と活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<p>米沢市総合政策課地域振興担当（平成23年4月～） 報告者は、業務として地域づくり全般（主に学生や住民との連携事業、移住定住促進事業）担当。またライフワークとして、地元若者と各種イベントの企画運営等に携わり、人と人との繋ぎ役（パイプ役）として活動をしている。</p>	
<p>活動地区</p>	<p>・山形県米沢市 他</p>		
<p>地域づくりの状況</p>	<p>米沢市新総合計画（平成28年度～）では、地域の将来像を「ひとが輝き 創造し続ける学園都市・米沢」とし、人づくり（人の連携・人の定住・人の育成）を中心とした地域づくりを推進しながら、住民一人一人が魅力・愛着を感じる地域を目指している。</p>		
<p>地域課題または問題意識</p>	<p>・地域づくりに関心のある若者と無関心の若者との温度差。 ・地域活動している団体同士の連携（特に、世代や活動分野を超えた地域活動の連携）。</p>		
<p>これまでの取組 (受講前の取組)</p>	<p>・業種や世代、立場の枠にとらわれないネットワークづくり・コミュニティづくりを目指し、積極的に地域に飛び出し、仲間と一緒に自発的な活動を続けてきた。</p>		
	<p>開始年月</p>	<p>事柄</p>	<p>概要</p>
	<p>H21.7月</p>	<p>米沢青年会議所の入会（H27.12卒業）</p>	<p>明るい豊かな社会の実現を目指し、次代の社会的リーダーを志す青年と共に地域活動を実施する。</p>
	<p>H23.3月</p>	<p>東日本大震災避難者への支援活動(ボランティア山形他)</p>	<p>米沢市を拠点として、避難所運営、避難者との交流事業、10円バザーなど、被災者の方々、避難者の方々の支援活動を行っている。</p>
<p>H23.5月</p>	<p>「棒杭市」学生プロジェクトチームの立ち上げ</p>	<p>今まで行政主導で企画運営していたイベント「棒杭市」を大学生にも声掛けし、プロジェクトチームを立ち上げ、15名の学生と企画運営を行った。</p>	
<p>人財塾の受講目的</p>	<p>・団体等に所属していない若者（学生も含め）の地域活動のきっかけづくり ・世代を超えたネットワークづくり、若者主体の活動を促進させる環境づくり</p>		
<p>人財塾で学んだこと効果</p>	<p>・ステップアップ編では、各地域での実践課程の課題について、参加者同士で共有・解決の糸口を掴むことで、その後の活動において多面的な視点から活かすことができた。 ・SNSでそれぞれの活動を発信、経過報告することで、お互い「刺激・気づき・学び」が生まれ、継続的な地域活動・人材育成の「原動力」になっている。</p>		
<p>受講後の取組</p>	<p>年月</p>	<p>事柄</p>	<p>概要</p>
	<p>H24.4月</p>	<p>学生サークル『アクセルリンク米沢』設立</p>	<p>「棒杭市」学生プロジェクトから地域活性化・自己成長を目的とした学生サークル『アクセルリンク米沢』への発展。活動も学生による主体的な地域づくりへと移行。地域活動に取り組む世代を超えた若者団体の交流の場、機会を増やしていく。</p>
	<p>H24.11月</p>	<p>高校生×大学生×社会人の出会いづくり</p>	<p></p>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP 1 「地域の宝（地域資源）」との繋がりを楽しむ若者の機会づくり（H23年5月）

米沢青年会議所での社会活動や東日本大震災の支援活動を通じて、様々な立場の若者と共に活動していく中で、新しい活動の場・出会いの場を求めている若者（学生）が多いことに気づく。

そうした若者の活動の場づくりのために、平成23年に今まで行政主導で行ってきたイベント「棒杭市」の企画運営を大学生からメンバーを募り、「学生プロジェクト」として活動開始。学生のアイデアを活かし、米沢の伝統文化を体験できる伝統市、昔遊びコーナーなど子供から大人まで楽しめる新企画も増やし、出店者や装飾業者、伝統工芸職人への協力の呼びかけもできるだけ学生自身が行うようにした。

こうした活動をきっかけに、学生が米沢の地域資源（歴史・伝統文化・伝統工芸・米沢人・職人・おもてなしの心等）と出会い、さらに地域住民やお客様との繋がりが生まれることで、学生のさらなるやる気と地域に対する愛着・誇りが深まっていった。



「棒杭市」学生プロジェクトチーム



会場装飾もすべて学生たちの手作り



無人販売所「棒杭市」の風景

●STEP 2 学生プロジェクトチームから地域づくり学生サークルへの発展（H24年4月）

当初は、「棒杭市」の企画運営のために集まった15名の学生プロジェクトチームであったが、平成24年には「人と人との繋がりをさらに加速していこう！」という思いから地域活性化と自己成長を目的に学生サークル『アクセルリンク米沢』を立ち上げ、「棒杭市」企画運営を中心とした活動から、次第に活動の柱・フィールドを地域づくりへと移しながら、70名を超える学生による主体的な活動が展開されている。今では地域に欠かせない、学生がつくるイベントとして「棒杭市・伝統市」が定着し、さらに他の地域イベントにも積極的に参加・連携しながら、世代を超えた繋がりを深めている。



学生サークル：アクセルリンク米沢



米沢青年会議所等の社会人団体とも連携しながら、イベント企画運営に参画



首都圏の大学生と一緒に温泉街活性化の取り組み

●STEP 3 「夢プロジェクト」の立ち上げ～新しい地域活動のカタチづくり～（H25年4月）

『アクセルリンク米沢』の学生をはじめ地域活動を行っている多くの若者団体と一緒に活動していく中で、他団体との連携の仕方が分からない、地域活動内容のマンネリ化、団体内の志の温度差、地域活動団体に入ることへの抵抗などの課題解決に向け、地域活動団体の枠を越えた新しいネットワークづくりが必要であると思い、ステップアップ編受講後【夢プロジェクト】を立ち上げた。

この【夢プロジェクト】は、地域を盛り上げたい・何かやりたいという「夢」を持った若者同士が「新しい心の繋がり」で楽しみながらイベントの企画運営をしていくプロジェクト。このプロジェクトを通じて出会った新しい仲間が地域の「将来の夢のストーリー」をお互いに描きながら、そしてそれを少しずつカタチにしていって行く過程で、連携する楽しさや地域活動の楽しさを実感、再確認していく。

基本、それぞれのプロジェクト終了ごとに一旦解散とすることで、それぞれの活動が個人や団体（サークル）の負担にならないような体制作りを心がけている。

■取組を進める過程で生じた課題

- STEP 1 地域活動を行っている学生にかかる負担の大きさ（時間・体力・責任）
学生の地域活動があまり知られていない・評価されていない（学生のインセンティブ）
- STEP 2 地域活動に対するサークル内での想いの温度差（卒業等でメンバーが変わる）
他団体との連携の仕方が分からない（他団体に対する情報不足）
地域活動団体（サークル）に入ることへの抵抗（地域づくりの敷居を高く感じる）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●信頼関係を大切にしながら小さな繋がりを丁寧に繋いでいく。

はじめから若者（学生）に地域づくりや地域活性化を求めるのではなく、まずは地域との繋がりの楽しさ、自己成長を実感してもらうことが重要である。学生の主体性を無視し、一方的に地域づくりを求め過ぎれば、若者たちは自分たちが利用されているだけだと感じてしまい、やる気や意欲を損ねてしまう可能性がある。はじめから大きな繋がりを目指すのではなく、小さな繋がりを丁寧に繋ぎ、そのパイプを信頼関係で徐々に太くしていくことが大事である。

●アンテナを常に高く持ち、地域づくりに関わる若者・仲間＝パートナーを増やしていく。

行政は地域づくりに積極的に関わっている団体・若者（学生）ばかりに頼ってしまう傾向がある。確かに実績のある団体は信頼がおけ確実だが、様々な若者に地域活動の機会を増やしていくことで地域に関わる人材が育ち、住民一人ひとりの活力が発揮できる協働による地域づくりに繋がっていく。

そのためにも、アンテナを高く持ち、地域活動に関わる若者の機会づくりを増やしていく必要がある。

●マスコミ、SNSを活用し、若者の活躍を発信することで若者の自信に繋げる。

若者の地域活動やその想いを様々な方法で積極的に発信することで、自分たちの活動を客観的に見ることができ、若者たちの自信とやりがいにも繋がる。さらにそうした若者の活躍を住民が知ることで、大きな刺激や気づきが生まれ、地域活動に参加するきっかけにもなる可能性もある。



学生の活躍を地元新聞で紹介



【夢プロジェクト:第1弾】に関わる若者を Facebook 等で毎日発信



【夢プロジェクト:第2弾】の若者の活動を地元新聞で紹介

■成果

●地域の大事なパートナー＝大学生の活躍による相乗効果

大学生自らが主体的に地域とかかわり、住民と連携しながら、繋がりを深めていく活動を通じて、学生同士はもちろん、住民や民間企業との活発な交流が生まれるだけでなく、地域全体に活気をもたらしている。【大学生＝ヨソモノ・ワカモノ】が熱いパワーで明るく楽しく活動することで、地元の【地域づくりバカモノ】と繋がり、徐々に【地元ワカモノ】も動き出し、大学生と地元若者との出会いの輪が広がっている。さらに、大学を卒業し社会人になってからも自分たちの創った愛着と誇りのあるイベントの時期等に仲間を連れて第二の故郷に帰ってきてくれる。また、地元出身学生も地域活動を通じ、地

域に愛着と誇りを感じ、市内での就職を決めた学生もいる。

地域のパートナーである大学生に活躍の場を与えることで、地域にとってイベント等の活性化だけでなく、世代間交流の加速や交流人口・定住人口の増加という大きな効果があり、また学生にとっても貴重な経験になり、将来社会人になったときに活かせる力にもなっている。

●部分最適化の地域づくりから全体最低化の地域づくりへの発展

【夢プロジェクト：第2弾】は、米沢と繋がりのある仙台藩主・伊達政宗ゆかりの踊り『仙台すずめ踊り』を通じ、自ら楽しみながら米沢の若い力を県内外に発信するために始まった活動である。本場「仙台青葉まつり」に参加するため、平成25年から小学生、高校生、大学生、社会人の幅広いメンバーが集まり、若者たちが自発的に熱中できる機会・出番づくりの場となった（青少年育成・交流の機会）。

平成26年5月の「仙台青葉まつり」の参加後も解散せず、各種イベント・お祭りでも披露、高齢者や障がい者福祉施設等でのボランティア公演も続けている。小さい子供からイスに座った高齢者まで老若男女が気軽に楽しく一緒に踊れることで、交流の場づくりにも繋がっている（健康増進、福祉の向上）。さらにすずめ踊りだけに拘らず、山形の踊り：花笠踊りやバンド、和太鼓等の団体と積極的に連携することで、踊りやお囃子（楽器）の楽しさを広める活動にも挑戦している（伝統の継承、文化の向上）。また、衣装（法被）や小物はメンバーが手作りする中で、学生の金銭面の負担を削減するばかりではなく、今後織物企業と連携することで、伝統の技：米沢織物文化の新しい可能性の創造にも繋がっている（伝統の継承、産業振興）。



音楽イベントで地元バンドとのコラボ



高齢者福祉施設でのボランティア公演



すずめ踊り講習会（地区だよりで掲載）

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- 多くの若者（学生）が主体的に、継続的に地域づくりに参画できる仕組み
- ・団体等に所属していない若者（学生も含め）の地域活動のきっかけづくり
- ・世代を超えたネットワークづくり、若者主体の活動を促進させる環境づくり

■受講後の取組、今後の方向性



- 縁者のネットワークで若者の活動の場を創出しよう！！
（縁者＝パイプ役（サポーター）＝報告者）

《課題解決の糸口》 ⇒ 【夢プロジェクト】の立ち上げ
第1弾：映画「ふるさとがえり」上映会の実施（H24年6月）
※実行委員メンバー（大学生・社会人・市職員有志）25名
第2弾：米澤すずめ踊り衆を結成
（H26年5月：「仙台青葉まつり」に25名で参加）

- ①新しい出会いや活動を求めている若者の楽しめる場
- ②地域活動団体を越えた相互交流とネットワーク
- ③自分たちの活動を客観的に感じ、地域活動の意義（インセンティブ）を実感できる環境
- ④活動を通じて若い世代の地域づくり人の育成（新しい地域リーダー・サポーター）

東京都国分寺市 地域のつながりをめざして～つなげよう！地域の力～

国分寺市総務部職員課 増本佐千子 (H24.7 自治大、H25.2 ステップアップ編 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 119,966 人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 11.48 km² ・東京都のほぼ中央に位置する武蔵野の面影残す自然と歴史豊かな住宅都市。新宿から JR 中央線で約 30 分、多摩地域の交通の要衝。 ・年々農地の宅地化が進み、人口は増加傾向にある。 		 <p>国分寺市 東京都</p>												
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p>平成 24 年 4 月経験者採用で入職。市民生活部協働コミュニティ課にて市民活動の推進や NPO 法人支援、自治会・町内会や姉妹都市交流事業も担当。平成 27 年 4 月総務部職員課に異動。(入職以前は子育て支援の NPO 法人を設立し、認可保育所の運営等の地域活動に従事)</p> <p>活動地区 市内全域 (協働コミュニティ課の担当する 6 つの地域センターと市民活動センターを拠点とする)</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年 4 月「国分寺市自治基本条例」を制定し、市民の参加と協働を推進している。 ・市役所直営で運営している市民活動センターの登録団体は 140 余、市民活動の拠点として情報発信などのセンター機能強化や人材育成が求められている。 ・平成 27 年 4 月現在、自治会・町内会への加入率は 39.7% であり年々減少傾向にある。 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に熱心な市民は多くとも、団体や組織として行政と協働していくグループは限られている。 ・地域のつながりが希薄化していく中で、住民の自治会や町内会への加入率も減少傾向にあり、若者や子育て世代の地域への関わり方が問われている。 ・多様化する住民からのニーズや地域の課題を、行政だけではなく地域のみんで解決できる仕組みづくりを模索している状況。 														
<p>これまでの 取組 (受講前 の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の当事者同士が顔見知りの関係を構築し、それぞれの課題やニーズを共有・把握し合うよう、行政は積極的に協働のコーディネートに取り組む。 <table border="1" data-bbox="343 1254 1444 1702"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17.5 月</td> <td>「自治会・町内会連絡会」の開催</td> <td>地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。</td> </tr> <tr> <td>H18.11 月</td> <td>「団体交流会」を開催</td> <td>市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。</td> </tr> <tr> <td>H24.5 月</td> <td>団体ヒアリングの実施</td> <td>市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H17.5 月	「自治会・町内会連絡会」の開催	地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。	H18.11 月	「団体交流会」を開催	市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。	H24.5 月	団体ヒアリングの実施	市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。
開始年月	事柄	概要													
H17.5 月	「自治会・町内会連絡会」の開催	地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。													
H18.11 月	「団体交流会」を開催	市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。													
H24.5 月	団体ヒアリングの実施	市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政職員が地域に出ていく仕組みをどう構築していけるのか、先駆的事例を学び、本市での活動の参考にしたい。 ・他の自治体職員と交流し意見交換したい。 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップにおいては参加者の熱意と郷土愛に触れ、また講義においては講師各位の懐の深さや示唆に富んだ事例紹介に日頃の業務を見直す大きな契機となった。 ・各地域および参加者による「地域を巻き込む」力や視点、広報活動の具体例には非常に啓発され、地域のお祭りの情報収集や事業者とのイベント共催につながった。 														

受講後の 取組	・これまでの活動をさらに発展させ、各事業に学生や商店街・地元企業などとも連携をはかり、参加者が地域の活動を多面的かつ横断的に捉えられるよう工夫した。		
	年月	事柄	概要
	H25.8月	「地域・団体交流会」の開催	市内を4つの地域に分け、地域のつながり作りを目的に市民活動団体や自治会・町内会、商店会や地元企業、学生、市職員との交流の機会とした。
	H25.8月	「市民活動とその支援：センターを知る・考える」を開催	市民活動センターの機能強化をめざして、近隣自治体の中間支援組織における取組を知り、参加者と共に考える機会とした。
H26.10月	国分寺市市制施行50周年記念「市民活動フェスティバル・平兵衛まつりコラボレーション」事業	例年、春に行っている市民活動団体によるイベントと秋に行われる市内の研究機関のお祭りをジョイントさせ、春には研究所より公開講座に講師派遣を依頼し、秋にはお祭りに市の紹介ブースを出展した。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 自治会・町内会連絡会

地域コミュニティの活性化を図るため、前身の「ふれあい懇談会」から含め、すでに10年近く自治会・町内会連絡会を実施し、平成19年度からは社会福祉協議会とも共催で行ってきた経緯がある。しかし、参加者アンケートによると「行政からの資料配布がメインではないか」または「会のマンネリ化」を指摘する声もあり、参加者の減少も見られた。

そこで、これまでは教室形式などで行っていた会の運営を行政からの一方的な進行にならないように、地域ごとにグループ分けし、各テーブルに市職員や学生が同席した。それにより参加者からは「意見交換を行いやすくなった」「お互いに名前や顔が覚えられるようになった」との声をいただいた。



●STEP2 団体交流会

こくぶんじ市民活動センターに登録している団体間の交流会として実施してきたが、団体の規模や活動内容等が異なる中で団体の積極的な参加が見られず、会の在り方や市民活動センターの運営そのものが問われてきた。一方で、交流や意見交換へのニーズは一定程度あったため、従来市内の会議室で行っていたが平成25年度には地域センターに会場を変更して開催し、年度末までに5回実施した。

最終回は各地域の総括を行う「結：地域を結ぶ・輪を創る」と題し、延べ71団体、177名が参加するに至った。



●STEP3 団体ヒアリング

市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。(平成26年度末までに計45団体を訪問。)

それぞれの団体の設立経緯を踏まえた助成金獲得や事業拡大などの問題点を伺いながら、今後の方向性や選択肢の提示など必要に応じた助言や支援を行った。



■取組を進める過程で生じた課題

- ・組織の疲弊（役員やスタッフなど担い手不足のため特定のマンパワーに依存）
- ・情報の受発信（インターネットやスマートフォン対応と個人情報の取り扱い）
- ・ネットワーク化への世代間格差（若年層と高齢者層）

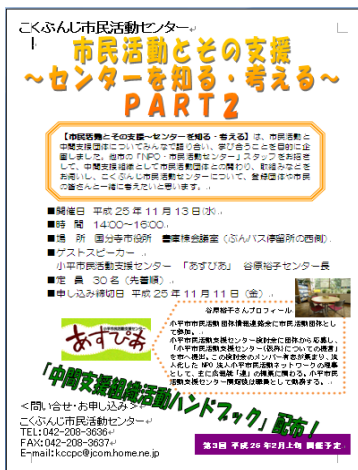
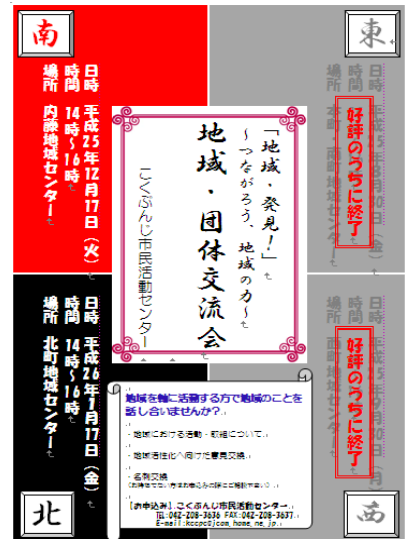
■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●発信力を高める

情報共有や団体間の連携以前に、地域の住民にも関心を持ってもらえるテーマ設定を行いながら、開催案内やチラシ・ポスターもインパクトの色遣いに配慮する等、スタッフによるツイッターでのつぶやきなど従来にない手法を取り入れ、参加者の増加を図った。

●他を知る

市民活動と支援の内容ふくめて、他の自治体や中間支援組織では、どのような事業をどんなメンバーによって行われているのか。それを知る機会を作ることによって、より実践的な市民活動支援が可能になると考え、近隣自治体の担当者から直接お話を聞く場：



「市民活動とその支援～センターを知る・考える～」を年に2回設けた。既存の団体だけではなく、これから市民活動を始めてみようと考えている地域住民や学生の参加もあり、小人数ながら、活発な質疑応答が行われた。(35名の参加)

また、東京都生活文化局発行の『中間支援組織活動』ハンドブックも教材として取り寄せ、当日の資料とした。



■成果

●広報活動の見直し

(1) 市民活動センターのホームページをリニューアルしたところ、閲覧数が伸びた。

(2) 市報に「連載枠」を設置。ホームページのリニューアルに伴うデジタルコンテンツの充実に加えて、やはり紙面による情報発信も不可欠だと考え、市内で積極的に活動している団体の紹介やイベント告知の機会を年間6回設けた。

こくぶんじ市民活動センター 〈第6回〉

第8回市民活動フェスティバルを開催しました

こくぶんじ市民活動センター（市役所第3庁舎1階）は、市内で活動する市民活動団体やNPO法人のさまざまな支援を行っています。
市民活動を始めたい、始めたいばかりの方のご相談・支援なども行っています。ぜひ、お気軽に市民活動センターへお立ち寄りください。

今年も市民の皆さんに市民活動を知っていただく機会として、4月20日にひかりプラザで、第8回市民活動フェスティバルを開催しました。
市制施行50周年の今年初の試みとして、ひかりプラザ北館道路に、ダンボールを使った子ども遊び「J」A東京むさしによる国分寺産野菜の苗や国分寺郵便局による「市制施行50周年記念ポスト」等の贈呈企画を行いました。心寄せられていた来場者も、約800人の来場者をお迎えし、会場は大変にぎわいました。ひかりプラザでは、ブスのでの団体の活動紹介展示、ステージでのパフォーマンス、体験企画・相談会、スタンプラリーなど、たくさんの方がありました。
また市制施行50周年記念コラボレーション企画として、鉄道総研の講師による「光明から世界のシンカセンターへ―新幹線誕生物語―」と題する講演を行いました。
ふんじはるもつちも選出し、ステージでフォークダンスを踊ったり子どもたちと写真撮影をしたりと、会場を盛り上げてくれました。
※市民活動フェスティバルは、毎年10月に参加団体を募集し、実行委員会形式で開催しています。


市民活動センターへご活用ください

市民活動センターに登録すると、印刷機やコピー機・複写機、ラミネーター、パソコン・プロジェクターのほか、冊子作りなどに便利なディスクカッター・裁断パンチ・大型A4用紙・厚紙切り用ハサミなどを利用することができます。

■印刷機 年間1万枚まで
■コピー機 年間250枚まで

※印刷機・コピー機は租税、ラミネーターはラミネートシートをお持ちください（予約販売）。
※センターのモニター・プリンターは予約制ですが、簡単な打ち合わせなどに便利なオープンスペースは市民の皆さんなど誰でもお使いいただけます。
※備品や団体登録など詳しくは、センターHPをご覧ください。センターのオープンスペース

→協働コミュニティ課（内362）



●団体交流会の見直し

団体交流会は平成24年度70団体144名の参加から、平成25年度は71団体177名の参加となった。（延べ人数）

●自治会・町内会の見える化

市内の世帯数と自治会・町内会の加入状況からの数字だけではなく、どの地域にどれくらいの会があり、どこは空白なのかが一目了然になるよう、白地図に現状の色分けを行い、分布図を作成した。

それによって、自治会・町内会が密集している地域も明確になり、地域性が明確になった。



■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・地域の課題を地域のみinnで抽出し、解決できる仕組み作りを検討する。
- ・地域で活動する人材を育成し、地域で活動する団体支援を行う。
- ・自治会や町内会への加入を促進し、地域の活性化を図る。
- ・地域活性化における先駆的な事例や住民協働の実践について学ぶ。
- ・他の自治体の取組を知り、これからの本市に必要な視点や手法を学ぶ。

■受講後の取組、今後の方向性


●国分寺市市制施行50周年記念「市民活動フェスティバル・平兵衛まつりコラボレーション」事業の実施

平成26年は国分寺市市制施行50周年だったこともあり、市内の研究所と相互連携を行った。春の「市民活動フェスティバル」には800人を超える来場者が、また秋の「平兵衛まつり」には6,000人弱の来場者があり、市民活動団体を始め、地域の商店街や自治会、市職員の協力も得て、市役所のブースには400人を超える来場者があった。地域の力をつなげることに大きな手ごたえを得た両日であったとともに、本講座を受講した成果が結実したと言える。



徳島県徳島市 地域資源をキーワードに仲間を集う!! ~ 若者活躍の場づくりに挑戦

徳島市納税課 阿部知彦 (H24.3 JAMP、H25.2 ステップアップ編 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口：261,271人（平成27年12月1日現在）、面積191.25 km² 徳島県の県庁所在都市。市内に138もの河川が流れる水都。 400年以上の歴史を持つ「阿波おどり」が有名。 																				
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉課（3年）→企画政策課（4年）→納税課（現在） 企画政策課所属時に、地域づくり人財塾を受講したことをきっかけに、職務外の取組として活動に従事。 																			
活動地区	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県徳島市：阿波おどりの本場 東京都杉並区高円寺：東京高円寺阿波おどりの開催地 																				
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも有名なNPO法人などが活躍している。 官民連携し、シティプロモーション「心おどる水都・とくしま」発信事業を展開。 																				
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの担い手が高齢化。 活動の継続や新たな取組のため、若者育成が必須。 																				
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">開始年月</th> <th style="width:45%;">事柄</th> <th style="width:40%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 10px;">該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）														
開始年月	事柄	概要																			
該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）																					
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代よりボランティアなど、地域活動にかかわっていた。 市職員となってから、いかに活動を行っていくか模索していた。 全国の自治体職員が、どのように地域活動に取り組んでいるか知りたかった。 																				
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 受講者である全国の自治体職員の熱意に感銘を受けた。 自分が地域課題と考えている事柄に、職務外で取組もうと決意。 飯盛義徳講師にプラットフォーム（多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらすコミュニケーション基盤）の考え方について学ぶ。 地域資源「阿波おどり」をキーワードに、プラットフォーム構築に挑戦する。 																				
受講後の 取組	<p>地域の若者が活躍する場づくりを目指し、域外へのボランティアツアーを計画。毎年、参加者を募集しツアーを継続するとともに、メンバーからの提案を受け、徳島市内でイベントを実施するなど、新たな活動にも発展してきている。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">年月</th> <th style="width:30%;">事柄</th> <th style="width:55%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.8月</td> <td>第1回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。</td> </tr> <tr> <td>H26.8月</td> <td>第2回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。</td> </tr> <tr> <td>H27.4月</td> <td>ツアー参加者コアメンバーによる団体化</td> <td>ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。</td> </tr> <tr> <td>H27.6月</td> <td>学生主催のイベント「両国杯」開催</td> <td>徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。</td> </tr> <tr> <td>H27.8月</td> <td>第3回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H25.8月	第1回 阿波おどりボランティアツアー	徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。	H26.8月	第2回 阿波おどりボランティアツアー	第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。	H27.4月	ツアー参加者コアメンバーによる団体化	ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。	H27.6月	学生主催のイベント「両国杯」開催	徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。	H27.8月	第3回 阿波おどりボランティアツアー	募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。
年月	事柄	概要																			
H25.8月	第1回 阿波おどりボランティアツアー	徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。																			
H26.8月	第2回 阿波おどりボランティアツアー	第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。																			
H27.4月	ツアー参加者コアメンバーによる団体化	ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。																			
H27.6月	学生主催のイベント「両国杯」開催	徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。																			
H27.8月	第3回 阿波おどりボランティアツアー	募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。																			

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

目指したのは、地域において活躍する若者を育成する場を構築すること。

地域資源である「阿波おどり」をキーワードに、若者たちが集まり活動するプラットフォームを形成し、活動を通してそれぞれが成長する機会を創出することを試みた。

なお、私は地域づくり人財塾を受講したことを契機に、共に受講した徳島市市民活力開発センター（NPO 支援センター）のスタッフとタッグを組み、一から活動を展開した。受講前の取組に「該当なし」と記載したのは、私が中核となり関わった事例についての記載なのでご留意いただきたい。

●STEP1 高円寺阿波おどりボランティアツアーを企画（H25年8月）

平成25年2月に受講した「地域づくり人育成講座ステップアップ編（現ケーススタディ型）」において、若者が活躍する場づくりとして、域外の地域でのボランティア活動を企画。阿波おどりの本場・徳島の学生たちが、東京の阿波おどり開催地・高円寺へ駆けつけ運営に協力するボランティアツアーを同年8月に実施した。



第1回ボランティアツアーの参加者たち

ツアー参加者の募集に集まったのは、徳島で阿波おどりに懸命に取り組む20名程の学生たち。現地のスタッフと協力しながら、東京高円寺阿波おどりのイベント運営の裏方として活躍した。参加した学生たちの反応は

「これまでにない経験ができた。」「裏方として充実感があった。」と好感触であったと共に、イベント主催者からも好評であったことから、次年度以降のツアーを継続し開催することとなる。

●STEP2 ボランティアツアーの継続実施、コアメンバーによる団体化（H27年4月）

第1回目のボランティアツアーが、参加者及びイベント主催者にも好評であったことから、平成26年8月に第2回目、及び、平成27年8月に第3回目のボランティアツアーを継続して実施。参加者は固定ではなく、その都度、募集をかけた。ツアー参加に要する旅費や宿泊費などは自己負担という条件であったが、趣旨に賛同する学生や若者たちが多く集まってくれた。

また、ツアー参加者の中から東京高円寺の阿波おどりの応援に駆けつける以外にも、独自の活動をしたいと要望があがり始めた。それを受け、平成27年4月に通年で活動する団体として「阿波おどりを応援する会」を設立。ボランティアツアー以外の取組を展開していく。

●STEP3 徳島市中心部でのイベント開催（H27年6月）



学生主催のイベント「両国杯」

「阿波おどりを応援する会」の取組として、地域活性化を目的とした徳島市内中心部でのイベントを企画。内容は週末の街中の公園をステージに、阿波おどりの舞台を披露するというもの。学生たちが中心となりイベントの実行委員会をつくり、出演者の募集から当日の段取りまで行った。地元メディアにも取り上げられ、多くの来場者が集まった。

域外へのボランティアツアーから始まった取組であるが、ツアー参加者であった学生たちが、自分の住む地域において、自らイベントを企画し実施するというところまで発展してきた。

■取組を進める過程で生じた課題

徳島市は地域活動の先進地だと言われている。NPO 黎明期の 1990 年代から、全国的にも有名な団体が多数、活躍しているようだ。しかし、メインとなるプレイヤーが 20 年前と同じ団体も少なくない。そのため、地域活動の 20 年先を見据えた場合、次の時代を担いうる若者たちの育成が必須である。

私自身も、学生時代に取り組んだボランティア活動において、様々な経験を積みさせてもらい自分自身が成長できたという自覚もあり、若者を育成する立場として何か役に立ちたいという思いがあった。

ただ、人財育成について専門的な知見を有しているわけではない。地域活動を担う人財となりうるのは誰かという具体的な【対象】、どういった手法で育成するのかという【手法】について見当がつかなかったが、人財塾を受講し、飯盛義徳講師に「多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらすコミュニケーション基盤」であるプラットフォームの考えを学んだ。

そこで、徳島市の地域資源である「阿波おどり」をキーワードに、地域の若者が交流し、活躍する場としてのプラットフォームづくりに挑戦してみようと考えた。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●地域資源をキーワードに仲間を集める

本場徳島の阿波おどりには、多くの市民が「〇〇連」という団体を組み踊り込んでいる。地域のお祭りに、みな真剣に向き合っている。

徳島市内のいくつかの大学においても、学生たちは大学や学部単位で阿波おどりの「連」を組織して、お盆の阿波おどりに向け、年間を通して練習を重ねている。地域の最大の魅力である、阿波おどりに本気で取り組む学生であれば、阿波おどりを通じた地域活動に興味を示し、参画してくれるだろうと考えた。

募集の際に心掛けたことは、多様なメンバーを集めること。人数を集めるには特定の団体を巻き込む方が早かったが、学生間の新しい「つながり」を構築したかったので、できるだけ多くの団体や個人に声掛けを行った。



参加者募集のチラシ



高円寺阿波おどりでのボランティア

●自主性を尊重、活動を通して「やりがい」「楽しさ」に気付く

趣旨に賛同し、いくつかの大学の学生たちが集まってくれたが、人財育成の専門的なノウハウはない。ならば、自分たちが学んできたように、活動を通してボランティアの「やりがい」や「楽しさ」を体感してもらうしかない、と考えた。配慮したのは、参加者それぞれが活躍できるよう、ひとり一人に役割を分担すること。また、できるだけ学生たちが主体的に活動できるよう、事務的な作業は私たちが担い、裏方に徹するよう努めた。

■成果

活動を始めて 3 年。飯盛講師の定義する「社会的創発」をもたらす「プラットフォーム」には至っていないが、多様な学生たちや社会人が集まり、互いに刺激しあい、新しいものが生まれる若者活躍の場は構築されつつあるのではないかと感じている。

これまで他人だった学生たちに横のつながりができ、共に活動するコミュニケーションの場ができた。そして、参加者である学生の中からリーダーとなる者が現れ、徳島市内でのイベント開催など、彼らを中心に新たな展開が生まれている。



学生たちで主催するイベントの打合せ

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

学生時代よりボランティア活動など、地域活動にかかわっていた。活動の中で様々な経験を積ませてもらい、ボランティアのチーム立ち上げ、リーダーなどを担わせてもらう事で、他の誰かのために取り組むことの「やりがい」や「楽しさ」を実感することができた。その体験から、地域活動に取り組む人々と共に頑張りたい、応援したいと思い、公務員を目指した。

その後、希望通り市役所に採用され、仕事は非常にやりがいがあり、充実していたが、就職前に考えていた地域活動に取り組むとは少し違う感じがした。行政は、福祉や教育など幅広い分野を担っており、都合よく自分がやりたい仕事を担えるわけではない。だが、ボランティアや地域活動を続けたいとの思いはあり、地域づくり人財塾を受講するにあたり、全国で活動されている他の自治体の方々がどう取り組まれているのか、非常に興味を持った。

活動に取り組む転機となったのは、平成 24 年度に受講した人財塾のステップアップ編だ。既受講者を対象に、少人数で課題解決を目指すもので、行政職員と NPO 等のスタッフが二人一組で参加することが要件だった。平成 23 年度に人財塾を受講し、非常に刺激を受けたことから、募集案内を受けてからすぐに NPO 支援センターのスタッフをくどき、応募した。そして、後々この講座で自分たちが提案した企画（阿波おどりボランティアツアー）を実践していくこととなる。

■受講後の取組、今後の方向性

●仲間との出会い、他の受講生の熱意に感銘

人財塾に参加して、受講者である全国の自治体職員の熱意に感銘を受けた。やり方は人それぞれだが、みな本気で地域課題に取り組んでいる。私が地域課題と感じていたこと、やりたかったことは、直結的に担当している職務と関連することではない。それならば職務外のプライベートの時間で取り組もう。共に受講した自治体職員の姿を見て、そう決意した。

人財塾での大きな収穫は、共に活動するパートナーと出会えたことだ。先述したように NPO 支援センターのスタッフとペアで参加したわけだが、彼とはその後 3 年間、タッグを組んで活動を続けている。日中身動きが取れない時間をカバーしてくれることはもちろん、何事も互いに相談できることがとても大きい。本当に、幾度となく議論を重ねた。職務外の活動だったので、時間的にも体力的にも厳しいと感じたこともあったが、彼のサポートのおかげで乗り切れた。

受講をきっかけに、全国で本気で活動に取り組む自治体職員に出会えたとともに、一緒に活動するパートナーができたことが、大きな転機となったと感じている。



H24 年度ステップアップ編を受講

●10 年後、20 年後も活動を続けたい！



活動を通じて多くの仲間に出会えた！

地域のことは住民に担ってもらう、という発想のもと、全国の自治体で市民の地域活動を推奨している。この考えに基づくと、一市民である私たち行政職員も、職務外においても地域活動に汗を流すべきだと思っていた。

幸い私は、自分の取り組むべき活動を見つけることができた。取組は始めたばかり。もちろん 20 年先を担う若者育成という目標達成はまだまだ先だが、3 年間続けたことで、これから発展していく兆しが見えてきた。この活動を 10 年、20 年続けることで、カタチとなってくると信じている。仕事で担当する職務は変わるだろうが、活動を通じて知り合えた仲間と、今後も取組を続けていきたい。

岡山県高梁市 地域おこさない協力隊員の事例～ 地域おこし協力隊3年間の取組と今
カフェ裏駅店主 長野 エドウィン・タケル (H25.3 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口：32,000人（平成28年1月現在）、面積：546.99km² 隣接自治体：総社市、井原市、新見市、真庭市、吉備中央町、広島県庄原市、神石郡神石高原町 											
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p>H18年 東京無線タクシー運転手 H21年 有田交通タクシー運転手 H22年 小松屋菓子店（家業） H24年 地域おこし協力隊 H27年 移住コンシェルジュ（～H28年3月まで） H27年 カフェ裏駅 店主（～現在）</p>	<p>活動地区</p> <p>岡山県高梁市川上町（旧町）</p>									
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2004年、高梁市（旧）と合併。 約30年前に漫画で町おこしを行い、現在は夏季にマンガ絵ぶた祭りというイベントを開催している。 											
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町づくり協議会や観光協会、理事会等のメンバーの高齢化と組織変化が乏しいことにより新規事業の発案や活動が滞ってしまっている。 若手や担い手の育成（おしつけ）が定例行事や祭りごと、消防団のような地域限定活動にしかないので若手や担い手が外に出る機会が少なく成長しない。 通例、田舎ルールや噂社会の蔓延。（排他的） 											
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「地域おこしをしない」活動スタート (受け入れ自治体側に事前の指定がなかった) <table border="1" data-bbox="343 1146 1444 1550"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.9月</td> <td>地域おこし協力隊 着任</td> <td>高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。</td> </tr> <tr> <td>H25.3月</td> <td>町内会長 就任</td> <td>町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備 </td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H24.9月	地域おこし協力隊 着任	高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。	H25.3月	町内会長 就任	町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備
年度	事柄	概要										
H24.9月	地域おこし協力隊 着任	高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。										
H25.3月	町内会長 就任	町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備 										
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国で活動されている講師や受講生（仲間）の状況や主な事例など知る機会がほしかった。 											
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動をしていくことは自分の潜在意識と出会うきっかけになることを学んだ。 互学互習のスタンス。 											
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1787 1444 2011"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27.12月</td> <td>カフェ裏駅 開業</td> <td>在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H27.12月	カフェ裏駅 開業	在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。			
年度	事柄	概要										
H27.12月	カフェ裏駅 開業	在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。										

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 \地域おこしをしない活動\

（まっさらな心もちで地域内外活動に多様に取り組む） \（H25年1月～）

祖国コスタリカ共和国には「Moda（気分）」という言葉はあるが、ブームという言葉がない。異国にもルーツを持つ私には田舎暮らしは異文化交流であると考えている。昨今、「地方創生」、「地域おこし」がブームになっている面を懸念したわけでもないが、私自身、幼少期に人種差別や偏見、イジメにあい、見栄えの良さや実績、成果ばかりを求めている社会に嫌気がさしていたこともあり「地域おこしをしない」をコンセプトに活動を始める。流行という言葉に身を任せて生きれば、少子高齢化や過疎という社会現象が起きてくる結果は当然なのではなかろうか。都会での暮らしに息が詰まった。当初、地域の代表に叱咤激励され、自分の挑戦したいことで地域と関わっていく手探りの活動が始まる。中山間地域には今もなお、郷土文化や伝統、暮らし等が受け継がれているが、いくつもの日本の宝が消滅の危機に瀕していた。

○主な活動：多文化共生と自文化暮らしの開拓

毎年「地域資源を考える」竹伐り体験交流イベント（地域×学生×移住者×行政）を企画開催



○その他の活動：“地域”活動と“地域外”活動を多彩に実践

地域活動：こんにやく栽培（加工、開発）、多国籍応援団くらしき（応援団長）、学習支援ボランティア、獣害対策（猪解体、皮加工）、特産品開発（無添加・銀杏だれ）、マンガ絵ぶた祭り、タップダンス体験、ゆるキャラきじ丸、CAMP（環境学習・異文化交流）、And more...

地域外活動（フィールドワーク）：消防団（操法）、秋季例祭[渡り拍子]調査研究データ保存、ハーモニカ教室、劇団やたか（劇団）

○取得した資格：地域活動の延長として資格も取得

狩猟免許/キャンプインストラクター

●STEP2 \地産多消から地産他生\

（弥高こんにやくとの出会いと世界に広められる美味しさの探求） \（H25年2月～）

地元特産品 弥高こんにやくづくりの担い手として農家に弟子入り。栽培、加工、特産品開発に取り組む。



●STEP3 \言葉を選んで未来を掴む\

(弥高こんにやくの美味しい食べ方の開発と生業づくり) \ (H27年12月~)

「弥高こんにやく」を使った「こんにやくバーガー」、「コスタリカ丼」の開発や、銀杏だれのプロデュース。小さな絆に支えられてカフェをオープン。

平成27年10月 無添加・銀杏だれ 全国調味料選手権大会（伝統部門最優秀賞）

平成27年12月 こんにやくカフェ「カフェ裏駅」（高梁市）開業。



■取組を進める過程で生じた課題

「地域おこしをしない」異例の協力隊員でもあったので、新聞記事やテレビ取材がある度に、噂や妬みやっかみが始まる。繋がりや関係性もたったの一瞬で崩れはじめ、地域が排他的である事を認識する。

○メディアの取材

- ・ゆるキャラ「きじ丸」活動でテレビ朝日「ナニコレ珍百景」
- ・協力隊活動でテレビ朝日「銭型金太郎」、TBS「アメージング H27.8月、11月放送」等

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

地域での経験や体験した見聞録を集約し「地域つむぎ」の活動を行う。目に見えない小さな絆や団結がうまれる。

■取組の成果

- ・開業への道筋、計画ができた。
(古民家購入、改修、飲食店営業許可取得)
- ・退任後も限界集落地域から行事の手助けを頼まれるようになる。
- ・地元農家からこんにやく畑を無償で借り、加工施設の利用許可をもらう。
- ・特産品開発グループの立ち上げ準備（地元農家等のメンバー数名）
拠点はアパートを丸ごと借り、部屋ごとに製造業許可を取得。現在は1部屋、菓子製造業のみ。



2階建て、地下に駐車場も完備



こんにやくクッキー、こんにやくわらび餅を製造

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・全国で活動されている講師や受講生（仲間）の状況や主な事例など知る機会がほしかった。

■受講後の取組、今後の方向性

●こんにやくカフェの経営

栽培から手掛けている弥高こんにやくを使った「こんにやくバーガー」、「コスタリカ丼」がメインメニュー。



カフェ裏駅

●新特産品開発と海外展開（食のルーツや起源を追及、そして関わりで展開）

無添加・銀杏だれ → ドイツ、フランス

（銀杏は日本からドイツへ渡り、サプリメント、医薬品として親しまれている）

こんにやくカフェ2号店 → コスタリカ共和国

（こんにやくは中南米ではジャングルに生育しているので馴染みがある）

●次世代への継承（特産品開発グループの成長と独立起業への支援）

①6次産業化を考えるカフェの開催（備中広域農業普及推進センター事務局）

②スムーズなイベントや行事への出店サポート（岡山県内の年間を通した行事を把握済）

③メディア取材等のコーディネート（行政や地元ローカルテレビ局などからの要請や要望がある）



●外国人観光客や海外に向けたメニュー開発と情報発信

インバウンドへの対策と新規開拓。移居前、海外からの旅行客の多いJR 鎌倉駅内や大仏様観光案内所を取引先としていた和菓子店での経験を活かし、世界でも注目を浴びている「和食」に焦点を当て、海外（ここでは中南米料理）とのコラボメニュー開発や情報発信、提供を充実していく。



中南米キヌアとこんにやくのから揚げに銀杏だれが決め手のこんにやくバーガー

大阪府河内長野市 人づくりから始まるまちづくり

河内長野市都市魅力戦略課 東映道 (H25.3 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口 109,436 人 (平成 28 年 1 月末現在)、世帯数 47,307 世帯、面積 109.61 km² 昭和 29 年に府内 17 番目の市制を施行。 大阪府の南東端、奈良県、和歌山県と接し、面積の 7 割は森林。 ベッドタウンとして発展し、人口減少、急激な高齢化などに直面。 														
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p><業務> 生涯学習によるまちづくり担当 4 年、観光ボランティア担当 4 年、小学校区単位の地域づくり支援 3 年など。 <私事> 青少年リーダー 5 年、青少年健全育成 3 年。</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<p>・特に、天見小学校区は、高野街道も通る古くからの集落で、市制施行前は一つの村であった地域。人口 950 人、市内でもっとも高齢化が進行。</p>														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<p>・河内長野市では、市民、行政の双方の側において、協働によるまちづくりの核となる人材の育成を進めており、小学校区単位の「地域まちづくり協議会」の活動などを通じて、住民同士のつながりや、地域の絆づくりに取り組んでいる。</p>														
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<p>・市では、市民の自由な意見交換の中から、身近な地域課題を洗い出し、具体的な取組や課題解決に結びつけていく取組を進めていた。</p> <table border="1" data-bbox="339 1055 1444 1216"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20 年度以降</td> <td>まちづくり交流会を継続し開催する</td> <td>様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H20 年度以降	まちづくり交流会を継続し開催する	様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人						
開始年月	事柄	概要													
H20 年度以降	まちづくり交流会を継続し開催する	様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<p>・市民のニーズが複雑化、多様化する一方で、行政が全ての社会的ニーズに対応することは現実的に難しいため、行政と市民や事業者などが知恵を出し合い、資源を補い合い、できることを重ね合わせて、社会や地域の課題解決に取り組む必要がある。</p>														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<p>・中でも、豊重先生から受けた感動、感銘、衝撃は大きく、その後の地域づくりへの刺激策として活用することができた。また、これをきっかけとして、SNS を通じて行政職員のネットワークが広がり、様々な情報収集や交流につながった。</p>														
<p>受講後の 取組</p>	<p>・地域の課題解決に向けて住民主体での取組を実現するためには、まず職員が外へ出て、市民と行政の距離感を近づけて、市民に「参加してもらおう」のではなくて、職員のほうが「参加させてもらおう」という感覚、意識を持つことが大事である。</p> <table border="1" data-bbox="339 1585 1444 1982"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22 年度以降継続</td> <td>まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する</td> <td>市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人</td> </tr> <tr> <td>H22 年度以降継続</td> <td>地域力 UP サポート研修を企画し開催する</td> <td>協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人</td> </tr> <tr> <td>H23 年度以降継続</td> <td>天見小学校区の地域サポーターとして活動する</td> <td>地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H22 年度以降継続	まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する	市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人	H22 年度以降継続	地域力 UP サポート研修を企画し開催する	協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人	H23 年度以降継続	天見小学校区の地域サポーターとして活動する	地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度
年月	事柄	概要													
H22 年度以降継続	まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する	市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人													
H22 年度以降継続	地域力 UP サポート研修を企画し開催する	協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人													
H23 年度以降継続	天見小学校区の地域サポーターとして活動する	地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度													

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ、受講後の取組、今後の方向性）

●STEP1 まちづくり交流会を継続し開催した

住民が自由な立場で参加し、地域の課題や活動などについて様々な情報交換を行った。



●STEP2 まちづくり地域デビュー講座を企画し開催した

市の施策や社会課題を熟知した人材を育成し、修了後は、地域まちづくり協議会への参加など、地域活動の牽引役や中心的な担い手としての活躍を期待した講座を企画した。



●STEP3 地域力UPサポート研修を企画し開催した


協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修を実施した。



●STEP4 天見小学校区の地域サポーターとして活動している

東京都小平市 人財塾受講後のフォローアップ研修等について

小平市 健康福祉部 保険年金課 谷合 謙太 (H25.3 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口 188,574 人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 20.51 km² 東京都心から 26 キロ。東京都多摩地域の武蔵野台地に位置する。 江戸市中への飲料水提供を目的とした玉川上水開通により新田開発され現在はベットタウンとし発展。6つの大学を擁する学園都市でもある。 ブルーベリー栽培発祥の地。 FC 東京のホームグラウンド・クラブハウス。  <p style="text-align: right;">位置図</p>													
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p><業務> 平成 21 年度入庁。市民生活部市民課所属であったが、平成 24 年度に市制施行 50 周年の市民生活部企画「たくさんあります！こだいらの魅力つたえ隊」に参加して、はじめて地域づくりに携わる。</p> <p><私的活動> ジャーナリスト楽校 in こだいら (自主研究グループ) の運営委員。</p>												
<p>活動地区</p>	<p>小平市</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治基本条例をつくる市民の会議 (市民の会議) による条例案の検討。平成 21 年 12 月 22 日小平市自治基本条例施行。 													
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎自治体の職員として地域にどう関わっていくべきかという問題意識が個人的にあった。 													
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力発信を目的とする業務・自主研究グループの活動に携わってきた。 <table border="1" data-bbox="343 1211 1444 1512"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24 年度</td> <td>たくさんあります！小平の魅力つたえ隊</td> <td>小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。</td> </tr> <tr> <td>H24.10 月</td> <td>イラスト入り改ざん防止用紙</td> <td>住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。</td> </tr> <tr> <td>H25.1 月</td> <td>ジャーナリスト楽校講座 (業務外)</td> <td>ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。</td> </tr> </tbody> </table>		開始年月	事柄	概要	H24 年度	たくさんあります！小平の魅力つたえ隊	小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。	H24.10 月	イラスト入り改ざん防止用紙	住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。	H25.1 月	ジャーナリスト楽校講座 (業務外)	ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。
開始年月	事柄	概要												
H24 年度	たくさんあります！小平の魅力つたえ隊	小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。												
H24.10 月	イラスト入り改ざん防止用紙	住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。												
H25.1 月	ジャーナリスト楽校講座 (業務外)	ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。												
<p>人財塾の 受講目的</p>	<p>市制施行 50 周年企画で「こだいらの魅力」について発信したことが楽しかったので、地域づくりについて学びたかった。</p>													
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生と直接面談する機会にアドバイスをいただき、今後も地域活動をしていきたいと考えるようになり、現在も業務外の活動ではあるが地域活動を行っている。 全国地域づくり人財塾・東日本支部のフォローアップ研修 (年 4 回) に自主的に参加することで多種多様な事例にふれ互学互習の場を持つことができるようになった。 庁内で行う職員提案制度に応募するなど地域について考えるようになった。 													
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1854 1444 2018"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.4 月～</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 </td> </tr> </tbody> </table>		年度	事柄	概要	H25.4 月～	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 						
年度	事柄	概要												
H25.4 月～	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 												

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

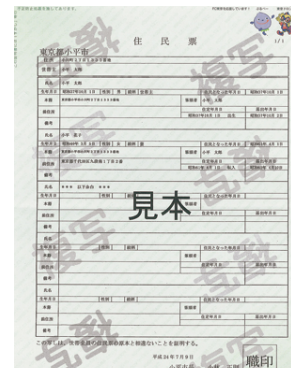
●STEP1 「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」（平成 24 年 4 月）

小平市制施行 50 周年企画として、㈱よしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属する、小平市にゆかりのある芸人が「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」を結成して、市内の各種イベントの盛り上げや小平の地域の魅力に関する情報発信を行う活動に携わる。このとき地域の魅力について考えるようになった。



●STEP2 「イラスト入り改ざん防止用紙」（平成 24 年 10 月）

小平市に練習場がある FC 東京の担当者をお願いをして、年間約 45 万枚発行する住民票などの証明書に使用する改ざん防止用紙に、小平市がブルーベリーの栽培発祥の地であること、小平市には FC 東京の練習場があり小平市が FC 東京を応援していることをアピールするために小平市のマスコットキャラクター「ぶるべー」と FC 東京のマスコットキャラクター「東京ドロンプ」のイラストを入れる。



●STEP3 「ジャーナリスト楽校 in こだいら講座開催」（平成 25 年 1 月）

STEP1 での活動がきっかけとなり、地域からの情報発信について、地域の学生、小平市民、小平市市職員の有志で学び実践する地域団体「ジャーナリスト楽校 in こだいら」に運営委員として参加。

嘉悦大学で地域からの情報発信について学ぶ連続講座の開催に携わる。



■取組を進める過程で生じた課題

- ・地域の魅力ある資源について自分自身が知らなかった。
- ・所属課の業務以外にも幅広い知識・経験が必要だということ。
- ・効果のある情報発信の方法についてわかっていなかった。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

- ・先輩職員に相談をし、アドバイスをいただいた。
- ・つながりのある人につなげてもらうなど周りの方に助けていただいた。
- ・わからないことが多かったが、何でもやってみようという思いで行動した。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・地域活性化や地域づくりについて基礎を学びたかった。
- ・地域づくりに関わって行く姿勢について学びたかった。

■受講後の取組、今後の方向性

●フォローアップ研修でのプレゼン（取組）

- ・地域づくり人育成講座で地域づくりとは、『地域の資源を再認識し、様々なレベルのつながりのなかで、資源を生かした仕掛けが生まれ、地域を活性化すること』だと学び、小平市内にある大学が地域の資源だと考えるようになった。
- ・富永先生、松原先生、神山さん（小平市職員）が中心となり、人財塾の後も継続して互学互習していける場を作ろうと立ち上げた、「全国地域づくり人財塾・東日本支部フォローアップ研修（年4回開催）」に参加。
- ・大学を活かした地域づくりをしたいとプレゼンを行い、先生や参加者からは「大学生のネットワークは作るのではなく、すでにあるので行動してつながること」「大学生は忙しい」「地域づくりにはキャッチコピーが必要」などといった自分自身では考える事ができなかった貴重なフィードバックをいただいた。
- ・フォローアップ研修は、自分が行き詰ったときなどに先生をはじめ、他の自治体職員、NPO職員、学生など地域づくりに携わっている方の意見やアドバイスをいただくことができる場になっている。また、毎回すばらしい事例発表を聞くことで視野が広がり、刺激をもらうことができている。平成27年10月の小平市開催の研修では、司会をさせていただき成長の場となっている。



●庁内の職員提案制度に応募

フォローアップ研修のプレゼンでいただいたフィードバックなどを基に、庁内で行われる職員提案制度（採用されると実現。）に応募。

結果は、不採用だったものの、地域づくり人育成講座に参加し、フォローアップ研修のプレゼンで経験を積んだ結果、自分で施策の提案をすることができるようになったことを実感。

●「僕らの出会ったコダイライフ」の制作発表会

小平市にある嘉悦大学と文化学園大学の学生が、こだいらの魅力ある活動や人に焦点をあて取材した内容をポスターにした取組の発表会に参加。学生も、地域の方もいきいきとしていて、今後も盛り上がっていくことを実感。

●現在の地域活動

現在も地域担当の部署ではないが、業務外の活動で地域に関わっている。

・FM 西東京ラジオ「こだいら MIX」

ジャーナリスト楽校 in こだいらの活動で、FM 西東京のラジオ番組「こだいら MIX」のレポーターとして平成 25 年 8 月から地域の魅力について市民・大学生とレポートを行っている。

取材先は小平市内で、市民農園、ブルーベリー栽培農家、よさこいチーム、合唱団、お菓子の直売所、体操教室など様々なところをレポートしている。この取材をとおして、こだいらの魅力について理解が深まって行くと同時に、取材先の方とのつながりもできてきている。

今後なにが生まれてくるのかが楽しみである。



●自主的な研修への参加

地域づくり人育成講座受講によって『経営の視点』が重要だと学んだので公共 MBA 初級認定講座を受講した。

●タマガワ・リーグ第 1 回（キックオフ） 大会


東京・多摩地域の自治体職員を中心にオフサイトミーティング（OM）を通してつながりをつくる多摩まちづくり OM「タマガワ・リーグ」の立ち上げに実行委員として参加する。

多摩地域という広域でのつながりが今までなかったこと、また今後広域連携が重要になってくるという思いから生まれたネットワークが始動したので、広域的視点での地域づくりについても関わって行きたい。



大阪府門真市 防災のまちづくり～ 地域づくりへむけた NPO の取組

NPO 法人あいまち門真ステーション理事長 東田正 (H25.1 JIAM、H27.9 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口 12.6 万人 (2015 年 11 月 30 日現在)、面積 12.3 km² 大阪市の北東部に位置する一部の農村風景が残るベッドタウン パナソニックグループの城下町であったが、空洞化し人口急減 		
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	<ul style="list-style-type: none"> 地域通貨『蓮』の発行管理と、門真市市民公益活動支援センターの指定管理を受託する NPO 法人理事長を務める。 門真市出身、定年を機に地域貢献したい思いから現職に。 	
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 門真市の「地域づくり」の先兵となる地域として位置付けている。 「なんでもみんなの力でできる人財の育成」を目標に一人ひとりが主役になるローテーション社会の実現を目指している。 		
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> 30 年以上かけて地域で培ってきたコミュニティを次世代 (40 歳～50 歳代) に引き継ぐ仕組みづくり 若年層に向けた地域づくり、コミュニティの魅力づくりが課題 		
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の共通したテーマである「防災のまちづくり」をきっかけに、地域づくりの担い手となる人財の育成を狙いとした。 		
	開始年月	事柄	概要
	H25.1 月	JIAM 地域づくり人材育成塾に参加	NPO 法人として中間支援活動、公民協働活動を通して、「地域づくり」を様々に試行する中で、現実とのギャップを感じ、継続研修に参加し知識の習得、外部人脈の拡大を目指した。
	H26.2 月	HUG (避難所運営訓練) に取り組む	門真市市民講座の運営を通して域学連携大学との繋がりができ、地域づくりの手法としての HUG を知り、五月田校区での実施を試みた。
H26.5 月	地域課題解決会議の開催	門真市五月田小学校区には「五月田フォーラム」という地域会議が昭和の時代から継続されており避難所運営訓練に参加した 100 名あまりの住民により、地域課題解決会議を結成した。	
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの担い手になる次世代の人財探索、リーダーを育て、継続できる仕組みを構築したい。 		
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 知識を深め、広い視野を持てるようになった。 多様な世代の方々との出会い、交流。 国の政策の方向性を理解し、地域づくり推進の指針になった。 		
受講後の 取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの取組を先導的に推進、取り組んだ地域リーダーが自信を持つ。 		
	年月	事柄	概要
H27.2 月	第 10 回関西元気地域づくり発表会で報告	五月田フォーラムの反省会を踏まえて、校区自治連合会理事が「関西元気地域づくり発表会」において取組を発表した。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 人生の転機、定年退職を機に、地域貢献を目指し NPO 法人を設立（平成 22 年 4 月～）

- ・門真市立市民公益活動支援センターの指定管理を受託する NPO 法人あいまち門真ステーションの設立に参加。平成 25 年 4 月から法人理事長に就任。当法人は、大都市周辺の都市同様に、市域からの購買力の流出に苦しんでおり、地域経済の活性化とボランティア活動の醸成を目的とした地域通貨『蓮』の発行管理も行った。
- ・地域通貨『蓮』は 5 年間で累計発行高 1 億円を達成することができ一定の成果があったが、もう一方の目的である市民ボランティア活動の醸成はなかなか浸透しないという課題を抱えていた。
- ・また、市民公益活動支援センターとしての活動では、中間支援機関として公民協働、公益活動の推進も大きな役割であるが、地域による住民意識の濃淡があり、現実の門真市の地域課題探しを本格化させた。



かどま地域通貨「蓮」

●STEP2 五月田校区を先導的モデル地区に（平成 26 年 2 月～）

- ・門真市五月田小学校区は、旧村地域に新住民が混在した地域だが、住民が話し合いで自ら創り上げた自治組織（地域会議）「五月田フォーラム」が特徴となっている。
- ・このような地域力のある校区で「自助、共助、近助」の地域づくりを試行することによって、門真市全体の先導的モデルとなるべく「防災のまちづくり」に取り組んだ。
- ・具体的には、域学連携で知り合った摂南大学の先生の協力を仰ぎ避難所運営訓練（HUG）を「五月田フォーラム」が主催し行った。子どもからお年寄りまで世代を超えて 100 名の参加があった。



避難所運営ゲーム（HUG）

●STEP3 もう一度大切を見直そう みんなで守れる地域社会の仕組みづくりへ（平成 26 年 5 月～）

- ・門真市も少子化、高齢化の進展は著しく、特に昼間生活では超高齢化社会となっている。災害時には子どもや高齢者は自らを守り、また近助、協力の力で地域を守る体制を構築しなければならない。防災という皆に共通するテーマで実施することで、地域住民の交流、一体感の醸成、地域行事などを通してもう一度地域社会を再構築するきっかけになった。
- ・行政に依存するだけでなく、自らできることから一歩ずつ、継続することが肝要と考えている。このような活動を通して地域人材の発掘と育成に取り組んでいく。



内閣府 SIP 調査の報告会

■取組を進める過程で生じた課題

●住民の自主性を尊重して、あるべき「地域づくり」や「公民協働」を

- ・「地域づくり」や「公民協働」は、重要なキーワードになっている。
- ・しかしながら、議会で承認され市役所で決めたとおりにやって欲しいなど、上意下達式の対応が少なくなかった。
- ・行政の部門間の縦割り意識が強く、中間支援組織としての NPO 法人が部門間の調整をすることもあった。
- ・行政には、市民とともに課題を共有し、解決に向けて、住民の自発性を尊重しながら、その力を活かして共に取り組むという「地域づくり」や「公民協働」の本来のあり方を目指してもらいたい。

●住民同士の信頼関係の醸成の難しさ

- ・また、今までの地域の成り立ちや形成過程の中で、「地域づくり」に対する住民の意識に温度差が大きく、何を始めるにしても話し合いや交流により個人的な信頼関係を構築することが大きなポイントになる。
- ・地域キーマンとの信頼関係づくりをどのように醸成して行くのかが、今後も大きな課題となっている。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●行政を巻き込まない、蓄積されたノウハウを保有する研究集団と連携

- ・あえて行政を巻き込まないで様々な自律的取組を行った。
- ・域学連携の大学や研究機関では、蓄積されたノウハウも豊富で、幅広い視点からのアドバイスをすることもできる。彼らは率直な意見交換や市民との対話も惜しまない姿勢が市民からも共感を得ている。大学の先生や学生さんとの共同作業や交流の中で市民は清新さを感じている。
- ・また、大学を巻き込んだ避難所運営訓練（HUG）の取組は、大学にとっても身近に研究フィールドがあり、課題があり、フットワークもよく、地域の中での大学の位置づけが明確になったように思う。



摂南大学研修会指導風景

取組の成果と課題

- ・門真市市民講座の開催から3か月後に五月田校区フォーラムで避難所運営訓練（HUG）を実施、世代を超えた住民100人が参加。域学連携の大学の協力指導もあり、住民の防災意識が向上した。
 - ①平成26年5月、五月田小学校区において避難所運営訓練（HUG）を実施
 - ②平成26年7月、参加者へのHUGアンケートにより反省会を開催
 - ③平成27年5月、前回の活動を契機に内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の実施について摂南大学 理工学部建築学科 建築防災研究室から相談があった。

- ・ちなみに、この研究は、避難所・病院・自治体・薬局をつなぐ医療防災ネットワークの開発を行うもので、被災者が災害直後から情報を発信し、情報を受け取った市町村や都道府県が、その情報をシームレスに被災地外の支援者に伝達していく仕組みについて研究開発する取組。7月に市民への説明会を実施し、この研究を受け入れ、教員・学生が約40日かけて、五月田校区の実態調査を行った。

④平成27年12月、教員・学生の調査結果を基に、市民との議論も交えたSIP調査の報告会を開催。

⑤平成27年に五月田小学校区、二島小学校区（いずれも第七中学校区）において、市役所から「地域会議」発足の話が持ち上がったが、市役所指導型よりも、時間を掛けて持続可能な住民主導型で組織化を選択し事業を進めている。

- ・具体的には、二島小学校区自治会長を中心にHUG模擬練習を行い、平成28年度には市民体験を開催。平成29年度には第七中学校区を対象とした「広域防災訓練」を予定している。
- ・主導的なモデル地区として五月田小学校区で始めた「防災のまちづくり」の取組は、現場では行政サイドとのコンフリクトもあったが、人財塾で学んだ人脈づくりや、プロジェクトの進め方などを学んだ。
- ・また域学連携大学の指導協力もあり、ようやく端緒についたところと考えている。
- ・今後の課題としては、私たちの取組を広く告知し、他の地域においても住民主導の「防災のまちづくり」、それをきっかけにした地域社会の再生につなげたい。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・「何が課題や問題か」と、話はしているけれども処方箋が考えつかずに、現状分析に入る。無知の老害を排除すべく関連研修に積極的に参加した。
- ・民間企業と公務員との思考回路の違いや判断基準の違いを知り得ようと努力している途上である。行政職人間の研修、人づくりと市民人とのバランスのとれた人間づくりも今後の課題と期待している。

■受講後の取組、今後の方向性

- ・受講生・教授先生へのご負担をお掛けしたと痛感している。どの講義・講座でも最年長者で、みなさんにお気づかいをさせてしまった。ご配慮に感謝している。
- ・受講しての最大の財産は人脈。宝である。全国の行政職員や関連組織の若い人との交わりで大きな力を与えてもらった。メーリングリストで互いに連絡が出来たり交換した名刺で連絡したりしている。
- ・行政の場合、職場転属が多くあるが、後任者を紹介して繋いでいただいた事も多くあった。嬉しいことである。わからないことを尋ねる事は、恥ではなく仕事を成し遂げるためと思える事が実感である。
- ・研修の講座名は同じでも、中身が都度進化している事を感じており、是非何度でも参加して知識を深めたいと考えている。

山口県周南市 若者の地域参画推進の取組

公益財団法人周南市ふるさと振興財団 國兼裕司 (H25.9 JIAM、H26.2 ケーススタディ型 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口：147,538人(平成27年11月末現在)面積：656.29km²。 山口県の東南部に位置し、北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を臨み、その海岸線に沿って大規模工場が立地し、それに接して東西に比較的幅の狭い市街地が続いている。 														
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> 報告者は平成17年より市主催の各種イベント等の実行委員会に参加、後に青年団活動を経て、地元で地域一体型の若者グループ「長穂青年部」を設立した。 平成24年より地域振興及び地域コミュニティ支援を担当している。 													
	<p>活動地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山口県周南市。小学校区単位で組織される31地区のコミュニティが対象。 報告者は、周南市の中山間地域にある長穂地区にて活動。 													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区単位の31地区が、それぞれでまちづくり団体(コミュニティ推進組織)を組織し、特色ある地域づくり活動を行っている。 周南市では平成27年度に「第2次まちづくり総合計画」を策定し「無限の市民力と最大限の行政力を結集し周南の価値を高めるまちづくり」を基本理念として掲げ、「共に。」をテーマに共創のまちづくりを推進することとしている。 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ推進組織の高年齢化や次世代の育成が課題となっている。 若い世代の地域づくりへの参画推進が課題となっている。 														
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの課題である若い世代の地域参画、次世代の育成の支援を目的に、若者が楽しみながら活動できるための土壌づくりを目的として事業を行った。 <table border="1" data-bbox="343 1086 1444 1646"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.</td> <td>各地区コミュニティ推進組織の調査</td> <td>周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。</td> </tr> <tr> <td>H25.6月</td> <td>地域で活動している若者グループの調査</td> <td>各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。</td> </tr> <tr> <td>H25.</td> <td>若者グループが活動している地域や地域行事への訪問</td> <td>既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H24.	各地区コミュニティ推進組織の調査	周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。	H25.6月	地域で活動している若者グループの調査	各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。	H25.	若者グループが活動している地域や地域行事への訪問	既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。
年度	事柄	概要													
H24.	各地区コミュニティ推進組織の調査	周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。													
H25.6月	地域で活動している若者グループの調査	各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。													
H25.	若者グループが活動している地域や地域行事への訪問	既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国の地域づくり事例及び手法を、実践者から直接伺うこと。 地域づくり人財の育成の手法や、地域づくり支援のための手法を学ぶこと。 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くの仲間に出会うことができ、SNSなどで常に刺激を受けている。人財塾で出会った仲間の存在が、情報の広がりやモチベーションの向上に繋がっている。 														
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1870 1444 2027"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.5月</td> <td>「地域で活躍する若者の交流会」の実施</td> <td>それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H26.5月	「地域で活躍する若者の交流会」の実施	それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。						
年度	事柄	概要													
H26.5月	「地域で活躍する若者の交流会」の実施	それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。													

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●支援者としてではなく、実践者として、同じ目線で

自身が実践者であり支援者でもあるという立場を活かし、お互いの地域や活動の情報交換をしながら、話をして、きれいな部分だけではない、苦労や課題を聞き出して共有できる関係になることを特に意識した。

●若い世代の活躍をPRし、存在感を示す

「若者は地域に出でこない」「若い人がいない」という負の常識を打ち破るために、若い人も地域で活動しているということをとにかくアピールする機会を多く作った。

特に、市内のすべての地区が一堂に会し、地域紹介や活動発表を行う「周南市コミュニティ交流集会」で初めて、平均年齢30歳以下の部会を持つ長穂地区に事例発表をしてもらうことで、「若い人は地域活動をしなさい」という意識から、「若い人の発想は面白い」「若い人が活動している地域が羨ましい」「なんで自分たちの地域では、若い人が出でこないのか」という意識を持ってもらえるようにした。



長穂青年部の事例紹介の様子
(周南市コミュニティ交流集会にて)

■取組の成果

一番の成果としては、若い世代の地域間交流が活発化したこと。それまで、それぞれの地域で自分たちの地域の事だけ考えて活動していた若い世代の、地域を超えた繋がりを作れたことで、それぞれの地域のイベントや行事に行き来するなど、交流が増えたことは間違いなく、その後、出展協力やボランティア参加等の相互支援も行われている。これにより、他地区のイベントや行事に参加することで、そこで得たものを自分が暮らす地域にフィードバックできるなど、仲間同士、地域同士で切磋琢磨しあえる関係を築けている。

また、若者の地域参画を諦めていた、考えていなかった地域が、自分たちの地区での若者参画について考えるきっかけにもなったようで、相談に訪れる地域もあり、若者の地域参画や後継者育成について真剣に考え始めた地域は増えてきたように思う。



地域で活躍する若者の交流の場づくり



交流をきっかけに、世界一長い餅を作るイベントには、地区外の若者もスタッフとして参加

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・全国の地域づくり事例及び手法を、実践者から直接伺うこと。
- ・住民が自ら地域デザイナーとして、主体的に地域に関わり、考えていくための仕掛けづくりやコーディネートをするための手法などを学ぶこと。

■受講後の取組、今後の方向性

●出会いを大切に、積極的な仲間づくりを

人財塾では、様々な事例や手法が学べるのはもちろんだが、何より、全国各地から集まってくる、全国の地域づくり人と一緒に学べるということで、仲間づくりの場としてもこれ以上ないものだと思う。

最近は SNS などにより、受講後も積極的な交流・情報交換ができるだけでなく、全国の仲間の活躍が、取組の参考にもなり、自身のモチベーションの向上にも繋がる。受講後は、人財塾以外の講座などにも積極的に参加し、自分自身のスキルアップに努めるとともに、仲間づくりにも力を入れている。

●若い世代が活動しやすいように、必要とされる支援を

交流の場づくりは継続して行っているが、今後の課題は、そこから先の展開をどのように考えていくかということになる。この展開についても、各地区の若い世代から話を聞き、それぞれが必要だと思う内容で、支援の方法を考えていく。こちらが考えたものだけでなく、みんなの意見を反映させた、押し付けではない、必要とされる支援を行っていく。

実際に、「みんなで若い世代が活躍している先進地の取組が勉強できたらいい」という意見が出た際には、県内の先進地への研修事業を企画し、意見交換や情報交換を行ったが、とても好評だった。

今後は、市内のそれぞれが活動する地域での事例を学ぶ交流研修会の実施も計画しており、同じ目的を持った仲間同士で学ぶ場づくりを積極的に行っていきたい。



全国地域づくり人財塾
西日本フォローアップ研修 in 周南の開催




若者の地域参画交流研修事業
(山口県周防大島町にて開催)



“地域で活躍する若者交流会”では毎回積極的な意見交換が行われる

愛媛県 資源の橋渡しを通じた公益活動の活性化

NPO 法人えひめリソースセンター 安永依里子 (H25.9 JIAM、H26.2 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口 138 万人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 5,676.1 km² 東予：2 次産業、中予：3 次産業、南予：1 次産業 松山市以外の市町では人口が減少傾向にある。 											
活動主体と 活動地区	報告者の活動経歴	<ul style="list-style-type: none"> 2013 年 9 月の法人設立時から活動開始。 プライベートでは 2009 年より東京で対話の場づくりに参画し、その後設立された NPO 法人ミラツクとのかかわりも継続中。 										
地域づくりの状況	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県内では、「えひめ地域政策研究センター」が実施する「地域づくり人養成講座」などの地域づくり人材育成事業が 10 年以上継続している。 											
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人の社会的な信頼度の低さ NPO の資源調達、資金調達力 											
これまでの取組 (受講前の取組)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">開始年月</th> <th style="width: 35%;">事柄</th> <th style="width: 50%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.9 月</td> <td>クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出</td> <td>えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。</td> </tr> <tr> <td>H25.9 月</td> <td>県内 NPO の取材</td> <td>県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H25.9 月	クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出	えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。	H25.9 月	県内 NPO の取材	県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。
開始年月	事柄	概要										
H25.9 月	クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出	えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。										
H25.9 月	県内 NPO の取材	県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。										
人財塾の受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 全国の仲間づくり、ネットワークづくり 全国の自治体の取組や NPO との協働に関する事例や関わる人の意識を知りたいと思ったから。 											
人財塾で学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 全国の自治体職員の方のお話を聞くことができ、行政の仕組みやルール、考え方を知ることができた。行政との協働を進めるにあたり、じっくりといろいろな話ができるのはとても学びが多かった。 											
受講後の取組	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年月</th> <th style="width: 35%;">事柄</th> <th style="width: 50%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.4 月</td> <td>協働環境調査報告会の開催</td> <td>NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。</td> </tr> <tr> <td>H27.9 月から</td> <td>多様なセクターとの勉強会開催</td> <td>NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H26.4 月	協働環境調査報告会の開催	NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。	H27.9 月から	多様なセクターとの勉強会開催	NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。
年月	事柄	概要										
H26.4 月	協働環境調査報告会の開催	NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。										
H27.9 月から	多様なセクターとの勉強会開催	NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。										

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」とクラウドファンディングサイト「えひめSEED」運営開始（平成25年9月～）

法人立ち上げと同時に、クラウドファンディングサイトオープンした。

平成23年から準備をしており、構想はできていたが、継続的に運営するための仕組みや細かな方法が確立されておらず、手探りな状態で運営した。

また、スタッフは全員設立後に採用しており、必ずしも県内のNPOとのつながりが多くはなかった。このため、まずは県内のNPOをまわり、情報収集から始めた。



●STEP2 定期的な開催を目指して

（平成26年2月）

「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」を開催する中で、「プレゼンテーションをしてみたいけれどまとまっていない」、「アイデアを人に説明できるようにするのが苦手」といった声を聞くようになった。

そこで、アイデアを形にするための「Ideas Design WorksShop」というワークショップを実施し、フレームワークを使ってアイデアを参加者同士でブラッシュアップしてもらった。最初のワークショップで、9名の参加者がアイデアを見える化していった。



SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～

クラウドファンディングサイト
「えひめSEED」

愛媛を豊かにするアイデア（プロジェクト）をプレゼンテーションし、応援したい人の資源（リソース）を募集する応援サイト。資源（リソース）は志金だけではなく、アイデア実行に必要な人脈、モノ、場所、知識、参画なども含まれている。

●STEP3 次に続く場のために（平成26年7月～平成27年3月）

平成26年からは、「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の場をプレゼンターが発表するだけでなく、その前後にワークショップを組み合わせ、さらなる広がりを持たせた。

その第1回は、過去のプレゼンターが集合し、プロジェクトの進捗や現在の課題などを共有し、プロジェクトを一步進めた仲間同士で、今抱えている課題解決につながる対話の場を設けた。

その次の回は、まつやま NPO サポートセンターと協力し、他県の実践事例を学ぶセミナーのあとに SeeD を開催した。特に第 2 回は、プレゼンテーション終了後に第 2 部を設け、今アイデアのタネを持っている人たちの話を聞き、どうやって次の一步を踏み出すかを検討する時間を作った。アイデアを持っている人同士、分野は違っても同じ課題を抱えていたり、違った視点からのアイデアをお互いに聞くことで、アイデアを具体化することができた。



SeeD～過去のプレゼンターとの意見交換～

■取組を進める過程で生じた課題

- ・プロジェクトの発掘やワークショップのデザインに時間がかかり、少ない人数で年間何度も開催することが難しかった。
- ・似たようなイベントが増え、差別化が難しくなった。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●私たち自身も協働の環を広げる

市町の NPO サポートセンターが開催している、関連性のあるイベント等と協働し、学習から実践までのプロセスを一緒につくれるようにした。

企画や発想法、事業計画の作成方法を学ぶ機会があっても、1 人や団体内だけではなかなか広がらない場合も多い。他者に意見をもらう機会を多く作ることでプロジェクトの内容が深まっていくと考え、プレゼンターのアイデアをより多くの人に聞いてもらうことと、アイデアを持っている人がそのアイデアを発信する機会を増やせるようにした。

■成果

毎回 3 件～4 件のプロジェクトが発表された。



アイデアを形にするための「Ideas Design Workshop」

参加者同士でアイデアをブラッシュアップするだけでなく、過去のプレゼンターやアイデアを温めている人の参加、関連イベントの協働を加えたことにより、様々なアイデアの具現化が加速していった。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・受講前、取組に感じていた課題は、地域の活動におけるセクター間の考え方の違い。地域活動への共感を広げるための方法。
- ・人財塾で学びたいことは、ほかの地域では、セクター間の立場や考え方の違いをどのように乗り越え、協働しているのか。

■受講後の取組、今後の方向性

●協働環境調査報告会の実施


受講により、セクター間の相互理解を深めるためには、お互いが現状を把握し、知る機会を継続して作る必要があると感じたことから、「社会事業家のマネジメント支援」、「ビジネスと市民生活を通じた環境問題・社会的課題の解決」、「2020年の地球への行動計画立案」に取り組むNPO法人IIHOEが実施する『NPOとの「協働環境調査」』報告会を開催し、協働環境の課題や現状について学ぶとともに、「協働力パワーアップセミナー」も併せて開催し、協働を一步進めるためのきっかけづくりのワークショップを行った。

●多様なセクターとの勉強会の実施

NPOと行政の相互理解とあわせて、企業に対するNPOへの理解を深めることも必要だと感じ、地元金融機関を中心に企業と一緒に地域課題やその取組に関する勉強会を開催している。

千葉県山武市 地域づくりの場としての図書館をめざして～人がツナガル図書館へ

山武市さんぶの森図書館 豊山希巳江 (H25.10 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口：54,139人（平成28年1月1日現在）、面積：146.77km² 平成18年3月27日に成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の3町1村が合併して誕生。日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で約8キロメートルにわたって太平洋に面している。 人口は緩やかに減少し続ける一方、高齢化率は増加している。 														
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<p>山武市さんぶの森図書館司書。「ツナガル。」をモットーに、人と人、人と本をつなぐ場としての図書館運営をめざし、地域の人と手をつなぎ、事業を行っている。</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画基本理念：「ともに手を携えて誇りを持てるまちづくり」、将来都市像：「誰もがしがあわせを実感できる独立都市さんむ」 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設の有効な活用法 職員の前向きな気運の醸成 														
<p>これまでの 取組 (受講前 の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務を超えた部分での人脈づくり、連携 <table border="1" data-bbox="341 954 1445 1361"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.4月</td> <td>山武市職員による合唱団「ミードルズ」</td> <td>職員で結成した合唱団。成人式で披露する。若者へのエールというだけではなく、市長から新人までが心をつなげるきっかけの取組。</td> </tr> <tr> <td>H24.4月</td> <td>有志での勉強会「オフサイトミーティング」</td> <td>業務後に有志で集まり、山武市の課題について語り、学ぶ会に参加。山武市のいいところを掘り出し、伝えていくことを目的としている。</td> </tr> <tr> <td>H25.8月</td> <td>図書館イベント「夜の図書館たんけん」</td> <td>図書館だけではなく、地域のボランティアスタッフと協働で閉館後にイベントを実施。あるものを活かして企画することを意識した。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H24.4月	山武市職員による合唱団「ミードルズ」	職員で結成した合唱団。成人式で披露する。若者へのエールというだけではなく、市長から新人までが心をつなげるきっかけの取組。	H24.4月	有志での勉強会「オフサイトミーティング」	業務後に有志で集まり、山武市の課題について語り、学ぶ会に参加。山武市のいいところを掘り出し、伝えていくことを目的としている。	H25.8月	図書館イベント「夜の図書館たんけん」	図書館だけではなく、地域のボランティアスタッフと協働で閉館後にイベントを実施。あるものを活かして企画することを意識した。
開始年月	事柄	概要													
H24.4月	山武市職員による合唱団「ミードルズ」	職員で結成した合唱団。成人式で披露する。若者へのエールというだけではなく、市長から新人までが心をつなげるきっかけの取組。													
H24.4月	有志での勉強会「オフサイトミーティング」	業務後に有志で集まり、山武市の課題について語り、学ぶ会に参加。山武市のいいところを掘り出し、伝えていくことを目的としている。													
H25.8月	図書館イベント「夜の図書館たんけん」	図書館だけではなく、地域のボランティアスタッフと協働で閉館後にイベントを実施。あるものを活かして企画することを意識した。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設でできる街づくりへの貢献 行政課題の認識と支援 情報発信 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 心境の変化：ないものねだりをするのではなく、「今あるもの」を最大限活用する大切さを痛感した。 業務の変化：出先機関でできることは限られているが、市役所との連携、地域住民との連携を持つことで、魅力化することができる可能性を感じる事ができた。 														
<p>受講後の 取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 固定概念を捨て、市民に役立つ図書館づくりのために何ができるかを考えるように。 <table border="1" data-bbox="341 1700 1445 2033"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.12月</td> <td>市民有志とのコラボ企画開催</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「ライぶらりカフェ」開催 ぶらり訪れたくなるような図書館をめざし、図書館の場を活かす。また図書館を応援してくれる市民とコラボし、新しい視点での事業を展開する。 「ボックスアート作品展」開催 地域のアーティストによる芸術作品を図書館に展示することで、彼らの作品を紹介するとともに、地域の宝の一つであることを周知する。 </td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H26.12月	市民有志とのコラボ企画開催	<ul style="list-style-type: none"> 「ライぶらりカフェ」開催 ぶらり訪れたくなるような図書館をめざし、図書館の場を活かす。また図書館を応援してくれる市民とコラボし、新しい視点での事業を展開する。 「ボックスアート作品展」開催 地域のアーティストによる芸術作品を図書館に展示することで、彼らの作品を紹介するとともに、地域の宝の一つであることを周知する。 						
年月	事柄	概要													
H26.12月	市民有志とのコラボ企画開催	<ul style="list-style-type: none"> 「ライぶらりカフェ」開催 ぶらり訪れたくなるような図書館をめざし、図書館の場を活かす。また図書館を応援してくれる市民とコラボし、新しい視点での事業を展開する。 「ボックスアート作品展」開催 地域のアーティストによる芸術作品を図書館に展示することで、彼らの作品を紹介するとともに、地域の宝の一つであることを周知する。 													

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 山武市職員による合唱団「ミードルズ」（平成24年4月～）

今まで図書館の業務に関しては前向きに取り組んでいたが、行政目線や市民目線について、意識しないでできてしまった。

そんな時にすでに結成されていたミードルズのメンバーから誘われて入団。月2回業務後に集まり、新人職員から市長までが心一つにして課題曲を共に練習する。発表の場は成人式。晴れ姿の成人を前に人生の先輩から彼らへのエールを伝え、また、この市に生まれたことを誇りに思ってもらえるように努力している。



ミードルズ

●STEP2 有志での勉強会「オフサイトミーティング」（平成24年4月～）

ミードルズがきっかけとなり、有志での勉強会に誘われ、参加するように。山武市の若手職員を中心に、どうしたら山武市が魅力的な市になっていくかを大きな目標に、また世代を超えた語り合いの場づくりを小さな目標に活動。山武市にあるいいところに注目し、紹介していく。情報発信が課題。



オフサイトミーティング

●STEP3 図書館イベント「夜の図書館たんけん」（平成25年8月～）

森を切りひらいて作られた公園の中にある図書館に異動したことがきっかけ。集客や貸し出しが減っていたため、市民に利用してもらえるような企画が必要だった。これは夏休み中に親子で楽しめる企画として、閉館後に図書館から森の公園の探検をしてもらおうというもの。読み聞かせボランティアの協力があり実施した。15組の募集で、80人を超える参加があった。



夜の図書館たんけん

■取組を進める過程で生じた課題

- ・グループ化、固定化した付き合い
- ・継続していくこと
- ・人財の発掘、声かけ
- ・モチベーションの維持

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●コミュニケーション

目的の大小にかかわらず、キーとなるのは「人」。こちらの思いを伝えるだけではなく、相手の意思を尊重し、傾聴を心がける。人と人の化学合成で思わぬアイデアや突破力が生まれることもある。また、出会いを大切に人脈を広げることで、横の連携が広がって地域の雰囲気盛り上げる。

コミュニケーションはやみくもにとればいいというものではない。相手の置かれている状況や心境を押し量りながら進める必要があるため、日々の勉強も必要となる。

●モチベーション

どうしてもルーチンワークに忙殺されてしまいがちで、何かをやる時には盛り上がりながらも、継続することが難しい。どうしてやろうと思ったのかを話す場づくり、雰囲気づくりをする必要がある。

■成果

ミードルズによって、課をまたいだ話ができるようになってきている。練習の時に顔を合わせている気楽さから、案件が持ち上がった際もスムーズに話ができる状況は風通しもよく、前向きな意見が交わされるようになってきている。

オフサイトミーティングは、継続する、という点で依然課題を抱えている。今後の働きかけを続けていく。

「夜の図書館たんけん」は、広がりを見せている。最初 10 名だったボランティアも、ボランティアがボランティアを呼び、次の年は 20 人、また次は 30 人と、十分な人数が集まり活動してもらえるようになってきている。それに伴い、参加者も 86 名から 116 名、148 名と増加している。これにより、普段来館しなかった市民が興味を持ち利用してもらおう流れが生まれている。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・市ぐるみの人脈づくり
- ・「あってよかった」と思われる施設運営

■受講後の取組、今後の方向性

●市民が興味を持ち「知りたい」「学びたい」から「参加したい」を応援できる図書館へ

平成 25 年 4 月に異動後、図書館の場を使って、本だけではなく人と出会うことで感じられるやりがい、生きがいを応援したいと考えてきた。その年の 10 月に地域づくり人財塾で学んだことで、本の貸し借りだけの図書館ではなく、人と本、人と人のつながりが感じられる場としての図書館が作れないだろうかという思いが一層強くなった。たくさんの先進事例を紹介していただき、熱い思いを語り伝えてくださった講師のお話を伺っていると、私にもなにか一歩が踏み出せるのではないかと背中を押してもらえたように思う。そういったところから「ライぶらりカフェ」や「ボックスアート作品展」などの

企画が生まれている。

市民が図書館とコラボして限定カフェを開店し、ワークショップを行う「ライぶらりカフェ」は、地元のコーヒー屋さんを中心に集まり、どうしたら図書館にぶらりと立ち寄ってもらえるかを考え、毎回趣向を凝らしている。とうとうゆるキャラまで誕生した。図書貸し出し用のマイバッグを販売し、そのゆるキャラを使ったスタンプを貯めることができる、という仕組みも生まれた。

地元のアーティストたちの作品が図書館の本と融合して展示されている「ボックスアート作品展」は、市民からの持ち込みの企画が実現したもの。市内には美術館がなく、またギャラリーがほとんどないため、アーティストたちは自分の作品を見てもらえる場を探していた。図書館では彼らの作品に光をあて、その独創性を広く知ってもらいたいという思いで実施している。

今後も常に学ぶ気持ちを忘れずに、人と人が生み出す大きな力を大切にしながら、地域づくりのお手伝いをできるように活動を継続していこうと思っている。



ライぶらりカフェ



ボックスアート作品展



オリジナルマイバッグ

岐阜県養老町 ヨロストの若返りと活性化を目指した町おこし

特定非営利活動法人ヨロスト代表理事 竹内 蘭 (H25.3 JAMP、H26.2 ケーススタディ型 受講)



市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口：31,428人（平成26年1月末日現在）。面積：72.29km²。 元正女帝が町の「養老の滝」に行幸した際、元号を養老に改元したことが町名の由来。平成29年が養老改元1300年にあたる。 	
活動主体と 活動地区	報告者の活動経歴	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人ヨロストは、岐阜県養老町の若返りと活性化を目指す町おこし団体。平成27年9月にNPO法人化。 報告者は、養老町出身で、個人事業を営む傍ら、町のシンボルである瓢箪を使った創作活動や、地域づくりイベントを企画・運営。 また、Ustream 番組のMCをしていたことから、養老町の町おこし Ustream 番組を製作するグループ「ヨロスト」を平成24年5月に町内若手有志と設立。
	活動地区	岐阜県養老町
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 養老町は、平成25年9月、平成29年を目標年次とした新しいまちづくり「養老改元1300年プロジェクト」の指針となる「新生養老まちづくり構想」を策定。 構想実現に向け、住民協働を積極的に図るとし、平成26年、「地域自治町民会議と養老町との協働に関する条例」を制定。 	
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> 町おこし、まちづくりに対する住民気運の醸成。 住民と行政、NPO、各種団体、企業の協働の関係づくり。 若い世代の町おこし活動への参画。 	
これまでの 取組(受講前 の取組)	・「ヨロスト」の活動目的である、養老町の若返りと活性化を目指して、主として、次の活動をこれまで行ってきた。	
	年度	事柄
	H24.5月	町おこしインターネット番組「ヨロスト」の配信グループの設立
	H25.9月	町おこし番組の配信と法人化
H25.9月～	本格的な協働	概要 養老町のための町おこしの Ustream 番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足。 NPO 法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を構築。 法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人化後の活動 実践的な活動を知りたい 	
人財塾で 学んだこと 効果	・今も受講で聞いた話が大変役に立っている。「これはあの先生が言っていたことなのか」など受講内容を振り返ることで、冷静に考えることができたり、バランスのとれた行動が可能となっている。	
受講後の 取組	年度	事柄
	H27.4月	新しい人財創出、新しい企画を実施中。
	概要	・高校生番組「High School Yeah!」、アニメやゲーム音楽等の若者文化配信番組「ぼぷすて」を追加。NPO 法人ヨロストはサポート役へ。 ・高校生朝市の開催。

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 町おこしインターネット番組「ヨロスト」配信グループの設立（H24年5月）

報告者は、養老町生まれ養老町育ち。大学進学で東京に暮らす、卒業後にUターン。平成16年にオリーブオイル輸入会社を起業する傍ら、町のシンボルでもある瓢箪を使った創作活動も行う。

Ustream番組のMCをしていたきっかけで、養老町のための町おこしのUstream番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足した。



ひょうたん工房



ひょうたん絵付け教室



養老町の街コン「ヨロコン」

●STEP2 町おこし番組の配信と法人化（H25年9月）

「養老町の若返りと活性化を目指す」という観点でUstream番組を製作し配信する。トーク番組が中心であるが、機材やネタなどは全て「ヨロスト」メンバーの手弁当。また、番組には、ニュースコーナー、クイズコーナー、チャレンジコーナー、ゲストコーナーなどを設け、視聴者様に飽きられない番組づくりを行った。また、「ヨロスト」には元テレビ番組制作会社に勤めていた養老町民が所属しているため、町内のイベントのロケ『お出掛けカメラ「ヨロカメ」コーナー』も放送している。

平成26年5月末日現在で定期配信は102回、合計視聴数は19,000名を越え、地元CATVや新聞社からの取材も受けるなど、少しずつ番組の知名度も広がった。また、平成25年9月、町の提案でNPO法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を組み立てた。



●STEP3 本格的な協働（H25年9月～）

法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。

なお、平成27年4月、空き店舗となっていた養老駅舎内の店舗スペースを常設スタジオとしてオープンした。このオープンにあたっては、クラウドファンディングで町外からの支援も募った。拠点ができただけで協働事業の推進にも弾みがつき、瓢箪研究で連携している大垣養老高校に一番組を担当してもらうなど、活動の幅が広がった。



養老駅舎内の常設スタジオ

■取組を進める過程で生じた課題

- ・信頼関係の構築
- ・リーダーに頼らないしくみ
- ・組織の新陳代謝
- ・「本当の一般市民」の意識改革と協働

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●一緒に行動することの大切さ

協働する相手との信頼関係づくりが一番大事であるが、これは1回や2回会っただけでは絶対できない。何かを一緒にやり、お互い不満も言う。丁寧な信頼関係づくりの繰り返しによって、やっとお互いの立場や考えが理解でき、いろいろなことがわかってくる。

関係づくりに時間がかかることを、ある意味、覚悟をして受け入れていくことが大事だし、そうありたいと思っている。



商工会青年部や行政若手職員とのワークショップ



婚活事業「ヨロ婚」実行スタッフ

●関わっていない人に知ってもらう

地域づくりでは、その人がいないと回らないという状況は絶対にしてはいけない。いかに次につなげていくかを考えたとき、より若い人、いままで関わっていない人に知ってもらうことを常に考え続ける必要があると思っている。私が瓢箪をかぶっているのも、単なる賑やかしのためだけが目的ではなく、知ってもらうという手段の一つである。

ある意味、NPO を立ち上げてみたり、各種団体に所属して一生懸命動いている人というのは、やはりちょっと特殊だったりする。しかし、町を構成しているのは、そのような活動をしていない、本当に普通の人たちの方が大多数だ。そのような人たちの心に自分たちの想いが届く、あるいは、入ってみようかなと思ってもらえるために、自分たちがその都度、どうあり続けるのかということ意識する必要があり、そのようにありたいと思っている。



ひょうたんマダム



食用ひょうたん苗の販売会

■取組の成果

養老町の街コン「ヨロコン」は、平成 27 年度から商工会青年部に引き継がれ、また、高校生番組「High School Yeah!」も始まった。

最近では、近隣市町村の商業系高校 3 校に声をかけて、ゴールデンウィークの 3～5 日の 3 日間、日替わりで、それぞれの高校が開発しているオリジナル商品や特産品を販売する「高校生朝市」を開催した。3 つの高校すべての商品が売り切れ、閑散としていた養老駅に大変な賑わいがあった。

それを見た利用客から「感動した」と連絡をもらった。少しずつ目に見えるような声があがってきている。

また、番組配信では、アニメやゲーム音楽などの若者文化配信番組「ぽぷすて」(Pop Station)がこの 4 月から始まるなど、いろいろな担い手が現れ、「ヨロスト」がサポート役に回る機会が増えつつある。

この二つを実感している。



養老駅からポップカルチャーをお伝える「ぽぷすて(Pop Station)」番組オリジナルキャラクターも完成



高校生番組「High School Yeah!」



「高校生朝市」開催

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・ NPO 法人化後の活動をどのようにすべきか。
- ・ 実践的な活動を知りたい。

■受講後の取組、今後の方向性

●4 つの課題のヒントを受けて、課題解決に向けての取組推進

私は任意団体から NPO 法人に変わるというタイミングで初級編を受講し、翌年度に、実践編として課題解決編ケーススタディ型を受講した。


そこでいろいろなことを学ぶことができた。

4 つの課題解決に向けた取組が今後の目標でもある。

やはり何かに取り組んで、それが形になるまでに時間がかかる。このため、地域の中で新しい動きが出てくるときは、すごく頼りなく見える。しかし、それこそが宝の種であって、そこに何ができるかを考え続けることと、小さな動きを見逃さないという気持ちが大事ではないかと思っている。

兵庫県三田市 地域ぐるみのまちづくり ～地域担当3年間の取組とこれから～

三田市農業振興課 青野 敬 (H26.6 JIAM、H27.2 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	人口：114,619人（H26.10月末）面積：210.32㎢。神戸から25km、大阪から35kmに位置し、大都市近郊のベッドタウンとして発展。昭和62年から10年連続日本一の人口増加率を記録。高齢化率19%。		
活動主体と 活動地区	報告者の活動経歴	地域担当制が導入された24年度に地域支援課担当課長に就任。現職に異動した27年度からは、一市民として市民活動に参加して地域づくりに取り組む。	
活動地区	フラワータウン地区。三田市南西部に位置する人口約2.3万人、面積337Haのニュータウン。兵庫県企業庁により開発され昭和62年まち開き。4住区で構成。		
地域づくり の状況	○第4次市総合計画目標「ともに考え、ともに支え合い、活気のあるまち」 ・地域担当制導入により地域が課題の解決方法や方向性を考えるための諸活動を支援 ・地域課題を地域で解決する主体となる組織について検討		
地域課題 または 問題意識	○地域力、市民力の向上（次々と新しい自発的活動が生まれる環境づくり）が課題 ・地域体制：地域団体の活動が縦割り ・補助制度：補助金に頼るあまり活動が固定化 ・住民意識：コミュニティの希薄化と義務的な活動		
これまでの 取組 (受講前 の取組)	・地域力、市民力の向上による協働のまちづくりを推進するため、次の環境整備を行う。		
	年度	事柄	概要
	H25～ H26	体制づくり 「まちづくり協議会」 の設立	さまざまな地域課題の解決をめざし、各種団体の枠を超えて地域ぐるみでまちづくりに取り組むネットワーク型組織の設立を地域に提案。
	H26.4月	制度づくり 「ふるさと地域交付金」の創設	特定目的や基準に基づく活動を対象とするのではなく、地域の裁量で用途決定できる資金支援の制度を創設。
H25.12月	意識づくり 「ハイブリッドパーソン交流会」の立上げ	まちづくり活動に対する「やる気と元気の出合いの場」として、志ある活動者などが集う交流会を立ち上げる。	
人財塾の 受講目的	・モチベーションの向上 ・好事例の習得 ・仲間づくり		
人財塾で 学んだこと 効果	・講師から学ぶことで地域担当として果たすべき役割について整理することができた。 ・課題解決編ケーススタディ型で出会った受講生の活動や想いに触発され、私もそのようになりたいという想いが強く生じた。 ・地域担当離任後は、業務としてではなくプライベートで地域活動に関与している。		
受講後の 取組	・人財塾で市民活動の楽しさや生き甲斐を学び、離任後も担当していたフラワータウン地区の市民活動にプロボノとして参加。人脈がより広がり仕事にも役立っている。		
	年度	事柄	概要
H27.4月	一住民、一スタッフとして市民サークル「フラワータウンカレッジ運営協議会」に参加	ジャンルを問わず豊富な経験や知識を持った地域住民を講師に招き、住民同士で教え学び合う講座を企画運営。知的交流を育む場を提供し、カレッジ発の地域イノベーションにつなげていくことを目的としている。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 体制づくり 「まちづくり協議会」の設立（H25～H26）

行政主導から住民主体型へ。「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、自治会をはじめとするさまざまな活動主体が相互に連携・協力し、地域ぐるみで地域課題の解決に取り組むネットワーク型の新たなコミュニティ組織を小学校区単位（フラワータウン地区は4校区）に設置。

地域担当は、所管する地区で地域が進める組織づくり、計画づくり、実践活動等について、次の3点を中心にきめ細かなサポートを行う。

- ①先進地域等に関する情報やデータの提供
- ②関係機関等に対する協議や調整
- ③組織運営や住民合意に関するアドバイス

●STEP2 制度づくり 「ふるさと地域交付金」の創設（H26年4月）

「ふるさと地域交付金」は、地域づくりに関する組織の立ち上げや地域課題を解決する活動を市が財政的に支援。交付金は、できる限り地域で使い道を決定できるように、裁量権を付与した制度設計とし、地域住民の自発的なアイデアや工夫による活動に活用されている。

新たな活動の計画づくり、子どもの見守りサポート、食を通じて交流を深めるまちカフェやランチサービスの運営、また、人と地域をつなぐ多世代交流イベントの開催など、多彩な活動が各地域で展開されている。

それぞれの地域を舞台として、健康福祉、防犯防災、環境美化、文化交流など身近な分野において、自治会や各種団体、住民がパートナーシップを築きながら、これまで個々の団体だけでは解決が出来なかった課題に取り組み、地域の願うまちづくりを進めている。



活動計画づくり



まちカフェ



ランチサービス



子育てサポート



交流イベント

●STEP3 意識づくり 「ハイブリッド パーソン交流会」の立上げ（H25年12月）

各地域では自主的な活動が活発化しているものの、隣接する地域の取組を知り得る機会があまりない。地域ごとの情報を交換しあい新規活動や活動改善に反映させていこうと、地域を越えて活動者が集う場を住民自ら立ち上げた。

交流会は、30～40人が自主的に集まり会食しながら和やかな雰囲気のもと、活動紹介や悩みを相談するなど互いにモチベーションを高め合う。とりわけ、出席者がまちづくりへの意気込みを語る3分間スピーチが面白い。交流会名称は、依頼により地域担当が名づけた。地域、団体、性別、年齢など異なる者同士が一緒に知恵を絞り、常に新たな取組にチャレンジして欲しいという願いが込められている。



三田市マスコット
“キッピー”

■取組を進める過程で生じた課題

●住民の自発性を損なう三つの要因

これまで本庁勤務においても地域と関わりや住民と接する機会があったものの、地域担当として現場（出先機関勤務）に飛び出すと、住民意識や活動状況がより肌身に感じ取れる。また、外から行政を見つめることで新たな発見にも出会える。地域課題として「地域体制」「補助制度」「住民意識」の三つを挙げるが、そもそも行政サイドに次のような問題があり、住民のやる気、熱意、自立性を損ねていることに気づく。行政の姿勢や関与の方法を変えないと、本当の意味での住民参画や協働は実現しない。

- ・地域体制：行政が縦割りのままでまちづくりを進めるから、地域活動も押しつけ合う。
- ・補助制度：行政が補助金の名のもと融通の利かない基準を課すから、地域活動が固定化する。
- ・住民意識：行政が地域の実情を把握せず統一的な成果を求めるから、地域活動が義務的になる。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●体制づくりの3つのキーワード「急がばまわれ」、「点と点を結ぶ」、「緩やかな競争心」

- ・「急がばまわれ」。行政主導で組織の設立を押し付けても次の行動につながらない。地域から「つくりたい」、「頑張りたい」、という声があがってくるまではじっと我慢。声があがってきた時は、地域住民はやる気満々であるため、組織づくりはスムーズに展開していく。
- ・「点と点を結ぶ」。設立の準備段階は、さまざまな話が飛び交い収拾がつかなくなる場面が多い。地域担当が点と点の話をうまく整理して道筋を立てると前向きで円滑な話し合いに結びつく。
- ・「緩やかな競争心」。各地域でさまざまな会合に出席して気づいた。住民は意外と隣町には負けたくないという意識を少なからず持っている。このため、他の地域の状況をこと細かく情報提供すると、ポジティブな競争心がくすぐられる。所管する地区では協議会の立ち上げが早かった。

●制度づくりの3つのキーワード「庁内でダメなら外でみつける」、「楽しければ集まる」、「まわりの評価は次につながる」

- ・「庁内でダメなら外でみつける」。新たな制度づくりに際して、庁内の合意形成は苦勞がつきもの。理解を示してくれた市議会議員にも協力をしてもらい、1年かけて制度設計と予算化までこぎつけた。
- ・「楽しければ集まる」。制度を導入して気づいた。地域裁量で用途決定できるため、計画に携わる住民は創意工夫のもと楽しみながら立案する。すると自然と人が集まり人材不足の解消にもつながった。
- ・「まわりの評価は次につながる」。制度を活用した協議会からの「本当に助かった」、「ありがとう」の声は、すぐに市長や市議会議員に届いた。この結果、翌年度の予算は、前年度の倍以上の額を確保することができ、制度の充実につながった。

三田市「ふるさと地域交付金」制度（26年度版）

区分	概要
目的	「ふるさと地域交付金」制度は、地域づくりに関する組織の立ち上げや地域課題を解決する活動を財政的に支援するもの。
交付対象団体	1. 概ね小学校区程度の区域を活動基盤とし、区・自治会を含む多様な団体等で構成されており、地域づくり全般にわたり自主的で主体的な活動を継続的に行う団体。 2. 1に該当する組織づくりをめざす団体。 ※交付対象は一地域一団体。
交付金を利用できる事業	地域の防災防犯・福祉の推進・交流・調査研究事業など、地域課題の解決を目的としたソフト事業。人件費や施設の改修等に要する経費は対象外。
交付額	交付対象団体1の場合は上限100万円、交付対象団体2の場合は上限50万円

●意識づくりの3つのキーワード「地域や組織の枠を超えて」、「つぶやき続ける」、「少数から多数派へ」

- ・「地域や組織の枠を超えて」。自発的活動が生まれる環境づくりには、地域団体や住民同士の相互理解、信頼関係、情報共有が重要。対話と共感により対立関係も回避される。多くの活動者が集まり、さまざまな考え方ややり方の多様性を認め合える場の提供が必要と感じた。
- ・「つぶやき続ける」。地域担当から参加を呼びかけると行政主導の会合となる。このため、私は各地域のキーマンの方と出会うたびに「こんな会をしたら面白いのに!」とつぶやき続けた。結果、地域担当の想いが2年越しで実り、住民自らの交流会立上げにつながった。
- ・「少数から多数派へ」地域づくりに積極的に参画する人はまだまだ少ない。仲間をどんどん増やし活動の輪をさらに広げていくためにも、この交流会が成長し続けてほしいと願っている。

■取組の成果

フラワータウン地区では、新たな活動が芽生えはじめ、地元新聞にも数多く紹介されるようになった。ある自治会長の呼びかけで設立された「まちづくり支援隊」は、定年退職後の世代を中心に120人のボランティアが登録。子どもの学習支援や植栽の手入れなどに取り組む。

他の地域では、団塊世代と地元大学生で「おやじ・おばちゃんバンド」を結成し、音楽をツールとした地域おこしを始めている。連日大賑わいの「まちカフェ」は他市から視察に来られるほどの人気ぶり。いま、地域・住民のパワーをひしひしと感じている。



まちづくり支援隊



おやじ・おばちゃんバンド

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・地域担当は地域とどのように関わるべきか。
- ・好事例に学び交付金制度をいかに充実させるか。

■受講後の取組、今後の方向性

●他の受講生から刺激を受けて地域担当離任後も地域活動に参画

住民同士で教え学び合う交流の場「フラワータウンカレッジ」が、平成26年8月にスタート。主催は地域の住民有志でつくる運営協議会。歴史文化、自然科学、健康福祉、まちづくりなどジャンルを問わず、豊富な経験や知識を持った住民を講師に招き、概ね隔月に講義と対話形式で開催している。

地域担当の時には、カレッジ立上げのサポートやオブザーバーとして定例会等に参加。人財塾の受講で地域活動に積極的に関わっていきたく強く思うようになり、27年4月の異動で地域担当離任後は、プライベートで運営協議会に参加し、現在、企画運営スタッフとして関わっている。



カレッジの様子と運営協議会メンバー（右下）

第3回フラワータウンカレッジご案内
【フラワータウン住民が互いに
教え学び合い交流の輪を広げる】

健康寿命の伸ばし方
健康寿命は、介護を要しない状態で暮らした期間のことです。健康で長生きすることは、健康で長生きすることです。健康で長生きすることは、健康で長生きすることです。

住民講師
鈴木 康三
（富士が丘）
元 京都大学理学療法学科
助教授
現 静岡県立大学
リハビリテーション学科
学部長・教授

日時
2015年1月25日（日）
午前 10～12時

場所
フラワータウン市民センター視聴覚室

申込み先 メール若しくは FAX
フラワータウン運営協議会宛て（氏名・住所・電話番号記入）
メール info@wta.council.na.jp
FAX 079-584-2799

問合せ先 TEL 090-9541-5011（7時以降 事務局）

第4回フラワータウンカレッジご案内
【フラワータウン住民が互いに
教え学び合い交流の輪を広げる】

三田が生んだ国際標準GPS（カーナビ）技術
第2次世界大戦で敗北し、戦後日本は昭和40年頃から、戦い「戦後復興」の道に歩みだしました。戦後復興の道に歩みだしている「位置を知る」カーナビもその一つです。
「位置」をより正確に分け、自動で、より日本全国に導入できるようにするために、当協議会がカーナビを普及させました。今回そのノウハウも交流させていただきます。

住民講師
西脇 正治
（弥生が丘）
元 富士が丘小学校
校長
（現）三田電機 三田製作所

日時
2015年3月29日（日）
午前 10～12時

場所
フラワータウン市民センター視聴覚室

申込み先 メール若しくは FAX
フラワータウン運営協議会宛て（氏名・住所・電話番号記入）
メール info@wta.council.na.jp
FAX 079-584-2799

問合せ先 TEL 090-9541-5011（7時以降 事務局）

開催案内チラシ

第Ⅵ章 人材力活性化研究会

人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や、研修に係るカリキュラムやハンドブック等の作成、全国地域づくり人財塾の進め方等の検討を行うことを目的に、有識者や実践者による「人材力活性化研究会」を平成 22 年に設置している。

今年度は、第 17 回と第 18 回の研究会を開催した。

研究会構成員（平成 28 年 3 月現在）

座長	飯盛 義徳（慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授）
	小澤 浩子（赤羽消防団副団長）
	谷 和樹（玉川大学教職大学院教授）
	玉沖 仁美（株式会社紡代表取締役）
副座長	富永 一夫（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池会長）
	豊重 哲郎（柳谷自治公民館長）
	前神 有里（一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長）
	牧野 益巳（日本マイクロソフト株式会社執行役社長室長）
	宮城 治男（特定非営利活動法人 ETIC.代表理事）

（敬称略、50 音順）

2. 第17回研究会

(1) 開催概要

■日時：平成27年7月17日（金）15：00～17：00

■場所：総務省6階会議室

■出席者（敬称略）

<構成員>

飯盛義徳（座長）、富永一夫（副座長）、豊重哲郎、小澤浩子、玉沖仁美、前神有里、
牧野益巳、宮城治男

<事務局>

原田地域力創造審議官、野竹人材力活性化・連携交流室長

(2) 議事概要

①「全国地域づくり人財塾」（全国市町村国際文化研修所、総務省自治大学校）、及び、「全国地域づくり人財塾」フォローアップの取組についての意見交換

- ・受講生アンケートを見ると、失敗例に対するニーズが多い感じがする。ケースの発掘は難しいが、取組がうまくいかなかったケースを題材に、受講生と一緒に知恵を出し合う講義を設けると、この希望に沿うのではないかと。
- ・民間企業は失敗事例を研究する。地域づくりの場合、成功や失敗の定義が難しいが、例えば象徴的な失敗例があれば、それをケースにしてしまうことは有効ではないかと。
- ・講師が地域の活動を失敗と言うことは、地域に対して憚れる。このため、受講生から失敗例を出してもらい、その解決策を直接対話で話し合っている。
- ・アンケートをとると、大体、失敗例を知りたいという要望が出てくる。しかし、それは大多数の意見ではない気がする。多くの受講生は成功ポイントを求めている感がある。
- ・人財塾は失敗しないための学び場であると考え。また、失敗のレベルは千差万別であるため、ケースを網羅しきれない。このため、この段階では、失敗しないために必要な知識や方法等を学んだ方が有効だと思う。
- ・初級講座は、インプット型の講義を通じて活動を生みだしてもらうことを原点にしてきた。今、「講師との直接対話」があるので、失敗例を聞きたいという要望が出てきたと思う。しかし、受講生全ての要望を初級講座で対応するのは難しいので、これは別機会にすべきだろう。
- ・取組に困っているケースや失敗したケースは確かに存在する。しかし、人財塾の最初のステップでこれを学ぶことや、講義のコマとして設けることについては議論があると思う。この点については、たとえば、次の「課題解決編」で学ぶことも考えられるだろう。初級編の中で行う場合は「講師との直接対話」の中でカバーすべきかと思う。

②平成27年度における人材力活性化研究会・全国地域づくり人財塾の展開についての意見交換

- ・人財塾に参加していない市町村をどうするかという問題がある。たとえば「あの地域が先進地となった理由は、多くの職員がリーダーやコーディネーターの基本講座を学び、その輪が出来上がったからだ」ということを事例も含めて示していかないと参加していない市町村には響かないと思う。また、

そのような事例に対する財政支援も必要だ。

- ・A市など人材育成に熱心な自治体は地域づくりが進んでいるように思える。そして、人材育成に熱心な自治体は、首長型と人事担当者型に分かれることがわかった。事例調査の中で調査を行うと参加空白地帯解消の参考になる点がわかると思う。
- ・地域活動の活発さと人材育成の熱意の因果関係は不明で、逆に地域活動が活発になって人材育成を熱心に行うケースもあろう。人材育成に取り組んだきっかけを把握すると、空白地帯のアプローチに役に立つかもしれない。ちなみに、A市は、今年、慶應義塾大学と包括研究協定を結んだ。人材育成に熱心になると、いろいろなアクションに繋がる気がする。
- ・人材育成に熱心な理由には、幾つかのパターンがあると感じる。たとえば、民間先行で行政が後追いするために熱心になったケース、1人のスーパー公務員が牽引したケース、首長などのトップダウンと、中間管理職が「頑張る」パターン。熱心に人財塾に送り出している自治体とそうでない自治体の差を整理できないか。
- ・「やねだん」の「故郷創世塾」には648名の修了生がいて、修了生が6つ支部を作り、ミニ講座を行っている。鹿児島まで来るには交通費がかかるので、支部のミニ講座開催は地域にとってもメリットがある。このミニ講座を行う場合は近隣の市町村にも声をかける。今、その輪が徐々に広がっている。県などがこのような役割を果たせば、人材の輪が広がっていく。人財塾にもこのようなモデルづくりが必要だ。

③「全国地域づくり人財塾」（市町村アカデミー）のカリキュラムについての意見交換

- ・前回、直接対話の最後にちょっと時間の余裕ができたので、“何かある人は集まって”と言ったら3人の受講生が来た。その際、色々話ができ、今、説明があった食事をしながら懇談的に第2ラウンドを行うというスタイルは、直接対話の効果を上げる感じがする。もう1つ、事例報告で修了生が発表できるということは、ものすごくモチベーションが上がる。修了生が事例報告のコマの時間が増えるというのは喜ばれるのではないか。
- ・外部から“女性”講師をもっと入れてはどうか。女性で福祉や6次産業、食育を行っている人の話は、なぜ無農薬か、なぜ衛生の法律を学ばないといけないとか、ラベルもこういう規制もあるという細やかな話を具体的にしてくれる。特に、一から活動を立ち上げた女性の話は貴重だ。このようなコーディネートが今求められていると思う。

④課題解決編「ケーススタディ型」、「フィールドワーク型」の実施方法についての意見交換

- ・課題解決編は、先ほどの受講者アンケートにあった声を実現するものだ。ただ、事例を中心としたディスカッションや現地の体験は、初級編のように50人、100人で実施することは難しいので少人数制となっている。そのかわり、少ない人数でみっちり2日間、3日間、顔を合わせて同じ釜のめしを食って議論する。緊密なネットワークづくりにも役にたっている。
- ・先日、米原の大野木地区を訪問したら、お店に「総務省の研修の人たちが来ました」と集合写真が掛かっていた。地元にとっても視察が励みになったと聞いた。また、その時にもらった意見を実行に移したという話も聞いた。

⑤修了者のフォローアップ調査、事例調査について

- ・これは人財塾修了生の変化を捉えて可視化をしようという試みだ。
- ・成果を可視化することそのものに意味がある。さらにいえば、それによって頑張りがたくなる構造が明らかになってくると、より意味が出てくる。そこに、先ほどの議論のように、頑張っている地域の評価や、地域リーダーやコーディネーターの存在意義を具体的に明らかにできるような工夫ができれば良いと思う。
- ・調査に答えてくれた修了生にフィードバックするプロセスもあると良い。また、自分がどのくらいのレベルにあるかベンチマークができるといい。
- ・私はリーダーには企画力やプレゼンテーション力が非常に大切だと考えている。振り返ってチェックする場面があるとレベルは上がると思う。そのような項目が欲しい。
- ・フォローアップ調査については、大きな活動だけではなく、小さな取組も記入できるようなフォームにして欲しい。
- ・修了生の中には、嘱託職員や任期制職員の方も少なからずいた。このため、フォローアップ調査の方は、いかなる対象者でも答えられるような設問とし、空欄で返答されないよう工夫した方が良い。
- ・地域活動の経験が少ない修了生が多い一方で、圧倒的にパワフルな修了生が人財塾で発表している。ここに大きなグラデーションが存在している。人財塾では気持ちに火をつける「人育て」の段階だ。この「人育て」を経て「地域育て」の段階になると、ケーススタディ型やフィールドワーク型に参加して、地域を外からの目線で見るとのレベルになってくる。この3段階が明らかになるような設計が欲しい。
- ・先ほど毎年受講する自治体と全く来ない自治体があるという話があった。このため、受講したときのきっかけを聞くことも今後の参考になるのではないか。

2. 第18回研究会

(1) 開催概要

■日時：平成28年2月23日（火）10：30～12：30

■場所：総務省10階1002会議室

■出席者（敬称略）

<構成員>

飯盛義徳（座長）、富永一夫（副座長）、豊重哲郎、小澤浩子、玉沖仁美、前神有里、
牧野益巳、宮城治男

<事務局>

野竹人材力活性化・連携交流室長

(2) 議事概要

①全国地域づくり人財塾実績報告、最近の地方創生人材育成関連施策の動向についての意見交換

- ・地方創生の要は人づくりだと強く思っている中、「全国地域づくり人財塾」は、その先駆的な取組だとの思いを新たにしたい。その中で、全国地域づくり人財塾のコースは当初、初級・中級・上級の3つが必要と考えていたが、今の報告を聞き、初級のあとは、課題解決編とフォローアップ研修で十分ではないかと思いはじめた。ただ、課題解決編の募集期間の確保と地方議会会期を避けるなどを工夫すると参加しやすくなるのではないかと。なお、フォローアップの東日本支部については、少々、範囲が広すぎるので、少し小分けすることを検討している。
- ・先日のフィールドワーク型は、非常にいい勉強になった。ただ、受講者数については、今、指摘があった開催時期に加え、行政・民間のペア参加要件なども参加人数が少ない要因とも思う。この点も議論したい。
- ・人材育成の大切さを伝えるだけでなく、参加を強く働きかけることも必要だ。私のケースであるが、ある県の首長に人材育成の重要性を説き、強く働きかけたら、やねだん故郷創世塾に職員を派遣してきた。総務省もただ参加を呼び掛けるだけでなく、人材育成の重要性を認識してもらえような方策を考えて行く必要がある。
- ・首長に対する研修は中々難しいと思うが、山形県置賜地域では一部事務組合の理事者向けの名目で首長に講義と現地視察の研修を行い、非常に興味を持ってもらった。その後、振り返りの会と職員向けの研修を併せて行うなど、それぞれの学びの共有を循環する形で進めている。また、修了者が具体の事業に取り組むなど「事業」と「人材育成」の両輪で行った結果、首長から課長や係長に勉強させたいという話となった。自治体の1つ1つの点の取組だけでは広がりにくい人材育成も広域で取組と相互に影響を与え合っている。

②全国地域づくり人財塾修了者の地域づくり活動調査報告について

- ・アンケートを見ると、マネジメントへの関心が高い。先のフィールドワーク型でプレゼン資料の作り方や事業化の進め方など企業研修的な要素を取り入れ、好評であった。マネジメント知識に対するニーズが高いのであれば、企業研修的な要素を少し加えて見るのも良いかと思う。また、地方創生の観点でいえば、ICTの利活用も関心が高い。ICTをテーマにしたカリキュラムも有効ではないか。
- ・ここ数年で他の研修で力をつけてきた人材が増えてきた感じがする。受講判定をどうするかの問題は

あるが、課題解決編の初級修了要件を外してもいいのではないか。また、ケーススタディ型のペア要件の考え方を公務員同士、民間同士、あるいは、近隣の修了生同士などとしても良いかもしれない。一方で、フィールドワーク型の内容を軽くして現地で学べる機会を増やすことも必要と感じた。

- ・フィールドワークの欠点は、わかった気になりやすい点がある。昨今主催した研修では、現地で楽しく学んだだけの人が増えてきており、どうすれば次の活動につなげてもらえるかを悩んでいる。一方で、自治大学校編は2日間に講義が集約されるので、頭の整理をする時間が欲しいという意見があった。自治大学校は人事課や首長に指名を受けた受講生が来るので、この受講生に対する工夫をすると、役所に帰ってからの波及が見込めると思う。
- ・初級編のアンケート結果を見ると、約6割が人事担当や上司からの要請とあったが、課題解決編では自分から進んでの受講者が多い。さらに自分をアップさせたいという意欲の過程が見て取れる。そう考えると、課題解決編のペア参加要件を外しても良いと思う。一方で、フォローアップ研修などの地方開催を増やし、民間の活動を行政が知る機会を増やすと、民間からのペア参加の発意が増えるのではないかと感じた。
- ・総務省が行う人財塾であるならば、地域の経営者を育成するという観点が必要ではないか。やねだんの超スーパー塾では、地域の経営について学び、地域を引っ張っていくリーダー養成をめざしている。地域の経営者を育て、その証明として総務省がライセンスを付与する、こういったところを目指したほうが良いと思う。
- ・中長期的な出口をどうするかを考える必要がある。大学でもサティフケイト（資格等）を発しているところもあるが、次のインセンティブにはなっていない状況だ。付与する場合は中長期的な出口戦略を考えていく必要がある。
- ・受講生一人ひとりのケアを充実させるという観点から定員を減らすという発想はないか。アンケート結果を見ると、マネジメント力やコーディネート力、合意形成など、コミュニケーション論、いわば心理学的要素に対する要望が高い。特に、地方創生の取組が求められる中、コミュニケーション手法に対するニーズが高まっている。これに応えるため、講師の個別対応時間を増やし、じっくり向き合うことも、次年度、チャレンジして見る価値はあるのではないか。

③平成28年度の全国地域づくり人財塾のカリキュラムについて

- ・課外時間の講師対話は、教室の工夫が必要だ。昨年度、一つに部屋に集約したが、行き来がしやすい半面、他のグループの声が大きくて、けっこう話しづらかった。
- ・講師と受講生との個々のやり取りは生産性が高い。ただ、質問が明確になっていない受講生も多く、前提を聞くだけで時間終了となってしまう。この効率を上げるため、この3日間で解決したい課題や相談したいことを事前に整理してもらった方がよい。
- ・毎回、自己紹介だけでも時間がかかる。このため、自己紹介と、この研修に期待すること、自分が学びたいこととか、困っていること、解決したいことをA4にまとめるということでも良いと思う。
- ・実は、質問の内容より、何故この質問をするのか、どうしてこれを聞きたいのかの内容を把握したい。これを確認することで的確なアドバイスができるのだが、この確認に毎回ものすごい時間がかかる。

④人材力活性化に関する調査研究事業報告書骨子（案）について

特に意見なし。

第Ⅶ章 本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性

1. 本年度の調査研究事業の成果と課題の確認

本年度も地域づくり人の育成に向け、スタートアップの課程として位置づけている「地域づくり人財塾」(以下、「人財塾」という)を開催した。これに加え、修了生あるいは実践者のステップアップ課程として位置づけている「課題解決編」の「ケーススタディ型」、「フィールドワーク型」を開催した。

調査研究事業では、修了生のフォローアップ調査として『全国地域づくり人財塾』修了者の地域づくり活動調査を実施し、「人材力活性化研究会」では「人財塾」の運営方針やカリキュラム等について検討した。

ここでは、これらの取組を振り返り、本年度の成果と課題を確認するとともに、次年度以降の方向性について検討・整理を行った。

(1) 全国地域づくり人財塾

①成果の確認

■244名の修了生の輩出と地域活動への貢献

- ・今年度も自治大学校、全国市町村国際文化研修所(JIAM)、市町村アカデミー(JAMP)の3か所で「全国地域づくり人財塾」を実施した。
- ・今年度は、トータル244名の修了生を輩出し、地域力創造および地域づくり活動の活発化に向けた地域づくり人材のすそ野の拡充につながった。

■質の高いカリキュラムの構築

- ・今年度も「人材力活性化研究会」の構成員による講義に加え、全国的に注目、あるいは活躍されている学識者や有識者を招いての講義、受講生が抱える課題について講師と議論する「講師との直接対話」、グループワーク(グループ討議等)を組み合わせ、地域づくり人としての心構えや地域づくり活動に関するノウハウを学ぶ研修を実施してきた。
- ・また、「事例報告」の時間を設けて、修了生に活動報告を行ってもらうことを通じて、受講生への地域活動継続に対する意欲醸成と、修了生の活躍の場の提供に努めた。
- ・これらの取組の結果、研修終了後の受講者アンケートでは、各講義とも高い満足度が確認されるとともに、前述のように、修了生の自主的な取組が継続している。

②課題の確認

■「講師との直接対話」の運営効率化を通じた受講者満足度の向上

- ・受講者アンケートでは、「講師との直接対話」の時間を増やして欲しいといった意見が見られる。
- ・これまでも、受講生からの質問カードを事前に講師へ配布するなど運営の効率化を図ってきたが、「人材力活性化研究会」では、さらに質問カードやプロフィールカードの作成等により、効率的かつ受講生一人ひとりの要望に沿える「講師との直接対話」の運営方策について議論された。
- ・意見としては、講師一人あたりの受講者数の抑制または時間配分の増加など、受講生一人あたりの講師と議論できる時間を増やす方や、受講生からの質問カードをさらに進化させ質問の背景までわ

かるようなプロフィールカードの事前提出を求めることなどが議論された。

- ・このような「講師との直接対話」の運営効率化等に向けた工夫が求められている。

■受講生相互の交流機会・時間の拡充

- ・受講者アンケートでは、受講生相互の交流時間の充実や、受講生ネットワークづくりに対する要望が見られた。
- ・このため、グループワークの充実やカリキュラムの時間配分の調整などにより、受講生相互の交流機会と時間の充実を図る必要がある。

■余裕があるカリキュラム編成

- ・受講者アンケートを見ると、日程を増やす、または、講義の数を減らすなど、余裕があるカリキュラムに対する要望が見られた。
- ・また、グループワークや交流の時間の延長に対する要望も見られている。
- ・このため、時間配分の調整など余裕あるカリキュラムへの配慮が必要と思われる。

■PRの訴求力の向上

- ・「全国地域づくり人財塾」は受講者満足度の高い研修となっているが、「人材力活性化研究会」での議論では、より地域づくりの活発化に向け、これまで受講生を派遣していない市町村に対する訴求について議論された。
- ・このため、人事セクションに対する募集要項の送付や、首長に対する受講効果に関するPR、他の総務省事業での周知・案内など、より積極的なPR展開が求められている。
- ・なお、今年度修了生に対して実施した『「全国地域づくり人財塾」修了生の地域づくり活動調査』（以下、「フォローアップアンケート」という）を見ると、「全国地域づくり人財塾」の受講意欲を高める方法として、「多彩な自治体職員の活動紹介」が約6割と突出して高いことから、修了生による地域活動の事例報告の講義時間のPRを積極的に行うことが有効であると思われる。

(2) 全国地域づくり人財塾 課題解決編

①成果の確認

■受講生の要望に即した実践性の高いカリキュラムの構築

- ・「ケーススタディ型」および「フィールドワーク型」とともに、プランニング力の養成を目的に、グループワークや講師とのディスカッションに重点を置いたカリキュラムになっている。
- ・また、今年度は「フィールドワーク型」も開催し、先進地視察で学んだことを活かしたプランニングを実践し、受講生からの評価は極めて高いものとなっている。
- ・また、このタイプの研修は、受講者アンケートや「フォローアップアンケート」でも、次のステップの研修としてニーズが高い。

■修了生の自主的な取組の展開

- ・「フォローアップアンケート」の結果を見ると、回答した修了生の約半数が業務以外で地域活動を

行っていると回答している。

- ・また、関東の修了生を中心とした自主的なフォローアップ研修「全国地域づくり人財塾・東日本支部」が今年度4回開催された。また、関西の修了生を中心とした「全国地域づくり人財塾・西日本 in 河内長野市」が9月に開催され、地域づくり活動に関する議論や課題解決に向けた意見交換が熱心に行われた。
- ・加えて、今年度も、Facebookにおいて修了生のグループが立ち上がり、情報の交換等が活発に行われるなど、修了生の自主的な取組が継続している。

②課題の確認

■開催月・開催場所等諸条件の検討

- ・「ケーススタディ型」、「フィールドワーク型」とともに定員割れとなった。その要因として地方議会開催期に重なった、予算編成期と重なったなど、受講できない理由として開催期間が合わないことが一部の修了生から指摘された。
- ・また、「フィールドワーク型」では、開催場所が遠いなどの意見も見られた。
- ・一方で、「フォローアップアンケート」の結果を見ると、「フィールドワークを中心とした研修」や「ワークショップや演習を中心とした研修」、「講師との対話やディスカッションを中心とした研修」など「課題解決編」に対するニーズも高い。
- ・加えて、「フォローアップアンケート」の結果を見ると、「人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらおうこと」、「人財塾（フィールドワーク型）の訪問地として自らの活動が選ばれること」が地域活動の継続のモチベーション維持に有効と、ともに約半数の修了生が回答している。

■定員確保の方策検討

- ・「課題解決編」では、より具体的な地域活動の課題解決を目的に、一緒に活動する行政職員とNPO等の地域団体とのペア参加を要件としているが、相手の日程が合わない、コストが負担できないなど、この要件が厳しいといった意見が見られた。
- ・また、応募を検討するには募集期間が短いといった意見も見られた。
- ・このため、定員確保に向け、募集期間や前述の開催月・場所の配慮が求められる。
- ・「人材力活性化研究会」でも同様の意見があり、「ケーススタディ型」のペア要件については、行政職員同士（またはNPOスタッフ同士）、あるいは、周辺地域の行政職員（またはNPOスタッフ同士）などのペアのあり方を多様化するといった議論があった。
- ・また、フィールドワークについて、初級編的なものであってもいいのではないかと、出前講座的なものであってもいいのではないかと意見があった。

(3) 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

①成果の確認

■フォローアップ研修の開催と定型化

- ・「全国地域づくり人財塾・東日本支部」は、今年度も4回開催され、継続した開催が定型化している。

- ・また、今年度は「全国地域づくり人財塾・西日本 in 河内長野市」として、関西地域でのフォローアップ研修の開催が報告された。
- ・加えて、『「全国地域づくり人財塾」修了生の地域づくり活動調査』では、山形県の「置賜地域」で支部の設立検討と自主的勉強会の開催が報告されている。

②課題の確認

■身近な場所でのフォローアップ機会づくり

- ・受講者アンケートでは、地域ブロックごとのフォローアップ研修や、修了生の活動報告会などに対する要望が見られた。
- ・「全国地域づくり人財塾フォローアップ研修・東日本支部」では、今後、小ブロック制による開催が検討されている。

■継続に対するサポート

- ・「全国地域づくり人財塾フォローアップ研修・東日本支部」では、年 4 回の開催が定型化しているが、他の地域での開催は散発的となっている。

(4)「全国地域づくり人財塾」修了生の地域づくり活動調査から得た示唆

①成果の確認

■自主的な地域活動の底上げへの貢献

- ・「フォローアップアンケート」の回答者のうち、約半数が「業務外」で地域活動に関わっていることが明らかになった。
- ・このうち約 1 割の修了生が「自ら活動主体を立ち上げて実践」しており、約 3 割の修了生が「活動主体の中心メンバーとして企画運営」しているなど、「全国地域づくり人財塾」の有効性が改めて確認された。

■多彩な場所で活躍できる人材輩出への貢献

- ・「フォローアップアンケート」を見ると、修了生が「業務外」に行う活動の主体についても、NPO などのテーマ型の主体のほか、自治会や子ども会、消防団など、既存の地域組織で活躍する修了生も多く、多彩な場面で活躍できる人材を輩出していることが改めて確認された。

■地域の人材育成への貢献

- ・「全国地域づくり人財塾」受講後の行動の変化では、「人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている」とした修了生が約半数に上っている。
- ・また、具体的なケースでも、「全国地域づくり人財塾フォローアップ研修・東日本支部」や「全国地域づくり人財塾フォローアップ研修・西日本 in 河内長野市」の開催のほか、庁内勉強会や学習会の開催などが各地で開催されており、地域に貢献できる人材を輩出していることが改めて確認された。

②課題の確認

■地域活動を続ける人材のフォローアップ

- ・「フォローアップアンケート」を見ると、現在行っている地域活動で感じている自分の問題意識や課題として、「熱意や意欲の低下」、「行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足」、「計画策定や効果測定などのマネジメント知識・経験不足」、「一緒に活動してくれる人がいない」がそれぞれ2割を超えている。
- ・このため、身近な地域でのフォローアップ研修の開催など、地域活動を続ける人材のフォローアップが必要であると考えられる。
- ・また、「フォローアップアンケート」を見ると、回答者の約2割が「人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」を求めており、特に「同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会」や「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会」が9割など修了生がリアルに集う勉強会に対する要請が高い（SNSを通じた勉強会に対するニーズは約半数）ことから、各地域でのフォローアップ研修の実施支援も有効と思われる。

■地域活動を行っていない修了生に対するフォローアップ

- ・アンケートの回答者の半数が「業務外」で地域活動をしており、「業務」での関わりを加えると約7割の修了生が地域活動を行っていることが明らかになった。その反面、約3割の修了生が地域活動を行っていないことも確認された。行っていない理由としては異動や「業務が多忙のため」などの理由が多くなっている。
- ・一方、アンケート結果を見ると、地域活動に対するモチベーション維持として「総務省 SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」が約半数の修了生が有効と回答している。
- ・このため、Facebook やメーリングリストの積極的な活用を通じて、他の修了生の活動の様子等を伝えるなど、地域活動に対するモチベーションや関わっていこうとする意欲の醸成を図る仕組みづくりが必要と思われる。

2. 今後の展開に向けて

「1. 本年度の調査研究事業の成果と課題」を踏まえ、次年度以降の方向性は、次のように整理できる。

(1) 全国地域づくり人財塾

- ・来年度も引き続き、全国地域づくり人財塾を実施する。実施にあたっては以下の点に留意する。

①全国地域づくり人財塾について

- ・引き続き、自治大学校、全国市町村国際文化研修所（JIAM）および市町村アカデミー（JAMP）において開催を行う。
- ・「講師との直接対話」では、質問カードやプロフィールカードを使って、解決したい課題や質問したいこと等の論点整理を受講生に事前整理させ、効率的かつ効果的な講座運営を行う。
- ・全国地域づくり人財塾の修了生の活動継続意欲を高めるため、引き続き修了生の活動事例発表の機会を確保する。
- ・フォローアップアンケート等の内容を踏まえ、自治大学校、全国市町村国際文化研修所（JIAM）及び市町村アカデミー（JAMP）以外の地方開催についても検討する。

②フォローアップ研修会（地域勉強会）の立ち上げの奨励・運営支援

- ・修了生による学習機会として、フォローアップ研修会（勉強会）の立ち上げを奨励する。
- ・引き続き講師派遣や運営助言等の支援を行う。
- ・また、「地域の元気創造プラットフォーム SNS 公式サイト」（以下、「総務省 SNS」という）に活動模様の積極的な投稿を促すなど、修了生相互の連携とモチベーション維持に努める。
- ・「総務省 SNS」の積極的な利活用を促すため、全国地域づくり人財塾での使用資料のダウンロードを可能にするなど、情報提供機能についても検討する。

③ 全国地域づくり人財塾課題解決編について

- ・「課題解決編」については、開催時期の見直しや、修了生とのペア参加等の条件等について検討するとともに、修了生の活動地をフィールドワーク先とした方法、初級編の一形態とする方法など参加しやすい内容についても幅広く検討する。そのコーディネートを修了生に担わせるなど修了生の参加可能性も検討する。

④ 全国地域づくり人財塾の PR 促進

- ・受講市町村の拡大に向け、人事セクションに対する年間計画書や研修の募集要項の送付や、首長等に対する受講の有効性 PR、他の総務省事業での周知・案内を積極的に展開する。
- ・地域づくり人財塾、課題解決編、フォローアップ研修を一体的にまとめた PR のためのパンフレット等作成も検討する。

(2) 地域研修支援

- ・平成 27 年 12 月 24 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと総合戦略（2015 改訂版）」において、「地域人材育成プラン」が引き続き位置づけられるとともに、平成 27 年 12 月 25 日付で「地方創生人材プラン」が策定・公表され、今後、地方創生に必要な人材を養成する基盤整備が打ち出された。
- ・これに加えて、地方創生深化のための新型交付金（地方創生推進交付金）が創設され、地域独自の地方創生推進人材の育成・確保に対する支援が位置付けられたところである。
- ・したがって、地域独自の地方創生推進人材の育成・確保に関する研修等が今後積極的に実施されることが想定されることから、総務省としても事例紹介や講師紹介の支援を積極的に行うこととする。

参 考 资 料

■参考資料 1. 全国地域づくり人財塾 初級編 受講者アンケート

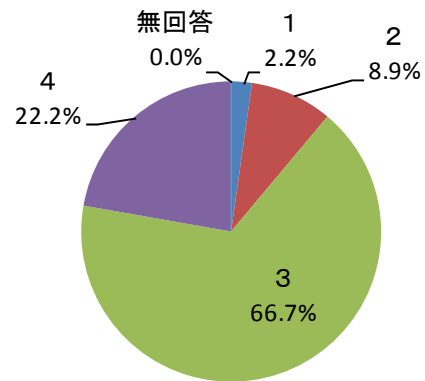
1. 全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 編

①各プログラムに対する評価

【講義 1】「人材力の活性化について」 総務省人材力活性化・連携交流室長 野竹 司郎 講師

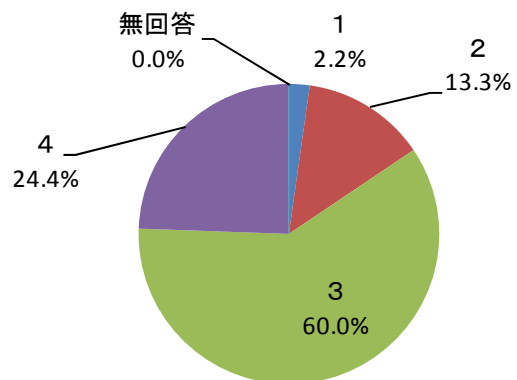
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	4	8.9%
	3	30	66.7%
	4	10	22.2%
	無回答	0	0.0%
	合計	45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	6	13.3%
	3	27	60.0%
	4	11	24.4%
	無回答	0	0.0%
	合計	45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・総務省の現在の考え方がよくわかりました
- ・資料を活用したい。相談に乗ってほしい
- ・全体のコーディネート的な立場、ご苦労様でした。今後も連携させていただきたいと思えます。ありがとうございました
- ・もっと総務省の HP を活用していきたい
- ・総務省の人材に関する施策（人材力活性化研究会など）について知ることができ、今後の業務に生かしてまいりたい
- ・必要性を強く感じた
- ・直接対話にて理解が深まりました

◎活用度 3

- ・ 今回の研修意義を再確認
- ・ 総務省としてもう一步踏み込んで地方自治体職員の「人財力 up」の方向性を示して欲しいです
- ・ この3日間の研修へのやる気を鼓舞していただきました
- ・ 人材の大切さ、求められる人材は何か、そしてそんな人材になりたいと思う
- ・ きっかけはメリットづくり、ホームページを活用させていただきます
- ・ 最初の心構えを説明いただき、後の講義の受講姿勢に繋がりました
- ・ 人材力の活性化に向けた総務省の取組を紹介していただき、発見することが多かった
- ・ 色々な支援制度、事例の紹介があるとのことなので定期的にチェックしていきたい
- ・ 地方創生に向けた動きや様々な施策、取組について知ることが出来た
- ・ 今回の研修に臨む心構えがないまま、臨んでいたのが気持ちが引き締まった
- ・ 人材塾の位置づけ等が理解できた

◎活用度 2

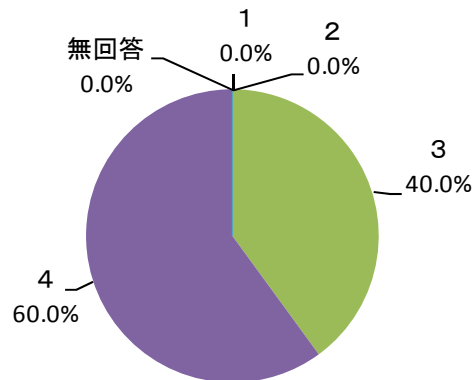
- ・ 現在、総務省で行っている事例をもっと知りたいと思いました
- ・ 導入で若干わかりづらかったので、すみません

【講義 2】 「NPO フェージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」

NPO フェージョン長池会長 富永 一夫 講師

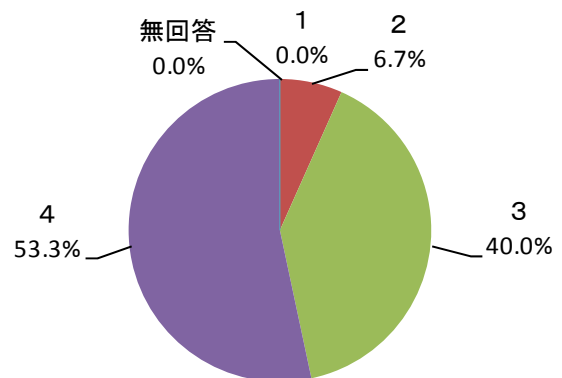
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	18	40.0%
	4	27	60.0%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	6.7%
	3	18	40.0%
	4	24	53.3%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・誰かの「覚悟」がなければ進まない
- ・イベントは「人材発見」の場
- ・自分が出来なくても、得意な人を探す、組み合わせる
- ・現場の話が聞けてよかったです。NPO という立場からの視点がよいと思いました
- ・コミュニティー委員会の立ち上げから、地域住民の理解を得るまで、継続、我慢を学びました
- ・すでに実践されている活動での苦労話を聞くことで、活動者へのアプローチを行政として考えることになる機会となりました。相手のことを知ることから始めていきたい
- ・民間の活力の偉大さに感銘を受けました
- ・地域づくりの実践者からの話として、非常に説得力がありました
- ・人を動かす難しさを教えていただきました
- ・ともに地域づくりを実践し成功されている方なので、話に非常に説得力があった。情熱を持ちながら周りのメンバーにフォローするという姿勢が成功を収める理由のように感じました。人と人をつなぐのは心だということを忘れないようにしたい
- ・民官でのノウハウと人間性を生かされての活動、とても参考になりました。ありがとうございました
- ・地域活動をどのように進めていけばよいか、また現場での様々な課題や解決策など、とても参考になった
- ・人と人とのつながり方が勉強になった。集まってきていた人たちがすっといなくなってしまった時も、気持ちを切り替えて続けていく大切さ、得意な人に任せる大切さを学んだ
- ・地域づくりのための、多様な人（人財）との関係性（個性尊重）の在り方などを学ぶことが出来た
- ・指定管理、委託の事など大変勉強になった
直接対話にて理解が深まりました

◎活用度 3

- ・行政と民間のパイプ役として貴重な意見、参考になりました
- ・NPO の立場から、その活動と覚悟、気持ちが伝わる講義でした
- ・富永先生が行っている NPO の組織の形がすばらしく、将来のことを考えて後継者まで準備されているのには大変驚きました
- ・人をひきつけ、本当に自分に協力してくれる人はいるんだと思いだしました。「幸せ」になれる、出来る仕事を目指したいです
- ・私が思う NPO とは全然違った。見方を変えることができた。富永先生の決断力、行動力を参考にさせていただきたい
- ・気持ちいい挨拶をしようと思いました
- ・どのように作ったという導入から話していただいたので、わかりやすかったです。大変勉強になりました

- ・様々な立場の方の立ち位置を確認し、連携する団体のことをしっかりと勉強していきながら頑張りたいと思います
- ・これから、リタイアしてからの自分を考えさせられました
- ・NPO等、活動初期の苦労と取組み方が分かり、共感？した。また次世代への引き継ぎの重要性を知った

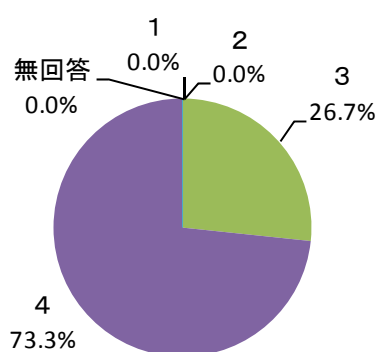
◎活用度 2

- ・素晴らしい事例だと思う。携わっている人の話でよかった

【講義3】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 講師

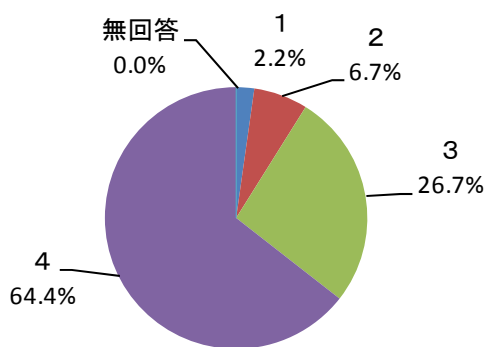
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	12	26.7%
	4	33	73.3%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	3	6.7%
	3	12	26.7%
	4	29	64.4%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・同じような中山間地域の目指す一つの希望の形として強烈に印象に残りました
- ・説得ではなく納得させる行動を・無視、無関心層は宝の山
- ・補欠はいない
- ・感動で人の心を揺さぶる。地域活動に補欠はいらない、リーダーの在り方を学びました
- ・私たちの町でも生かせそうなことが多くあり、とても勉強になりました。豊重さん心のあつさに私も頑張れそうです
- ・無視、反対者に対する忍耐力、笑顔、参考にさせていただきます

- ・行政に頼らない地域づくりをしていく中で、講義中の VTR に出ておられた地域の方々の笑顔があふれていることに感動した
- ・人徳の大切さを学びました
- ・感動しました
- ・少しですがやねだんを理解できたかな
- ・実績のある人の話は重みが違うと感じた
- ・理念、考え方が分かった。データの必要性を再認識した
- ・研修に参加させていただいて本当に良かったと思いました。1人1人に本気で向き合い、市民の方々の才能を引き出せる人間になりたいです
- ・ともに地域づくりを実践し成功されている方なので、話に非常に説得力があった。情熱を持ちながら周りのメンバーにフォローするという姿勢が成功を収める理由のように感じました。人と人をつなぐのは心だということをお忘れなくしたい
- ・心に響く講義でした。サプリも注文したいと思っています。ありがとうございました
- ・行政に頼らない自立した地域経営の手法にとっても興味があった。住民の才能を引き出し、感動を与え地域を活性化していく取り組みはとて勉強になった
- ・リーダー＝コーディネーターの大切さをしっかり教えていただいた。最初怖い方とビビっていたが、とても熱い方で感動をいただいた
- ・気合が入りました
- ・地域づくりの成功例を詳細に知ることができ、今後の業務遂行に活かしてまいりたい
- ・カリスマ的リーダーと感じた
- ・情熱が伝わりました

◎活用度 3

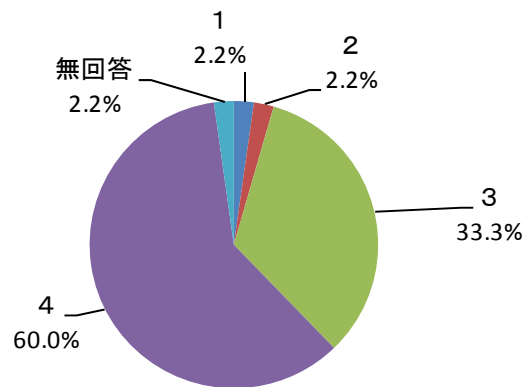
- ・DVD も良いですが、もっと言葉が聞きたいと思いました
- ・行政側では分からない実態を知りました。アイデアの実現は誰にでも出来るはずということと、そのやり方を学びました
- ・「熱い！」の一言につけるが、地域づくりを本気で取り組もうと思ったら、情熱は必要で不可欠だと思った
- ・柔軟な考え方、先を見る目、観察、気配りの大切さ、よくわかりました
- ・成功の裏にある綿密な狙いや計画に驚きました。すごすぎて、すぐには取り入れられないが要所の細かいところは取り入れたいと思いました
- ・自立の重要性と熱意が大切であると感じた

◎活用度 2

- ・直接対話でのお話感動しました。急がずあせらず地域づくりを進めていきたいと思っています。ありがとうございました

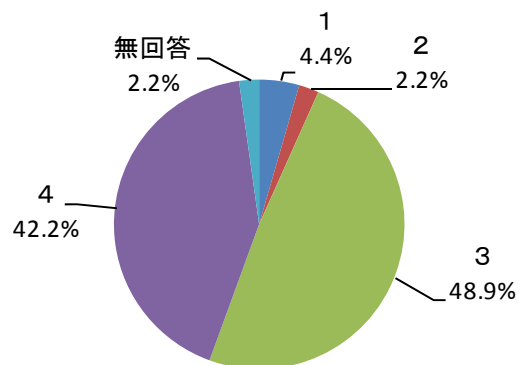
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	1	2.2%
	3	15	33.3%
	4	27	60.0%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	4.4%
	2	1	2.2%
	3	22	48.9%
	4	19	42.2%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度4

- ・ 田園回帰は大野市でも最大のテーマ。分かりやすかった
- ・ 今、農山漁村が求められている。どうやって自分の町の魅力を発信していくのか、考えたい
- ・ 暮らしのものさしづくりに取り組んでいきたいと思います
- ・ データによる今後の施策の方向性を考えるきっかけになりました
- ・ 理論づけが出来た
- ・ 私のいる町が、消滅可能都市ということもあり、非常に興味のある話だった
- ・ 素晴らしい講義だった。農業者としてもっと自分自身頑張りたい
- ・ 数字の説得力を感じた
- ・ 数値なども示していただき、説得力のある講義で必要性を強く感じました。ありがとうございました
- ・ 農山村の町づくりの課題や活性化に向けた戦略など、とても参考になった。現場ですぐに活かしていきたい
- ・ 引きこもりの人、障害のある人の就業の方法にすごいヒントをもらったように思う
- ・ 地域を磨いていくための仕組みづくりや、都市農村交流が今後重要になっていくことを学ぶことが出来た
- ・ 農村回帰について今後楽しみ

◎活用度 3

- ・データ収集、分析
- ・「誇りの空洞化」に stop を
- ・農山村という枠にとらわれず、これからの地域づくりに活かせる話題が知りたかったです
- ・前の話の補完をしてくださっていたので、とてもありがたかったです。データもあり、目で学べました
- ・地域を好きになる活動を考えたいと思います
- ・スライドはとても見やすかったのですが、話が難しかったです
- ・地域志向をもった若い人が多いということを知ることが出来た。若い人の力をどのように活用していくか考える機会となりました
- ・気付かされる点が多かったです
- ・データに基づいた説明で非常に説得力を感じた。説明の中で定量的な資料を示すよう心がけたい
- ・前日の睡眠不足で一番眠い時間帯でした。すみません
- ・データに基づいた田園回帰のお話は、これから地域づくりする上で勇気づけられるものでした。ありがとうございます
- ・学術的な視点が参考になりました

◎その他

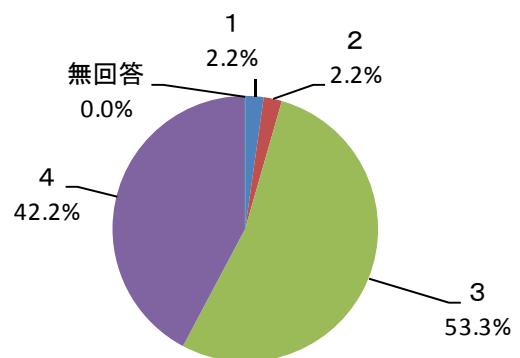
- ・地域づくりは、子供達に地域を知ってもらうことから始める必要があると知った

【講義 5】 「地域に飛び出し翻訳こんにやく家になろう！」

一般財団法人 地域活性化センター
 総務企画部クリエイティブ事務室室長 前神 有理 講師

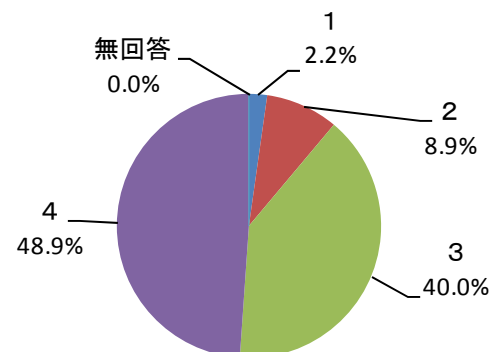
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	1	2.2%
	3	24	53.3%
	4	19	42.2%
	無回答	0	0.0%
	合計	45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.2%
	2	4	8.9%
	3	18	40.0%
	4	22	48.9%
	無回答	0	0.0%
	合計	45	100.0%



<感想>

◎活用度4

- ・公務員の立場としての貴重なご意見を頂きました
- ・すぐに動ける体制づくり
- ・顔を見せてつながりを
- ・当事者意識をもってもらおう
- ・互いの立場を考える
- ・職員としての立場での話が良かったです。生き方が出る話は魅力があると思いました
- ・公務員として一番身近で、ガツンと来る内容でした。どんな部署でも地域づくりに繋げることではできると背中を押されました
- ・組織と言う枠を超え、地域に飛び出した前神先生の行動力を参考にしたいと感じました
- ・聞く大切さ、再認識しました
- ・行政職員として、地域の中に入り込んで地域づくりに携わってこられた事例を聞くことが出来て、自身も如何にして地域に入るかということを考える機会となった
- ・現場をよくお知りの先輩から
- ・前神さんのように、本気で地域の方へ寄り添える公務員になりたいと思いました
- ・行政職員ならではの疑問を含めた経験と実績、とても共感できます。今後もご活躍を！ありがとうございました
- ・仲間づくりの大切さ、特に外部の方とのつながりをどうつくっていくか考えていきたい
- ・バイタリティをありがとう
- ・いかに関心を持ってもらい自発的に参加してもらうことが重要であるかを学ぶことが出来た。今後は積極的に現場に足を運びたい
- ・バイタリティを感じました
- ・こういう公務員が増えるといいと感じました

◎活用度3

- ・県庁職員と市町村職員の立場の違い、そこからくる考え方の違いを再認識できました
- ・前神先生がどのように失敗し、それをどのように乗り越えてきたのかを知り、私も思い切って前に進みたいと思いました、仲間を作って
- ・議員の立場で何ができるかと考えます
- ・アグレッシブさが、非常に伝わりました。先生たちのようにガンガンいかないと、だめなんだなと思いました
- ・色々な視点からの地域づくりがあるのだと気付いた
- ・同じ公務員としての活動が参考になりました
- ・活動を継続することの重要性を感じることができた。燃え尽きないために役割を分担することが思った以上に大切なことだと分かった
- ・周りの職員を志を同じくする仲間に変化させていく求心力、影響力に感動しました、ありがとうございます

- ・前神先生が県職員の立場で実際に取組まれた経験をもとにしたお話をしていただき、同じ行政職員として、とても参考になりました
- ・壁にぶち当たった時、それがチャンスと受け止め、改善策を考えて行動すると前進できることが大切と感じた

◎活用度 2

- ・前神さんが頑張っている様子は伝わってきましたが、私たちに何を伝えたいのか分からなかった
- ・話は面白かった

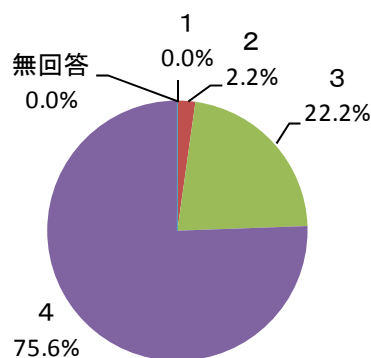
【講義 6】 「ただ話す、ではなく、伝わるように話す

～「心に響き、眼にも焼きつき、耳にも残る」話し方の基礎を学ぶ～

森ゼミ代表 森 吉弘 講師

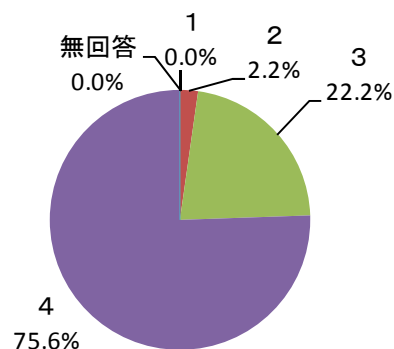
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.2%
	3	10	22.2%
	4	34	75.6%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	4.4%
	3	7	15.6%
	4	36	80.0%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・最高のお話でした
- ・心を出し、心を引き出すため、さらに訓練したいと思います。ありがとうございました
- ・相手の立場に立って考えることは、どの先生にも共通しているなと思いました。住民とのコミュニケーションがうまくいかないことには、地域づくりもできないと思います
- ・庁舎で毎朝、朝礼で5分スピーチがあるので、伝わるように表現を学びたい。また、住民の方との対話に広げていきたい

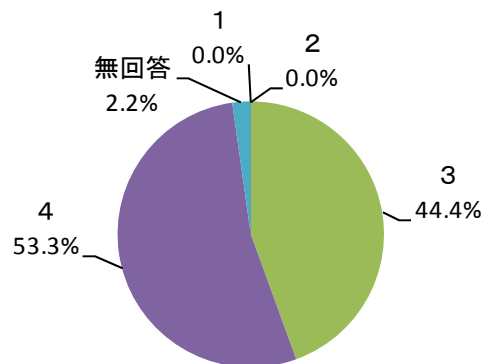
- ・何事も準備、必要、意識して見る、など参考になりました
- ・話し方、そして聴き方を大切にしていきます
- ・実践できるような例をポイント、ポイントで教えていただいたので、一つ一つ自分自身の仕事や日常においても取り入れていきたい
- ・市民等に伝えることが機会として多くある中において、どのようにすれば伝えていくことが出来るのかということを考えさせられた。今後の業務の中で活かしていきたい
- ・聞くことの大切さをもっと実感すべきだと感じました
- ・プロの技は流石です、良かったです
- ・プレゼンのやり方について学べて良かった。頑張って実践したい
- ・プレゼンテーションの際にプロとしてどのようにしているかという話は、非常に参考になった。話し言葉を聞きやすく短く切る。「あー」「うー」などは言わないよう心がけたい
- ・今、自分自身のスキルとして最も高めたいものの1つです、非常に勉強になり、更に興味を持ちました。ありがとうございました
- ・地域づくりの現場で一番大切なコミュニケーション力についての話を楽しく分かりやすく教えていただいた。早速実践していきたいと思う
- ・ポッドキャストで少しだけ予習していたので、より理解しやすかった気がする。自分で出来る訓練を重ねていきたい
- ・別にもう一度聞きたいです
- ・聞く大事さや伝わる話し方のポイントを学ぶことができた。今後は、事前準備などもっとしっかり行ってまいりたい
- ・企業内教育とは違った捉え方で勉強になった
- ・コミュニケーションについて、新たな切り口が見えました。視点が養われました

◎活用度 3

- ・伝える力の大切さ、表情なども
- ・聴くことも重要
- ・ターゲットとメッセージを必ず確認
- ・時間がもっとあれば実践やプレゼンの効果を感じることが出来たと思います。
- ・自己満足で仕事をこなしてきたが、今度は他己満足をこころがけたい
- ・伝わるように話す、そして人の話をしっかりと聞く、他己満足を意識して業務にもあたっていきたいと感じました
- ・コミュニケーションのポイントは聞く力であることが良く分かった。聞くことは忍耐が必要であるが、努力していきたい

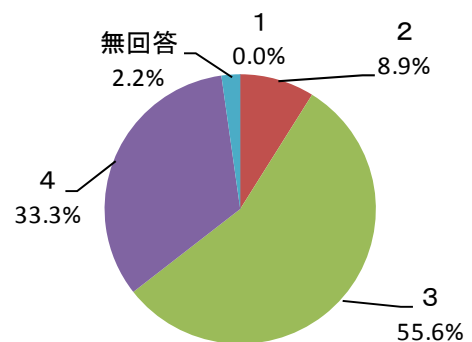
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	20	44.4%
	4	24	53.3%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	8.9%
	3	25	55.6%
	4	15	33.3%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・図書館のよくあるイメージから変えていこうとする気持ちが素晴らしい。今あるものを上手く生かしている
- ・既成概念を破るのも良いことだと思いました
- ・閉館後の図書館利用について、楽しい企画を提案できたらと思いました
- ・既成概念にとらわれることなく、企画を立案することの重要性を再認識できた
- ・伊万里にも素敵な図書館があり、何らかの協力をしあいながら取り組んでいけないかなあと聞きながら聞いた
- ・人との「ツナガリ」を様々な取組に生かした事例を紹介いただき、今後の業務の参考としたい

◎活用度 3

- ・周囲の反対を押しての夜の図書館体験？
- ・学校図書館他とのコラボ…素晴らしい
- ・人財塾で見てきた活動の方向性をしっかり実践されていると感じました
- ・OG という立場ではなく、自分がどう変わっていったかが分かって良かったです
- ・図書館のイメージが変わりました。司書さんも自分の仕事の中で前に進もう、広めようとされている姿に勇気づけられました
- ・時間が短く、もっと知りたいと思ったので、帰って調べて質問等を直接各氏にしたい
- ・職員の役職に関係なく、やる気を持ってやりたいことを発信していく力が必要になると感じた

- ・日ごろの図書館内部の事情をよく知れました
- ・キーワードがとても分かりやすかったです
- ・司書の方が積極的に働きかけをされたという事例を初めて耳にしたので素晴らしいと感じました
- ・司書という立場でのご苦勞が多々あったのではないかと思います。ありがとうございました
- ・既成概念を打ち破るアイデアを提案して実行することで、図書館のイメージまで変えてしまう力があることに驚いた
- ・活動は普通であるが、行政以外の者としては話がよく理解できた

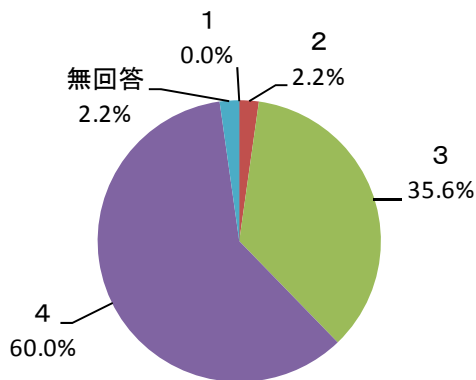
◎活用度 2

- ・小さなことからコツコツすることが大事

【事例報告 2】 岐阜県養老市 NPO 法人ヨロスト 代表理事 竹内 蘭 講師

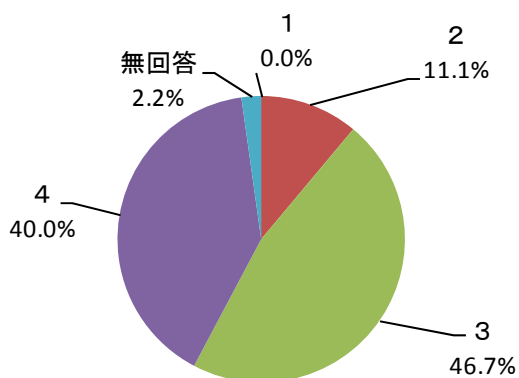
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.2%
	3	16	35.6%
	4	27	60.0%
	無回答	1	2.2%
	合計	45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	5	11.1%
	3	21	46.7%
	4	18	40.0%
	無回答	1	2.2%
	合計	45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・養老町ということもあって、後日担当者と詳細にお話を聞きます
- ・地域のために動いている竹内さんの明るさに私もやる気をもらいました。同じ岐阜県民として何かが変わることができたらなと思います
- ・パワーがすごい

- ・実践されている活動が認められれば、人は集まってくるし、サポートが自然とできてくる。自身も活動されている人たちの姿を見るようにしたい
- ・地域づくり団体とのかかわりのヒントを得ることができた
- ・アイデア、それを実行している姿勢が素晴らしい
- ・素晴らしかった！一度行ってみたい
- ・伊万里にはたくさんの宝があるので、それをどう活かしていけるのか、地域の人々と考えていきたい
- ・多様な人材（高校生）を積極的に活用している点や、活動の情報発信が上手く活用されている点で参考になった

◎活用度 3

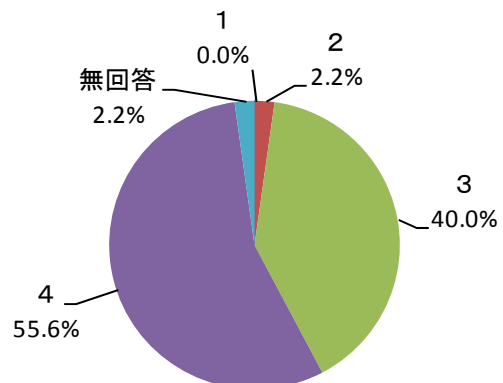
- ・ユーモアあふれる「布教」活動、素晴らしい
- ・信頼関係…形になるには時間がかかること
- ・小さな動きを見逃さない
- ・地域の宝の現状を知り、「布教」活動に取り組む姿勢が素晴らしい
- ・同じ岐阜県内として、とても驚かされました。ひょうたん一つとっても町の宝としていく姿に、学べるものがありました
- ・時間が短く、もっと知りたいと思ったので、帰って調べて質問等を直接各氏にしたい
- ・特産品を活用した取組に感激しました
- ・地域に密着した活動を継続するためのヒントをたくさん得られた
- ・地元の養老の瀧は、行きつけ居酒屋です（笑）。アクティブな活動、大変参考になりました。ありがとうございました
- ・メンバーの特技を生かして、できるだけお金をかけずに工夫されている手法が参考になりました
- ・活動への情熱がよく伝わり、思いを形にしていく楽しさを感じた

◎活用度 2

- ・少しの予算の中で工夫して活動されているところが素晴らしいと感じました

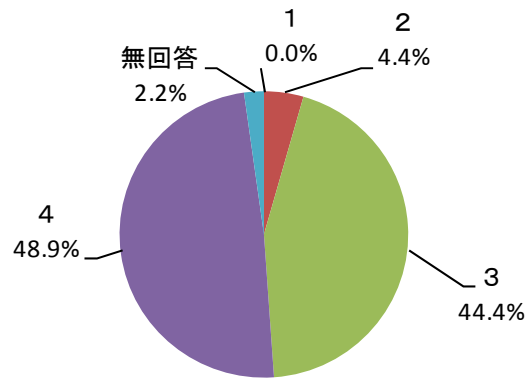
【事例報告 3】 兵庫県三田市 地域支援課 課長 青野 敬 講師

<理解度>		N=45	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.2%
	3	18	40.0%
	4	25	55.6%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	4.4%
	3	20	44.4%
	4	22	48.9%
	無回答	1	2.2%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・行政として身近な内容でした、こちらから働きかけるばかりでないこと、内側から変えなければならないことを学びました
- ・これからのまちづくり協議会の参考にしたい
- ・急がば回れの気持ちで、行政からやらせるのではなく、地域の自発的な活動として、やってもらえることが理想的であり、まちづくりの姿なのかなと感じた
- ・同じような仕事をされていることに親近感を受けました
- ・自身の業務に近く、実際に仕事を進めるうえで、参考になった
- ・行政職員のやる気が地域活性化のカギだと思った
- ・行政の立場での事例と言うことで、とても参考になりました。ありがとうございました
- ・西予市も地域担当職員を配置して、地域づくり活動を推進していることから、三田市の取組や手法は大いに参考になった
- ・地域の方々から言いだされるのを待つ大切さや、仕掛けを考えさせられた
- ・地域の方との接する機会を増やし、信頼してもらうことや地域の特性（リーダーの性格など）をうまくとらえる重要性を学ぶことが出来た
- ・行政にアプローチするために、考え方の一つとして提案できそう

◎活用度 3

- ・協力者、庁内でダメなら外で集める・急がば回れ・自分から積極的にうごかない？
- ・「行政の押し付け」が地域の自発を抑制させることを再認識した
- ・ポイントを抑えたお話をして、聞けて良かったです。
- ・何でも地域のせいにするのではなく、行政の責任でもあるという言葉に納得してしまいました
- ・時間が短く、もっと知りたいと思ったので、帰って調べて質問等を直接各氏にしたい
- ・住民全体の活動を後方支援するスタイルを貫き、「自分ごと」として捉えて住民が活動しているということが素晴らしいと思う
- ・行政の中で、地域に関わり改善していく様子がよく分かった

◎活用度 2

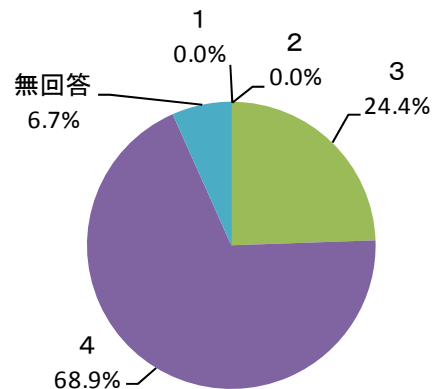
- ・すでに同じような取組を行っている（手法は違うが）

【講義7】 「地域づくりのマネジメント –効果的なプラットフォームの作り方–」

慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授 飯盛 義徳 講師

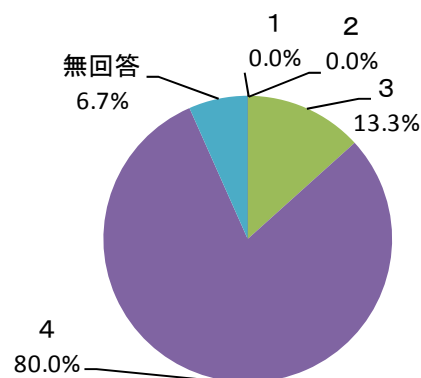
N=45

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	11	24.4%
	4	31	68.9%
	無回答	3	6.7%
合計		45	100.0%



N=45

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	6	13.3%
	4	36	80.0%
	無回答	3	6.7%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・資源持ち寄りによる主体性の萌芽を実践してみようと感じました
- ・どのように地域の基盤プラットホームを作っていくかがよくわかりました
- ・どの市町村でも出来るような新しい事業を行っていることに驚きました。私もすごくやる気をもらい、今にでもアイデアを出したいと思いました
- ・事例を目で見ながら学べたので、自分の地域にも活かせそうな発想をいただけたと思います
- ・まずは、地域が活動できる場（プラットフォーム）づくりが大切という言葉をお忘れのないようにしたい
- ・一歩が大切、行動を起こそうと思います
- ・プラットフォームからの社会的創発、現在の活動から何かが生み出される時を楽しみにしていきます。
- ・地域づくりのプラットフォームづくりは、行政が行うことであり、より地域に有効なプラットフォームはどのような形なのか、考えなければいけないと感じた
- ・体系だった説明に納得しました
- ・事例と理論がベストミックスであり、考えが深まりました
- ・ケースメソッドを体験してみたい

- ・仕組み作りについて体系的に理解できた。活動の最初の段階から、実施することが肝要なものもあると思った
- ・地域づくりをケースメソッドで学ぶという手法にとっても興味を持ちました
- ・行政の立場から離れた地域活動の取組を始めたところで、非常に興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました
- ・何もないことも資源であるという発想に驚いた。境界を上手に使い、楽しく自発的に実践していけるよう取組みたい
- ・自分たちで考えていただく場をどのように作っていくか、考えていきたい
- ・効果的なプラットフォーム設計の方法を学ぶことができた。今後どのように地域住民に参加してもらうかの参考とし、進めてまいりたい
- ・プラットフォームという概念が理解できた
- ・地元佐賀にこのような人がいるとは知らなかった。まだまだ勉強不足であると感じた。共に塾に行ってみたいと感じた

◎活用度 3

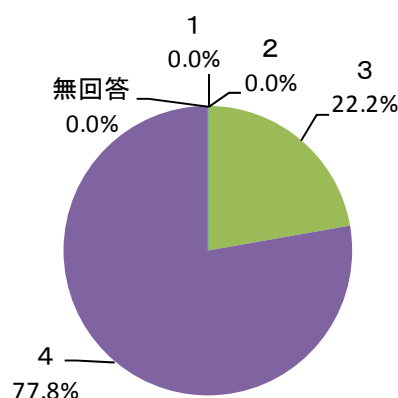
- ・当事者意識のための持ちより効果
- ・ケースメソッド(自分ならどうするか) が参考になった
- ・本研修の内容の再確認にもなった

◎その他

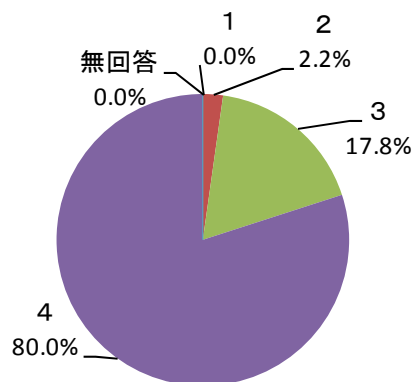
- ・「何もない」しかし考えれば資源がある、それを考えることから始めなければ何もできないと感じた

【講師との直接対話】

<理解度>		N=45	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	10	22.2%
	4	35	77.8%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



<活用度>		N=45	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.2%
	3	8	17.8%
	4	36	80.0%
	無回答	0	0.0%
合計		45	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・可能であればもっとたくさんのお話をしたかったと思います
- ・各々講師の厚い想いが伝わった、モチベーションをキープしたい、できることから始めたい
- ・直接お話しすることで、今抱えている問題にヒントが得られたような気がします。住民との向き合い方にも、自分から行動や相手の立場で考えるなど基本的なところから取り組みたいです
- ・講師の先生と一番近い距離でお話が出来て有意義でした
- ・普段聞けないことが、聞けて良かった
- ・講師と近くで話が出来て良かった
- ・直接対話の時間はとても貴重でした
- ・どれも身となり肉となりました
- ・自分の興味のある内容について質問でき、講師と直接対話でき、非常に参考になりました
- ・講義では聞けない話が聞けて良かった
- ・森先生との対話の中で、話す際の緊張の解き方等を教えていただけて良かった
- ・直接話が出来て良かった
- ・講義だけでは知ることが出来なかった細かい部分の話から、数々のヒントが得られました
- ・それぞれの先生方の特徴のある対話、目と耳と心にそれぞれ響きました。貴重なお時間を私たちのために本当にありがとうございました
- ・講師と直接対話出来る研修は初めてでした。とても貴重な経験でした。もっと時間が長くても良かったです
- ・事前アンケートの時点で先生の情報がなく現地に来てから、「この先生の話が聞きたい」と思ったことがあった
- ・どの講義も非常に緊張して、クタクタになる程だった。しかし、講師の熱気に触れることが出来良かった。まだ消化不良気味だが自分の中で整理していきたい
- ・講話の内容以上に、詳細な地域づくりの進め方や話し方のポイントなどを学ぶことができた。また、講師と直接話す機会が貴重な経験となった
- ・今後継続できるようにしたい
- ・アンケートでの選択の時は何をするのか全く分からなかったが、実際の対話は楽しく学べた
- ・深く話を聞くことが出来たり、分からなかった所を尋ね直せてよかった

◎活用度 3

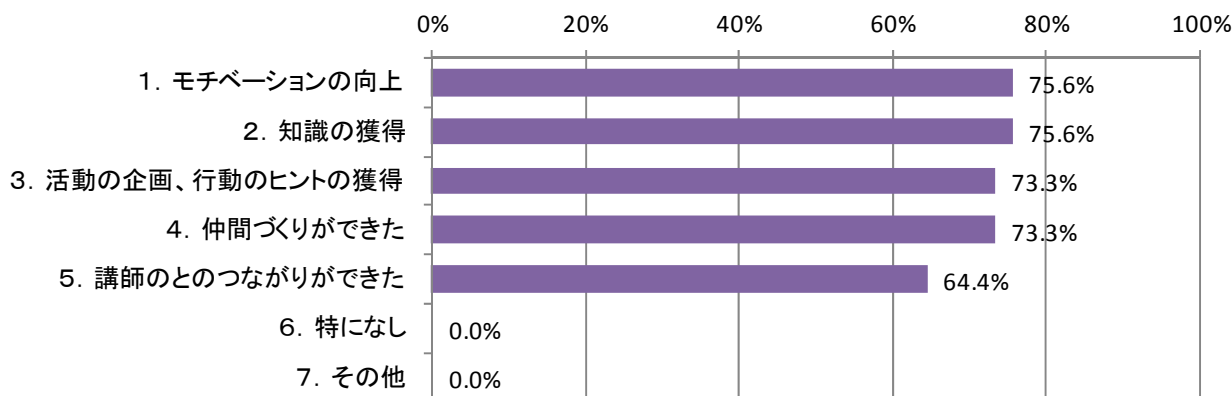
- ・全ての講師の方とお話しできるのかと思っていましたが、1 枠は希望でできるとよいです
- ・講師の方々と直接対話（少人数）することができて、講義の中では聞けなかったことも、具体的な事例等を紹介いただいて非常に有意義な時間となりました
- ・細かい点をお伺いできました
- ・直接対話の時間は、貴重な経験をさせていただけたと思います。もう少し余裕があるといいと思うので、あと 1 日位あればもう少し深い話が出来ると思いました
- ・少し先生の話が長く、時間が短い、5 名の先生との話を小グループで出来て良かった

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。

下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

	N=45	
	回答数	%
1. モチベーションの向上	34	75.6%
2. 知識の獲得	34	75.6%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	33	73.3%
4. 仲間づくりができた	33	73.3%
5. 講師のとのつながりができた	29	64.4%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	0	0.0%



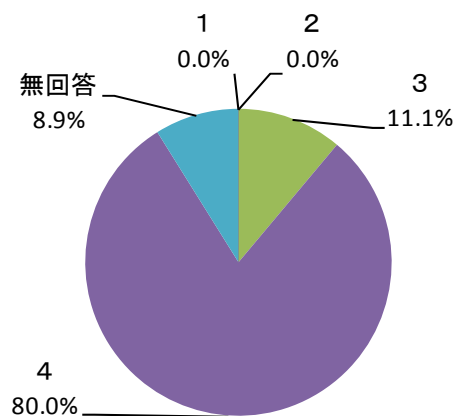
<その他内容>

- ・ネットワークを今後、活用したい
- ・「まちづくり」という漠然というものに対して、焦らなくとも良い、ゆっくりと着実に進んでいけばよい、自信を持っていけば良いと分かりました
- ・講師が最初から最後まで、食事や夜の付き合いまでご一緒いただけることは大変嬉しかったです。親しみを感じました

- ・思いをもった人達と知り合うことができたことは財産であると思っています。また、コミュニケーションの仕方をはじめ、様々な知識を新たに学べたことがとても良かったです。
- ・モチベーションが向上しました。全国各地の事例を見ることができて大変勉強になりました。このような機会を設けていただけたことに感謝します
- ・モチベーションがUPしました
- ・地域づくり活動を4年間やってきて、少し行き詰まり感を感じてきた中で参加させてもらいました。講師の先生の熱いお話、同じ志を持った仲間との出会いがモチベーションの向上につながりました。帰ったらすぐに行動していきたいと思います
- ・今回の参加の目的は知識の獲得とネットワーク作りであり参加してよかった。また人づくりや地域づくりに大切なポイントを知ることが出来た
- ・活動を続けていく勇気もらった

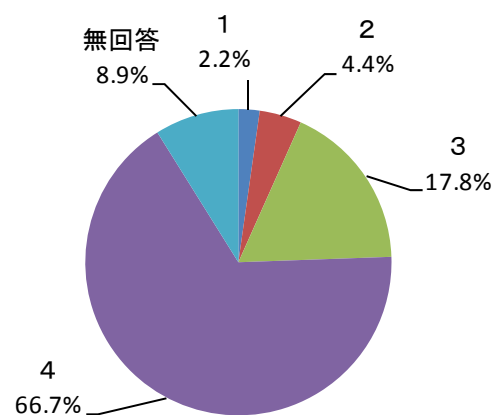
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

		N=45	
<活用度>		回答数	%
↑ 思わない 思った ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	11.1%
	4	36	80.0%
	無回答	4	8.9%
合計		45	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

		N=45	
<活用度>		回答数	%
↑ 良くなかった 良かった ↓	1	1	2.2%
	2	2	4.4%
	3	8	17.8%
	4	30	66.7%
	無回答	4	8.9%
合計		45	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- ・先生毎の持ち時間が短い⇒4日コースにしてはどうか
- ・講師との直接対話は非常にエネルギーを使うので、2日間に分けて実施してはどうでしょう。3Rが限界でした
- ・講義外の時間で仲間づくりをする時間を交流会の時間以外でも欲しいと思ったので、研修期間を一日延ばせればよいと思った
- ・曜日の関係、金曜日に終了して、その後、現場研修や有志 OB、OG、まちづくり関係者と会える機会があるとよいと思います
- ・グループトーク後の各班の振り返りの発表時間が1分間(3分間)と決められているにも関わらず、大幅にオーバーされるケースが多く、大変気になりました
- ・グループトークの時間をもう少し長くとっていただければと感じました
- ・受講者同士がもう少し交流できる時間があればよかった(2日目遅くまであり、自由時間があまりなかった)
- ・直接対話の時間は1コマずつあると多いのではいかと思う。1コマの半分ずつ位の時間が適切だと思います

<研修内容について>

- ・直接対話は事前に質問を提出した方が効率的だと感じた
- ・大変参考になりました。ところでひとつスタッフの方々に、進行についてもう少し活発に言葉をはっきり、会を盛り上げるようにしてください。全体的に言葉が暗かったですよ
- ・あらかじめテーマ(大きなものでOK)を決めて、それに対する考え方を事前に提出した上で、講師交えて議論してはどうでしょうか
- ・研修の内容に関しては、どの講義もかゆい所に手が届く内容であった
- ・ワークショップのようなものを増やした方がよい、講義だけの3日間は眠くなる
- ・どの取組においても最初のスタートが大変難しく、苦勞されていると思われまますので、出来上がった内容よりも最初の苦勞された内容や手法に重点を置いたお話を希望します(実践の最も参考になる部分と思います)
- ・フリートークの時間を設け、各団体の悩みや新しい企画などの話せる場をほしい
- ・やることが少しわかりづらかった。行動宣言を作成することを中心においた研修と、勉強する研修は分けた方が良いのでは
- ・講師との対話の準備として質問を考えておく必要がある(事前準備必要)。講師との対話において、1~4Rで異なる講師と対話すると思っていたいなかった(希望をとったのでどなたか1人のみとの対話と思っていた)
- ・講師との直接対話が楽しく学べたが事前アンケートの時点で選ぶには材料が少なすぎたので、受講直後に選ぶ等の配慮がほしかった
- ・直接対話の講師選択に当たって、もっと先生の情報がほしかった
- ・もう少し実践例を聞きたかった

<その他>

- ・大変有意義な研修でした
- ・充実した内容、施設、環境でとても良い研修でした
- ・毎日座席が変わることは良いと思った。グループが変化することで話がしやすかった
- ・ものすごく充実していて、まだまだ消化不良です。が何とか活かしていけるよう整理したい。気づいていない私が悪いのですが、良かったらこのアンケートは講義の後に少しずつ書いてった方が良い的なことを言っていた方が有難かったです
- ・建物、施設についてのアンケートがなかったので、ここで書きます。部屋等でパソコンを使用するが重たいように感じました。
- ・研修所内にワイファイをお願いします
- ・研修内容ではないが、可能なら部屋にドライヤーがあればよいと感じました
- ・特にありません。数々のご配慮ありがとうございました

③今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

- ・ケースメソッド
- ・具体事例（実践）を通じて出ている課題を持ち寄っての対話研修
- ・特になし
- ・東日本、西日本（大阪）は、組織があるのですが、中部には組織がないような…何か東海地方で皆が集えるようなものがないか中部地方の実践家を探すなりしていこうと思いました
- ・出来るだけ現場で活躍されている方の講義を受けたいです
- ・受講生の実践発表（うまくいかなかった例も含めて）
- ・現地での研修・短期のステップアップの研修を多く行ってほしい
- ・まだわかりません
- ・各町村の活動状況を発表しあう場などがあると（自慢大会のように）相互に刺激し合って良い効果が得られると思います。開催市に負担にならないようなことも考えるべきかと思います
- ・山武市の豊山さんや三田市の青野課長さんのように、行政職員として、どのようなかわりをされたのか学習したい
- ・小田切先生や飯盛先生の講義には、また参加してみたい
- ・受講生同士で討論、意見交換が出来る場があるとよいと思います
- ・良い事例がある現地に出向き体感したい

2. 自治大学校編

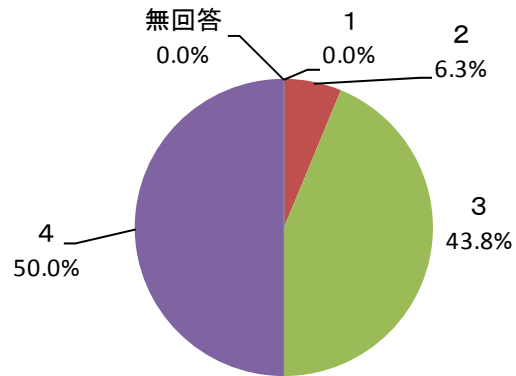
①各プログラムに対する評価

【講義1】「地域づくりのマネジメント ―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授 飯盛 義徳 講師

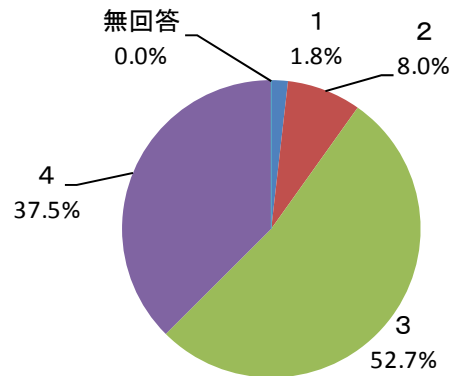
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	7	6.3%
	3	49	43.8%
	4	56	50.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	1.8%
	2	9	8.0%
	3	59	52.7%
	4	42	37.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	112	100.0%



<感想>

◎活用度4

- ・社会的創発を生み出せるよう、仕掛けもさることながら信頼される行政でなければと考えました
- ・自分の地域でまちおこしをしようとしている団体を思い浮かべながら聴講した。人材育成にはある程度の時間が必要だが、自分もコーディネートするスキルを身につけたいと思う
- ・学生たちによるまちづくりに大変興味があります。プラットフォームをつくることは信頼を作ること。まだいまいち理解できていないところもあります
- ・プラットフォーム作りの必要性について漠然と認識していたが、行き着くところは「人財」づくりであることの説明により考え方がクリアになった
- ・具体的な事例を数多く紹介していただき、参考になりました。大学・NPO と行政の連携が地域づくりには重要であることを理解しました
- ・具体的な事例を中心に講義をしていただき、効果的なプラットフォーム設計など、大変学ぶべき内容が多く、今後の業務に生きる講義であった
- ・何もない所に地域資源を生み出すなど、アイデア、情熱で地域の活性化を可能とした先進事例をもっと研究したい

- ・地域資源が、人、モノ、情報であるのが再度理解できた。強いつながりは居心地が良いが、弱いつながりも重要なのが良く分かった。地域づくりには人材の活性化も不可欠なのが理解できた
- ・先生の活動や研究会の様子を知ることが出来た。地域の大学生との連携や、行政としての効果的なプラットフォーム設計を、重要性をさらに学び活用を図っていきたい
- ・「地域づくり」の考え方や自治体職員としての役割など、様々な事例を含めての講義は、とてもわかりやすく参考になりました。行政の場づくり、人材力活性化など、すぐにでも活用したいと感じました
- ・プラットフォームと言うキーワードが分かったような気がしました。これまで少し漠然とした感じ（まだしっかり掴んだ訳ではないと思います）でしたが、具体的事例とのセット解説は良かったです
- ・何も無い状況からアイディアを出し、街づくりを進めている点が参考になった
- ・飯盛講師の実際の取組の紹介を通して、人と人とのつながりの重要性や、あるいは地域づくり、人づくりには基礎、基盤となる効果的な仕組みづくりが重要であることを学ぶことが出来たと思います。高齢者の福祉の業務に携わっていますので、地域力を高めていくことは、今後の超高齢社会にとって重要な課題と考えています。この講義の感想の内容を今後の業務に役立てていきたいと考えています
- ・社会的創発が生まれやすい環境、場づくりの仕掛けの参考になりました。即やってみようと思います。ケースメソッド（飯盛先生方式の）にも興味津々です
- ・ケースメソッド、とても面白い取り組みだと感じました。地元の若手職員たちで早速やっていきたいと思います
- ・もう 30 分位話を聞きたかったです
- ・講義で様々な地域の取組を紹介してもらい、地域住民が自分たちで考え、行動している事に驚いた
- ・「何も無いのではない、何でも資源にしていく」との言葉が印象に残りました。事例紹介があり、分かりやすかったです。行政として、場づくりに力を注ぐ必要性を認識できました
- ・興味深い事例を多く示していただき、自分でもいろいろ見てみたいと思いました。資源の持ち寄り、場づくりなど、今まであまり知られていなかった協働のポイントとして参考になりました
- ・興味のある内容であり、非常に参考になりました。業務に活用していきたいと思います
- ・現在の業務で、地域のつながり作り、そこから始まる地域内の互助、支え合い活動を支援しているが、やってください、お金は少し出しますというやり方で、継続性に難がある感じで悩んでいたが、まさにマネジメントが不足している実態です。すぐに活用できそうです
- ・これまで携わってこられた他都市の事例紹介を沢山していただき非常に参考になった
- ・どこにどんな地域資源（人・ブランド）を活用したプラットフォームを作り出す事が重要かが分かった
- ・地域の資源化のプロセスは、プラットフォーム、つながり形成が大切であること、これが大切で、この設計についての話は、とても共感が持てました。地方公務員として、その役割が果たせるからと思いました
- ・住んでいると見落としてしまうような地域の資源は、たくさんあると考えて、いかに資源化に結び付けていくか、という視点を持ち続ける必要があると認識しました

- ・これまでの各地域で地域活動を具体的事例を交えて説明していただき大変参考になりました。特に岩見沢駅の「制約と可視性」の話は印象に残っています
- ・プラットフォーム作りは行政が一番関わる事が出来る分野だと思った
- ・まち（地域）づくりにおいては、命令や強制をしないことが大切であると述べられた点について、行政の枠に押し込めてしまいそうになりがちであるが、そうではないことを実践し検証されており、認識を深めた
- ・鳳雛塾の事例は、大変参考になりました。産学官民「全」労官の連携に成功した事例の、嚆矢であるのではないのでしょうか
- ・わかりやすい説明で、内容も納得できるものだった
- ・地域の資源を再発見し、プラットフォームを構築する（設計する）というわかりやすくイメージしやすい内容。ただ、実践には事例の細かい内容理解が必要と思う
- ・日本で一番、地域連携がうまくいっている自治体が「金沢市」ということを話されていました。このような知らない情報等を色々と勉強できて良かったと思います
- ・熊本市においても身近なことから始められそうだと感じました
- ・自分自身が経験されたことを話されてすごく解りやすかったと思います。何もないではなく、自分たちで資源にしていくという創造が大事であると感じました
- ・社会的創発と、その土台となるプラットフォームについてのところが大変興味深かった
- ・マネジメントしてゆく中で「トップダウン」から「場づくり型（プラットフォーム）」の大切さを理解できた
- ・地域づくりには、人づくりが重要であり、高度なマネジメント能力を持った人材が必要である
- ・アントレプレナーは地域を元気にすると思います

◎活用度3

- ・内容は充実したものだったが、時間が短かった。人づくりの具体的な手法や事例が聞ければ良かった
- ・とっかかりは分かりやすかったのですが、講義時間が短く残念だった
- ・ご自身の経験と具体例をあげて説明していただき分かりやすかった
- ・具体的な事例を用いての内容で興味深かった
- ・創発という考え方を知り、地域づくりにおいて予期もしなかった良いことが起きるヒントや、考え方を知ることが出来た。何もない所から、何かが生まれそうな気がした
- ・地域づくりの仕組みづくりを体系的に学べた
- ・バーチャル村民や、はっ葉産業等、地域にあった発見・掘り起こしであり、一工夫した南房総市の取り入れ方を経営学から導きたい
- ・とても分かりやすく地域づくりのポイントを教えていただいた。人づくりの重要性、プラットフォーム等が印象に残った
- ・地域づくりにおける主体的な人づくりの重要性を認識した
- ・地元の若者が転出する前に、子供達に地域の良さを伝えることの大事さが印象に残りました
- ・住民協働のプラットフォーム作りが重要とのことで、今後の活用性を感じました

- ・すでに存在する人、モノ、金、情報が地域づくりで重要な資源になる事を学んだ。普段の生活の中にも資源となるものがあるのか見直してみたい
- ・地域づくりには、効果的なプラットフォームの設計が不可欠で、ヒト、モノ、情報など、そこにあるものを地域資源として発掘し、総合的に自由でオープンなプラットフォームを形成していくことが重要だと思った
- ・命令や強制なし
- ・地域資源はヒト、モノ、カネ、情報・富山は地域づくりの先進地？
- ・パワーポイントの内容、デザインが分かりやすい
- ・地元金沢が紹介されていて、この機会に勉強になった
- ・地域づくりに銀行や商工会なども巻き込んで展開できたのは良い手法だと感じました
- ・学生による町づくりプロジェクト等について学ぶ事が出来ました。当町では、新しい風を起こすと遮る風潮があるが、積極的に若い想像力を引き出し地方改革を提案したい。ありがとうございました
- ・行政における“プラットフォーム”という言葉は初めて知ることが出来ました。今ある資源を活用した地域づくりについて興味をもてました。新しい発見が出来ました。ありがとうございました
- ・地域づくりにおいて、市条例制定による大学と連携した取り組み、地域資源活動へのプロセス、人（リーダー）づくりのポイント等、地域活動の仕組みや事例紹介も含め勉強となりました
- ・資源がなくても作り出すという発想には感心しました。また、今あるものも、気付きや工夫によって資源になりうるという事も学ばせていただいた。これは十分活かせていくことが出来ると思う
- ・資源の有無にかかわらず、なけれな作りだせば良いこと。多職種、多年代で協働することも有意義であると認識できた
- ・地域の活性化、地域資源の再確認において、行政、地域コミュニティだけでなく「まちづくり」に興味を持つ学生や行政が共に話し合うことの大切さ、また行政が人と人を繋ぐパイプ役を担うことを学びました
- ・具体的な事例を基に、地域づくりにはプラットフォーム設計が重要であることが理解できた
- ・プラットフォーム作りが大切だと言うことが印象に残りました。いかに“場”を作るか、実際には難しい課題だと思います。事例を詳しくお話いただけると良かったです
- ・地域づくりを進めていく上で、リーダーとして心得ておくことは、決して命令や強制するのではなく、自発性を重視することだということが勉強になりました
- ・それぞれの地域の資源を活かして、新しい活動を始めていくことの大切さを考えさせられる内容だった
- ・人材育成や事例紹介が具体的で分かりやすく参考になった
- ・地域づくりに人材力の活性化が大切なことが良く分かった
- ・プラットフォームの重要性が、プラットフォームを上手く構築するポイントは初めて聞く事柄であり、具体的に有用なものとなりました。しかし、時間が短く2時間の授業として、最後までしっかり聴講したかった
- ・「社会的創発」予期もしないようないいことが起きる環境づくりの大切さを学ぶ
- ・プラットフォームのイメージが少し難しい。ゼミで実践していかなくは、理解が深まらないように思った

- ・時間の関係もありますが、事例紹介のところを、もう少しじっくりとお聞きしたかったです
- ・「資源が何もない」とあきらめるのではなく「資源にできないか」という視点から、常に地域を見、また色んな人たちと関わり、つながっていくことが大事だと感じました。その結果、1つの活動から新たに色んな活動が生まれ、予想もしなかったことが次々に起こるといふ事例を見て「次はどんな創発が起きるのだろう」とわくわくとしました
- ・地域づくりに、命令や強制をしないのが、行政の持つ信頼を活かすことと再認識した
- ・資源にしていくことと、その資源を上手く活用していく人づくり、その両方が重要だと思いました
- ・地域づくりに対する漠然としていた思考を整理することが出来ました
- ・先進的な事例等も織り交ぜて聞けて、イメージしやすく参考になった。特にマネジメント論やプラットフォームといった考えや意識を、今後にとろうという意識付けとなった
- ・講師の方の実体験に基づいた説明は、聞いていて話に引き込まれるものがあった。但し、自身の知識不足から、講義時間内では理解を深めることが出来なかった
- ・「高校を卒業して地元を離れる人が多いと思うが、地域の事を知った上で出ていくのと、そうじゃないのでは大きな差がある」といわれ、自身がそれをあまり知らない状況だった事を思い出し、本当のそういったものを発信し、理解していける土壌づくりをしていかなければと思います
- ・事例紹介が多く役に立つが、プラットフォームの作り方など、後半に重点を置いてほしかった
- ・話が分かりやすく説得力があり、興味深かった
- ・地域づくりにおいては、様々な「地域資源」を総動員して活用すること、また色々なものを資源化していくことが重要だということを理解できた
- ・地域づくりの活動において、命令や強制をしないよう注意したい
- ・地域資源の持ち寄りや、地域における連携により、地域の創成、活性化を計ることの重要性と、自治体職員としての役割について認識できた
- ・地域づくりの基礎となる人づくりの重要性、また、地域資源の発掘手法など、身近な話題も多く、興味深かった
- ・プラットフォーム設計について学んだ。命令や強制をせず。また、地域資源としていろいろなものが活かせることが分かった
- ・講師の熱心な取組が、地域の輪を作られ発展されていることがわかった
- ・改めて、地域資源の再認識と、それをふまえた創発という考え方に感銘を受けた。プラットフォームという概念のもと、これからの施策立案に役立てたいと思いました
- ・地域資源化のプロセス、プラットフォームと設計のポイントなど初めて聞く内容で参考になりました。ただ、時間がもう少し長いほうが良いと感じました
- ・人と人のつながりは地域資源であり、ひとづくりが重要である。ひとづくりが地域づくりへと発展していく。そのためには効果的なプラットフォームづくりが大切である
- ・地域資源の活用について具体例を挙げることでヒト、モノ、カネ、情報の地域づくりを考える上での重要性を認識させられた
- ・地域づくりを推進していくためには、短期間ではできない。また、限られた予算の中でどのように工夫してやっていくかが、行政に求められている。具体的には、地域での人と人をつなぐことで、プラットフォームを築きあげていくことが、行政の役割であることを認識することができた

- ・(大切と思ったキーワード) ①命令や強制はしない。②プラットフォームが大事③縁側のような場所をいかにつくるか
- ・各地域にある資源を再確認し、それをベースにした(効果的な)プラットフォームの設計ポイント、考え方についてイメージできた
- ・社会的創発(予期しなかったいいこと)を導くために、信用のある公務員がきっかけづくりをすることが大切と感じた

◎活用度 2

- ・内容としては新しく面白いと感じました。ただ実践となると大変な苦勞があるのでは?と思いました
- ・人材育成と創発の機会が得られる場を提供していく取組が、将来の地域づくりに与える良い影響として広がっていくことを期待するとともに、質の良い場を維持することの難しさを感じた
- ・各地域における地域づくりが具体的に説明された
- ・パワーポイントの画像選択、非常に興味を持った
- ・地域づくりには、人の力を集める、マネジメント、しくみづくりが必要との重要性がわかりました
- ・住んでいる人にとっては、何の変哲もない風景、物が資源として活用できることを事例により、分かりやすく紹介していただき、参考になった
- ・地域づくりを推進していき、成果が出るまでには時間がかかる。また予算も限られている。そのため、行政に求められているのは、人と人をつなぎコーディネートできる人であり、プラットフォームを築き上げていくことが重要であることを学んだ。
- ・文言が地域特性を考えた時、もう一つエッセンスを加える必要あり

◎活用度 1

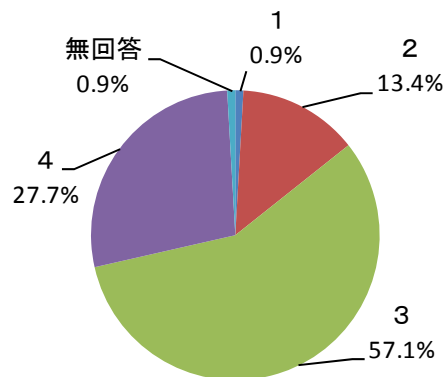
- ・人財を育成することはとても難しいけれど、色々な年齢層に応じた人財育成の課程を教えていただきました。鳳雛塾の塾生が増えているということは、それだけ魅力のある活動をされているからだと感じます。日常生活においても参考にさせていただきます
- ・境界の設計(内と外)の部分があまり理解できませんでした

【講義2】「人口減少時代と、地方公務員に求められる力」

龍谷大学 名誉教授 富野 暉一郎 講師

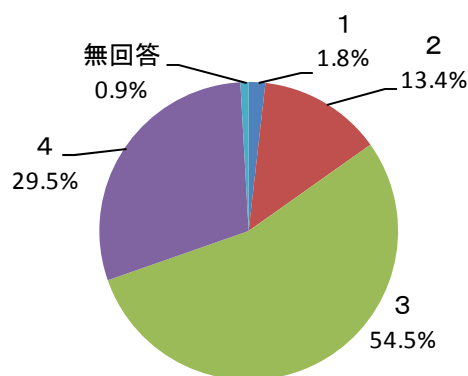
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	15	13.4%
	3	64	57.1%
	4	31	27.7%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	1.8%
	2	15	13.4%
	3	61	54.5%
	4	33	29.5%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 富野名誉教授のおっしゃる期待される人材であるために、学び続けなければと思いました
- ・ 改めて、公務員の役割について考える機会となった。自身で動き、考え、知恵を絞る…当たり前のことだが、地域の人と一緒に汗をかくことを忘れていたように思う
- ・ 公益とは、公共サービスとは何か改めて概念を学べて良かったです。市長だった時の話をもっと聞きたかったです
- ・ 協働の理論と実際の活動について知り、**Local Government** としての持続可能な社会における人々の暮らしを守る、循環型の社会形成の必要性を理解することが出来て良かった
- ・ 人口減少の構造、社会における公益の講義など、興味のある内容だったため、もっと長い時間をかけ勉強したいと感じました。今の地方公務員に求められる能力、資質についても勉強になりました
- ・ 元市長の経験談を交えた話は分かりやすく、説得力があった
- ・ 講義の内容としては少し難しいと思いました。しかしながら、行政マンとして持つべき意識や今後の在り方について改めて考えるきっかけになったと感じています。「最小の公共的サービスで最大の社会的サービスを生み出す」という言葉を今一度受け止めて、今後の仕事に活かしていきたいと考えています
- ・ 勉強不足で元逗子市長さんであったことを存じ上げませんでした。講師紹介があると、もっと分かりやすかったかもしれません。受講者になって気付きました

- ・与えられた業務を、ただただこなす、今までの自分がいかに本質をみずに仕事をしてきたかよく分かりました。一市民としてどうすれば市が良くなるのか、独りよがりにならず、市民や企業と話し合える環境を作っていきたいです
- ・人口減少社会において、行政関係機関、企業、住民がどのような役割を果たすべきかを体系的に学ぶことが出来ました
- ・職員が減る、行政サービス向上が求められる中での方向性が見えました
- ・元市長だった方で、行政の事が良く分かっているので活用度がとても高いと思う
- ・人口減少時代、地方自治体経営の考え方を再認識できたと共に、市民への説明、協働型社会の公共サービスの在り方等、勉強になり、また市民（権利者である）の捉え方、公務員の地方公共人材としての期待などの話に感銘を受けました
- ・公共＝行政ではなく、企業や住民にも公共を担わせる（転嫁する）ことによる社会参加や住民協働へ転換していく必要性を感じる事が出来た
- ・なぜ今「協働」と言われているのか、そのために「市民」「企業」「自治体」が良いバランスで公共サービスを構築していかなければならないのか、が良く分かりました。但し、プロデュースする自治体は口を出し過ぎないのも注意点だと思いました。また市民との対話で「行政職員は説明が下手」「どうしても説明しようとする」という内容には、自分にも思い当たる部分が多く反省しました。
- ・地方創生を考える中で、人口減少をいかにゆるやかなグラフにしていくか、その取り組みを考えたい
- ・市長としての経歴からの、実務からのお話などは、とても説得力があり、とても興味深かった。特に市民に対する回答、対応方法は実践したい
- ・人口減少社会において、女性が住みやすいと感じられる町づくりが必要であるとの説明は、今までに邑南町が取り組んでおり、間違っていないと感じました
- ・元市長と言う経験も交えながらの説明は、大変興味深いものでした。特に「財政の基本は、出を計って入るを制す」は新たな発想だと感じました
- ・これまでの公共論から、これから新しい公共論として求められる公益性について考えさせられた。あまり本務を行う上で意識してなかった視点だったので、改めて基本的な考え方について勉強させていただいた
- ・企業と市民との協働について、理論的に良く分かった。実践したい
- ・地域住民の方々に対して、誤解なく「協働」の考え方をご理解いただくことは大変難しいと現場で実感しておりましたので、非常に参考になるご講義でした
- ・神奈川県逗子市長であったということで、自治体の状況等を詳しく説明していただき、話が分かりやすかった
- ・地域と協力しながら市民サービスを行っていく
- ・「三方よし」という考え方について、さらに理解を深めたいと思った。また、部下の育成についても理解を深めたいと感じた
- ・これからの公共サービスは行政だけが行うものではなく、行政・市民・企業一体となって、協働型への移行が必要。そのためには、職員の考え方も変えなければ
- ・官だけの力では限界があり、協働型社会を作っていくことの必要性、及び公務員として求められる基本的資質を理解するよい機会となった

- ・地域経営の在り方について学問的見地から講義いただき、他の講師とは異なる視点から考えられた。また、今、時代は大きな転換点にあり地方公務員も地域の公共人材として活用することが求められていることが理解できた
- ・地域社会を持続していくためには、公共の構造を再編し、行政事務はセクター間の協働の関係性を協働して再構築しなければならない
- ・まさに限界集落に住んでおり、公務員としての公務で接する部分と、地域住民の一員としての取り組みを行っている。「行動」が原点であり、活力の源である
- ・人材育成の重要性をあらためて感じました。発見する、気づく、が自分に足りないと思いました

◎活用度 3

- ・自己紹介がそれほど詳しくなかったのが、話の途中から「市長として」との話があり、どこの市長だったのか分からず、頭にあまり入らなかった。途中で逗子市長だったことが分かり、隣町の市長で親近感がわき、話に夢中になりました。お話を聞くことが出来、感激しました
- ・話すスピードが早く理解が追いつかないことがあった
- ・元市長とのことで役所の仕事の実情も詳しく、共感することも多かった。仕事のやり方を少しでもいい方向に変えていきたい
- ・逗子市の事例は大変参考になった
- ・理論的裏付けを学ぶ機会をいただけた事を嬉しく思う。歴史的背景から、市民との対話の3つのレベルまで、ぼんやりと感じていたことの整理が出来て良かった
- ・理論的に細かく噛み砕いた内容だったと思うのですが、量が多くスピードも速すぎて途中からついていけなくなってしまいました
- ・市長としての体験談は、職員の視点とは異なり、参考となる部分が多かった
- ・現在の人口減少時代における地域づくりのポイントや、歴史の変遷、地方公務員に求められる力について体系的に学ぶことが出来た
- ・「行政職員は「権力」という危険物取扱責任者である」、「財政の基本は、出を計って入るを制す」という言葉に、はっとさせられた。常に意識していきたい
- ・財源が限られる中、行政だけでなく、企業、住民と作りだす、新しい公共の必要性を感じた
- ・公益とは何を実現するか、最大の効果を上げるにはどうするか、再度考えさせられた。市民、政府、企業が社会を支えるパートナーシップであるが、即答を避けるという点で為になった
- ・いい意味で、きちっとした手抜きで事務量が増え、職員が少なくなっていく中で効率的に物事を進めることを心がけたいと思った
- ・プロフィールと市長時のお話をもっと聞きたかったです
- ・トリプルボトルラインをはじめ、地方自治の在り方を再認識した。協働の解釈は住民を始め理解不足を感じる
- ・理論的な内容と言うか、モノの見方を変えていく内容なので、理解はしても体に染み込み実践できるかは不安。常に意識しながら業務を見直していくことだとは思いますが、古い意識が染み込んでいます
- ・元市長の実体験を元にした話が興味深かった
- ・体系的に学ぶことが出来ました。住民やNPOなどをコーディネートする力が必要だということ

- ・市長としての経験に裏付けられた、今後の行政の在り方について共感を持った
- ・行政に閉じこもらず、積極的に市民社会に溶け込むことを心がけていきたい
- ・住民、行政だけではなく、企業も含めた全てのセクターの協働により、持続可能な地域づくりを展開することが重要で、行政は広い情報で、社会全体がどのように動いているか見極める力が必要だと感じた
- ・日本のあたり前は世界で売れる
- ・一番の間違ひは、市民を消費者に落とし込んでしまった
- ・良い意味での手抜き行政が大事、とにかく分かりやすい講義でした
- ・元市長と言うこともあり、現場をよく分かった上での講義と言うことで、とてもよかったです
- ・地域コミュニティの創造について住民から求められる能力について学ぶことが出来ました。地域住民とともに目標に向かい協働していける真の住民自治の構築をめざしていきます。ありがとうございます
- ・行政職員と権力について、今まではそれほど自分が意識したことはありませんでした。行政が地域住民と関わる事について受け身になって物事を見る大切さを改めて感じました。ありがとうございます
- ・自分も含めて、市民とともに「福祉国家」という考え方の転換が必要で、その為の人材育成、地域づくりに繋がっていくのだと感じました。元市長のためか、市職員の立場もよくご存じで、楽しく拝聴させていただきました
- ・行革に対する考え方について、「正しいサボり方」という部分が、これからの公務員の仕事の仕方の根幹なのかなと感じました。本来やるべきことにきちんと力を注げるようになりたいと思います
- ・当市でも「協働」を推進するいくつかの取り組みが実践されていますが、何故「協働社会」が必要なのか、その背景にある課題を少しは理解できた気がします
- ・市長としての体験談を交え、新しい公共サービスの在り方について、講義をしていただき理解を深めることができた
- ・協働が大切だということは分かっていますが、その意識を市民に持たせることが、なかなか難しいのが現状です。そして、それが自治体の課題でもあると思います
- ・人口減少が進む日本において、行政活動を展開していく上で、住民参加、住民主導がとても大切であるということが分かりました
- ・自治体を知り尽くした講師の方が具体的な講義をしていただき、今後の仕事に活かす事が出来る内容が多くあった
- ・興味のある内容であり参考になりました。より実務的な事例をもっと踏まえていただけたら、より良かったと思いました
- ・市長を経験された方ということもあり、地方自治体の内情を踏まえての講義であり、実務に即した内容でした
- ・財政の立場から、出を計って入るを制す、という考え方は新鮮で考えさせられた
- ・市民に言われたら、すぐにやるのが良いことだと思っていたが、市民に考える機会を作ることが必要だと教えられ、考えさせられた
- ・3つの公共サービス、継続性、責任能力、専門性について学ぶ

- ・やや話しこみ感があり、全体的にポイントが多すぎて、聞いていて混乱した。後半の協働・地域社会公共人材として、どうあるべきかに重点を置いて、じっくりと聴きたかったと感じた
- ・市長としての歴史を、もう少しお聞きしたかった
- ・日々の仕事に追われがちな公務員としての在り方を、学術的観点から気付かせていただきました
- ・協働型社会・持続可能な社会づくりの必要性と、それに必要な職員像がイメージできました
- ・時代と共に公共を担う部分の割合が、行政であったり NPO であったり変化してきたことを再認識。社会全体で…ということが強く残った
- ・公務員は「権力」という危険物取扱責任者という言葉が印象に残りました
- ・「ライタータッチ」、「社会に開かれた県庁」を常に意識していると、職務上のジレンマに陥りそうなときも、解決の指針となると感じました
- ・少し観念的で分かりにくかった。行政と市民との対話にあたっての話は分かりやすかった
- ・参考になった。時間内に全ての資料に対する講義を聞くことが出来なかったのが残念でした。もっと聞きたかったです。地方公務員として求められる資質の尺度の契機となった
- ・確かにおっしゃられる通りであるが、新しい発見はなかった
- ・持続可能な社会を実現するため、行政や公務員がどうすべきか、元市長の立場も含め、分かりやすい講義であった。すぐやる課ではなく、政策論的思考で対応するなど、今後の業務の参考になった
- ・元市長と言う経験を基に講義される内容には改めて重みを感じた。社会構造の変化により、市民、政府、企業の全てのセクターが持続可能性を担う、公共的存在とならなければならない必然性について理解と認識を深めた
- ・改めて協働とは何かということの説明を頂き、その言葉の意味を再確認することが出来た
- ・協働型社会構造改革の部分を、もう少し詳しく説明してほしい
- ・これからの人口減少時代において「持続可能な社会」へと変換していくためには、行政と市民と企業と言う 3つのセクターの協働がとても重要であることを学んだ
- ・行政だけでなく、地域全体で公共サービスを支えるようなパートナーシップを大事にしていきたい
- ・協働型社会構造の改革の必要性を感じた。公共サービスの縮小ではなく、持続可能なサービスを目標としなければならないと思った
- ・人口減少時代を迎え、変わりゆく時代とともに、我々公務員も協働型社会へと転換していかなければならないと感じた。ただ、講義が若干難しかった
- ・地方公務員として求められる能力について、採用時と比べて全く違うものになっていることが理論的に理解できた。公共サービスの在り方についても変わってきており、仕事の方法など見直す必要があると感じた
- ・人口減少時代に、行政マンとして何をすべきか、どういった考えで執務をすべきかを理解することができた。ただ、講師の言葉の終わりがちょっと聞き取りづらかった点が、もったいないと感じた
- ・公共人材として求められる資質として「市民的能力」「企画実践力」「協働能力」「プロデュース力」を挙げられ、それぞれの「力」をこの政策課題研究等やっていく中で、少しでも養いたい

- ・我々地方公務員が、政策を立案する上で限られた予算の中で、特に人口減少に歯止めをかけていけるような施策を行っていくことが重要であることを認識できた。また、講義の中でも行政・市民・企業が、それぞれ役割分担していかないと公共サービスを担っていけないことを理解できた
- ・市民にもやってもらうような問いかけ
- ・政策論のレベル（全体で）として受け止める
- ・行政が全ての公共サービスを行うものでない
- ・協働型社会への転換に向けて、市民が主体となれるよう、市職員としてやるべきこと、求められていることなどを理解した
- ・「協」の字が「行政・起業・市民」の3つの「力」で成り立っている例が良かった。また、協働型社会構造改革で公共サービスの低下をさせない考えを知れてよかった

◎活用度 2

- ・現在の国の施策や指定管理制度などの結構辛口のコメントがあったが、業務とつながりがある部分もあったので分かりやすかった
- ・1コマ目は理論中心だったが難しかった。むしろ市長としての経験を踏まえた話を聞きたかった
- ・早口で言葉が聞き取りづらかった
- ・人材育成の重要性について認識できた
- ・若干、早口で話される部分があり聞き取りにくく思いました
- ・産官学、全ての要職を歴任されているのは珍しいなと思った。森本レオのような声で聞き入ってしまった
- ・すみません。言葉が良く聞きとれず講義内容が今一つ理解できないところが出てしまった
- ・「協働」という言葉は日常的に耳にしたり、使用しているが、今回初めて理論的に説明していただいた事は収穫となった。また、市民からの要求に対し、YES/NOを答えないということも驚いた
- ・理論的な話が中心で、かなり難しい。理解するには、もう少し時間があると思う
- ・少し内容が難しく理解しにくかった
- ・持続可能な社会実現に向けた公共サービスの見直しと、公務員の意識改革を整理したものと感じる。協働など、新しい点は少なかった。
- ・競争型社会から協働型社会への変化に伴い、地域公共人材としての地方公務員の役割、位置づけ等が特に参考になりました。しかし、「むりやりとりあげる」（税金）といった趣旨の発言は多少不適切な気がしました。
- ・公共の特徴や、トリプルボトムラインなど普段の業務の基礎論理に関する事を意識できた
- ・人口減少時代に置いて、持続可能な社会を構築することの重要性と、地域社会と連携・協働するための地方公務員に必要な基本的資質を学ぶことができた

◎活用度 1

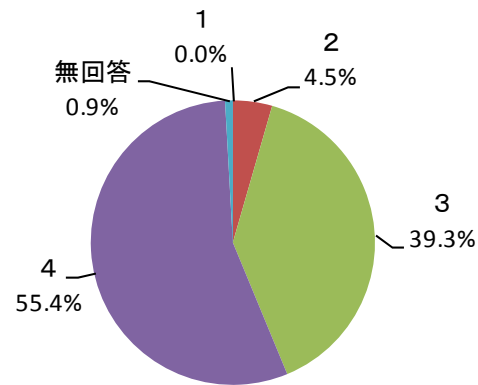
- ・市民協働の実例について詳しく教えていただいて勉強になりました。他市で成功事例があることが分かり、ためになりました
- ・内容が難しく専門用語も多く、理解が追いつきませんでした

【講義3】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 講師

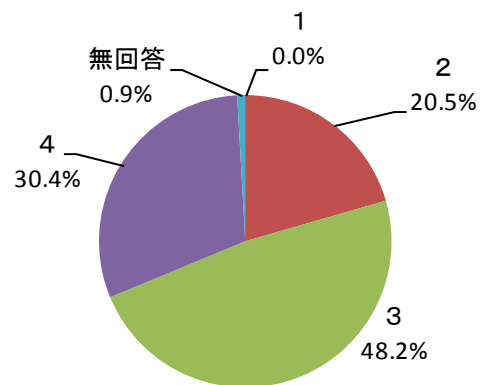
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	5	4.5%
	3	44	39.3%
	4	62	55.4%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	23	20.5%
	3	54	48.2%
	4	34	30.4%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 舅が中山間の限界集落で頑張っているため、ぜひ参考としたい
- ・ 熱意あふれるお話に感動しました。真似はできないけれども、今後の業務に思い、姿勢を生かしたいです
- ・ マスメディア等を通して知っていたが直接本人から話を伺うことが出来大変嬉しかった
- ・ 住民を動かす心構えなど、大変参考になった
- ・ どのようにして人を動かすのかという難しい問題に取り組まれていると感じた。情熱をお持ちの方だと感じた
- ・ 地域において、公務員に求める能力について具体的に受講でき、自分に足りなかった点を痛感するとともに、やる気が出てくる講義であった
- ・ 実践に基づく、力強い説得力のある講義だった。短い時間だったが、たくさんの気づきがあった
- ・ 本気でやって地域を守る生の声を聞いて感銘した。1円の大切さ、1人の大切さ、人を集める大変さ、すべて身にしみる
- ・ パワーに圧倒された。常に人口構成に目を配り、戦略を立てている。本物だと思うが、行政はこういう人を育てられるのか (育てて良いのか)
- ・ とてもエネルギーッシュでアイディAMAN、こんな人がいるんだと驚いた。自治と地域再生の新たな方法として大変参考になった

- ・地域の力のすごさを感じた。あのようなリーダーが地域にいることのすごさを感じ、自分の地域でできるか検討していきたい
- ・何度も伺ったお話が受講生の立場で聴くと、より一層クリアになりました。分かっていたと思うことを、住民自治の立ち位置から見る（考える）ことで「方程式」が良く分かりました。「財務」に強くなります。地域づくりの「solace」これがキモですね。色々引き出す、人財になります
- ・豊重先生の心に響く話に涙を流しそうになりました。行政職員としての立ち位置を改めて考えさせられました
- ・とにかく情熱の人
- ・還元を実行していることに驚き
- ・地域活動に補欠はない
- ・パワーが強い
- ・地域で反発がありそう
- ・ここまで行政に頼らない事が出来るのは素晴らしい
- ・実体験を元にした講義のため、説得力がありました。静岡市でも中山間地の活性化に力を入れているので、とても参考になりました。改めて人が大事なんだと感じました
- ・大変な熱意を感じました。豊重さんのような方ばかりではないため、こういう方を育てていくためには、どうしたら良いのかを考えていかなければならないのだと思いました
- ・行政の人間が推奨しては放棄になってしまいますが、考え方は非常に参考になりました。一人の住民として行動していきたいと思いました
- ・苦労が良く分かり、とてもパワーのある方だと…。それくらいのパワー（熱意）がなければ地域再生はできないのだと
- ・リーダーとは、人材の必要性、又どのように皆を巻き込むか、街づくりの手法が見えた
- ・豊重先生のパッションに圧倒されました。私の住む雲南市でも「地域自主組織」により活動しており学ぶことの多い講義でした
- ・豊重先生の講義を聞くのは今回で3回目でした。内容については以前聞いた内容と重複していましたが、先生のパワフルな講義を聞き、やる気を高めていただきました
- ・まさに「時の人」であり、お名前は以前から知っていましたが実際に講義を受けてみて、やはりすごい人だと思いました。熱いお方でした
- ・故郷を愛する気持ちと、熱い情熱に心を打つ講義であった。その一方で緻密な思考と共生と強引、命令しない行動力をも持ち合わせていることが分かり、影響を受ける事が多い講義になった
- ・気配りを実践されていて、「人」が大切だということを実感できた
- ・「やねだん」の名は聞き及んでいましたが、豊重先生の迫力、情熱に触れ、日本一の地域づくりが成った理由を知った思いです
- ・心意気がすごく伝わってきて、気持ちを新たにしました
- ・「行政に頼らない活動」。住民自治においては、どこの地域にも、どこかの分野に詳しい方がいるので、その方の、その分野を伸ばしてやる事が大事。非常に楽しく、興味がある話でした
- ・まちづくりについて様々なアイデアをたくさん紹介していただいて楽しく受講できました

- ・自身が苦勞されてきた実体験を話されることによって、どこの自治体もかかえる問題への解決策の糸口になったと思う。説得では誰も動かさない。納得させることが大事
- ・体験を元に素晴らしいと感じた。地域活動には欠かせない目配り、気配り、心配りなど、企業感覚での地域おこしには感銘を受けた
- ・人を動かすとはこういうことかと思った。熱の入った講義で時間があっという間に過ぎた
- ・やねだん故郷創生塾に参加したことがあり、あらためて「人財」について考える機会となった。やねだんのまちづくりはまち・ひと・しごと創生の見本となるものであると思いました
- ・全てにおいて、行政に頼らない地域社会はあり得ない。公助、共助の立ち位置を明確にしないとイケない。「やねだん」の取組はとても素晴らしいが、地域限定のパッケージと考える

◎活用度 3

- ・有名な豊重様の話を聞くことが出来て嬉しかったです。他者から「やねだん」の話を聞いていたのと全然印象が違い、少々複雑な気持ちになりました（本人に会うのが一番わかる）
- ・豊重先生の情熱、アイデア、実行力とても素晴らしいです。直接お話を伺うことが出来て良かったです。やねだんから学ぶことは沢山あるのだなと感じました
- ・地域でできること＝行政に頼らない、範囲＝自立という構図は分かりやすかった。また成長過程、今後の課題も明確で素晴らしかった。素直にもっと話を聞きたかった
- ・限界集落が自前主義により、集落が立て直しを図る各種事業は大変参考になった
- ・高齢者の緊急警報装置の設置、高齢者への祝い金の支給など、郡山市は行政が行っています。地域が自ら自主財源を使って行うことが究極の住民自治だと思います
- ・自分達のまちは自分たちで作らねばという熱い気持ちが伝わった
- ・より実践に近い内容で、話も場なれしていて話に溶け込めた。いかにリーダーの存在が不可欠なものかを強く感じた
- ・とても、気持ちが伝わってくる講義であった。「人は宝」。行政に頼らない、感動の地域づくりが伝わってきた
- ・情熱的な人柄に直接触れることができ、感謝します
- ・大都市における住民は住民自治の意識が全体的に低いと感じています。地方都市の方が現実的な問題に直面している分、真剣さが違うと思いました
- ・報道等で拝見していた、やねだんの豊重氏の講義を体験でき、有意義だった
- ・地域の自主財源を確保しながら、住民とのあらゆる活動と、その還元の仕掛けはとても参考になりました
- ・経験とやる気に基づく行動力は、地域づくりに不可欠な人材と痛感しました
- ・既存のものに目を向け、地域づくりに利用できるものがないか、意識していきたい
- ・テレビで見た方が出ていて驚いた。声が時々大きくなる、ヒトラーの演説のよう
- ・豊重氏のような危機感を持った強力なリーダーシップを発揮できる方はすごいと思った反面、リーダーが将来変わった場合も、この取組が継続的に続けていけるかどうか疑問も感じました。

- ・熱い情熱で地域コミュニケーションのプロデュースを学ぶことが出来ました。今後は自分もちょっと立ち位置を変えて、真の住民自治に向け地域住民と向き合い一緒に考えていきます。ありがとうございました
- ・「やねだん」の事例は、以前より聞き及んでいましたが、行政に頼らない強い志、住民自治、自主財源の確保、還元等、手法、取組及び地域再生リーダーの心得など、実際に受講することが出来参考となりました
- ・人と人のつながりの大切さ。地域住民への還元による納得工作の方法を、住民との接する心構えや、住民協働に反映していきたいと感じた
- ・ものすごく考え方が変わりました
- ・当市でも「住民自治」が芽生えつつあります。それをいかに上手く行政がコーディネートしていくのか、自らが住民自治に参加し学んでいこうと思いました
- ・将来にわたり、持続可能なシステムを構築し、地域づくりを実現させた事例に感銘を受けた
- ・とても興味が持てた事例でした。実際の指導者からお話が聞けて、とてもよかったです。その発想に脱帽です。やはり、そのような力があるリーダーが地域には必要だと思いました
- ・行政に頼らず、きめ細かな目配り、気配り、心配りで地域再生を果たした豊重さんのバイタリティに学ぶ所が多くありました
- ・地域リーダーとしての情熱を感じられ、感動した
- ・素晴らしいリーダーシップ、発想力に驚かされた。人に対して説得するのではなく、納得させる必要性。
- ・非常に情熱とパワーがある方で驚かされました。このような方に、これまでお会いしたことがなく、失礼ながら「やねだん」の事も今講義で初めて知ったくらいです。巻き込みのポイントが具体的で大変参考になりました
- ・豊重さんのパワーに圧倒されると同時に、自分の地域でも同じような志を持って活動されている人がいるので、行政として、もう一度立ち位置を変えて、一緒に連携できる事を考えていきたいと思った
- ・自身の半生を語っていただくには、時間が短すぎたと思います
- ・地元愛にあふれる熱い思いを伺うことが出来、改めて公務員一人一人が持つべきものだと認識しました
- ・行政に頼らずに自立して活動するとの考え方を聞きし、本来のNPOの在り方が理解できました
- ・圧倒的なパワーを感じた。自主財源を使って、様々な事に取り組まれている、またこれからも新たなことを計画されている「力」を感じた
- ・まさしく、我々が原点に帰らなければならないと思わされるような画期的なお話でした
- ・地域再生に向けた取り組みで、ここまでの情熱を抱き本気で（命をかけて）取り組みをされていることに、圧倒された。組織で行うこと、10年スパンで、20年、30年の期間で土台を作っていくことなど、福祉や目の付けどころなど参考となった
- ・色々、これまで苦労されたこと等に変感銘を受けました。中々行政的立場からは気づき難いが、持っておかなければならない市民的視野を講義で肌で感じる事が出来ました
- ・エネルギッシュな方で、気迫やパワーが話し方の中から十二分に伝わってきた

- ・財務の発想と、行政はコーディネーターになるべき、又周りの人のモチベーションを上げるやり方など、言葉、行動とも非常にパワフルで興味深かった。戦略性があるのがすごい
- ・講師の住民自治の熱い理念に触れると共に、行政をしての役割について、とても考えさせられた
- ・柳谷と似たような地区があり、活動はとても参考になった
- ・人材ではなく、人財（人は宝）の重要性を強く思った。結果として「リーダー」になることもあるのだろうが、共に行動できる仲間を作り、強い気持ちを持って、あきらめずに取り組む必要性を感じた
- ・私人による実践例だったのでイメージはできた。一方講師の言葉が断片的なものだったので、正確なものを受け取れたか疑問が残る
- ・館長の地元に対する愛、将来を見据えての行動など奇抜な発想にも見受けられがちだが、根拠あつての取組に感銘した。熱意、郷土愛がびしびし伝わってきた
- ・行政に頼らない方法での地域活性化の方法について非常にためになった。命令等によらず人を動かすことは難しく時間がかかることが分かった。自分に何ができるのか考えさせられた講義であった
- ・講師の取組に驚いたとともに、自分の住む自治会への理解不足を痛感した
- ・時間が短く、スライドをかなり飛ばして説明していたので、もっと時間をかけてじっくり内容を聞きたかったです
- ・実体験に基づく地域社会づくりのポイントを知り、住民の協力を得るための相手の心のつかみ方や、やる気の引き出し方を学べた
- ・地域で具体的に行動・実践している方の話であっただけに非常にインパクトがあった。特に行政に頼らない地域づくりを目指すという視点は近年、行政に対するニーズも多種多様で増えていく中に合って、興味深い内容であった。
- ・やねだんをここまでされるには、たいへんご苦労があられたようだが、豊重氏の地元に対する愛情や地域を再生するんだという熱い思いがひしひしと伝わってきた。また現状に満足することがなく、次の展開を考えられる市政に学ぶことが多かった
- ・立ち位置を変える
- ・地域活動に補欠はいない
- ・慌てるな、急ぐな、近道するな
- ・負ける方法を考える
- ・地域が一つになれば行政に頼らなくても、工夫とやる気で町の活性化が図られる
- ・本気のやる気と価値観を共有できる身近なパートナーの大切さを感じた。また、一度東京で働いた経験（ノウハウ）は、地元だけの世界しか知らない人たちにはない「力」を（育み）身につけることができたのかと思った
- ・現場での精神論を語っていただいたが、講師の使命感が何に基づいているか、また次世代育成はどうなっているか、知りたかった

◎活用度 2

- ・とてもパワーのある講師であった。リーダーシップと新たな発想が大切であることを再認識した
- ・情熱を感じずにはいられない講演だった。「行政に頼らない」ということであったが、実は行政が、やねだんのような考え方「住民自治、自主財源確保、還元」といったことを意識すべきなのでは？
- ・テレビで見たことのある鹿児島県柳谷自治公民館の豊重さんが、教壇に立っていただき、講演を聞くことが出来たことに驚くと共に、良い知識が得られたこと、また本人の意識の高さ、思い入れも感じることが出来て、とても為になりました
- ・豊重先生の熱い講義を聞き、とても苦勞されたことが良く分かり、感銘を受けました。自治体職員として、何が出来るか、自分にも同じことが出来るのか、考えさせられる素晴らしい講義でした
- ・話の内容には心を打たれました。地域づくりを進めていくグッドプラクティスとして非常に興味深いと感じました。地域性が異なるため、取組の内容を実践するのは難しいと思いますが、地域づくりの心構えや地域のあるべき姿を明確にイメージすることが出来ました
- ・行政に頼らず、住民自治と自主財源の確保、還元という土台づくりによる「やねだん」の取組はすごく、根気と信念、リーダーシップによる努力に感心した
- ・地域の自立のために必要な事、どのようなコンセプトを持って、何をしたのかというのが実体経験をj持って説明していただき分かりやすかったです
- ・“やねだん” ってナニ？というところから入ったのでへんな先入観を持つことなく講義に入れました。事例を挙げての講義だったので、非常に分かりやすかったです、地域によって活用できるかどうかは…ちょっと？の部分が多いかなと感じました
- ・講師はとても行動力と熱意があるのは伝わってきた、ただ、次のリーダーをどのように育てているのかを知りたかった
- ・地域づくりのリーダー像とは、豊重講師の様な方でないと成功しないのかなと感じた。二千万の借金の原因を知りたかった。失敗例も聞きたい
- ・地元自治会の皆さまにも聞いてほしい内容でした
- ・行政とは別の実践をお聞きするのは新鮮だった
- ・今の状況になるまでの間、大変なご苦勞があったとは思いますが、当市には同様の状況にはありませんが、豊重先生と同様に志を持った住民が必ずいるということに肝に銘じて発掘に努めたいと思います
- ・地域での人材育成の大切さを学ぶ。優れた人財社会の財産（人徳養成）
- ・私たちが業務上、人口表を見ることはあっても、行政職員でない方が、自分で人口表を作成し持ち、考えている方が他にいるのだろうかと思いました。地方の事をよく見て、考えているからこそ地元の将来のために、何をしたら良いのか考えることが出来るのだろうかと思いました。とにかくパワフルな方だと思いました
- ・地域づくりのリーダーになる人間は、個性が強いのだということが分かった
- ・本気のやる気を感じる熱の入った講義であった。限界集落の問題が言われる中、こうした取り組みが行われているとは知らなかった。もっと PR すれば良いのでは
- ・地域のリーダーとして、素晴らしい活動をしている方の講義が聞けて良かったです

- ・「行政に頼らない地域づくり」を実践された本人から直接話を聞くことが出来、貴重な体験をすることが出来た
- ・凄い一言です
- ・70歳を超えても衰えないエネルギーに感動しました。自分の地域は自分で守るという信念、長い年月をかけて造り上げた柳谷（やねだん）の村づくりが、今後も継続されることを願いたい
- ・情熱的でびっくりしました

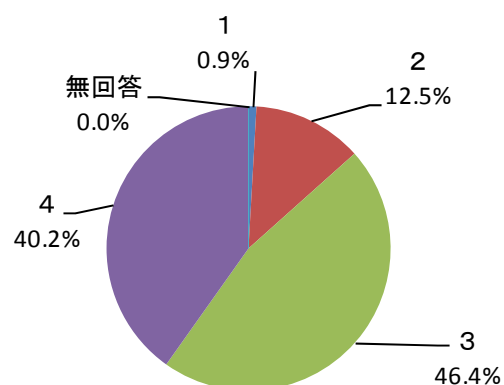
◎その他

- ・やねだんの存在を知らなかったことから、センセーショナルな大きな刺激となった

【講義4】「地域ブランド戦略」 松山東雲女子大学・短期大学 学長 棟方 信彦 講師

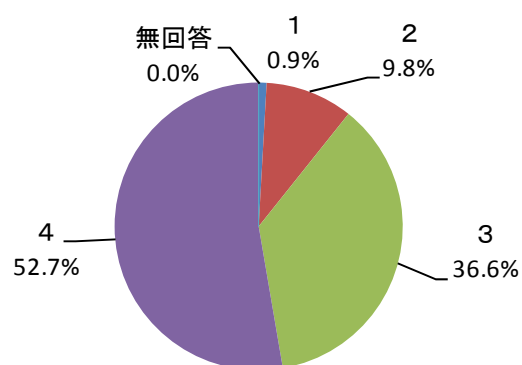
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	14	12.5%
	3	52	46.4%
	4	45	40.2%
	無回答	0	0.0%
合計		112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	11	9.8%
	3	41	36.6%
	4	59	52.7%
	無回答	0	0.0%
合計		112	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・難しい話もありましたが、非常に参考になる話をいただいたと思います。ありがとうございました
- ・ブランド岩手の、磨き上げに、ポイントをよく確認し生かしたい
- ・「地域ブランド」をつくっていく手順がとても良く分かりました。しかし、ラダリング・ワークを
実際やって見ると難しかったです。もう少し時間をかけてやってみたかったです
- ・ブランドへのプロセスで必要な要素と、考え方を実践を交えて説明していただけた。実践を通して
ブランド化の難しさも感じた
- ・業務に取り入れ可能な実践的研修であった
- ・「選択と集中」がマーケティングの鍵であること、住民に愛されるブランドを作ることを忘れず政
策担当として仕事をしていきたいです
- ・マーケティング、ブランドについて、考え方を初めて学ぶことができ、またブランド化の方法につ
いて、具体的に学ぶことが出来大変参考になった
- ・「ブランド」に対する理解をより掘り下げることが出来た。これまでの業務においては、殆ど関わ
りがなかったが、今後、ぜひチャレンジしてみたい分野である
- ・対象者の絞り込み、地域資源の絞り込みの重要性を感じた。自分でも継続的に支持される仕組みを
考えてみたい
- ・今現在、自治体の多くは、ブランドを持っている。要はいかにうまく発信していくかということだ
である。良いブランドを作っても生かすも殺すもいかに広告していくということを強く感じた
- ・ブランドを生み出すプロセスや理論を知ることが出来た。自己研鑽を重ねて、更に知識を深めたい
と感じた
- ・ブランド戦略の必要性、マーケティングの基本的な考え方など、今まで携わってこなかった内容で、
とても有意義な内容でした。自分の住んでいる地域でも実践したいと思います
- ・マーケティングの大切さが非常によく分かった。ブランドづくりの難しさはあっても確立したブラ
ンドの強さの秘密も理解できた。もっと勉強してみたい
- ・元広告代理店の方の話は新鮮だった。人はブランドを買っているという話は面白かった。当市のオ
ンリーワンから何かブランドがでもないが、考えてしまった。
- ・地域ブランド戦略において重要な「マーケティング」についての基礎的かつ実践的な理論を学ぶこ
とが出来たと思います。このマーケティングの手法は、すぐにでも業務に活かして生きたいと思
います。改めてマーケティングの重要性を実感しています
- ・お客様の心をつかむ為には、その、魅力をどう分かりやすく伝えるか、今の仕事に大変参考になり
ました。ターゲット設定、何を打っていくのかの重要さは、日々実感しているところです
- ・地域から、お客さんから継続的に支持されるブランドづくりに向けた基礎を学んだ。地域の名から
連想されるイメージが定着するようなブランドづくりに励みたいと感じました
- ・横浜市の場合、ブランド戦略は一定程度打ち出せていると思っています。但し、ブランド戦略自体
は地域のブランド化だけではなく、あらゆるものに適用できるので、非常に有用だと思います
- ・対象を分析し、絞り込み戦略を立てる事の重要性を再認識しました
- ・具体的な考え方の説明もあり勉強になった。積極的に活用していきたいと感じた

- ・地域ブランドにおいて重要なことは、継続的に支持される仕組みをつくること。新しいものではなく、地域の歴史的なものに素材を求め、ターゲットを絞り相手を知ることから始まり、信頼関係を繋げていくことが重要だと思った
- ・ブランド戦略はマーケティングから
- ・公務と反する部分もあるのかもしれないが思い切ってターゲットを絞る
- ・成功は、したたかさなのだと感じた
- ・成功している熊本のブランド戦略の考え方を聞いてとても参考になりました
- ・当町では、平成17年の合併後、10年が経過したが、未だ旧町村でひずみがある。その中でブランドを創造し、その地域ブランドでひずみ解消と認知度アップに向けた戦略を立てていきたい。その手法について勉強させていただきました
- ・ブランドづくりの方法、注意点などを教えていただき、今後、自分がブランドづくりの業務に携わる事になった時に非常に役立ちます
- ・ブランドとは年代や男女などに絞った客層に対してマーケティングしていくべきだということに、とても共感できた
- ・テーマ（ブランド）を絞る、難しいがそれくらいやらなくてはならない
- ・マーケティングについて、これまでしっかり学んだ事がなかったため、事例を交えた説明を聞いたことで、大変参考になりました。他都市の事例を表面的にまねても、うまくいかない理由が分かった感じがします
- ・マーケティング＝銘柄・・・地域性が必要であり、その個性を愛することにより広がりを見せ、継続性が出てくる。それが良いブランドとなり、多くのお客様の心をつかむという流れを生む。行政においても同様だと感じました
- ・マーケティングの手法など、これまでしっかりと聞いたことがなかった内容でしたので、非常に勉強になった
- ・興味のある内容であり、非常に参考になりました。但し、実践部分の内容についてもっと時間を取ってほしいと思いました
- ・以前から興味があったマーケティングを、自治体レベルに合わせて教示いただき、ますます理解を深めていきたいと思いました
- ・マーケティングの重要性を改めて痛感しました。内容についてあまり知識がなかったので、時間をかけてじっくりお話をお聞きしたかったです
- ・行政職員が「ブランド戦略について」講義を受ける機会など少ないため、貴重な経験が出来ました。何気なく眺めているポスターもチラシも誰に何を伝えたいのか、しっかり練り上げて、一つ一つ作られているのだと分かりました。今年度、観光用の冊子を作成する予定ですので、対象者のターゲットを絞る、アピールしたい内容を絞る、という事を早速実践し業務に活かしたいと思います
- ・地域ブランドを安易に捉えていた。戦略を立て、歴史を取り入れた地域ブランドの必要性を感じた
- ・ブランド＝組織的に支持される仕組みなど、ブランド戦略を行っていく上での具体的な手順を知り、これまでの市での取組方ではだめであることが分かった
- ・奈良には観光資源がたくさんあるものの、ターゲットを絞ってブランド化がうまくできていない

- ・現在の「広報報道」という職務に携わる上でも、とても参考になりました。もっと時間をかけてお話を伺いたいと思います
- ・地方自治体にとってブランドの戦略について、あまり考えてこなかったが、この講義を聞いてブランド戦略を立てる必要性を理解できました
- ・地域ブランド戦略は、県と市町村のどちらが担うべきか疑問が残った
- ・持続可能な地域の形成と組織において、マーケティング、ブランドづくりの重要性を感じた。自分の地域におけるマーケティング、ブランド力を高めていき、信頼を頂き長期資産としていきたい。非常に興味深い講義で、もう少し長く聴講し、習得に努めたかった
- ・実習アイスブレイクの時間がもう少しあれば良かった。講義時間が短いのではないだろうか
- ・マーケティングの大切さと同時に、行政に欠けているのは、これだと思った。紹介していただいた本などを読んでみたい
- ・ブランド戦略を行う際の基本的考え方が理解できて参考になった。地域資源の中から、何をブランドとして確立していくのか、もう少し詳しく具体的に説明してほしい
- ・マーケティングの重要性と、ブランド化の意味を理解することが出来た。地域のブランド化の手がかりになったので、早速実践してみたいと思った
- ・本県の高知家プロモーションも広告代理店さんとタッグを組んでいるとのことですが、その展開を思い起こしながら、ご講義を拝聴いたしました。大変得心する部分が多々ありました
- ・これまで何となく理解していたことが体系化できた。非常に勉強になった
- ・ブランドとは、マーケティングとは、という初めて聞く内容で難しかった。他方、地域ブランディング、活性化には欠かせない要素と思った
- ・歴史的なものに売り込む素材を見つける。熊本県のブランド戦略にたずさわったとのことで、話が戦略的に詳しくわかりやすかった
- ・私の地元の例をたくさん紹介していただいて、親しみが持てました。ブランドづくりのノウハウをわかりやすく解説頂けてとても勉強になりました
- ・自身の住む地区がテーマであり、より身近だった。理論について、少し自分でも勉強してみたい
- ・熊本地域ブランド計画に携わった方のお話を聞けてとてもよかった。成功事例はやはり説得力があった
- ・地元熊本の例を題材に、大変ためになる講演であった。マーケティングの基礎を調べた上でのブランド化に向けた話には何か感じさせられるものがあった。うまく活用していきたいと感じた
- ・話の内容として非常に興味があり、参考になりました。うまくいかない例の方が、かなり多いとのことには驚きましたが、失敗を恐れずにチャレンジし続けることが重要だと思われました
- ・ブランドが地域づくりに必要な理由が理解できた。また、マーケティングの重要性とアプローチ手法を学ぶことができた
- ・実践的なラダリング・ワークを通して宮崎の価値を問いかける良い機会となった。地域ブランド戦略づくりでは company 分析という手法を使うことを学べて良かった
- ・講義最後にあったラダリング・ワークが新鮮で、今後からまちづくり等の協議の場などで実践したいと思った。改めてブランドの大切さを実感した
- ・農産物の秀でている「鹿児島」ではあるが、創意工夫（アイデア）に乏しい鹿児島と認識しております

◎活用度3

- ・ブランドを展開、実行していくことは重要であるが、コンセプトを明確にしていくことは慣れが必要だと感じた
- ・テーマとして、とても興味があったのだが、自分の理解力が不足していた
- ・「ブランド化」とはだれもが口にするけれど、その方法論については、これほど緻密に教えてもらったことはない。講義の時だけでなく、時間をかけて吸収していきたいと思う
- ・マーケティングの現場で仕事をされた方の話を聞く機会はとても貴重だった
- ・「くまモン」が有名になったのは、色々な作戦があったことに気付いた。ブランドづくりの奥深さを知ることが出来た
- ・地域ブランド戦略を理論的に学べ、非常に勉強になりました。行政のマーケティングについてより具体的にお話を聞きたいと思いました
- ・マーケティングを見つめ直す機会になった。あれも、これも、を考え直し、地域の方向性を見出したいと思う
- ・ブランドを学ぶことができ非常に勉強になった。市としてもブランドについて研究するのを感じた
- ・ブランド力、マーケティング力について改めて再認識した。今後の地域ブランドに活用したい
- ・難解に感じましたが、今後の行政において、マーケティングの概念は必要不可欠であると思います
- ・抽象的な内容が多いように感じました
- ・根本的から考え方を考えさせられました。観光の取組を見直す、良い材料を得られたと思います。職場に戻り、今回の事を落としていければ、新たな取組が生まれそうな思いがしました。ありがとうございました
- ・地域活性化を図るため、「ブランド」を確立する。これに必要な知識として、マーケティングの基本や継続させるための知恵や仕組み、またアプローチの手法、マネジメント戦略など勉強になりました
- ・マーケティングとブランド作り、様々な情報と分析を元にお客様を絞る所からブランドとなる名付け、色等、理論を学べたことに感謝です
- ・当市では、これまで以上に観光に力を入れていく予定ですが、現状、地域や客層のターゲットを絞ることが不十分であることや、なぜ、市が「歴史的、文化的資産」を市のブランドとしているのかを理解することが出来ました
- ・地域ブランドを作るにあたり、マーケティングの重要性を理解することが出来た
- ・一企業のイメージが大きい当市としては、どのようにしてブランドを作れば良いのか悩ましく思います。企業のイメージを脱却するようなブランドが作れるといいなあと思いました。市町村合併後、全く揃わない各地域の足並みを揃えたいです
- ・若干スケールの大きな話で、当市にあてはめて考えにくい内容でしたが、ブランドの構築の手法が理解できました
- ・ブランドについての意味、大切さを理解することが出来た
- ・ブランドの仕組みを学べる人生で最初の講義でした。エッセンスはお聞きできたのですが、もう少し時間を長く取り、具体的なグループのワークによる演習をもっと行いたかったです

- ・行政マンに不足している視点を認識でき、自分のまちがやっているシティセールスプランも、あれもこれも盛り込んでいるようで、没個性になっているのでは…と反省させられた。ターゲットを絞り、個性を限定することの難しさも同時に感じたが、それぐらいの覚悟でブランドを作らないと生き残れないのかもしれない
- ・くまモンの話が、もっと聞きたかった。アソをテーマにした事によって、どれだけの効果があったか、測定方法を知りたかった
- ・ブランドの持つ意味の深さ、その仕組みについて、理論的にも不明でしたが、とても重要であること、奥深さを知ることが出来ました。地元にある様々なもの（特産品等）の見方が変わります
- ・少し概念的だった。具体的な話を、もっと時間をとって聞きたかった
- ・地域ブランドに対する考え方や見方が変わりました。“自分の市には良いブランドは無い”と思っていましたが、それは誤りで、自分のブランドと言った言葉に対する解釈が違っていただけと気付かされました。また、ブランド展開等、非常に参考になりました
- ・講義の内容・質が今回の時間数で理解するには、ボリュームがありすぎると感じました。その中で「地域ブランドの確立」については自分なりに研究してみたいと思います
- ・活性化は、地域が活発になることと思っていたが「持続可能な地域の形成と維持」が目的であることが分かり驚いた。また、そのためにブランド化が必要であることを解りやすく講義してくださり大変参考になった
- ・自分のキャリアで、これまで経験してこなかった分野ではあったが、その理論を丁寧に説明していただき大変有意義なものであった
- ・マーケットの知識がないと難しい部分がある。もう少し失敗例を披露して頂ければ分かりやすくなっていたのかも知れない。時間数も必要だと思う
- ・地域の活性化について、ブランド戦略を活かしていく基本的な考え方を学ぶ事が出来た
- ・地域活性化において、ターゲットを決め、継続性に支持されるものが何か、見極めをしっかりと行いたい
- ・熊本やビールの例をあげての講義はわかりやすかった。最後の演習は全員で共通課題に取り組んだ方が、うまくまとめられたのではないかと思った
- ・地域ブランド化の手法・理論について学んだ。ブランド化にはいろいろな段階を経てできることがわかった
- ・自分の関わっている業務とは直接関係がなかったため、「地域ブランド」には、これまで特に関心を持っていなかった部分もあるが、この講義を受けたことで地域ブランドの重要性を認識することができた。また、ブランドを確立するまで、市場調達等綿密な作業も必要であること等参考となる部分が多々あった
- ・マーケティングの重要性とブランドづくりのアプローチ等、具体例を織り交ぜながらのわかりやすい講義であった。基本的なことを学べた。また、ブランドとして確立するのは、たいへんなことであることもわかった
- ・マーケティングという手法の、効果的な活用による「ブランド」づくりについて理解できた

◎活用度 2

- ・地域ブランドを作り、成功させるために必要な基礎知識が詳しく分かりました。先生ご本人が、あの有名な「くまモン」の製作を手掛けた方であること、何年も前からやっていることに驚きました
- ・ラダリング・ワークはよく分からなかった。しかし、なんとなく分かった。ワーキング中に話されると頭が混同した
- ・シティプロモーションを実践するにあたって基本的な部分として、とても学ぶ所が多かったと思います
- ・地域ブランドづくりについて良く分かりました。行政が何か事業を計画すると万人受けを考えてしまいますが、地域ブランドの切り口では、ターゲットを絞ることが大事なんだと感じました
- ・地域ブランド戦略にとって、マーケティングの必要性を学びました。地域活性化の目指すもの「地域に生活しているヒトの満足度を上げること」
- ・ブランドとは、というところから詳しく教えていただきましたが、後半がペースが早すぎて、なかなかついていけませんでした
- ・講義の内容は何となく理解したが、その内容を他人に説明できるほど消化できなかった
- ・マーケティングの対象はすべてではない
- ・人々は商品ではなくブランドを買う
- ・コンセプトが必要＝ぶれない
- ・歴史的なものを求める
- ・質疑応答は興味深く、大変参考になったが、講義内容は2時限も必要としないと思った

◎活用度 1

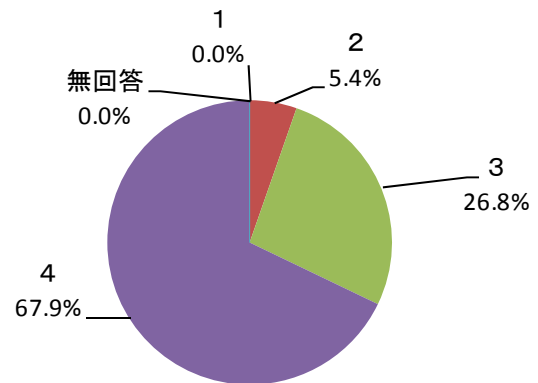
- ・ブランドだけにこだわりすぎて、ちょっと違うと思いました

【講義5】 「地域ブランド化実践事例から学ぶ実務のコツ」

(株) 船井総合研究所プロジェクトマネージャー 朽尾 圭亮 講師

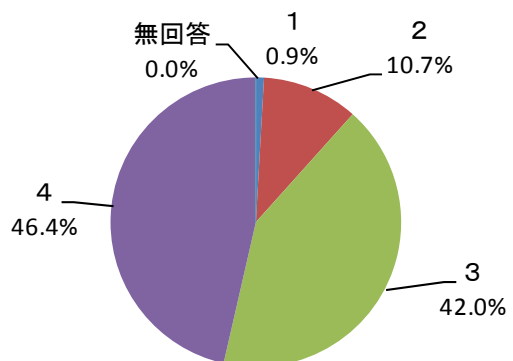
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	6	5.4%
	3	30	26.8%
	4	76	67.9%
	無回答	0	0.0%
合計		112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	12	10.7%
	3	47	42.0%
	4	52	46.4%
	無回答	0	0.0%
合計		112	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・この講義で棟方先生の講義内容が少し理解が進んだ
- ・大変わかりやすく学んだポイントを抑えて仕事に役立てたい
- ・棟方先生とはまた違った視点での地域ブランド化で5つの要素がとてもわかりやすく、理解しやすかったです。早速実践してみたくなりました
- ・事例のため、とても分かりやすかった。また、コツ（ポイント）については、すぐに現場で生かせるもので、効果も高いと思う
- ・良かった、もう一度受講したいと感じた
- ・具体的な事例により、ブランド化の方法について分かりやすく学ばせていただいた。今後の業務また、それ以外においても大変役に立つ内容であった
- ・滑舌よくテンポも良い講義だった。実際に役立つ有意義な内容だった
- ・とても分かりやすく聞くことが出来た。一関に限らず、どの自治体でも出来ることだと思った。やる気の問題だとは思いますが、最後は人によって大きく左右されるものだと強く感じた
- ・一関市を事例に具体的な取組方法や考え方を理解することが出来た。ぜひとも前回（姉崎大根）以上の取組をして地域をアピールしていきたいと感じた
- ・具体的な成果とキャッチーな言葉の連続に引き込まれた。実は成功の裏にはきちんとした方程式があることも理解できた。すごく参考になりました

- ・実際に地域ブランド化の先頭に立つ方の話は面白かった。もちをテーマにしたイベントの狙い等、具体的で分かりやすかった
- ・棟方先生の講義のあとだったので、より理解が深まった。一関市の例も分かりやすく、アプローチの仕方が具体的になりました
- ・具体例の説明があり、興味深く受講出来た。もっと他の事例なども聞きたかった
- ・PPの内容が群を抜いて分かりやすい
- ・船井総研さんと仕事がしたいと感じた
- ・名刺交換が出来て良かった
- ・話のバランスが良く面白かった。映像とトークが良かった。質問にもキチンと答えてくれて良かった
- ・一関市のもちサミットの成功事例をお聞かせいただき大変参考になりました。当町には OTAIKO 響実行委があり、25年太鼓のイベントをおこなってきました。その中で若手がイベントから離れることになってしまい、もっと早くお聞きすれば対応策があったのではないかと残念に思っております
- ・5つのポイント全てに、今すぐにも実務に活かせる講演でした。特に若手の育成は当町でも大きな問題となっているので、早速戻って落としていきたいと思っています。ありがとうございます
- ・棟方先生に教えていただいたことと併せ、5つのポイントを活用して是非ブランドづくりを行っていきたい
- ・「市場」に対する意識を高く持つようにしたい
- ・ブランド化について、ブランド化したいモノだけでなく、その周辺にある様々な状況をしっかり捉える事の重要性について、学べたと思います
- ・地域を活性化する上で、伝統文化を用いることが地域にも、市場にも受け入れやすいという特質がある。また、市場に受け入れてもらうための工夫として「感」に重点を置くことがこれからは重要だと聴き、参考となりました
- ・興味のある内容であり、非常に参考になりました。業務に活用していきます。もう少し時間を取っていただきたいと思いました
- ・時間の都合もあったのですがレジュメが少なかったので、書き写ししようとしたが、ペースが速く間に合わなかった
- ・午前中の棟方講師の理論を具体的実践ベースで学ぶ事が出来、この講義が最も活用できそうに感じました
- ・コンサルの営業を受けているような感覚になりました。資料がほしかったのですが、企業財産になっているのだと思いました
- ・他都市の様々な事例を教えていただき、非常に参考になりました。出来れば他の先生方と同じくパワポを資料としていただきかったです
- ・お話が分かりやすく、リズムも良かったので内容が良く理解できました
- ・「隣の地区に大きな観光資源がある」「合併し特産品がぼやけている」この地域に如何にして、新たなブランドを作っていくのか、一つ前の講義にひき続いての事例だったので、スムーズに頭に入りました。ただブランドを作るといった漫然とした目標ではなく、ブランド作成の基礎を抑えつつ、時流に乗ることが成功のカギなのだと思います

- ・事例を見ると、やはり誰とやるかがキーワードと感じた。マスコミをどのように利用するかを考えたい
- ・一関市の事例から、ブランド化のためのコツを理解した。午前の講義とも関連があり、実際にどう戦略を立てるか手法が分かった
- ・岩手県一関市に行ってみたくまりました
- ・前の講義を、より具体化して理解できました。「感」のストーリーのお話が、まさに目からウロコでした
- ・ポイントを絞って、とても分かりやすい話でした。実践のコツといったものは実施してみないと掴めません。100%といったことは無いものであると思います。だからこそ貴重な話でした
- ・棟方先生の講義に続き、実践事例からの内容であり、ブランド戦略についてより、理解が深まりました。パワーポイントの資料の配布されていると良かったです
- ・分かりやすく楽しかった
- ・講師のキャラクターによるのだと思いますが、すごく共感でき、話されていることが、スーッと頭に入りました。講義の時間も短く感じ、充実感の高い講義でした
- ・講義の内容は非常に分かりやすかったです。本市もB級グルメを通じた地域活性化に取り組んでおり、大変参考になりました
- ・分かりやすい講義で、大変興味深く受講させていただいた。パワーポイントのレジェメは欲しかった
- ・地域ブランドも全国各地に増えてきたが、成功の裏には、しっかりとしたマーケティングがあると知ることが出来良かった
- ・五感に訴える大切さを実感できた。「人」を育てることにより、「人財」を多く産み出すことの重要性を感じた
- ・棟方先生のご講義と併せ、更に理解が深まりました。本県安芸市のじゃこサミットの仕掛け人の方にお目にかかれ、大変幸運でした
- ・地域でのコンサルティング事例で、とっつきやすい話であった。しかし、内容は深いので理解するにはもう少し時間がかかりそう
- ・「人」が大事ということを？話があった。やる気がある人材を見つけて、上手に動かすことが重要。現在の立場的にためになりました
- ・事例を紹介しながら、わかりやすく地域ブランド化の実践について学べてよかった
- ・地域ブランド化を進めていく上では5つの要素がある。簡単なことだが、言葉で聞くよりもまずは五感（視覚等）の方がインパクトが強い
- ・棟方先生の講義の後であったこともあり、話としても非常に理解しやすかったです。また、話し手として、一番良かったと思います
- ・非常に分かりやすかった。5つのポイントはどれも納得できる事柄でその重要性を改めて認識した
- ・地域資源の3本柱を学べた。人材育成がこれからの地域づくりの要であり、ストーリー作りの重要性について学べた
- ・一関市の事例を基に、いかにブランド化していくか理解しやすい講義でした。これまで地元や旅先で目にした地域の資源を単なる観光ではなくブランド化するまでの過程など新たな視点で見ることができ、実践でも役立つと考えています

- ・特に棟方講師の講義を聞いた後に、朽尾講師の実践のコツの話は講義の名どおりの目から鱗であった。「地力ブランド力」というものがわが町のキーワードと思った
- ・実践事例からの角度から講義していただき、入口が分かりやすかったです。

◎活用度 3

- ・話が分かりやすく出来そうな感じがしました。ただ、話がうますぎる印象もありました
- ・「感の物語」というところが、とても分かりやすく、実践できるのではないかと感じた
- ・近くの実例だったので理解しやすかった
- ・ポイントを捉えて、わかりやすく説明してくださっていることを感じた。特に地域らしい資源の3分野と「感」と「知」の物語についてのお話は心に残った
- ・簡潔な言い回しで分かりやすく教えていただき、よく理解できた
- ・地域に根づいている自身の、自治体の資源について改めて考えさせられた
- ・ホットドッグの事例で、色々な考え方が出てくることに3Cの視点を知ることができた
- ・実践事例は分かりやすく、他の事例（成功例）も、もっとお聞きしたいと思いました
- ・南房総市も広域になり、ブランド化にも苦慮している。自然、経済、人文資源を再度洗い直したい
- ・ブランドの実践事例を具体的に学び、非常に勉強になった
- ・一関市のもち文化の発信の具体的な取組を通して、前の講義のブランド戦略の理論の実践手法を分かりやすく理解できたと思います。実務的な内容であり多くの場面で業務に活かすことが出来ると考えています
- ・この地には何も無い、と決めつけて、よそをうらやましがめるのではなく、地元に着愛を持ち、地域資源を生かす取組をするための参考となりました
- ・実際の職場での事例を交えた講義で有意義だった
- ・もう少し長く聴講出来たらよいと思いました。地域ブランド化のポイントは大変参考になるお話でした
- ・マーケティングを具体的に説明され、理解しやすかったです
- ・地域活性化の資源の三分野は、自然、人、経済であり、その地域に必然的に根付いているものでないと可能性は低い。伸びている市場に、新しい要素を取り込むこと、五感に訴えることで人に印象付ける重要性を感じた
- ・5年PJでやっていくのは素晴らしいと思います（アクションプラン）、但しその次のセカンドステップが次の課題のようにも感じました（継続性）
- ・パワーポイントの資料がほしかった。板書が間に合わず復習が難しい
- ・シティプロモーションを実践するにあたって基本的な部分として、とても学ぶ所が多かったと思います
- ・購買欲には、客に対して五感に訴える事が効果的であること。ネット配信の重要性（検索、掲載順位が一番初め）であることが認識できた
- ・地域ブランドの事例を交えて分かりやすかった
- ・実例を基にした講義で分かりやすかったです
- ・イベントを企画する事もあるため、何を題材にして、どのように情報を発信していくか、また人をどう確保していくのか、大変参考になりました

- ・TV、新聞等のマスメディア戦略の重要性やインターネット検索の裏ワザにとっても興味を持ちました。またベテラン、若手が融合しつつも、若手の人財育成、新たな若手参加にも気を配っていきたいと思いました
- ・成功事例、失敗例を交え地域ブランドのを見つけ方から発信まで、わかりやすい講義でした
- ・午前の講義の裏付けと言うか補足になるような内容で、非常に分かりやすかったです。パウポの資料をいただけると良かったです
- ・具体的な実例をお聞きしながら、地域ブランドの活かし方を実践する手法は勉強になった
- ・話が具体的で分かりやすく楽しく受講することが出来た
- ・棟方先生と同様、行政の弱点が判り、ブランド化に向けた政策を作る過程として、漠→明へと至るポイントをわかりやすく教えていただき、ブランド確立に向けて具体的なイメージを持つことができた
- ・事例を挙げて、ブランド化のコツを講義してくださり、わかりやすかった。人材教育の一つに、人と会うとあり、寮生活もまた研修の場になるのだなと再認識させられた
- ・レジュメや資料にこだわらない講義で、どのようになるのかと思ったが、事例を交えた講義は非常に分かりやすいと共に、聞き手として必要な事は聞き洩らさないよう、緊張感がかえってある手法、内容的にもすぐに現場で反映したいものもあり、充実したものであった
- ・上記の講義をセットで受講することにより、理論と実践を対比して理解することにより、相乗効果があった
- ・話が具体的で分かりやすい。マーケットの理論も必要な箇所を分かりやすく説明されていると思う
- ・岩手一関の実際の事例を通して、地域ブランド化実践のコツを分かりやすく学ぶことが出来た
- ・内容も分かりやすく、とても参考になった。もう少し講義の時間があればよかった
- ・マーケティングやブランドについて、前講義で受けていたため、スムーズに入れた。内容も事例をふまえ、わかりやすかった。資料についてパワーポイントに分かりやすく作成してあったので、頂きたかった
- ・地域ブランド化戦略で学んだことを、具体的な事例をもとに説明がなされた。地域ブランド化には時間がかかり、すぐにできないことがわかった
- ・仕事に熱心でない部下を「人罪」にさせないため、工夫が必要だということを感じた（本筋ではないが）
- ・理論的に噛み砕いた講義であった。ブランド化に向けての一関市の方向性等が理解できた。やはり市場を読むことが重要であることが再認識させられた
- ・「地域ブランド」を確立するための手法を、一関の事例でわかりやすく説明していただいた。その中で地域ブランドは多くの市民が納得できるものでなければ定着するものではないということであり、コンセンサスのうえに確立されるものであることを理解できた
- ・行政と住民が一体となって取り組まれた一関市の事例を分かりやすくポイントを絞って講義いただいた。その中でも一番大事な要素は「人」であること。やる気を持って自己研さんに努めたい
- ・ブランドづくりのアプローチは、ボトムアップアプローチについて講義を受け今後の業務に生かしたいと思う
- ・市場を意識した視点が、感銘受けました

- ・人が本来持っている「感性」地域資源の可能性と必要性、ストーリーの重要性について実践事例を通して説明していただき、理解しやすかった

◎活用度 2

- ・話し方が分かりやすく理解できました。他市のイベントの成功例の話を聞いて参考になりました
- ・地域ブランドを実践し成功している先生の話しを聞くことが出来てとても参考になりました。特に、伸びている市場を見極め、そこに視点をおいて進めることが成功への鍵だということが、とても参考になりました
- ・一関市での「もち食文化」による地域づくりを実例に挙げての講義で、マーケティングにおけるメディアの活用法、人財づくりなど、コツが良く理解でき、面白い講義でした
- ・実情を知っているだけに参考にはしづらかったです
- ・地域おこしの実践について分かりやすい
- ・地域ブランド化の事例とともに、地域資源の選び方（3分野）、トレンドの取り込み（3C）、物語を作る（五感・言葉）、情報発信方法、人づくり（4大別、効果的な3項目）を学ぶ事が出来ました
- ・人材育成の方法、本を読む、旅をする、人と会うには共感しました
- ・短期間で成果を出すためにはコンサルに委託すれば良いということが分かった
- ・少し表面的な議論で、どう応用していけばいいのか難しかった
- ・①地域の資源は、自然・人文・経済。②伸びている市場で勝負。③人材育成は、本を読む、旅をする、人と会う
- ・パワーポイントの印刷が無かったため、理解度と活用度を下げました。ストーリー性（五感）と情報発信が大切なことは理解できたが、「トレンド」「ヒト」についてはもう少し、「実務のコツ」を教えていただきたかった

◎活用度 1

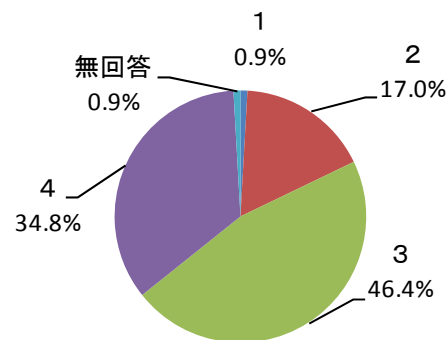
- ・一関市のもち食文化の地域ブランド化は興味深かったです

【講義 6】 「NPO フェージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」

NPO フェージョン長池会長 富永 一夫 講師

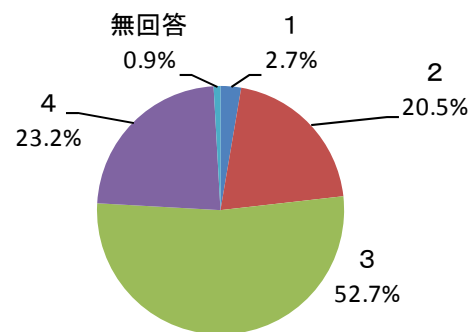
N=112

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	19	17.0%
	3	52	46.4%
	4	39	34.8%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



N=112

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	2.7%
	2	23	20.5%
	3	59	52.7%
	4	26	23.2%
	無回答	1	0.9%
合計		112	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・自分の幸せは、自分でつかみ取る、当たり前でいて難しいことを行っている講師の姿はとても輝いていた。本来の住民自治の姿を教えていただいたことは大変良かった
- ・団地を中心として地域づくり、人づくりにおける行政の関わり方について、具体的な事例を通して理解することが出来た。日野市の隣の八王子での取り組みでもあり、参考にしたい点が多々ありました
- ・70分たっぷりギッシリ詰まった 140 分程に感じるくらいの内容でした。スタートから退任されるまでのお話を一気に聞かせていただきありがとうございました
- ・次世代の担い手となれるよう一市民として地域活動に取り組んでいきたいと感じました
- ・現場の側から行政に求められる事が他の講義とも共通しており、今回の全国地域づくり人財塾で、我々が吸収すべき部分をつぐ、後継者作りほどの団体でも課題だと思った
- ・継続的な地域づくりのために、後継者の育成も重要なポイントであることを学んだ。今後の仕事に活かしたい
- ・地域づくりに必要な人材育成において、まちなかのパートナーとなりうる人（地域の学者・教授）取組んでいる人の発見や NPO フェージョンを実例として、指定管理者となるまでの経緯、活動する人の育成の考え方など、違った視点から捉えることができ、非常に勉強になりました
- ・後継者育成も重要だと感じました
- ・実体験に基づく講義なので、非常に興味深く受講出来た

- ・活動の継続の充実のみならず、人材の育成の事もきっちりと将来を見据えて行われており、素晴らしいお話だったと思います
- ・まちづくりで難しいのが後継者の育成。偶然を必然に変え、先を見据えた臨機応変さを身につけたい
- ・実践者の講義は、研究者とは違い説得力があると思われました。豊重先生もですがカリスマ性を感じました
- ・講師先生自らの経験を基に講義をされ、大変感動しました。また、後継者の育成にも成功された手腕には、常に先を見つめて行動されていた先生の素晴らしさを感じました
- ・先ほどの講義では講師がプロジェクトマネージャーとしての事例発表を通しての講義であったが、本講義は現場実践者として20年以上の実践事例は事実だけに分かりやすく、しかも説得力があるもので、学び得るものが多かった。非常に参考になる講義であり、時間が足らず残念でもあった。もう少しお話しが聞きたかった。レジュメも、もっと時間を取って説明していただきたい
- ・自身が動かれる中で「ゆっくりと、あせらないで」と言われた事が心に響いた。名刺交換の際に上記の事をお聞きしたら、アドバイスを頂いた。大変参考となった
- ・非常に分かりやすい内容だった。実際に活動され、人財育成をされた経験に基づくもので、行政の役割についても考えさせられた
- ・コミュニティのなんたるか、を教えてくださいました。地方でも地域の連携、繋がりが弱くなっている所もあり、その再生をしていくので大変参考になる講義でした
- ・経営の4原則（人、金、もの、情報）を詳しく説明があり、印象深い話が多くありました
- ・富永先生の物事に対する「ひらめき」のすごさに、ただただ感動しました。
- ・講師と行政が話し合い、物事が進んでいると思った。同じような立場になった時、紋切対応とならない能力を身につけたい
- ・集合住宅の住民を動かし、NPO法人を設立し、また、市の指定管理者までされているなど多くの人の協力が必要だが、すごいリーダーシップだと感じた
- ・柳谷自治公民科同様地域限定の「パッケージ」と考える。地域力は人であると考えており、人と人をつなぐ「タスキ」は信頼であると考えます
- ・感動しました。ありがとうございます

◎活用度3

- ・すごい熱意を感じました。ずっと話し続けるような勢いが地域を支えているのかもわかりません。感動しました（少し泣けました）
- ・次の世代の担い手の育成、継承の仕方など、参考になる点があった
- ・「自分のまちで素晴らしい活動をしている人、グループを発見する努力をしていますか？」の問いが印象に残っています。団地コミュニティーをつくりあげる過程は理解できたのですが、途中から良く分からなくなりました
- ・地域での活動をどのようにして発展させていったのか、経緯が良く理解できた
- ・NPOと行政の関係について考えさせられた。また、行政には地域のコーディネーターであるべきとの言葉は重い。そのようにこの意識を高く持てるか

- ・地域のため、行政や企業住民を少し筒巻き込んで事業を確立し、次の世代を育成し、潔く引き継ぐ富永先生の人柄と行動力に圧倒されました
- ・地域づくりをどのように担っていくかについて、実際の地域において担ってきた取組を中心に、実体験により講義していただき大変参考となるものであった
- ・NPO 法人の設立から指定管理者へという実績も素晴らしいが「後継者へのバトンタッチ」が、実は最も難しかったのではないかと思います。機会があれば、後継者の育成という観点からもお話を伺いたい
- ・パートナーとなり得る人材は非常に重要だと思う
- ・少し話が早く中々理解するのに時間がかかった。NPO になったことにより地域で何かやりたい人を集めることが出来、今日あるのだと思う。人を動かすのはやはり大変なのだと思った
- ・大学時代に多摩ニュータウン近くに住んでいたこともあり、とても興味深く、地域の風景を思い出しながら聞くことが出来た
- ・NPO 法人側からの視点、考え方等をお聞きできる貴重な機会でした
- ・長池公園の管理とコミュニティ形成の融合の苦労さで？楽しさを感じた
- ・自主自立（律）している団体の素晴らしさがすごく伝わってきました。行政はもっと積極的に人財を発掘しなくてはいけないという言葉が強く響いた。慣れ合いでないパートナーシップが目指せるよう頑張っていきたい
- ・身近な長池公園の歴史を知り、有意義であった。人づくり（後継者）を育てる話が印象に残った
- ・NPO 団体の役割や、後継者の育成など大切な課題への対応策について学べた
- ・過疎地域とは違った都市部でのコミュニケーション形成の大変さが伝わってきました。防災の観点から共助の仕組みは、地域から作る大切さを改めて感じました
- ・多少早口で聴き取りづらい部分があり、残念でした
- ・小さなコミュニティが、企業、行政と連携して指定管理者となるまでの課程が良く分かった。行政と関わりを重視し、後継者を育てることで、次につなげるプラットフォームが形成されていた。そのつながりを行政も支えていく努力が必要だと感じた
- ・時間の関係と、私の経験、知識不足でしょうが、内容があまり伝わってこなかった、残念である
- ・継続性と言う点で次世代を担う人材が5名もいることを聞きすごいと思いました。ただ、これが他の地方に応用できるかどうかは？
- ・官から民へという時代の中、行政に頼らず住民をまとめ上げ真の住民自治を構築したご講義を受け、当町においても粘り強く住民と協働し、真の住民自治の構築に向け努力していきます。ありがとうございました
- ・地元に戻ったら、地域で活動している人を発見して、協働して地域づくりを行っていきたい
- ・富永さん自身が、コーディネーター役となっていると感じました。次の世代の事まで見据え、早々にバトンタッチしていく勇気に感銘を受けました
- ・豊重先生同様、地域には多くの熱意をもった住民の方がいます。行政は、そういった人たちの行動を把握し、支援－タイアップしていくことが重要であると感心しました

- ・地域のつながりを目的に NPO 法人として指定管理を受託できるまで育て上げた様々な手法を学ぶ事が出来た。NPO 活動を継続するには、法人化のみでは難しいと思われる、その対策についてもしっかり考えていることに感銘した
- ・地域リーダーとしての活動、そして自治体との信頼関係、後継者育成まで、先を見据えた活動は素晴らしいものです。ただ、NPO の成長過程や後継者育成の過程についてももう少し話していただきたかったです
- ・新しい事を始めるときには、多くの賛成もあれば、多くの反対もある。ここで多くの反対があることであきらめてしまうと、何も前に進まない。無理のない計画を丁寧に説明し、理解してもらおう事が継続性の高い事業に発展していくことを、話を聴いて感じました
- ・これまであまりなじみのない地域の NPO 活動の実例は、新鮮な理解を得た。これからの自治体職員に必要な方向性が感じられた
- ・熱意ある話で参考になりました。但し、より具体的に事例を交えて教えていただけたら良かったです
- ・地域づくりの参考になりました
- ・自治体に頼らない組織の在り方は素晴らしいと思った。どのように組織を育てたのか、行政の関わりが難しい
- ・非常に熱い講師で胸に深く刺さるようなお話でした。本町ではあまり NPO と連携は組んでおりませんが、委託策として NPO への指定管理という選択肢を具体的にイメージ出来ました
- ・これまでの人財塾のまとめとして講義いただいたが、自分と関わりがない業務、分野のため、理解が難しかった。但し、人財育成という点では、地域づくりの成功例も、今後の人づくりにかかっていることを改めて感じた
- ・自身の話に織り交ぜた地域活性化で、とても分かりやすかった
- ・地元への入っていき方など、公務員としてしなければならないこと、能力に気付かせられ参考になりました
- ・市では、指定管理を前提に、NPO の設立から共に事業を進めたことはあるが、講義の内容のケースはない。地域で活動する組織はあるが継承の問題は多い
- ・パワフルさ、ちゃんと後継者も育てておられることに驚きました
- ・「人財のイノベーション」次世代のリーダーを早くから育成するという取り組みが、素晴らしいと思いました。「NPO」による運営のメリット・デメリットなど、もっと時間をかけてお話を伺いたかったです
- ・先ほどの物語が必要、押し付けセールスになってはいけないの言葉が印象的でした。「人財を発見する力」人と人のつながり、今後、養っていく上で魅力あふれるお話を聞かせてもらいました
- ・色々これまで苦労されたこと等に大変感銘を受けました。市民的視野を肌で感じる事が出来、官民協働の重要性を実例的に具現し、理解することが出来、大変参考になりました
- ・現在、私も地域の祭りに関わっていますが、限られたメンバーでの活動となっています。講義の内容を参考にして「人、物、金、情報」が集められるよう頑張ってみようと思いました
- ・行動力と結果については、とても参考になった。限られた時間で難しい面もあったと思いますが、もう少し時間配分を考えていただければ、もっと有意義であったと思います
- ・最後のまとめとして、パワフルな講義をしていただいた

- ・出来れば、講義は資料に沿った内容でお願いします
- ・地域づくりの取組における様々なプロセスを、現場を経験した生々しい言葉で実感することができた
- ・具体的な体験を基にした内容であったので、とても参考になった
- ・講義として聞くのではなく、現場で他のスタッフの方々の話など織り交ぜながら聞けたらもっと良かったらと思う
- ・「地域づくりは人財」というテーマで講義頂いたが、NPOの事例、内容に重きを置くよりもっと、人づくり、にウェイトを置いてほしかった
- ・今まで2日間で学んだことを事例を通じて説明があった。身近なことからの事例であったためわかりやすかった。これからは地域の活動を行っている人といろいろやっていく必要があり、また自分自身も地域の中に入っていくことが大事だと感じた
- ・もう少し配布した資料をまじえて話をしていただきたいと思いました
- ・コミュニティづくりには我慢と忍耐が必要との言葉に気持ちが少し楽になった。まさに今、私が地元で似たような苦勞をしているから
- ・指定管理者となるまでの実体験を通じて、地域の再生方法を学ぶことができた。また地域づくりの中には後継者づくりも含まれることを学んだ
- ・必要に駆られた際に人は行動する。そうしてパートナーとして認められるための努力等の講義大変勉強になりました。こんなに素晴らしい一般人が増えたらもっと町は良くなると思った
- ・地域のコミュニティを0から作り上げていくことのむずかしさと、やりがいを理解することができた。また、そのコミュニティを持続性のあるものとするため後継者の育成と、行政の関わりの重要性を理解できた。参考とする部分も多かった
- ・団地の管理組合からNPOを立ち上げ、八王子市の指定管理者になり、今なおその活動域を拡大しておられる富永氏のパワーを感じた。市民と行政をつなぐ人、まちの中で活動している人を発見することの重要性とそのためには行政も足を運びその方々を支援していくことが必要である
- ・「小さな覚悟」＝本気 「平成狸合戦ぽんぽこ」＝ストーリー
ネットワーク組織や多くの人たちとの、良好な関係等を戦略的に進めていることが印象に残った。後継者の育成など将来の展望を見据えることの重要性を理解した。

◎活用度 2

- ・物事を先頭で実行する行動力、実行力は素晴らしいと感じた。今後、後世代の活動がどのようなようになっていくのか気になる
- ・NPO 法人と行政が対立するのではなく、仲良くするというスタンスには、好感をもった。NPO は、地域等の課題を解決するために活動をする訳だし、行政もそういう側面は当然あるのだから。後継者育成についての考え方も本を読んで詳しく知ろうと思った
- ・説明が単調でわかりづらかった
- ・市民がNPOを立ち上げ、指定管理者になる経緯が良く分かり、また人が集まる公園をつくるための気遣いが良く分かりました。また次世代を育てていたことも素晴らしいと感じました。後日、本も読んでみたいです

- ・富永先生の実体験を交えた講義は、人材がいかに重要か理解できました。自分の住む街とは環境が違うため、共感できる部分は少なかったですが、やれることからやって見ることの大切さが良く分かりました
- ・立ち上げから現在まで苦勞した点を講義していただき参考になりました
- ・正直あまり入ってこない内容だった。しかし、活動の中に若手の育成という部分については学ぶべきものがあったと思う
- ・人材を発見する事も大事だと感じました。そのためにはアンテナを高くして色々な所で人に会うこと
- ・NPO 設立、運営にかかる苦勞、心構えや対人折衝などについて共感できた。人財育成（後継者）の重要性も認識できた
- ・NPO フュージョン長池の設立と指定管理者になった話が印象に残ってしまい、何を伝えたかったのか、よく分かりませんでした。話の節々で前の講師から教えていただいたフレーズ（キーワード）を引用していただいたので、振り返りが出来ました
- ・当市には団地自治会があり、外国人との共生にとっても難しさを感じております。ご講義を頂きたい事例とは異なりますが参考にしたいと思います
- ・NPO の活動を通して OJT を行っている、そして後継者を育てておられた話を聴き、まず自らが動き、人を見つける事の大切さを学びました
- ・やねだんの豊重館長もそうですが、この富永先生も上手に人を動かしていくものだと思います。草刈から始まり、地元の人を引き付け、企業や自治体を引き付けるのに、出来ないことを自覚し、出来ることをタイミング良く実践されてきた結果なのだと思います。後継者への引き継ぎまでが考えられていて、地元の将来を見据えているのが感じられた
- ・公園の指定管理者になることが、NPO にとってどのようなメリットがるのか分からなかった
- ・0からのスタートで、組織化する過程が分かった。目的をしっかりと持ち、目標を掲げることで、実現を成すことが出来る。やはり人財のたいせつさが重要であると感じた
- ・ご自身の経験を中心に説明いただいたが、それをどう政策に反映していくのか理解しにくかった
- ・NPO 設立までの苦勞や、その後の公園管理を受託した後の人の動かし方や関わりについて学んだ。もうちょっと論理的に話して頂いた方がわかりやすかった。少し NPO の内部の話が多くて分かりづらかった
- ・NPO を立ち上げるまでや公園管理の難しさなどひとつの NPO 法人の実情を詳しく説明いただき、終始、これまでの先生の御苦勞はいかばかりかと拝聴しました。私たち受講生に伝えたかったことや行政マンとしてすべきことが明確には理解できなかった部分があるので地元の NPO の状況も調べて今後の業務に役立てていきたいと考えています
- ・街の中でいい活動をしている人を探す
- ・行政の押し付けとならないような、住民への説明が大切だと同感した。講義では、行政職員として何をしてもらえば、住民団体（NPO）の力を引き出せるかについて、説明を深くしていただきかった

◎活用度 1

- ・話がパワポ 18 頁で止まっている 78 頁までであるのがもったいないと思った。一定調でマニフェストのようだった
- ・やねだんの豊重さんと同様、やはりこういう熱意と情熱を持った人がいてこそ、地域活性化が成せるのだと思いました

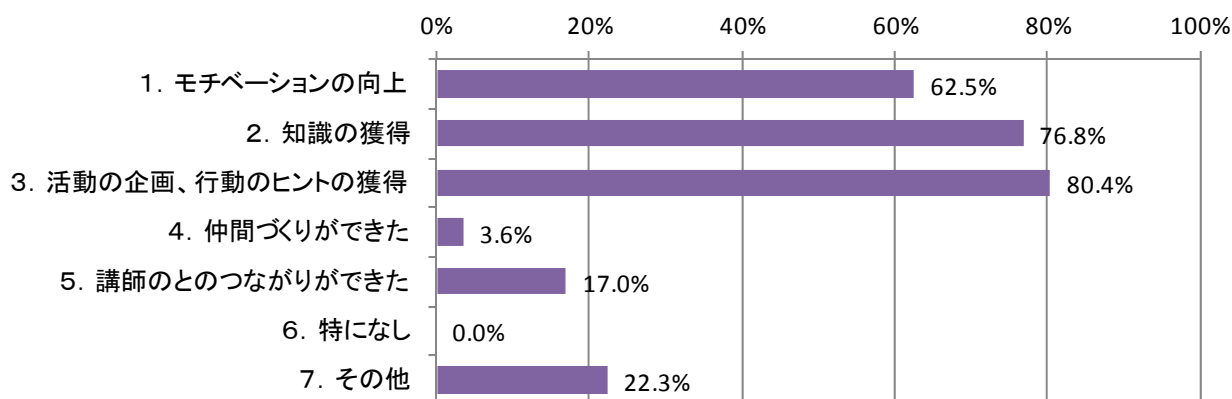
◎その他

- ・NPO のブランド化や組織持続性の重要性の話聞くことが出来た。非常に感銘を受けた

②研修全体について

- 人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

	回答数	%
1. モチベーションの向上	70	62.5%
2. 知識の獲得	86	76.8%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	90	80.4%
4. 仲間づくりができた	4	3.6%
5. 講師のとのつながりができた	19	17.0%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	25	22.3%



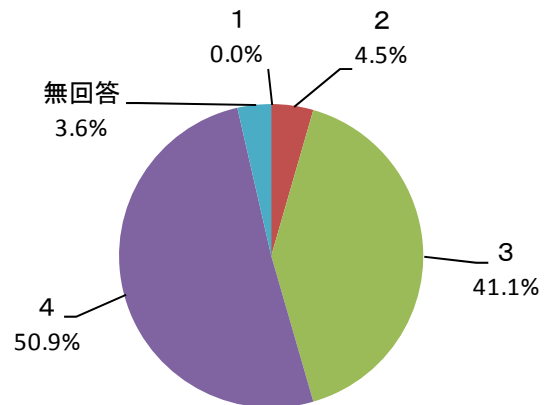
<その他内容>

- ・まとめて、これだけの講師の方のお話を集中的にお聞きできる機会は、そうないと思う
- ・TV 等ではその理論的裏付けまでの解説はない、そこがこの塾ではクリアに見せてくれたと思います。行政マンの立ち位置は現場でもがくしかなさそうですが
- ・2 日間の人財塾なので、JIAM や JAMP より 1 日少なく座学中心ですが、3 週間の中の 2 日という位置づけで、2 日目からの日程は良かったです。この課程には、福祉医療分野と地域活性化分野の政策課題演習があり、そこで学んだ事をベースに、みんなで考え立案する作業が set になっている点が大変役立つと思います

- ・政策に関する知識が乏しい私でも理解できる分かりやすい講義でした。大変参考となりました。ありがとうございました
- ・地域づくりは、住民が主体的に自治活動ができるよう長い年月をかけ、行政職員として、人と人をつなげ、またサポートしていかなければならないと、研修を通して勉強になりました
- ・熊本のブランドづくりをされた棟方先生など、大変著名な方から間近で色々な話を聞けて大変貴重な時間でした
- ・地域コミュニティの成功事例をお聞かせいただきました。また、その手法についてもご講義いただきました。今後の職場において、必要不可欠な事でしたので、やる気の向上につながりましたし、ヒントも獲得できました
- ・今回の講義を通して“人材”ブランドについて知識の習得が出来たかなと感じました。私は、地域の活動に対して、行政がどう携わっていくかという仕事に関わった事がすくないので、仕事の面だけではなく、自分の住んでいる地域においても、この塾で学べた事を活かしていければと思いました
- ・地域づくり、ブランドづくりの手法は今後の業務に必ず必要となるものなので、他の職員にも広めていきたい
- ・講義後も、お残りいただきお話できたことは非常に有意義でした。ありがとうございました
- ・内でもなく外でもない場作り、埋もれている人材の発掘、戦略的なマーケティングによるブランド作りなど学べて良かった
- ・実際に熱意をもって取り組んでいる方々の生の声は、「何かしなければ」という気持ちにさせるものでした。また、マーケティングの知識など、これまで関わったことのない新しい知識の分野の話は、更に深く学んでみたい気持ちにさせるものでした。考え方の新しいフレームが増えた気がします。
- ・地域づくり、地域活性化をする上で必要なのは、人財の育成と住民参加、住民主体であると感じました。また、人財の育成には継続的な取組と根気が必要だと感じました
- ・これまでイメージとしてしか分かってなかった事を、理論的に知ることが出来て非常によかった
- ・棟方先生の説明が特にわかりやすかった。県の研修にも是非参画頂きたいと感じた
- ・自分も自治会長を行っており、豊重先生、富永先生が地区会長を行っていらっしゃるだったので、話も興味深く、今後の活動へ活かせることが期待できました。また、名刺交換もできましたので、「今後、行き詰った際に連絡してください」とのこともおっしゃって下さいました
- ・様々な視点から人材づくりにアプローチされている現状を再認識するとともに、人の和が大切であることを感じた
- ・すべてにおいて、成功事例を聞けて大変良かったと思う
- ・同じ鹿児島県のやねだんの豊重館長にはぜひ一度現地でお会いしたいと思った
- ・共通として「地域づくりは人」「行政マンはコーディネーター」としての意識改革が主と感じ、まさにこれに尽きると感じております
- ・自分が暮らす町にある、多くの課題について時間をかけて解決することで持続可能なまちづくりがみえてくる
- ・住民との協働を（効果的に）実現するため「もう少し汗をかかなければ」と感じた
- ・人、モノ、金、情報の多様性

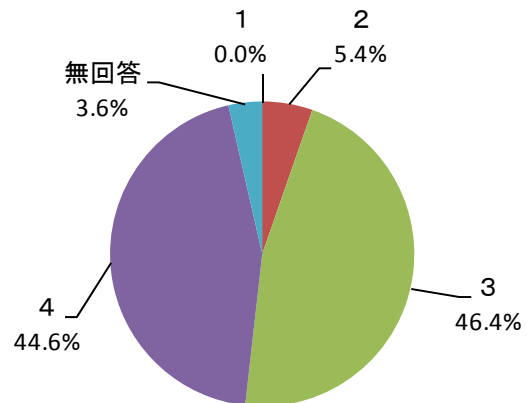
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいとおもうようになりましたか？

<活用度>		N=112	
		回答数	%
↑ 思わない 思った ↓	1	0	0.0%
	2	5	4.5%
	3	46	41.1%
	4	57	50.9%
	無回答	4	3.6%
合計		112	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

<活用度>		N=112	
		回答数	%
↑ 良くなかった 良かった ↓	1	0	0.0%
	2	6	5.4%
	3	52	46.4%
	4	50	44.6%
	無回答	4	3.6%
合計		112	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- ・講師によっては時間が短く、もっと具体的話を聞いてみたいと思った
- ・1 コマの方は短く、2 コマの方は長く、自治大の1 コマの70分にこだわらなくとも良かったのではないかと思います
- ・講義のボリュームが多すぎて時間切れとなってしまったものがあり、残念だった
- ・様々な立場からの講師の皆さんの授業で内容が非常に濃く、2 日間では短いように感じた
- ・飯盛教授の講義をもう少し聞きたかったです
- ・今回の研修で、どこの自治体も学んだ内容について、即実行するという訳にはいかないと思うが、理想に近づけるようスキルをより身につけていこうと思った。もう少し、ゆっくりと内容を教えていただけたらありがたい (途中でかけあしになった)
- ・もう少し深く時間をかけて講義を受けたいと感じました。素晴らしい先生方の講義なので、もっと理解し、身につけたいと思いました
- ・もう一日、実践の現場のお話があるとよいと思いました

- 一つ一つの講義の内容が、どれも興味深いものであり、1 コマ、あるいは2 コマでは足りないと感じました。基本的な考え方や取組事例の内容については、ある程度理解することが出来ましたが、もう少し時間をとっていただき掘り下げたお話を聞ければ、よりい充実した内容になるかと思えます
- 全ての講師が、若干尻切れ感があり残念でした
- 講師より1 時限の枠しかなく、講話をもう少しお聞きしたい感じがしました、可能であれば2 時限は割いていただくとありがたいと思えます
- 違う視点から多くの先生の講義を聞くことが出来、非常にありがたかったのですが、内容を減らし、もう少しゆっくり講義を聴き、質問の時間もとれるようなスケジュールにさせていただけると良いと思えます
- 質問時間をもう少し確保してほしい講義がありました
- 研修の講義時間が短いものがあったので、もう少し時間を取ってほしい、3 日間の講義でもいいくらいの内容だったと思えます
- 全体のカリキュラムが密過ぎて頭の整理が追いつかない
- 時限数が全体的に少ない
- 全体的に少し時間が短く、もう少し時間を取った方が、よりしっかりと理解でき身につけることが出来るのではと感じました
- 飯盛先生、棟方先生の研修時間をもう少し長く取っていただき、更に詳しいお話をお聞きしたかったです
- コマ数が足りていない。もう少しじっくりと聞きたい内容ばかりでした
- 全体的に、もう少し時間をかけてお話を伺いたかったと思えました
- 今回の研修時間を考えれば、内容、質にボリュームがありすぎると感じた講義があったように思います
- 非常に有意義な講義を受講させていただきありがとうございました。テーマである地方創世に向けた人材の活性化ということで、これから最重視されるものであり、これについて活用したいと思います。講義数、時間数をもっと増やしてもらい、しっかり受講したい感想を持ちました
- 理論的な講義については、コマ数の関係から、時間の制約などもあり、十分な理解に至らないあった感じがある
- 飯盛氏や朽尾氏の講義に時間を長くしていただき良かった
- 時間的制約もあり、駆け足感があって、少し残念であった。特にこれから、地域の資源を発掘、創生していくこととなるマーケティング、ブランドについて、もう少し様々なブランドが生まれた過程などききたかった
- 日数の関係で多少しょうがない部分があると思えますが、もう少し講義の時限数を増やした方が良い気がします。たくさん用意されているスライドも、かなりの枚数を省略してお話しされており、途中でも時間の関係で結論をいう場面もあった。結論も当然良いが、その途中の部分も聞いて、初めて理解が深まる気がしますので、折角貴重なお話を聞く機会なのにもったいなく感じました

<内容・進め方について>

- ・地域コミュニティの話は大変参考になりました。県レベルでどのように助けていけばよいかという視点も、もう少し加えていただけると良いと思いました
- ・人財育成の理論・事例と言う流れになっており工夫されていたと思いました
- ・地域活性化の成功は、豊重講師、富永講師のような「人」による所が多いと実感させていただきました。そのような方々を行政はどのように見つけ、支援していくべきなのか、より実践的で具体的な研修を望みます
- ・どの講師もとても素晴らしく、わかり易い講義を行っていただき有難かった。ただし、棟方講師と朽尾講師の講義がブランド、マーケティングで重複しているように感じた。お二人の講義の間に、別の方の講義を入れるか、または少し違った視点からの講義をどちらかに行っていたいただければもっと良かったと思う
- ・すでに地域でコーディネーターとして活躍されている方を講師としてお迎えしてみたいかがでしょうか。そういう方の実務での問題点などもお聞きしてみたかったです
- ・NPO や住民、企業と共助して成功した自治体の声も聞きたい
- ・より実践に近い講義がよかったです
- ・実践事例の講義では、課題の乗り越え方（現行の法令制度との調整や財源など）の実務についても詳しく伺うことが出来れば良かったと思いました
- ・地域づくりの手法など技術的な研修と成功事例を学ぶ事が出来ました。しかし、刈谷市のようにデンソー、アイシンなどトヨタグループの本社が市内にあり、人口や税収が増え続け、公共サービスが充実している地域では、一部の職員や市民が将来を見据え、地域づくりを訴えても、周りは冷めた反応で、その必要を感していない地域もある。こうした地域では、どのように将来を見据えた地域づくりが出来るのかということについて学ぶ機会があると良いと思います。ステップアップ研修にも関係します
- ・6つの講義のそれぞれはとても内容の充実したものであったが、6つの関連性がみえづらかった。そもそも関連性はあまり重視していないのかも知れないでしょうが、できれば関連性がはっきりしていると理解しやすかったような気がします
- ・行政職員として、積極的に行動してくれる住民やNPO 団体からは、どのようなことが求められており、ボトルネックはどのような点があるかを具体例と共に講演いただけるともっと良かったと思います
- ・多種多様な具体例を詳しく聞きたいと思った。失敗例も聞きたい
- ・失敗例からの気付きや、原因も交えた話も聞きたい
- ・多くの事例を元に講義をしていただきましたが、いずれも成功事例の話がメインだったので、失敗事例についても話がほしかった。時間の関係もあって難しいのかもしれないが、、
- ・成功事例ばかりではなく、失敗事例も聞ければ、何が悪かったのか解るような気がした
- ・全て成功例のお話であったため、受講者にとっては理想どまりになってしまうと思います。地域リーダーとなる人財や地域の特色がなければ、どうしていいのかが分からないのが、ほとんどの自治体です。成功例はモチベーションを上げるために必要ですが、失敗例～反省～成功という事例があれば聞いてみたいです

- ・似た内容が多かった。男性講師人ばかりなので女性と同等にしてほしかった
- ・講義が多かったのもう少し演習形式のものがあったのではないと思った
- ・アイスブレイクなどがあると、理解度が進むのではないのでしょうか？マーケティング、特にブランド化していく点に重きを置いた講義、内容が多かったように思うが、まずは適切な課題を抽出できているかということも大変重要と考えます。そのような課題への立て方についてアプローチ論などが取り入れていただければと思います
- ・いくつか事例のご紹介はありましたが、実際にその現場に行ってみたいと思うと、もう少し全国各地の事例（今回も東北、関東、北陸、九州とありましたが）も御紹介いただけると良いと思った。講義ではなく、事例集の配布のみでも良いと思います
- ・自分たちにはもう少し、噛み砕く時間が必要と感じるため、関係する本などから、情報を収集するなど、努力したいと思っており、それぞれの先生方が進める本など紹介するペーパーがあるとありがたい
- ・講義の資料も事前に配布いただければ、あらかじめ目を通すことが出来、予習することで、理解も更に深まるかと思しますので、可能であれば資料を事前配布いただけると幸いです
- ・パワーポイントと資料がない方がいらっしゃいましたが、復習の際にはパワーポイント資料があった方が良いと思います
- ・船井総研さまのPP レジメを頂きたかった。（講義の内容は、群を抜く分かりやすさでした）
- ・配布された資料を活用されず、話だけで終わられた講師もおられ、話についていけないところがあり、出来ればホワイトボードを使用するなど、視覚に訴えるような進め方をされると、頭に残りやすかったと思う
- ・講師紹介にバラツキがあり、その説明に時間を取られる講師もいらっしゃった。シラバスまでではなくても統一的なフォーマットにより事前告知してはどうか
- ・講師の紹介、プロフィールは先にあると分かりやすいということが判りました
- ・マイクの具合や講師の言葉が聞き取りづらいことがあった
- ・専門的な言葉（英訳など）の意味が不明な箇所が時々出てきたので説明書きしてあげればと思います。抽象的な表現があり、理解できないものもありました
- ・お手数おかけかと思いますが、講義の議題から特に聞きたいこと、質問等事前にアンケート、アプローチしていただけるとありがたいです。非常に勉強になりました。ありがとうございます
- ・席次について3週間ずっと固定と言うのは、前例の研修生にとってはプレッシャーが大きいと思います。日程ごとに一列ずつずらしていく等の改善があると良いのではないのでしょうか

<その他 感想等>

- ・とても参考になり、また貴重な講演が聞けて良かったです
- ・初期のころに比べて、人材育成や地域づくり、地域との協働、人の（研修生の）考え方が少し変わったと思います。それだけ「地域」が注目され「地方創生」のプレッシャーもあるのかもしれない
- ・「地域ブランド戦略」棟方先生の講義内容は興味深く、もっと話を聞きたかった
- ・大変良かったと思います

- ・知識不足により、お話を頂いた事例について、知らないものも多かったため、講座の前にもう少し事前学習をしておけば良かったと感じました
- ・大学の先生の話は難しく感じた。具体的な話の方がイメージが付き、頭に入りやすかった
- ・自分の業務としてかかわったことのない分野だったので、全体的に理解が追いつかない感じでした
- ・理論は大切だとわかっているが、興味深く聞いたのは、やはり現場で働いている人の話だった
- ・協働の大切さを再認識するとともに、それによって、より大局的な視点から地域活性化について考える良い機会となりました
- ・個人的には研修していただけることは有難く役に立つと思うが、総務省として、次の段階に移っても良い頃ではないだろうか。例えば、プラットフォーム作りが大事だと共通認識が出来つつあるなら、全国の自治体にそういう交付金なりを出すとか、地方公務員の自主性に任せてはいけなと感じた
- ・最初の総務省の方の説明で、もう少し人財塾の在り方や、関わりについて明確に説明いただくと、さらに良かったと思う（この講座の目的が少しぼやけている）
- ・人財塾の全体像がイメージしづらかった。最初に人財塾の概要をもう少し深く紹介していただければ良かった。人財塾の講師人陣は、どういった形で集められたのか、また報酬は国から支出されているのか少し気になった
- ・改善点は特にありません
- ・公務員の常識、民間の常識、地域住民の常識、それぞれの立場は違うと考えるが公務員が欠如している常識を、痛切に批判していただきたかったです。知識も大切ではありますが、改めて考えさせられるためには、耳の痛い批判が大事ではないでしょうか
- ・特になし

③ 今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

<内容>

- ・全国の様々な事例紹介
- ・事例紹介を中心とした研修
- ・それらの事例のケースメソッド
- ・地域ブランドに関することについて、事例をもっと知ることのできる内容が良いと思います
- ・自治体職員による、地域での「人材づくり」の方法を実例を挙げて聞きたいと思いました
- ・多くの事例を聞かせていただいで、その事例を今後どのようにモチベーションを維持していくのかを考えていかなければと思いました。また受講生が各地の事例を持ち寄り、問題点などをグループ講義することで共通意識が生まれてくるのではないかと思います
- ・具体的事例、その成功と失敗談など
- ・成功事例、失敗事例
- ・体験談
- ・失敗や、現状及び将来の課題、そして、それに現状どのような取組を行っているのか、行えば良いのか、知りたい

- ・講義の中で、実例として成功例だけではなく、失敗例も沢山聞いてみたいです
- ・ブランドづくりの成功例も知りたいが、失敗例も知りたいので、失敗例から学ぶという視点の講座があると興味深く聞くことができると思う
- ・今回の研修はどちらかと言えば成功へのロードマップ（成功事例も含めて）的な講義であったような気がする。反面教師ではないが、失敗例のような事例も含めたものにしてもらいたい
- ・今回の理論を実際の事例（現場）と突き合わせながら説明していただき、地域活動や経済活動、そして特に、行政施策に具体的に、どのように生かされているのか、活用されているのか（成功事例）を知りたいです
- ・行政に頼らない地域づくりを行ってきた人の話をお聞きし、今後は協働のまちづくり（行政と一緒にまちづくり）を行っている話を聞きたいと思いました
- ・地域の活性化事例として、福祉分野で成功されている事例研修を聞いてみたい。その他、あらゆる分野から選定いただけると参考にしやすいと思う
- ・地域ブランド化の先に来るものを、事例も含めて伺いたいと思った
- ・地域づくりに取り組む先進地自治体職員のお話を聴いてみたい
- ・今回の取り組みは市民サイドから見た事例がほとんどであったので、行政側からの視点で、行政がどのように関わっていったのかという視点が欲しいと思います。（具体的に、行政がどのように支援協力したのかなど）
- ・地方公務員に求められること、地域とのつながり、アプローチへの展開、地域づくりリーダー育成の取組等に関する事。これらの内容でステップアップしたいと考えます。地方創生、地域おこしに関する取組に向けた研修を望みます
- ・自治体によって、問題課題も変わってくるので規模に応じた実践のコツ等を望みます
- ・県としてどのような事をしていくのが効果的なのかのような、方向性のヒントになるような研修がステップアップ研修としてあればよいのではないかと思います
- ・取組み成果結果の評価方法について学びたい
- ・一概には言えないが、現場で地域を支えている人の生の声は参考になり説得力が高い、現地工程も含めてはどうか（可能であれば）
- ・「地域ブランド戦略」に関する講義がとてもよかったですと思います。講義の内容がかなり駆け足な感じでしたが、ステップアップとして、もう少し時間をかけて、マーケティングの手法やブランド化について学びたいと考えております
- ・実際の現場として、何をどのように動くべきかを教えて欲しい
- ・今回の研修では、事例を基にした講義のため、分かりやすく、とても役に立ちました。人材（人財）の大切さが良く分かりましたが、自分の地域を振り返って見ると、講師の様な人財が少なく思います。ステップアップ研修を行うならば、人財の発見、育成に特化した研修を望みます
- ・NPOの内部事務の実証を知るようなものなど（財務や業務の分担の仕方、など）
- ・地域ごとに必要な活動が違っているので、自分の働く自治体と課題の共有するメンバーでの研修内容
- ・コーディネーターとしての地域への入り方についてノウハウなどを、更に詳しく説明するとともに、地域活動でリーダーとして活躍された方の後継者として、前任者と同じように活躍されて入る方から、如何すれぱうまく後継者が育つのかのノウハウを引き継がれた者の立場から説明してもら

- ・演習のテーマの中に地域ブランド力やマーケティングなど設定していただければ、より充実し内容の濃いものになるのではと思います
- ・コミュニケーション対話に関連した研修
- ・行政への期待なのか、住民主導に主眼を置いているのかを、はっきりさせた上で、講義が展開していくと理解しやすかったのではないのでしょうか
- ・ディスカッションの場 飯盛先生のケースメソッドで取組んでいる活力を考えてみたい。お世話になりました。研修生と言うのは、とっても贅沢な学びの場でした
- ・グループ討議
- ・人財育成の具体的な手法について、学習してみたいと思います
- ・私には今回の研修も高度であり、理解できずにいた部分もありましたので、機会があればもう一度受講したいです

<具体的な演習>

- ・具体的な演習や実践など
- ・実践的なもの
- ・講義を減らし、演習中心にしてほしい。ワークタイムが大事なのでは？と思いました
- ・より実務的な取組、トレーニング、先進的行政等の紹介
- ・ワークショップなど
- ・実例を挙げた研修内容が分かりやすく、また実務的に理解しやすと思います。また、実例も行政規模や人口規模が様々な事例で示していただければ、自分の自治体との比較の中で実務に活かしやすい、イメージしやすいと思います。(都会の自治体だし) 規模の小さい市町村だし、と言った考えを抱けば、今後の自己啓発といった面では参考とはなりますが、業務的に実際に活かそうとは、どうしても考えにくいです
- ・理論のを身につける具体的な演習を中心としたプログラムを望みます
- ・具体的に地域を決めて、その地域おこしの具体策についてグループで検討したら、いろいろな意見も聞けて楽しいかなと思った。
- ・ブランド作成から運営(管理)の実践研修など
- ・地域で一般対象に実施する説明会等に参加するのが、より地元でフィードバックできるのではないかなと思う。内容はその地区に応じたものが良いと思う。
- ・国内外の実践事例から学ぶ研修
- ・棟方先生の講演の中で少しふれた、アイデンティティ構成シートを使ったグループ討議の中で、実際にブランド作成を行って見るのも良いと思いました
- ・ブランド戦略の講義の際に、短時間で行ったような演習やグループワークを経験することでインプット、アウトプットが完成すると思う
- ・ワークショップの様な実体験を行う
- ・より実践的な内容のもの、例えば、住民参加のワークショップを運営する際の進め方など、実務にすぐ活用出来るものを希望します
- ・実体験(実際、これから立ち上げられる団体との勉強会)

<フィールドワーク>

- ・フィールド・ワーク的な研修（出来れば20人くらいのグループ対1講師）→現場でなくとも、地域の様子が分かり、その地域にどのような取組を仕掛けたのか話していただける講師の方と交流できる状態があれば
- ・講義を聴き、頭では分かったと思うが、体験してみないと分からないこともあると思う。講師たちが活躍されている現場に行かせていただき、体験させていただける研修も良いと思った
- ・具体的な現場で数日作業に関わると共に、現場の人との意見交換の場があれば良いのではないでしょうか（フュージョン長池のチラシの様な）産学としては理論をもっとやってみたい、マーケティングを2日間とか、演習的なものも含めた形でやはり数日間（5～6日位でしょうか）のイメージです
- ・行政がどのように携わっているのかどうかという事例の内容・座談会形式より、小～中規模の講話や意見交換・事例地への視察研修など
- ・ワークショップなど実際の取組への参加
- ・先進者との交流会など
- ・実際に現場に赴いて、地域住民に出会い、また活動内容を目にしていくことが何よりの研修になると考えます。地域によっては行うべきことが異なっている、地域づくりのヒントを体得できると思います
- ・現場エクスカージョン等の実地研修
- ・先進地視察
- ・現地などを、まじかに見れるともっと分かりやすい
- ・実地研修
- ・座学では、様々なケースを学ばせていただいたので、それらのフィールドワーク、実地研修を希望します。理論と実践が結びつくようなステップアップがあればありがたいです
- ・小人数ごとのグループワーク（演習、実践形式）。実際にどこかのまち歩きするのもあり
- ・座学だけではなくフィールドワークを入れて見るのは如何でしょうか
- ・現地（実施）研修を行えば、成功例、失敗例に関わらず実感がわくと思う
- ・現場での体験が一番理解が進むし、人とのネットワークも深まると思う。柳谷で実践活動を行うことが、知識、ノウハウ等の向上に最も資すると思うし、そういった研修を希望します。
- ・地域づくりを行っている自治会やNPOを訪問し、直接、取り組みの内容や苦労したことについて話を聞きたい
- ・半強制的に実際のフィールドに立ち、現場を経験する内容（一ヶ月程度）。同一県内の職員がグループと成り、地元県の中の優れた取り組み事例を経験（運営に携わる）する事

<このままで良い>

- ・今回の研修の内容で非常に良いと思います
- ・考え方、方向性については、今回の研修で、理解することが出来た
- ・きっかけは充分この研修で得ることが出来たので、あとは自分次第だと思っています。また、実務でそのような場面に遭遇すれば違うのかもしれませんが、現時点では特に思いつきません

- ・現状で良いと思います
- ・特になし

<希望講師>

- ・柳谷公民館の館長、豊重哲郎先生、また NPO フュージョン長池の富永一夫先生の講義など、実際にご自身の活動を交えながらの講義には、熱い思いを感じるものがあり、感動しました。知識の獲得のための講義に加え、今回のお二人の先生の講義など、今後とも引き続き研修内容に加えていただきたいと思います
- ・もしステップアップ研修に取り入れていただけるのならば、早稲田ビジネススクールの内田和成氏の講義を希望します。よろしく検討の方、お願いいたします

<開催場所>

- ・内容ではないですが、東北（仙台以外）で開催してください。それが東北への復興支援に繋がります
- ・実際の現場に行ってみることなど。多摩なら行けるかも
- ・地方でも研修の回数が多くなると参加できると思います。地域ブランドについて特に学習したいです

3. 市町村職員中央研修所（JAMP）編

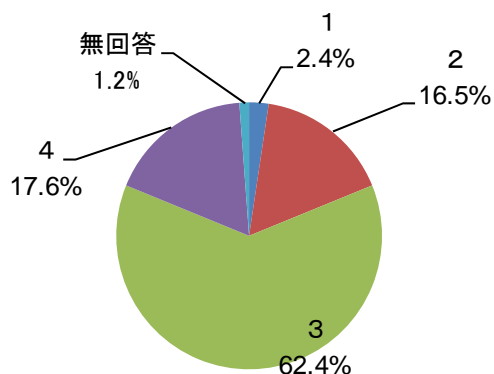
①各プログラムに対する評価

【講義1】「人材力の活性化について」

総務省人材力活性化・連携交流室長 野竹 司郎 講師

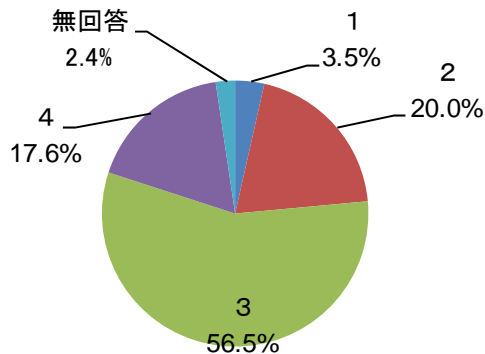
N= 85

＜理解度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.4%
	2	14	16.5%
	3	53	62.4%
	4	15	17.6%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



N= 85

＜活用度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	3.5%
	2	17	20.0%
	3	48	56.5%
	4	15	17.6%
	無回答	2	2.4%
合計		85	100.0%



＜感想＞

[理解度 4]

- ・人材を育成というのが、今後の課題としてあると感じました。それぞれの地域が、活性化に向けて取り組んでいく必要があると思う
- ・人財塾を受講する心構えができました。学びを地域に生かせるよう全力で受講します
- ・研修への心がまえになりました
- ・国が人に焦点をあてて施策を打ち出しているという姿勢が分かった。ただ、いかにして住民が主体となって取り組んでいけるようにコーディネートできるか、行政職員のテクニックも必要と感じたので、この3日間でヒントを得たい
- ・これから研修を受ける上での導入として、お話が聞けて良かったです
- ・今回の研修が、地域づくりを行政がコーディネートしていく上で何が必要かを、知識として身につけ、グループワークで考えていくものだということが分かりました
- ・まさに今五島市では地域おこし協力隊、集落支援員制度を活用して地域づくりに取り組んでいます。ただ、集落支援員だけが頑張ってもダメで地域の自発的な参加者が必要だと感じています
- ・地創Gの全体的な取り組みと総務省が地域づくりで重要なものとするのが何かということが判り易い資料でした。研究会の議論の経緯も併せて伺いたいと思いました

- ・今回の研修の主旨を理解することができ、どのような心がまえで研修を受ければよいかわかりました
- ・「HOW」よりも「WHY」の感覚で臨んでほしいというコメントを最初にいただけたことが良い学びにつながる一歩と感じました
- ・地域活性化のためには、人材力が重要なポイントとなるが、地域と行政との関わり方も重要だと思いました

[理解度3]

- ・地域住民はボランティアという事を忘れず、重荷にならない様、向き不向きの見極め、適正量（ちょっとだけ活動）
- ・総務省が取り組んでいる事業の主旨・目的等がわかりやすかった
- ・もう少し時間をとってもらい、総務省の考えや施策について説明してもらいたかった
- ・総務省の取組とどのように人材力の活性化を考えているのか分かりやすかった
- ・人材育成がこれからのまちづくりの主要なキーワードであると理解を深めました
- ・テーマとしての「人財」を総務省の取り組みを交えて理解を深めることができました
- ・”人材”を大切にしており、それに対する様々な施策を設けていることがわかった
- ・総務省の概要を説明してもらい方向性を知ることができた
- ・総務省の取り組みに関して知ることがき、ためになった
- ・総務省、国も色々と考えて今回のような研修会を企画し、地域での人財づくりがいかに重要か、またそれがそれぞれの市町村の核となり町の活性化事業反映に結びつけることが目標だと感じました
- ・いろいろな役割をもった人材が集まることで地域づくりの幅が広がることに気づいた。国と地方との連携の重要性を感じた
- ・「地域力＝人材力」という点は、非常に納得がいくものだった。「地域づくり人育成ハンドブック」をしっかりと読む
- ・地域力には、地域資源の発掘だけではなく、それを発見し人をつなぐ為の人財力が重要であり、自らがその人財となる必要があるという原点を学んだ
- ・総務省関連事業は今まで調べたことがなく、今後使ってみたいツールなどを知ることができよかったです
- ・総務省というと地域からかけ離れた遠い存在だと思っていたが、地域の活性化に熱心に取組まれていることを知り、勉強になった
- ・資料のボリュームに対して時間が短かった
- ・15分だけでしたが、今回の研修のポイントが学べました。ヒントと発想の転換 etc 人材力
- ・地方創生事業を行なう部署の人間として、地域への波及の重要性等を学びました
- ・講義時間が短かった
- ・今回の研修の目的について明確に理解する事ができた
- ・別機会があれば、もう少し詳しい内容でについて聞きたいです
- ・地方創生の国の方針、取組みなど、もっと長く講義時間をとってほしかった

- ・総務省で想定する自治体の人材作りの方向性を知ることができた。「地球創生」がどう関わるか、もう少し聞ければよかった
- ・もっと具体的な施策を教えてほしかった
- ・総務省の取組について改めて確認できた
- ・研修の中で、関係のない分野であってもそこからヒントを掴むことはできるという言葉に励まされました
- ・総務省地域力創造グループの取り組みや全国地域づくり人財塾の位置付を理解できた
- ・第1講のプロローグ的な役割であれば、もっと夢のある話をして欲しい
- ・総務省の施策を具体的に聞きたかった
- ・説明の時間が短いと感じました。もう少し具体的な施策について聞きたかったです
- ・地域活性化のコアは、人材であり、コアとなる人材をどう作るかが課題と感じた
- ・地域力は、人材力の結集。人材力の強化に向けた取組が重要
- ・学生のアイデアで地域を活性化する域学連携が面白いと思いました。関係のない話でも、何かヒントを学んでいただければ、という言葉聞き、そのような姿勢で学びたいと思いました
- ・地域の中で、多様の方とつながり地域づくりを行なう上で、自ら広い視野で学習し続ける意味がはっきりしてきました
- ・時間が短くて、聞きたい内容も記述されていたので詳しく聞きたかった
- ・総務省が地域づくりのために人材育成について様々な取り組みをしていることを知った
- ・地域活性化のための国の取り組みや本研修のコンセプトを大まかに理解することができた
- ・総務省の取り組みが理解出来た。HP等活用したい
- ・自治体職員の役割は、コーディネーターとなること、地域力を高めていくためには、人材力を結集することが重要である
- ・地域リーダーの育成をすることは重要なことであるので、どう育成していくのか？まずは、自分が地域活動に参加しないとわからないことが多いと思うので、活動に参加しながらヒントを見つけたい
- ・上司命令で今回参加しましたが、今回の研修の趣旨、意味が理解できました。参加する目的がわかり、はじめに導入で話していただきよかったですと思います
- ・人材育成は、長期的な視点での育成が必要であると改めて認識できた
- ・同じ組織にいながら、担当外で知らなかった取組を学ぶことができた
- ・研修の趣旨やねらいがわかった。しっかり取り入れていきたい
- ・総務省の方針をもっと簡単に説明して、この研修の主旨説明をしたらよいのでは？

[理解度2]

- ・活用できる活動支援メニューを模索したい
- ・時間が短すぎて、理解度が低かった。もう少し時間を取って説明すべき内容だと思いました
- ・もう少し時間をとってほしい。最後のよく質問される事項への回答を他のことについてもききたかった
- ・時間が短かったせいか、説明が大ざっぱすぎてよくわからなかった

- ・若者の力は、どの場面でも必要であり、このような研修に積極的に参加し、個の強化、スキルアップが必要
- ・ハンドブック、SNS を活用していきたい
- ・時間が短く事例集の案内といった様子で、もう少し時間をとっていただきたいと思います
- ・少々説明の時間が短かったように思う
- ・時間枠が少ないなかで、内容はたくさんあった。個々の事業については、担当者以外がその場で理解するまでには、いたらない
- ・自分に基礎がないので、講義の流れが早く感じた

[理解度 1]

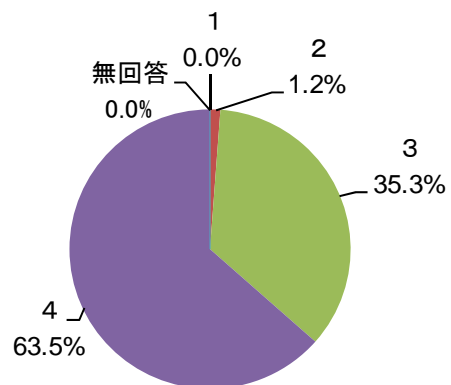
- ・かけ足すぎてよく分かりませんでした。後日・・・資料を読んで勉強したいと思います。総務省の SNS は活用したいです

【講義 2】「NPO フュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人材とは～」

NPO フュージョン長池会長 富永 一男 講師

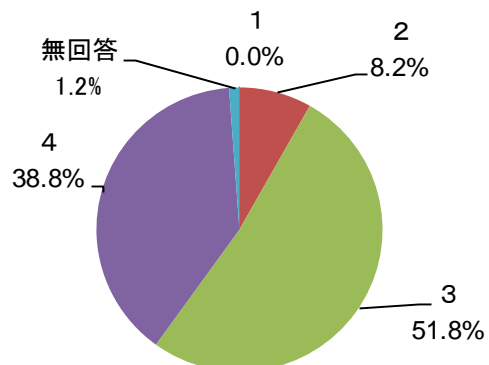
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	30	35.3%
	4	54	63.5%
	無回答	0	0.0%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	7	8.2%
	3	44	51.8%
	4	33	38.8%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・地域住民はボランティアという事を忘れず、重荷にならない様、向き不向きの見極め、適正量（ちょっとだけ活動）
- ・実際に先生が実践してきた事例発表があり、説得力があった。責任感が強く、リーダー自らが率先していることに感銘した
- ・NPO に対する支援制度の検討中であるため、大変参考になった。NPO 団体の継続活動を応援するためのヒントとしたい
- ・やろうとする人に次からいろいろなことを頼まれるとやらなくなってしまう。これは現在自治会等の後継者が育たない原因だと思った。我々行政もいろいろ悩んでいるので、今後どうすれば良いか考えたい
- ・経営の視点が必要であることを学んだ
- ・行政マンとしてでなく、地域に住む民間人として、勉強となった。また、行政の立ち位置についても学ぶことができた
- ・行政は、NPO と町内会等の市民活動団体の仲介役であることによりまちづくりが進むことを理解しました
- ・”人財”という言葉の持つ意味について理解が深まった。自分も人財となれるように働きたい
- ・NPO の設立と取り組みを聞き、まだ NPO が日本で根づく前からのモデル的な事例で、富永氏の周到な行動力を感じた
- ・八王子市の公園の指定管理をするに至る事例を通して協働についてのことが学べた
- ・富永先生のような気持ちがある住民の方がニュータウンのなかで生まれて、行政を刺激する役割を果たし、最終的には行政に頼らず行政並みの活動をしていることがわかり驚きっぱなしでした
- ・富永先生のような経営理念に基づく実践には、驚きがいっぱいでしたが、若手の育成の重要性にも気付かせられ、今後も自分を含めて取り組みたいです
- ・多摩 NT と所沢は、立地条件の似通うところもあり、とても参考になる。まずは、「この指とまれ」から、タウンマネージャのサポーターを増やすべく、フュージョン長池を TTP したい
- ・多摩ニュータウン同様に上尾市の都心に通う人のベットタウンという共通するものがある。人がいるかぎり人間関係ができるということ。そしてその人にあつた「ちょいボラ」という考え方にもっと肩の力を抜いて取組んでもいいと背中をおされた
- ・前々から一度はお話を伺いたいと思っていたので、念願がかないうれしいです。TTP を積極的に進めていきたいと思います
- ・わからないことは、わからない。自分にはできないから、できる人を呼んでくる。というスタンスが勉強になった
- ・地域活動を始めるきっかけの話は参考になった。民間経営者ならではの視点は、今後の私に活かしたいと思いました
- ・町会活動に関連したところは、とてもためになりました。子供をテーマにすることや、ちょっとだけボランティアであまりプレッシャーをかけないなど、後継者育成問題
- ・TTP は重要だと痛感しました。先生の考えを TTP させていただきます

- ・若い人に引き継ぎ、継承している事が勉強となった。継続は非常に難しい問題だと思う
- ・八王子という近い地域で実跡された事例は参考になりました
- ・地域で活動している方の接し方やどのように住民は、地域活動を考えているのか等具体例を交えながらの説明が大変参考になった
- ・地域力は、小さく産んで大きく育てるの言葉が心に残った。地方創生の名のもと、地域づくりを急ぐように上司から言われてるが、時間をかけてつくりあげるものと感じました
- ・行政職員が当たり前を使うことばを住民は知らない人も多い、またその逆もあるということに気付かせてもらった。「住民の立場になる」とはどういうことなのか学んだ。自分がどのような人たちと一緒に仕事をするのかを今後意識していきたい
- ・成功例の苦労がよくわかった
- ・地域活動の入口は「子供」と言われたのが印象的でした。「子供」に焦点をあてた地域づくりに着目していこうと感じました
- ・「人がいる限り、つながりはできる」「子ども達をテーマ」といったキーワードに気づきがあった
- ・これまでの取り組みと第2世代への引き継ぎまで富永先生の情熱が伝わってきました。参考にしたいです
- ・後継者の育成は特に必要だと思います
- ・仕事柄、地域づくりに関心のあるボランティアの方と接することが多いのですが、そのような住民側からの立ち位置で話を聞くことができ、勉強になりました
- ・地域の方にとっての”地域づくり”のスタンスを分かっているような気になっていましたが、理解が浅かったと反省しました。全てが腑に落ちるお話ばかりでした
- ・協働における行政の立ち位置の考え方が新鮮だった。とても参考になった
- ・話が上手で、聞いてしまったり、知識として自分が持っていたことも、別の見方で再認識させられ、楽しかったです。でも、本は買いません。ください
- ・小さく産んで大きく育てるという長期的なビジョンを持って取り組まれる姿勢と色々な人材がスキルを持ったまま埋もれているのをいかに参画してもらおうかというマネジメント能力に感銘を受けました
- ・都市での地域づくりについて学べたと思います
- ・富永先生のお話から、地域づくりのコーディネートに必須なのは、①人財の有効活用（人は財産）②経営のノウハウ（ヒト、モノ、カネ、情報）の活用ということが分かりました
- ・「多様」をきちんと理解し、先頭に立つ人間の重要性を学ぶことができました
- ・活動の取りかかりから組織化、実践、地域の人たちをまき込む過程など、とても興味深いストーリーでした。また作り上げたものを引きつぐ後継者づくりの視点は改めての発見でした。少し先進的な事に取り組むとメディアが自発的に取り上げる流れが特に納得しました
- ・新興住宅地域での地域づくりは、どの様に行なわれているのか興味があった。地域づくりの入口は子どもという言葉が印象的だった
- ・地域経営という言葉が印象に残っています。私達公務員が経営の力を勉強することと、住民への経営の知識を意識してもらう重要性に気づかされました
- ・多様な人財の多様な得意分野で活動してもらうのが盛り上げにつながるのだと感じました

- ・ 公民員は地域活動（自治会活動）に参加すべきだと思っている。今年、子ども会を復活させたので、地域住民を巻き込みながら、親から子へ孫へと色々なことが伝わる取組みを行なっていきたい。
- ・ 都市型の地域づくりの進め方として、参考になった
- ・ 「人財」の言葉に初めて触れた。経営感覚の必要性は新鮮だった
- ・ 現在、講演頂いた内容をすぐに活用できる状況にはありませんが、人材の考え方、活動に参加してもらうことの捉え方が、よく判るものであり、面白い内容でした
- ・ ニュータウンとってコミュニティがないところで新たにコミュニティを構築していく際の行政側の役割について学ぶことが出来ました
- ・ 一度地域づくり活動に参加してくれた人に過度に負担をかけてしまうことは改めようと思いましたが。それぞれが少しずつでもできることを地域というフィールドの上に重ねていくイメージを得ました
- ・ 人は宝という言葉が印象的でした。また、人を巻き込むためには、まず「子供」からという言葉は思ってもみなかったのが驚きました
- ・ 富永先生のお話は楽しくわかりやすく、実践しているからこそ、先をみすえた活動ができているのだと感じた
- ・ 当 NPO で指定管理で講演経営受託を行っているの参考になった。行政側との管理費の予算交渉などの実情をお聞きしたかった

[理解度 3]

- ・ 地域活動に踏み出すきっかけ、コンセプトに共感しました。やはり重要なのは「人財」
- ・ 実際の経験を生かした裏表のない正直な意見などがとても参考になりました
- ・ 当市にも新興住宅街が（規模は小さいものの）存在するので、とても参考になった
- ・ 人と人との出会いの大切さを知らされた気がしました。これから仕事をしていく上で、出会いを自分のものにしていこうと思います
- ・ 一つの成果が、次の成果に結びついて、その成果がまた次に結びついて・・・、そのたびに人のつながりも増えていき、発想が色々となり、すばらしいと思いました
- ・ 人財と共生の捉え方。又、地域活動における人間関係の構築について、大変参考になりました。自治体職員としての考え方の一助にいたします
- ・ 地域活動の入口は「子ども」というのは、その通りだと思います。行政経営は、これからの時代、避けては通れないと痛感しました
- ・ 無理をしないで、住民がそれぞれの得意分野で関わっていけるような仕組みづくりが継続していくうえで大切だと感じた
- ・ 私自身が少年サッカーのコーチをやっているので、「子どもが喜ばば、親が喜ぶ」という言葉はまさにその通りだと感じました。入口を子どもにすると物事を運びやすくなると感じます
- ・ 事業を行なうには、多様な関わりの元、成り立つことを学んだ。行政等が単独で動くのではなく、やりたいことの一致した他団体と協働で進めるのが事業と学んだ
- ・ 地域づくりに人をどう取り込んでいくのかが、よく理解できた

- ・誰もが「やりたくない」が普通。やれやれと押しつけてもダメ。地域活動の入口は「子ども」から。行政には「経営」がない
- ・内容が面白かったが時間が少なくて残念
- ・具体的なお金の回し方
- ・地域活動に参加する人に過大な期待をする事で、かえって人材を失うという発言に納得と感心をした
- ・”子ども達をテーマにすると、良い人間関係になる”という言葉にとっても共感しました。町に1園だけの保育所で働いているので、行事が多いのですが、地域の高齢者の方も多く協力して下さい。子どもは地域の宝物だと改めて感じました
- ・多くの人材を活かし、財源を有効に活用することがこれからの行政マンに必要である
- ・多様な人力をいきいきと発揮できる様な仕掛けと、先生の地域をなんとかしたと思う覚悟が感じられました
- ・ヒト（人財）を活用していく大切さ、また、ヒトの活用方法のノウハウを教えていただき参考になりました。また、経営も必要ということも印象に残りました
- ・全体の0.1%が何も言わなくても手伝ってくれる人、年1回手伝ってくれる人にもっと、というと、首を出してくれなくなる。民間はボランティアであり、やってもやらなくてもよい、という話が耳に残りました
- ・元々は小さなこと、できることから始めたことが、今になるととても大きいことまで実施されている成長過程などが分かり、さらに詳しく聞いてみたいと思った
- ・大切なヒントを得たと思う
- ・やらされ感があるとボランティアや地域活動は長続きしない。キーワードは、子どもでテーマごとに人間関係をつくる
- ・「人は宝なんだ」ということば「人財」という考え方が印象に残りました。地域の中で覚悟を決めて、仲間を見付けながら活動されるパワーが素晴らしいと思いました
- ・地域づくりは「小さな覚悟」をする人が必要であること、「協力を呼びかけて、動く人の方が少ない」ということを学ぶことができた
- ・原動力がすごいと感じた。思っているだけでなく、それを行動に移すというエネルギーを見習いたい
- ・人の力の重要性を再確認した。また自分が公務員の立場であるのと、市民として参加してもらうことの違いをもっと考えておくべきと感じた

[理解度2]

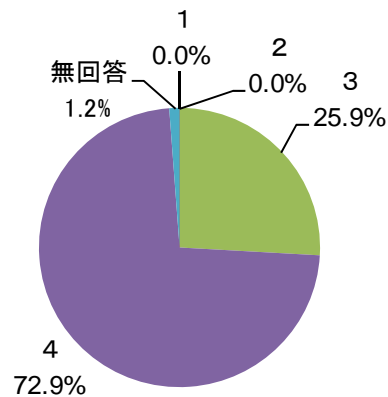
- ・後半の人材育成の部分をもう少し詳しく聞きたかった

【講義3】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 講師

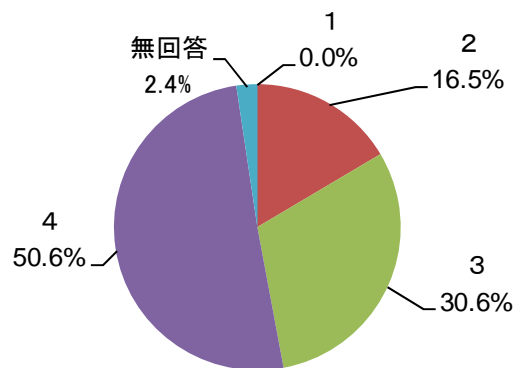
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	22	25.9%
	4	62	72.9%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	14	16.5%
	3	26	30.6%
	4	43	50.6%
	無回答	2	2.4%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度4]

- ・ 現在所属している市役所と現状が似ており、教えさせられることが多かった。町内にも多く在学しており、様々な意見がある。これをまとめれる人材の育成が重要に感じた
- ・ 地域活動は、行政に支援を求めがちであるか、自ら財源確保を築き、実践する行動に頭が下がる思いです。反対者を説得する際の発想力等、学ぶことが多かった
- ・ 地域住民をどう巻き込んでいくか、また活動を継続していくためのポイント等、大変参考になった
- ・ 行政に頼らないと公言するだけのものすごいリーダーシップ、エネルギーを感じました。ただ、富重先生ほどのリーダーはなかなかいないと思います
- ・ 感動が人を動かす、本当にその通りだと思った。昨年、東北自治間で木村俊昭先生より「やねだん」について聞いていたので、本人から話しが聞けてとても良かった
- ・ 財務に強く、人を動かすには、まず名前を覚える。実践して行こうと思いました
- ・ 豊重先生の手法はぜひ今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。感動と感謝を大切にします
- ・ 公務員として、地域づくりのコーディネーターを目指していきたいと感じた。(財務、雑学、経営)還元、立ち位置を支える
- ・ 行政に頼らず、自立した集落づくりに徹した活動とその内容に感動しました

- ・地域活動を持続的に行うには行政に頼らない財源の確保が住民の行動意欲につながろうと思いました
- ・熱意で人を動かすこと。熱意があれば、地域で反対の立場の人を動かすことが出来、又心強い協力者になると感じた
- ・「やねだん」の事例を学べ、内容も興味深いものでよかった
- ・これからの時代には、地域の自立は必要だと思います。ただ、地域に自主財源を求めるのは、相当な理解と労力が必要であると感じました
- ・先生のように自分を粉骨砕身して、住民を動かしたことはすばらしいと思いました。先生だからこそ、みなぎ協力してくれたんだろうという VTR で感極まって涙するところも良くわかりました。町をよくしたい住民を引き込んで楽しく一緒にやる姿勢を大切にしたいと思いました
- ・「感動」と「感謝」には人を動かす力があると感じた。やねだん住民の笑顔が印象的だった
- ・行政に頼らずに実践しているところにどうやって？と疑問がありましたが、先生の行動力が素晴らしいのと周囲への働きかけの手法が良いのだろうと実感しました
- ・まずは「自らで稼ぐ」「全員参加」という点を具体的な数字をあげて示していただけただけの事が大きな学びになった。ベッドタウン所沢にどのようにアジャストさせるか、探りたい。まずはフルネーム
- ・「住民自治・財源確保・還元」地域にある資源と地域向上の為、「文化向上」の為の人をよび、財源を確保し、地域の人に還元する。誰の為に地域づくりがあるのかということに改めて気づいた一方、この方たちのエネルギーに寄りそえるコーディネータ役に私たち市役所職員がなっていく為の学びがもう一つ必要だと感じた
- ・経営に関する知識、視点の重要性を気づかされました。地域全員の理解を得るための努力に刺激を受けました
- ・行政としてではなく、住民1人として自分の小さい集客を活性化させるヒントをたくさん得ることができた
- ・メディアでやねだんの取組みは知っていたので話を楽しみにしていました。想像以上に地域への愛と情熱が取組の原動力なのか、自分も近づきたいと思いました
- ・行政も経営を学ぶ重要さと、人を本気にさせるために還元していくことの重要さを知りました。やってみるために命令ではだめだというのがわかりました
- ・感動で人を動かすことができる市職員になれる様、精進します
- ・真心と情熱を持つことは前提に、それ以上にビジネス感覚と地域経営力を共有することが大切になると思います。気持ちに伝わりました
- ・豊重講師の熱意、信念、努力に圧倒され、又、感動しました。尚、行政のその時の対応等も聞きたかった
- ・経営感覚の必要性というのがとても印象的でした
- ・豊重先生くらいの熱意を持たないと地域再生は難しいと感じた反面、熱意で地域が変わるという自信につながった
- ・人間の大切さがよくわかった
- ・自分の村と同じような境遇で、ぜひ取組（考え方）を参考にしたいと思います

- ・地域はみんな自尊心を持っていて個のかたまりだからおしつけや命令では動かないと言われたのが、現在の自分の状況に当てはまっていると気付かされました
- ・住民自治→財源確保→還元。経営、コーディネーターが必要。命令では動かない。感動と感謝。財務と雑学が重要。地域再生は文化向上
- ・人が動く仕組みということが、分かったが、実践しようとするハードルが高い。まず、自分のできることから始めてみようと思った
- ・熱い内容で伝わるもんが多かった
- ・地域づくりのパワーを感じました。確かに還元は必要だと思いました。地域の中で財源確保、コミュニティビジネス、大切だと思いました
- ・行政と地域住民がともに地域づくりをしていく中で地域住民の自立と行政がどこまで関わるか悩んでいました。富重先生は地域で自立して、さらにそれを長年継続していらっしゃるのがスゴイと思いました
- ・豊重さんの話では、反発する人達を納得させる方法や人口増加の様々な取り組みが聞いて面白かったです。私が働いている町でも、高齢化や人口減少が問題とされています。若者向けに町コンを行なったのですが、子どもから高齢者まで楽しめる文化を重視した取り組みもやってみたいと思いました
- ・今年度中に地域で自治組織設立を目指して活動しているので、とくに経営的な考え方や組織編成について参考になりました
- ・行政には頼らないが、コーディネーターとしての役目は重要という具体的にどういうことか個別に聞いてみたい
- ・成功例として取り上げられるすばらしさは感じました。ただ、先生のような気概を持ってとり組める人がいないと、なかなか実現できないと思える部分もあり、むずかしさを感じます
- ・地域の人達を本気にさせる為に強い信念と度胸を持って関われる行政マンとして、今後の組織作りに生かしていきたいと思います
- ・地域的によく似たところがあり参考になりました
- ・地域づくりに必要なのは、人と人との絆づくり。それが円滑な輪を生み、自然と人も協力してくれるようになる。また、自分自身も活動に参加し、自ら地域づくりへの熱意を見せることも必要だと思った
- ・「耕作放棄地」「空き家」「高齢化」全てが私の町と同じキーワードなのに、地域活動に大きな差があり、現状に目を覚ますことができました
- ・最初から自立するムラのイメージで取り組まれていたのが印象的でした。お話を聞きながら株式会社〇〇町をイメージしました。内容を活用していきたいのですが、その前に準備すべき事があると思いい「2」にしました。将来的には「4」です
- ・人の情熱がまちを変えろという大切な話が聞けた
- ・以前、講演をきいた事があるが現在も精力的に活動されていた。フルネームは大事。地域経営学は大事である事がわかった
- ・地域が自立するためには、①住民自治②財源確保③還元がポイント。リーダーは一人一人と本気で向きあい、感動と感謝の気持ちを忘れないこと。行政はコーディネーターとなり、パイプ役に徹しながら、財務の企業感覚が必要。身近な人はフルネームで呼び合うことが大事

- ・人と人とのコミュニケーションにおいて、フルネーム、笑顔の大切さを改めて感じた。情熱を持って今後の業務に取り組みたいと思います
- ・行政に頼らずに再生した、やねだんの話はとても楽しく聞きました。地域住民の熱い思いがまちづくりにとって欠かせないものだと思います
- ・フルネームで呼ぶこと、言えることの大切さ。地域62戸の方々全員の名前をまずは言えることが大切だと思ったところです。まずは、これからも地域活動に積極的に参加し、つながりを更に深めたいと思う
- ・全国的にも先進地として有名。講師もとても熱い方でとてもよい刺激をあたえられた
- ・熱意あふれる講義であった。やはり「人財」と「経営」の必要性あり。人に参画してもらうには工夫がいる
- ・地域づくりは、地域経営と同義であり、財務が第一に重要というお話はそのとおりでと思いました。具体的な手法も教えて頂ければと思います
- ・地域活動を行っていく上で自らが一番大変な役割を担わなければ、人はついてきてくれないという話が、印象に残りました
- ・情熱、感動、感謝のサイクルを改めて学び直しました。財務の大切さは、税以外の部分も最近勉強を始めたので昔よりも明確に感じられるようになりました
- ・自分の研究しているテーマの参考となった。ビデオもよかったが、もっとお話いただく時間が長い方がよかった
- ・人を動かす手法に説得力があり納得です
- ・人を動かすためには、まず自分が動くこと。ここから実践だな、と思いました。エネルギッシュな講義に引き込まれました
- ・講義、交流会を通じて豊重様の気迫を感じた。特に反発者に対する対応は、参考になる。自分自身の人間力がためされる場と感じた

[理解度3]

- ・感動、共感がキーワードのひとつ
- ・前の講義と共通している部分、異なる部分について興味深かった
- ・情熱的な説明で、地域作りの本気度がすごく伝わりました。自分を本気にさせるという事が印象深かったです
- ・子供というキーワードや、地域づくりに補欠はいないという事や、経営の知識の重要性について多くを学び吸収できたと考えます
- ・経営、人を納得させる。これらの大切さを学んだ。行政には何ができるのか、考えさせられる
- ・住民自治、財源確保、還元の視点から説明をしてもらい大変参考になりました
- ・誰かを巻き込んで何かを変えていくためには、自分が変わらないといけないし、相当な覚悟が必要だと感じた。自分は「仕事」として地域活性化活動を支援しているが、住民はほとんどがボランティア。その温度差をどうやって埋めていくかのヒントを明日聞いてみたい
- ・講義の中身に沿った資料があればなお良いと思う

- ・地域が活動主体としてやっていくには経営、組織づくりが重要と学んだ。そこで、行政が、その地盤づくり、監査などでコーディネートしていくことが重要と感じた
- ・地元での取りくみに手法の活用ができそうで、たいへん参考になった
- ・感動が言葉でなく心で伝わってきた
- ・映像で現場の雰囲気がよくわかりました。自主財源への取り組みとその活用方法がすごく勉強になりました
- ・取れる手段を選べない状況で資金確保を追求する姿勢に感心した。その方針に住民を参画させた説得力と行動力を持つリーダーをどれだけ用意出来るか？文化力に注視したのは脱帽
- ・高齢化していく村において、行政に頼らない自治を行ない自主経営していくということはなかなかこの自治会でもできることではない
- ・「地域活動に補欠はいらない！」目配り、気配り、心配りでひとりでも多様な方の力を引き出せる様、やるからには本気で相手に伝わる行動が必要！！
- ・経営学の大切さ、自分の立ち位置について学ぶことができ、大変参考になりました
- ・富永先生につづき、地域経営学が非常に重要であることを学んだ。人を動かすには、まず自分が動くこと。感動と感謝がなければ人は動かないことを学んだ
- ・財源確保のための努力と地域のみなさんと一体となって取り組んでいる様子がビデオでよく理解できた。韓国との交流にまでつながっているのにはおどろいた
- ・”地域経営学”という考え方をきき、自分には足りなかった部分だと思いました。情熱と真心をもって、地域づくりをしていく、リーダー→コーディネーターという考え方、腑におちた感じです
- ・自立を目標に、やねだんが「住民自治」「自主財源確保」「還元」を土台にやってきたとの紹介の一方で、地域づくりにはまだまだ行政依存が必要との言葉が印象に残った
- ・非常に熱意を感じた。個人的にも日々思っていることだが、昔の日本の姿が地域をとりもどす1つの形態でもあると思った

[NA]

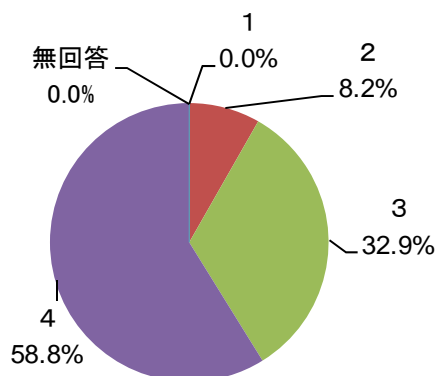
- ・地域経営の感覚、財務からの組み立て。人をコントロールする情熱。おもいをもち企画に対するリーダーをつくる

【講義 4】「農村文化の継承と地域づくり～足元は宝の山～」

農業法人せいわの里まめや代表取締役 北川 静子 講師

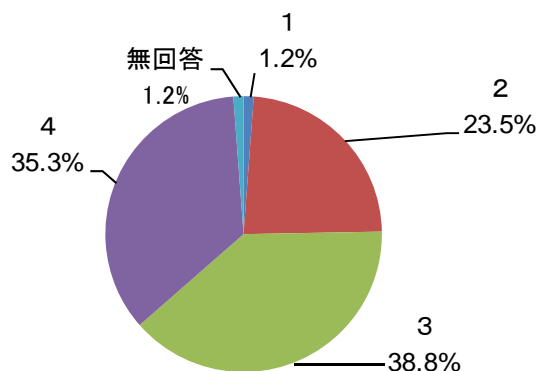
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	7	8.2%
	3	28	32.9%
	4	50	58.8%
	無回答	0	0.0%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	20	23.5%
	3	33	38.8%
	4	30	35.3%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・ 価値創造。あたり前に見すごしている物の中に価値を見出す。後継者
- ・ 行動する実践力、地域の将来を担う子供に対し、地域の高齢者との交流を通じ、郷土愛を養う等、興味深い講義だった
- ・ にぎわいを生み出すのに行政はいろいろお金を使っているが、やはり地元のそのままをアピールしながら、地元と協働した仕組み作りが一番のにぎわい創出だと思った
- ・ 地元でも、農家レストランを立ち上げたばかりなので、地元食材の使い方や、運営など、参考になりました
- ・ 地域の特産物を活かした地産地消と地域の住民同士をつなげる方法について学びました
- ・ 子どもから年寄りまで、その事業システムに自然と活躍できる仕組みづくりが図られていることに感銘を受けました
- ・ 普段、あたりまえと思っている事柄が実は地域の宝であったことや、その事柄を地域内で色々な人々が関わりあえることが非常に重要と考えます
- ・ お話がとてもわかりやすく、様子が思いうかんだ。地元を見直そうと強く感じた
- ・ みそ、とうふという食品を通じ、農村文化の継承に幅広く活動を広げている事例を知ることが出来た
- ・ 自分自身が故郷の素晴らしさにあまり気づいていないと感じました。自分の子や地域の子に素晴らしさを伝えられるよう心がけていきたい

- ・北川さんは町の職員から、そしてその時の経験、思いから住民と一緒に事業を起こしたということで諸君だとできないことであっても、そのつながりから問題点をさがして、それを実行するうえで、職員だったからこそ、できたという部分もあり、本当に自分がやりたい、どうにかしたいという気持ちを形にしてきていてすごく感動しました
- ・地域の為に、実際に自らが関わることができ、行動にも敬意を感じます。小さな積み重ねが大切ですね
- ・「自分たちが引きつがないと代々受けつがれてきた文化がとぎれてしまう」という想いに感動した。トラブルがあっても「持ちよる（モノも知恵も）」ことで乗り越える姿勢は、お手本としていきたい
- ・あたりまえにある食材、料理。身近にあるものだからこそ、地域人が自分も関わるという自信につながっていること。そして、地域になるものを守る為に利益よりも次を担う子どもたちに投資する仕組みとアイデアが勉強になった
- ・コントではないかと思うほどに取組みの壁が逆に魅力の発見につながっていた。地元の魅力を掘り起こせばいいな
- ・子ども（ツクシの話）をきっかけに事業がひろがっていく大切さ、そこに教育もあったり、大切なことを学びました。ライフスタイルでシフトを組んでいたりと気をつかわれているのはさすがだなと思いました
- ・講義の中で創業支援について深く考えました。市原市でもコミュニティビジネスに対応した創業支援の仕組みを作れる様、頑張ります
- ・資源の発掘、活かし方等が大変勉強となった。尚、行政側時代の北川講師の話も聞きたかった
- ・何のしかけもない、それでいて工夫がいっぱい。魔法のような手法だと思う
- ・まめやの取り組みは、子ども達に地元愛着と仕事の楽しさ、地域再生の仕組みがよくできていると感じました。みんなが win,win の発想を事業に活かしたい
- ・小千谷市内にも農家レストランがあり、地域住民が運営しているのだが、子どもを巻き込む仕組みが整っていない。子どもが自分の地域に感心を持つきっかけづくりの良い事例を聞かせていただいたと感じた。また、自分たちの夢を実現したいと本気で思う人のパワーの強さも感じた
- ・すばらしい講義だった。直接対話がないのが残念
- ・農村を守ることの意味が理解できた
- ・自分の村と同じような境遇で、ぜひ取組（考え方）を参考にしたいと思います
- ・普段何気なく生活していると気づかない地域資源に気付くこと、活動の成果の見える化、が実はすごく重要なことなのだと分かりました
- ・子ども達に当り前に見すごしている故郷を「いいところかな」と気づきを与えるシステム→見えないものの見える化。成果が見えると人が寄ってくる関わってくる
- ・一度、行ってみたいと思った。現場に行って、その空気を肌で感じてみたい
- ・「まめや」の建策、補助金の話など、大変興味深かったです。一度、訪問してみたいです
- ・「まめや」さんに一度、行ってみたいと思いました。地域もしっかり見つめるのが大切だと感じました

- ・お客さんに地域の良さを教えてもらったというところに感動しました。地域の人達に自分事として関わってもらい仕組みづくりを学びました
- ・極自然に体験や記憶を付加価値につなげている。上手い。話しもすごく上手
- ・話がおもしろく、内部からの視点にたった話がよかったです。特に参加できる時にだけ参加する、できない時は休みにしてしまう等、発想の点
- ・子ども達や地域の高齢者から気づかされる地域資源を再確認され、知らず知らずの内に、地域づくりに参画させるリーダーシップとアイデア（発想）と行動力に圧倒されました
- ・現在推進している内容だったので、とてもよかったです。視察にいつか行ってみたいと思いました
- ・まめやの事例は、既存のものを活かした地域づくり。私自信、生まれて一度も丸亀を出たことがないので、案外地元の良さに気付いていない部分があるかもしれない。外からの視点でものを考える必要があると思いました
- ・同じ中山間地域であり、農家の多い町として、とても刺激的でした。自分の町でも活用できることがないか深く考えてみたいと思いました
- ・仕かけの一つ一つに「先々こういうコミュニケーションのイメージ」があるのがすばらしいと思いました。親と子、祖父母と孫のかかわり方のきっかけづくりとなり、そのかかわりがあるからこそ、地域づくりに自然の流れで協力する体制になっていくのだと思いました
- ・農家レストランを核として地域住民を巻き込んだ取り組みであった。地域にある食材を活用されている
- ・地域資源を見つめ直す機会を与えていただいた講演でした。先生と似たような環境に住んでいますので、帰ったら違った視点で地元を見ることができると思います
- ・地産地消の成功例として、まめやの話を楽しく聞かせていただきました。地産地消は、コスト高というのは意外でした。いつか、まめやに見学に行きたいです
- ・当然のことになっている地域の宝。我々がそれを見つめなおして、再認識し、子供たちに伝えていきたいと思います
- ・地域への還元を関わりつつ、周辺とのよい関係が伺えた。「反目者」のそんざいが気になったが、話の中では聞けなかった
- ・地域の人、モノが生きる取組が知ることができた
- ・地域にある、実は他所の人から見たらいいものを地域に住んでいる人には見えづらいということに共感しました。地元に戻ったとき、よく見てみたいと思っております
- ・一定程度組織化した中で地域活動を行う上で、参加者に出資を行ってもらうことが参加者に長続きしてもらうこととなるという話が印象に残りました
- ・子どもに出番を与えるために、つくしの話のように、自分の力で稼ぐ楽しさを感じてもらうのは新たな視点だった。その拠点としてのまめやの多機能性に驚きました
- ・気がついていないだけで自分達の周りに宝があるという。ちょっと視点を変えることの大切さは他にも通ずるものがあると思われ参考になった

【理解度3】

- ・子供やお年寄りから食材を現金で買い取るシステムが面白いと思ったし、子供、お年寄りを巻き込む手法としても有効だと思った
- ・元役場職員とのことで話の内容に親近感を感じたが、富永先生や富重先生と共通する部分も多く、今後の地域づくりを考える上で参考になった
- ・普段、あたり前だと思って食べている物が実はすごくおいしい物だった・・・これは、もしかしたら、私の地元にもあるかもしれないので新たな気持ちで地元を見てみようと思いました
- ・高齢者の知恵と従事者の知恵がとても活かされた事例だと感じた
- ・地元に戻って地域資源を掘りおこしてみたいと思った
- ・幅広い地域の方々が関わっている点、様々な工夫をこらして活動拠点をつくられた点が印象に残りました
- ・自分の集客においても実践することができる事例を知ることができた
- ・全国で似た「農村レストラン」多くある中でなぜ「まめや」にたくさんの人が集まるのか、その強みをもう少し聞きたかったです。お金がない中で生まれた工夫が魅力につながっていたと思います
- ・すばらしい活動である事を感じました
- ・配布資料と口頭での説明が合っていなかったため分かりづらかった
- ・1つのコアとなる人から、多くの人が持ちよることによって、主体性を伴う協働が実現することを学んだ
- ・農家との信頼関係
- ・なにげないどこにでもある物を「再発見」し、活性化につなげることが出来るのだと分かった
- ・「まめや」のツクシの話聞いて、子ども達にとって、とても良い経験になると思いました。自分の住む村の自然物をこういう形で学ぶことが出来るのがステキだと思いました
- ・何度も何度もぶつかる壁を乗り越えながら、ひとつずつ確実に目標に向かえば、失敗も必ず何かの形になって残っていく！！
- ・多少散文的なお話だったので、わかりにくいところもあったが、地域の人へのきずなの大切さ、自分たちで知恵出しあって作りあげたものへの感謝や気づき大切であることがよくわかった
- ・何もないと思っていたところの良さに気づき、それを活かした取り組みや子どもを巻き込むころでの広がりの方がよく分かった
- ・地域づくりのリーダーになる人は常にアンテナを張ってアイデアを探しているんだなと感じた
- ・あたり前の価値観を地域自らで再認識することが大切。10年先を見据えて本気のメンバーを集めて行動する。こどもの視点を大切にして古里の良さを感じさせる
- ・地域資源をいかしながら、人と人をつないでいく。規域還元していくという考え方、視点が必要だと感じました。次世代への継承も含めた地域づくりの視点が大切だと思いました
- ・それぞれのライフステージにあった無理のない働き方ができるようシフトを組む、農繁期休業等、地域に合った体制づくりをしているのが印象に残った
- ・せいわの里の物語を聞いた感じ。自分の地元のことを考えながら聞いてると参考となることもあったと思う

- ・自分には普通のものが他者には特別なものだと気づき、地域に根づいているものだからこそ強みになると感じた

[理解度 2]

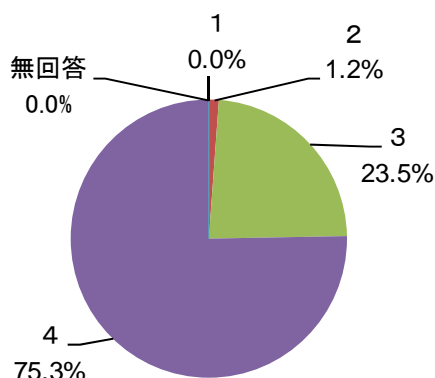
- ・企画力と行動力の重要と感じられた
- ・協働での取組活動について、熱い想いが伝わってきた。私もこんな想いで進めていきたい
- ・田舎で女性が、しかも農家料理という日々の生活を活かして企業するのは大変な努力と度胸が必要だったと思います。「まめや」に行ったことがなかったですが、ぜひ行ってみたいと思いました
- ・補助金の手続きとそのあり方について、見直すべきところは見直したいと考えた
- ・気づく事の大切さ。地元の方が普通と思っている事でも、気づく事で良さを再発見できるという事が印象に残りました
- ・どういうところがポイントかわかり辛かったがあたりまえと思っているところに実は地域資源がうもれているということで、それを発掘していくことが重要だと感じた

【講義 5】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくる創発をうむ仕組みづくりー」

慶應義塾大学 SFC 研究所長、総合政策部教授 飯盛 義徳 講師

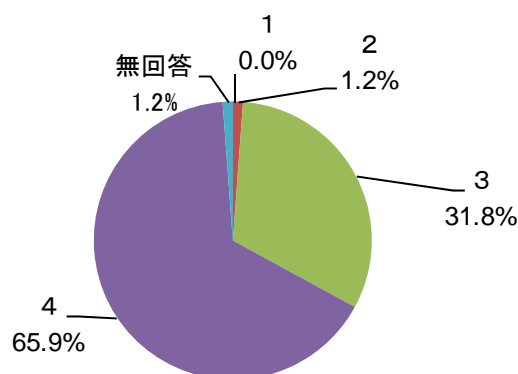
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	20	23.5%
	4	64	75.3%
	無回答	0	0.0%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	27	31.8%
	4	56	65.9%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度4]

- ・トップダウン型から場づくり型へを行っていく役割を行っていく。資源は0からでも生みだしていける
- ・イベントの際は、参加者の自発性を促すことが人材育成のカギとなること、場づくりを進めることが親頼関係をあたえることなど、参考になった
- ・昨日までの講義とも共通する経営的視点、壁の取り払い等、昨日感じたことを上手く言葉にしてまとめて頂いた感じで、非常に理解の助けになった
- ・全国の事例を用いて、大変分かりやすい説明でした。また、研究だけでなく実際に現場で実践されている所がやはり説得力がありました
- ・地域で何をするにも、行政がすべてやるのではなく、住民から持ちよってもらい、自分がやっていることがわかるような仕掛けの必要性を考えなければいけないと思った
- ・地域の人とのつながりの基盤であるプラットフォームの重要さや、トップダウン型から場づくり型への変更等、とても印象深いものでした
- ・地域プラットフォームをつくり上げていくことが、今後の地方創生のキーワードになることを学び実践していきたいと思いました
- ・地域資源の捉え方について、地域にある、ないではなく資源としていくという視点や、地域づくりは、ひとつづくり、プラットフォームづくりであるコトなど学ぶことが多かったです
- ・行政ができることが少し見えてき気がする。つながりを生むこと、誰と誰をつなげるかが大切だと思った
- ・創発、プラットフォームなど地域づくりに欠かせない理論を知ることが出来た
- ・今の職場で住民に対し、教えるきっかけを与えているのか考えさせられました。また、資源がなければ、つくってしまえという発想に衝撃を受けました
- ・大学の先生ということで学生のフィールドワークで行政と一緒に学生の発想、考えを町づくり、地域づくりに向かわせてくれる先生の取り組みに参同しました。学生が自分の地域に魅力を持って、卒業して経験値をもって地元に帰ってきてくれることを願って、帰ってきてくれる町にしなくてはと感じました
- ・子ども鳳雛塾で学んだ子ども達の成長が楽しみになった。次世代育成のヒントが得られた
- ・先生のプラットフォーム作りに役立てられるように力を入れたいと思います
- ・「プラットフォームの提供者」行政が迷わずに果たせる役割としては、問題なく、これだ！と感じた。地域での人材育成の仕組みも、とても重要だと感じた
- ・魅力ある「場」をつくることで、予期しないことが起きること。そして、その一つに「境界域」がコアになる人と周囲の人をつなぐことを学んだ。特にその役割を建築的要素である「緑側」がになっているということに、建築技師として可能性を感じた
- ・社会的な創発が生まれる場づくりに貢献したいという思いが芽生えました
- ・実学で研究をされている教員の話は面白い。ゼミ生になって全国回りたいです
- ・学生さんが地域づくりに興味があるのはなるほどと感じました。いろんな異業種の方と交流して取組めるプラットフォームづくりを模索したいと思います

- ・軍鶏の話について、特産は「ない」所からでも作れることが、驚きでした。市に戻り考えます
- ・自分で考えて行動できる人間を育むことの大切さを感じました。自分自身がこの授業を受けていれば・・・と思います。地元を広げたい活動です
- ・日本の文化である自由で曖昧な境界「内でもあり、外でもある」の考え方が参考となった。プライベート重視の現代において、難しいが交流の場をつくりたいと思った
- ・最も参考になった講義でした。大学連携についてもっと聴きたかったです
- ・行政がどのような事をしてなければいけないのかを教えてくださいました。場の提供について教えて行きたい
- ・飯盛先生の講義は、自分のかかえている悩みを解決にみちびくものであった。今後も相談にのっていただきたく思いました
- ・20～30代の若者がまちづくりに自主的に参加するきっかけとして、コンテストを開催するのはユニークな取組だと思った。また、小千谷市にもネットワークグループがあるが、会員確保や運営に課題があるので、講義の内容をヒントにしたい
- ・参考になる話が多い講義だった。順番として一番最初にあった方が受講者の理解が深まると思う
- ・実際の取り組み方法がよくわかった
- ・内容の説明がとても理解できた。今後の参考となる内容でした
- ・弱い関係性も大切にすることによって、自分と違う情報を以っている方たちとのつながりが広がるということがよく理解できました
- ・地域づくりに感心の高い若者が増えてきていると言われたことば、全く同感です。小学生を塾生とする取り組みは、とても興味深く、もっと深く知りたい
- ・これまでの活動を頭で整理できた
- ・先生の実体験に大変興味を持ちました。自分なりの一步を踏み出したいと思いました
- ・地域づくりの基本的な感が方、理論を学びました。新しい人が必ず受け入れられなければならない→後継者
- ・行政と民間の間のような立ち位置で話をしてくださり、大変参考になった。理論と実践を高いレベルで行っていらっしゃり、大変面白かった
- ・資源は作ってもよい（意味、ストーリーがあれば）
- ・どんなに小さくてもよいので、全ての人が対等に話せる場づくりが重要で、それが出来るのは信頼のある行政ということ
- ・冷静な視点で分析されていた。しかし、みな同じことを言っている
- ・非常にわかりやすく成功例を交えながらの説明で良かったです。また、今までの先生の話もあり、理解を深めることが出来ました。「場」作りをしていきたいと思えます
- ・強い関係位置にある人達ばかりで検討を重ねても、新しいものは生まれにくいという話に、すごい感銘を受けました。関係の弱い人達をフォローしながら取り組んでいけるマネジメントを心がけたいと思えます
- ・地域とのかかわりについて、周りでおこっている現状がよく似ていてこうすればいいというアイデアがあり参考になりました

- ・地域リーダーの育成は、子どもの頃から行なっていくことで、効果があるということが分かりました。自らの業務であるUターンの促進にも、ふるさと学習の視点を取り入れたいと思いました
- ・「ブリコラージュ」という考え方を大切にしたいと気付くことができました
- ・地域づくりにおいての強いつながりが逆に新しい人の取り組みの妨げになり得るということが分かった。強い関係性と合わせて弱い関係性も必要
- ・強いつながりと弱いつながりの視点は持っていなかったのが、新しい気づきでした。コアを作っておわりではなく、その次の関係性、刺激の必要性を意識しました
- ・まちづくりを論理的に説明していただき、とても分かりやすかった
- ・資源は必ずあるという事
- ・直接事業を行なわれているので説得力もあり、勉強になった
- ・若い時の地域ボランティアは大事と思った
- ・コーディネーターとしての自分の立ち位置、役割は感じさせられました。子どもの大きな可能性と生かせるような仕組、体制づくりを考えてみようと思います
- ・地域資源を再発見し、それを宝にしていくこと。誰でも入ってきやすい環境作りをしていくことが大切だと思いました。今後の活動に活かしていきたいと思います
- ・地域に密着した学識者の整理された理論は、とても参考になる。意識下で常に気にしておきたい。
- ・行政の関わり方のヒントを示してもらった
- ・必ず何かしらの地域資源がどこにもあり、本当の資源を探さないとというお話は、本当の資源についてまだ考えているところです。資源持ち寄りについては、富永講師の人材の考え方と共通すると感じました
- ・「仕掛けづくり」が一番重要と感じた。持続性のためにも自発的に動き出すような仕組みが非常に重要と感じる
- ・地域活動を行う上で新しい人が入りやすい環境をつくることで活動自体が活性化されるという話が特に印象に残りました
- ・「地域資源がない」ではなく、我々住民が振り返って「資源化して見る」ための場の重要性に気づきました。また、そのための強弱両方のつながりを共存させる視点に気をつけます
- ・コミュニティ作りや資源の再確認の重要性がよくわかった。若い人はコアな関係からなかなか出ない気がするが、その理由を考えられるとおもしろいかも
- ・地域との関わり方は難しい。命令や強制ではなく主体性を引き出せるような方法を考え、場を作るといったあくまでもコーディネーターとして立場が大切と知った
- ・”自分ごとになる事””人の大切さ”とても大切だと思いました

[理解度3]

- ・自分達の市は、自分のエリア外の人に対して恐怖心を持っており、受け入れる意思があまりない。この境界線はずし、地域の交流の場が生まれるともっとうまくいくと感じた。
- ・何をやるにも目的など土台が必要
- ・自分たちのこだと捉えてもらえる仕掛けづくり（プラットフォーム）が重要だとわかった。自分たちの地域にどのように応用できるか考えたい

- ・内部の人だけでなく、人のつながりを利用して、外の人をまきこむことで色々な広がりが出てくるということが分かりました
- ・創発のために、同じメンバー（仲間うち）でばかりいてもダメなんだと思った
- ・地域活動を活性化させるためには計絵のマネジメントが重要であることを理解しました
- ・グレーゾーンを作ることの重要性を認識した
- ・行政が主体となっていくことは、時として地域の人には、協働等間接的な参加はあるが主体性が少ないことが多い。行政としては、市民が主体的につながり参加できる場づくり、根回しが必要と思った
- ・地域づくりに子供たちといっしょに関わり、地域を考えられる人を育てることを実践したい
- ・地域全体の自発的活動が次から次へと生まれることへの後押しとしてのプラットフォームづくりが重要。信頼、インセンティブ、人のつながり（資源の持ち寄り）により自分達がやっているというしかけ
- ・地域づくりにおいて、行政マンの出来る事、期待されている事が良く分かった
- ・若者が地域づくりに興味を持っていることを知り、境界域のようなグレーゾーンがある場が増えれば、若者達も参加しやすいだろうと思いました
- ・子どもを含め若い力を活用し、幅広い人間から力を借りて地域をつくる
- ・資源があるかないかではなく、本当の資源が何かに気づき資源化することが今後の私のすべきことのひとつと感じた
- ・強いつながりの中に弱いつながりの方「よそ者」を入れる大切さ、境界の大切さをすごく感じた。継続して話を聞いてみたいと感じた
- ・ヒト、モノ、カネ、情報の地域資源を投入して繰り返していき。人同士の輪がイノベーションをおこす。命令や強制はしない。地域づくりは場づくりであり、人同士のつながりと境界設定を考える
- ・前日にきいた講義も含めて、理論的に整理しながら話をきくことができました
- ・資源があるとかないとかではなく、資源化（資源にしていく）という意識が大事ということを学んだ

[理解度 2]

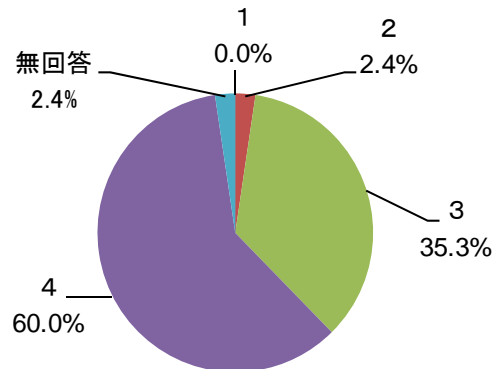
- ・子どもの頃からの地域についての教育の大切さ、地域主体での活動。地域資源の再認識についても共感できました。難しいですがプラットフォームについても作っていただければと思いました

【講義6】『能力を磨く』という人材育成の考え方

株式会社紡代表取締役 玉沖 仁美 講師

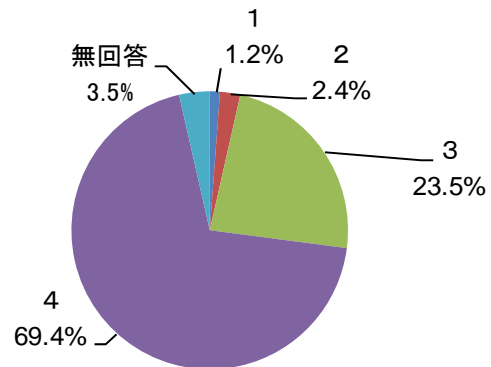
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	2.4%
	3	30	35.3%
	4	51	60.0%
	無回答	2	2.4%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	2	2.4%
	3	20	23.5%
	4	59	69.4%
	無回答	3	3.5%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度4]

- ・話しの組立て、時間の割り振り、話術全てにおいて、プロのプレゼンターとして感心した
- ・ゴールの設定、過程の逆算に関して、実際失敗しかけたことがあったので、今後よりいっそう気をつけていきたいと思った
- ・我々の予算のつくり方（ゴールを詳細に決めているか）を再度考えさせられた
- ・行政主導では、長続きしないことが多いので、地域の人自身に決めさせるということで大変参考になりました
- ・コンプリメント技法使わせていただきます。ゴールを明確に設定することの重要性がわかりました。
- ・簡単なようで難しいコーチングについてわかりやすく教えて頂き今後の参考となりました
- ・目標を明確に意識し、行動を行わなければ活動は継続できないことを理解しました
- ・カウンセリング技法の中で、まずゴールを設定し、そこに向かうために手法を細かく落としこんでいく、また人材育成には時間がかかるなど非常に参考になりました
- ・カウンセリング技法を作り課題とゴールの関係等、わかりやすく知ることが出来た
- ・メリットを考える＝モチベーションという発想に今まで気づきませんでした。自分の考え、自分で決めることは大事
- ・先生の心理学を持って、人財づくりに活かしていることに共感しました。人と関わるには、まず関わり方があるというのは心理面からは当然のことなので、それぞれの立場はもちろんありますが、この人と関わりたい、この人なら大丈夫かなという安心感を与えるのが必要で自分の能力をみかくことにもつながると思いました

- ・マーケティングのノウハウを教えていただき、勉強になりました
- ・プロセス、手法の警理を学べた
- ・人も地域も同じでトライ&エラーで育成をしていくことが大切だと学びました
- ・ゴールを具体的に決める。フォーメーションを組む（役別分担）
- ・今後の業務の中で、明確にゴール、目標を設定することを心がけます
- ・数値以外の成果で活動、生活豊さを見ることが大切だと気付かされました。数字だけ求めることがモチベーションの低下につながります。また、いかにゴールを明確にえがけるかがポイントになると
- ・人を動かすのはシステムづくりだというのが参考になりました
- ・どのような目標達成を設定するのかを明確にする事の大切さと逆算をして行く事の重要性を学んだ
- ・地域の方々との距離を近付ける具体的な手法が参考になった。事業を始める際にどのような順序で組み立てればよいか学べたのも良かった。他の本市職員とも共有して、より効果的、効率的に事業に取り組めるように活用したい
- ・地域の人や職場内の人との話し方や計画を建てる時の順序など、実務に直結する話が多く、理解しやすかった。計画を起こすときや説明のときなど参考にしたい
- ・上手にやるための理論が理解できた
- ・行政職員は、プロジェクトリーダーとして、輪の中ではなく外からマネジメントする方がよいということが印象に残りました
- ・ゴールを提供することの大切さに気づきがあった。物事を進めていく全ての事に共通すると思う
- ・人材育成の取り組みが大変勉強になりました。自分もリーダーとして若手の人材育成の参考としたいです
- ・「褒めて育てる」は、子育てだけでなく、様々な人材育成のキーポイント。褒められて悪い気がする人はいない
- ・お話のされ方が大変勉強になりました。ふわっとしたゴール設定では、ふわっとした結果しか出ないというお話は耳が痛かったです。コーチングの技術を身に付けたいと思いました
- ・ビジネスの見地からみた人材育成の考え方という感じであった
- ・心理学を含めた、人を動かす方法を、教室のなかで実際の例を提示してもらい、楽しい講義でした
- ・協議・事業の中にズッポリと関わらず、外から全てを見ながらマネジメント（コントロール）でできる立ち位置を行政として持つ事の重要性を認識する事が出来ました
- ・人材育成という重要な事をよくわかるような内容でした。機会があればまた受講したいです
- ・目標の達成には、明確なゴールの設定とそこから逆算した細やかな過程の設定がいかに重要かが分かりました。また、人から協力を得るには良好な人間関係を築くことが第一歩ということも分かりました
- ・ゴール設定は、自分の普段の仕事でもやっていたつもりで、実際あまりきちんとした設定になっていなかった事に気づきました
- ・リーダーとして必要なコーチングが理解できた

- ・ゴール設定は、詳しくし、行動目標とする。モチベーションは、わかりやすい身近な共通目標をもつことが重要
- ・地域への関わり方について、自分も含めて、計画設定の重要性を感じました。明確なゴールを設定して、順序を意識しながら実践に取り組みたいです
- ・ほめるアプローチ方法やゴールからの逆算する計画はとても参考になりました
- ・業務を計画するなかで、ゴールを明確にしていくことが大切だということを学びました。また育成についても、サポートという意識を持つことが大切だと思いました
- ・「人間関係の構図」に応じたマニュアル、又は、考え方をむずかしいと感じた
- ・どのような業務でも役立つ。企画計画、育成の話聞いて今後活用できそう
- ・どうしたい、どういう地域にしたいのかという目標設定が大切であり、また定めるのが難しいということがわかりました
- ・人材育成という点で、自分の業務を進めていく上でも参考になる点が多く勉強になりました
- ・具体的目標を設定すること、集団の中のフォーメーションをはっきりさせることで、自立的活動につながることを学ぶことができました
- ・組織のあり方や、適任者を仕事のやる気にさせたりなど、山口県庁に戻って、上司にも話したい内容であった
- ・目標設定や人材育成は地域づくりに限らず職場でも使え、勉強になった
- ・設定について理解しているようで、一度整理して見ると自分の立ち位置やグループとのかかわりでの難しさを感じた

[理解度3]

- ・ゴールが明確であればある程、スケジュール管理が可能である。人を育成するには時間がかかる
- ・企画を立ち上げる際に明確な目的目標をかかげてやらなければならないことを理解した
- ・目指すゴールを徹底的に議論し、目標目的を共有することの重要性が改めて認識できた
- ・実際に地域に入っていく際に参考としたい
- ・目的の設定の大切さ
- ・きちんと制度設計することの大切さを学んだ。ほめることの効果もためしてみたい
- ・カウンセリングという視点からの考え方が新鮮に感じられた
- ・目的を達成するための手法のポイントを押さえることができた
- ・「どうして？」という一言の重要性。夢を考えて出発したのに、出発のその時の気持ちを忘れて迷走してしまう。思いあたることが多くあり、ハッと気づきになった。市民の方への動機づけの重要性もわかった
- ・地域づくりに欠かせない手法をひと通り学ぶことができよかったです
- ・初めて会った人に対して、どうしても行動を起こしてほしい人にはどう接したらいいかということ学ぶことができ、有意義であった
- ・講師の言うとおりに、正確な現状把握と明確な目標設定は必須であると感じた
- ・玉沖先生のヒヤリングが重要という点は、本当にそうであると感じた。ヒヤリングは、時間がかかるが、すぐに結果を求められる行政にとっては、耳がいたい

- ・具体的な取り組み方として参考になる話が多かった
- ・自分では、分かっているつもりの内容であったが、改めて学ぶところも多くあった
- ・原動力はモチベーション、そのためにワクワクする明確なゴール設定が重要。心の距離を縮めるのは「ほめる技術」これが信頼関係を構築する手段
- ・今、自分が身につけていない技を学習できた
- ・「ゴールを明確にしないと失敗する」というお言葉に深く同意しました！！
- ・「コンプリメント技法」は大人でも子どもでも使用できるので、実際にやってみたいと思いました
「やってあげるのではなく、やれるようにしてあげる」のは保育でも大切です
- ・まずは、目標をしっかりと掲げること！！言われたから目標にするのではなく、どのようにしたいかを目標に！！
- ・これまでの活動が、なぜ”フワー”としたものだったか、明確になった。ゴール＝達成した時にいいことがある”夢”が行動の活力になる
- ・取組策を組み立てる際、ゴールをまず決めるヒアリングの重要性を学ばせていただきました。また、対話スキルについても学ばせていただき、実務で使っていきたいと思いました
- ・ソフトな語り口で、どうしたら、組織に対して問題解決の糸口を見つけて PDCA をできるか、勉強になった
- ・答えを考えるのではなく、やれるようにサポートすることを大切にしたいです。ゴールを明確にすることを気を付けていきたいです
- ・どうして取り組むのか？のどうしての設定やスケーリングシートは普段の業務でもすぐ活用していけると思う。また地域の方と接する際にはコンプリメント技法を取り込もうと思った
- ・ゴール（目標）を定める事の重要さが大切
- ・心の距離を縮める技を生かしたい
- ・人の話をよくきく事、よりよい人間関係をつくる、人を育てる等、カウンセリング法をつかいながら、またちがう視点で話をきくことができ楽しく考えさせられました
- ・ゴール設定が重要ということを学んだ。今までは、島の地域づくりではゴール設定をしていなかったなので、活かせるようにしたい
- ・ぼんやりしたものでなく、具体のゴールを決め、それに向かっていつまでにどうするか、という段取りは普段の仕事においても重要と感じた

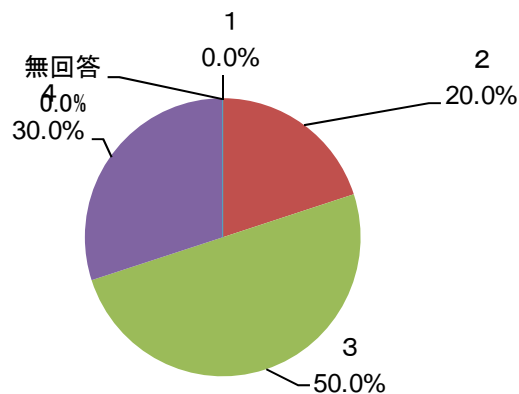
[理解度 2]

- ・コンサル法の基本として確認し念頭に活動していきたい
- ・人材育成に早道はなく、目標設定とモチベーションを維持し教育効率を高める事が大切と分かった

【講師との直接対話】 野竹講師

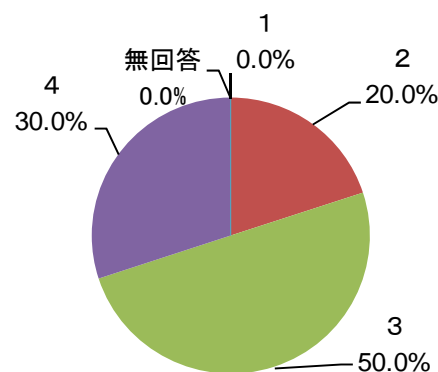
N= 10

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	20.0%
	3	5	50.0%
	4	3	30.0%
	無回答	0	0.0%
合計		10	100.0%



N= 10

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	20.0%
	3	5	50.0%
	4	3	30.0%
	無回答	0	0.0%
合計		10	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・地域づくりにおける考え方、市としてのあるべき姿など、参考になりました
- ・地域おこし協力隊の卒業後の情報をいただいた
- ・地域毎に違った悩みを抱えていることを実感し、その悩みに対してのアドバイスをいただきました
人財塾をきっかけに輪を広げることができればと思っています

[理解度 3]

- ・総務省の施策を教えていただき、今後の事業の参考にしたい
- ・参加者はみんな同じような悩みを抱えていることがわかった。問題解決をみんなで考えることができた
- ・野竹先生には、悩みを解決するヒントをもらい光が見えてきた。今後の事業に生かしたい
- ・地域づくりにおける地域おこし協力隊や外部専門家（アドバイザー）制度の支援策が参考になった

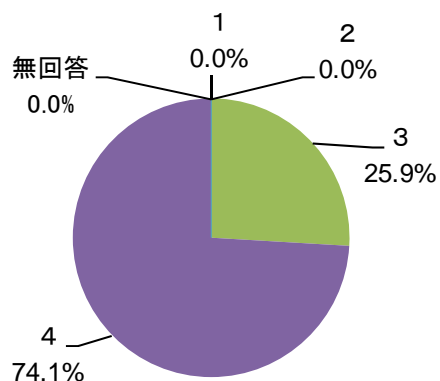
[理解度 2]

- ・人材といっても人を動かすことは難しい・・・がまんも必要・・・
- ・外部専門家招へい事業について知ることができた

【講師との直接対話】 富永講師

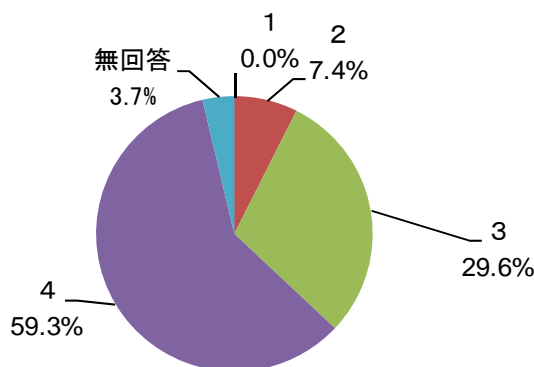
N= 27

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	7	25.9%
	4	20	74.1%
	無回答	0	0.0%
合計		27	100.0%



N= 27

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	7.4%
	3	8	29.6%
	4	16	59.3%
	無回答	1	3.7%
合計		27	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・ NPO の設立について注意すべき点がどのように運営し、後継者につなげていくのかを教えてくださいました
- ・ 人に選ばれるような団体づくりというフレーズが心にひびきました
- ・ 地域に対する腹のくくり方
- ・ NPO は縦系、地縁団体は横系、行政は織り手。織り手としての責任をもたなければならない
- ・ 活動を継続させようとした時に次世代への引き継ぎが必要となるが、その難しさと覚悟が伝わった
- ・ 信用できる人から口コミでだんだんと仲間の輪を広げられるということは実践したい
- ・ 人間関係の大切さがよくわかった
- ・ 地域に参加して、よろず相談のようなことを行っており、色々な悩みもありましたが、先生との話の中で、1つの解決方法を得ることができました。ありがとうございました
- ・ 地域活動を行っていく上で、公務員としての立場との兼ね合いについて参加者の方々の意見が伺えて良かったです
- ・ 自分の人生相談？みたいになったが、人との相談を受けるときの対応や考え方を教えてもらった。とても感謝
- ・ 先生が 47 歳の時に覚悟を決め地域住民の幸せ追求のため、会社を辞めた行動力、その後の苦難に立ち向かう忍耐力、パワーを感じ、本気度が伝わって来た

- ・ NPO の運営側からのお話をじっくり聴くことができ良かった。今後、支援や協働する際の参考にしたい
- ・ 新しく参加する方には、心地のいいえこひいきをして、今後も参加しやすくしたり、組織のために新しい風の重要性等、とても勉強になりました
- ・ 大いなるシロウトであること！課題解決という問題があるからこそ人間関係というネットワークが生まれる！目線を合わせるからもめごとが生まれる！どれも心に刺さる言葉を貰った
- ・ 決して背のびをせず、人とつながることの重要性を認識した
- ・ 後継の育成の際、とても気を配っているなど感じました。新しい人が参加しやすい雰囲気をつくるなど参考になりました
- ・ 人が幸せになるためにということで、公園管理での地域住民に対する様々な配慮などを考えながら取り組んでいきたいと思った
- ・ 次世代の人材育成、考えを認め、応援することが大事
- ・ フュージョン長池の理念、行動哲学を聞かせて頂きました。地域づくりに対しての気迫を感じました

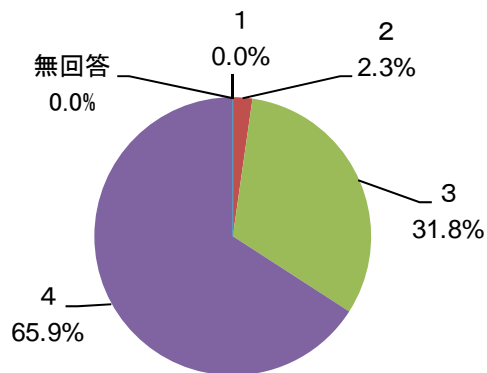
[理解度 3]

- ・ NPO 立ち上げまでの苦勞、今後の NPO のあり方や、後継者への引き継ぎたいことについていろいろ感銘を受けました
- ・ NPO に至るまで、それぞれの段階でそれぞれやりたい人の集まりでいいんだと、無理矢理まぜても不満が出るだけということで、発展型で立ち上げたものでないということに意外性を感じた
- ・ 公務員もひとりの地域住民。正直に状況を説明すれば理解してくれる
- ・ もっと具体的な質問を用意しておくべきでした。少し後悔しています。先生の話はとてもためになりました
- ・ NPO 法人と行政の関係について、個人的に疑問に思っていることをお聞きできて良かった。「自分の自治体には、富永先生のような人はいない」と決めつけず、本気で探す努力をしなければいけないと感じた
- ・ 講師の持っているものが「何か」をつかみかけたが、わからなかった。時間が足りない
- ・ 地域づくりへの情熱は理解できるが、行政との関わり方がわかりづらかった

【講師との直接対話】 豊重講師

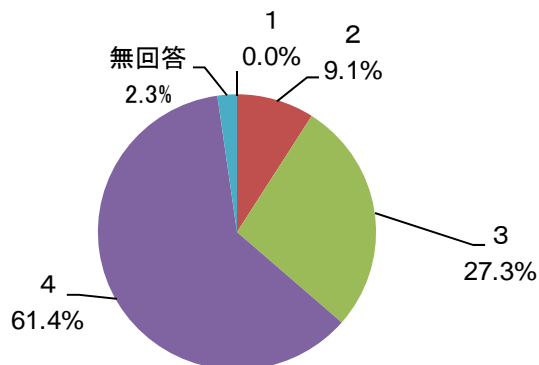
N= 44

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.3%
	3	14	31.8%
	4	29	65.9%
	無回答	0	0.0%
合計		44	100.0%



N= 44

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	9.1%
	3	12	27.3%
	4	27	61.4%
	無回答	1	2.3%
合計		44	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・人を引き出す方法の一部実践していた点がよかった
- ・集落の10年先を見据え、空き家を利用した移住促進、子供達に本物の芸術を身近に見せる重要性など、学ぶことが多かった
- ・いつかやねだんに行きます！
- ・とにかく熱く、パワーをいただきました。何かしなければ！！と思われました
- ・「教えることはできないが、引き出すことはできる」という先生のことばが印象的だった。一つの方向を導き出すために多くの人を巻き込むためのポイントが学べた
- ・0～7才は、感覚、意志力を育てることが大切だと学びました。本物の芸術や自然、人との関わり・・・地域は、子どもにとってのコミュニティスクールであることを知りました
- ・熱いリーダーがいて、それを支える人が出てきて、地域一人一人が役割を持って感動しながら生きることのできる地域作りはとても興味深いお話を聞けて良かったです
- ・1つの質問でいくつもの人へ波及させるプレゼン力の高さと、才能を引き出す能力を身につける事の重要性を本当に感じました。今までの自分を変えないとという気持ちです
- ・1つの事に3つの仕掛け、効果を総合的に想定して計画を立てるという視点は新たな気づきでした。今後の事業計画作成に役立てたいです
- ・熱い情熱が伝わって来た。リーダーは、こうあるべきというのが、見られて良かった
- ・リーダーは、才能などを引き出すこと。計画をするなかで、3つのこと（プラン）を持つことなど、様々なヒントをいただくことができた

- ・円満な輪を心掛けて地域の人づくりを行う。地域づくりのクッション役として人が集まる場所づくり
- ・子供に本物の文化をという講師の熱い思いにとっても共感が持てました
- ・空き家という1つの課題から、様々な方向を向くことが出来るのがすばらしい。逆点の発想、参考になりました
- ・なぜ、どうして、ということ深く掘っていくことにより、地域課題の解決と結果を導き出すことができることを学びました
- ・問題の解決の仕方を本気で教えていただきました。謙虚な気持ちで接する事の大切さを改めて実感しました
- ・空き家＝地域の宝という言葉が印象に残りました。上手く活用することで、地域活性化の資源となる。また、キーワードは芸術と農業ということで、本市の空き家の利活用においても参考にしたいと思いました
- ・アツ男になる必要があると思った
- ・自信を地域リーダーにとらせ、何から取り組むべきか考えさせられた。空き家対策、芸術家移住定住対策、福祉対策はいずれも地域再生には大切な取り組みである
- ・立ち位置を変えて、相手の立場に立って考えることの重要性を学べた
- ・全員が主役であり、全ての人に番を与えること、体験の重要性、「稼ぐ」ことの重要性を痛感しました
- ・コーディネート工夫の仕方を具体的に理解できた
- ・希望は4番目でしたが、結果一番濃密な意見交換会でした。豊重さんにはなれませんが、地域を思う気持ちを再確認できました
- ・親しみをもって話を聞いた。先生の熱意が伝わってくるものがあり、よい刺激となった
- ・プレゼンは、誰にでもわかるよう発信。出番のない人にも焦点をあてる。身近な情報を提供していく。財務的なしなやかさ。しかける人にしかけ、引き出す人からひき出す
- ・とても熱く、そして優しい方で、話に引き込まれました。「目配り」「気配り」「心配り」の大切さに気づきがあった

【理解度3】

- ・少しの対話時間が中でも、聞いている方に、どうしたら皆に役割ふりながら意見を引き出せるか、情熱的にお話頂けよかったです
- ・想像力、思考力をだしてくださいとの豊重先生。確かに受身の受講になってしまいました。「円満の和を基本としたリーダーになってください」との言葉が印象的でした
- ・先生の方から質問してくださったりと、生徒も参加する形をとってくださり、良かったです
- ・人をその気にさせる手法と自分の立ち位置を常に考え、人を巻き込み自ら実践！！てんぐにはならない。地域の方との接し方の基本を学んだ
- ・「人が集まらない方法」「会社がつぶれる方法」を考え、それをやらないという方法が印象に残った
- ・地域づくりには、過去→現在→未来という一連を考えた上で考えていかなければいけないと感じた
- ・「必ずできる」地域経営。地域と議論し、実行に移します

- ・豊重氏の熱意やアイデアの幅が想像をはるかに超えて広く、短時間では消化しきれなかった。ふりかえりながら、実践につなげられるよう消化したい
- ・すでに行なわれている事例をまねするだけでなく、どのように発展させるか、工夫することの大切さ、人との関わり方を身をもって知ることができました
- ・「継続可能な提案を」と言われていたのが印象的でした。地域が続けていきたいと思えるようなしかけを考えていきたいです
- ・強いリーダーシップを持った人材が大切と知った
- ・地域再生への思いは本当にすばらしく、その発想力もすばらしいです。でも、ここで行政として何ができるのか？という疑問が残りました

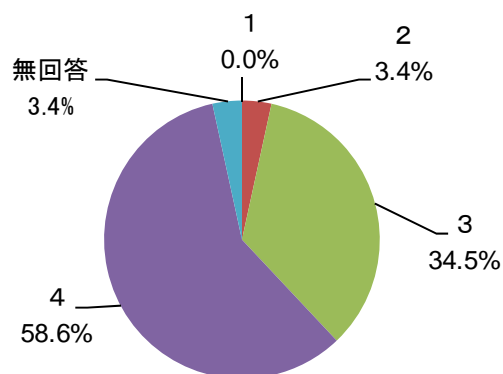
[理解度 2]

- ・これまで取り組んでこられたことがビデオを通してよく分かった。どの自治体も頭を悩ませている空き家問題の解決のヒントがあった気がする

【講師との直接対話】 飯盛講師

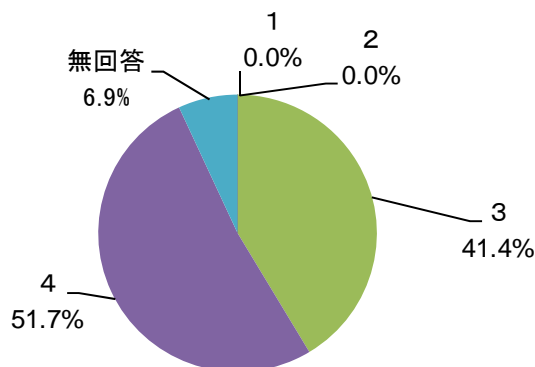
N= 29

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	3.4%
	3	10	34.5%
	4	17	58.6%
	無回答	1	3.4%
	合計	29	100.0%



N= 29

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	12	41.4%
	4	15	51.7%
	無回答	2	6.9%
	合計	29	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・多くの市町村に共通する課題である。「地域資源の活用」をメインに、情報交換や飯盛氏の学生の例を聴くことができ、参考になった
- ・具体的な事例を交え色々な話を聞かせていただき大変参考になりました
- ・自分の地域の地域のことも話せる時間があり、ありがたかった
- ・金沢市などの、大学生による地域活動の様子などを教えていただき、参考になりました。学生時代の地域活動が、その後の移住・安住に繋がるということで、本市の移住施策にも活用できればと思いました
- ・地域に全く同一性がない様に解決策も多種多様。直接話せて、とてもよかった
- ・地域づくりに答えはない。まったくその通りだと思いました。大事なことほど時間が掛るし、成果が見えにくいのが非常に難しい
- ・大学連携の可能性。実現に向ける
- ・具体的な大学連携等、本市でもこれから取り組まなければならない貴重な情報をいただけました
- ・来年からの新規事業である地域おこし協力隊受入れについていろいろなアドバイスをいただき、来年に向けての参考になった
- ・話が面白く時間が足りませんでした
- ・飯盛先生には、悩みを先進的事例から、アドバイスをもらい、悩みを解決にみちびいていただきました。ありがとうございました。もっと直接対話の時間がとれるとよかった
- ・ほとんどの受講者が発言できずにいたのが残念だった。先生のお話は興味深かった。全国の様々な事例をご紹介いただき参考になった。大学生とうまく連携する方法も教えていただけたのでよかった
- ・各地の興味深い事例が知れて学生との取り組みも含め、勉強になりました。論理的にまちづくりが理解できました

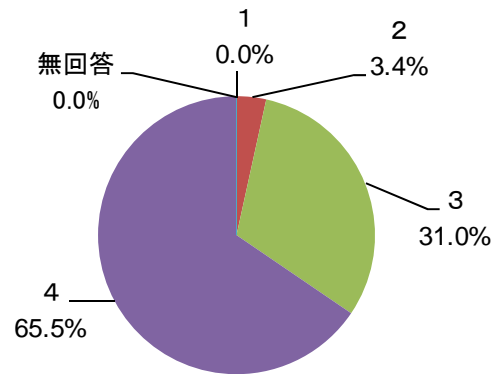
[理解度 3]

- ・地域の盛り上がりのつくり方、結論は・・・見えない・・・
- ・答えはない！まず、やってみて修正をかけていくこと。行動し、かかわりの中でうまれてくるものを大切にするとというヒントをいただいたような気がします
- ・ご本人の創世塾の話などから人財育成の重要性を改めて感じた
- ・話の中であった。空き地の空き地しての利用について詳しく聞けて参考になった。活用できる部分もあると感じた
- ・大学生や高校生と連携しながらのちいきづくりは高齢者が住む五島のまちへは向いていると思いました。高校生との連携を考えてみたい
- ・様々が自治体の取組みを見て、良いところをパクり、+αをつけたい

【講師との直接対話】 玉沖講師

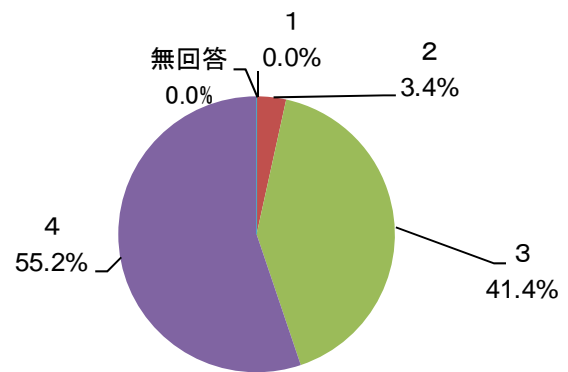
N= 29

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	3.4%
	3	9	31.0%
	4	19	65.5%
	無回答	0	0.0%
合計		29	100.0%



N= 29

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	3.4%
	3	12	41.4%
	4	16	55.2%
	無回答	0	0.0%
合計		29	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・ つくる（企画）がゴールではなく売る事（利益）がゴールである
- ・ 逆算して考えること、小さな工夫を重ねること、戦略的になることも必要であると思った
- ・ 講義をさらにくわしく、また海工町の具体例を知ることが出来参考になった
- ・ 先生の細かいルーツなどお話で伺えて、とても良かったです
- ・ 自治体は、数年スパンで計画していない単年度。モノを作っても、売るまで見越しているというのが印象的でした
- ・ 観光プランを作ることがゴールなのではなく、それを売ることまで考えて取組まないと意味がないと気付きました
- ・ 質問に丁寧に答えいただきありがとうございます。お話を聞いて、自分自身マーケティング等、学問的な知識も入れていきたいと感じました
- ・ 大教室の講義の際より、小教室での直接対話の時のほうが具体的で有意義なお話が聞けました。プロのコーディネーターの方のお話が聞けて良かったです
- ・ 地域資源の企画立案や販売の考え方を学べた
- ・ 行政に対して一方的に要求だけする者に対しての対処法について疑問が残ったので夜に聞きたい
- ・ 市町村が抱えている問題についてどうアプローチしていくか、複雑なものが多く、やや消化不良気味だったが、何パターンか解決策の提案を頂き、これを参考に今後取組んでいきたいと思った
- ・ 人材育成塾を開催するときの注意すべき点がよく分かった。また、他市町の事例も聞け興味深かった

- ・受講者のかかえる問題について、実際にコーチングの技術を使って答えを導いて下さり、具体的にイメージできました
- ・リーダーではなく事務方の育成についてグループ協議できたのがありがたかった
- ・地域資源の掘り起こしの参考にさせていただきます
- ・説目や目標設定におけるゴールの見据え方など参考になった。また、観光地域資源の広域連携等の活用について聞いてよかった
- ・今取り組まないといけない事業の取りかかりに悩んでいたのも、相談させていただいた内容を参考に進めたいと思います
- ・商品開発におけるフォーメーションの組み方、ゴール設定と進める上で前提として「どうして+いつ、どこで、だれが、どう、量」を決めてからということが参考になりました

[理解度 3]

- ・講義を頂いた点を踏まえ、個々に抱える問題をグループで考え、助言をいただきながら、解決策を考慮していきました
- ・課題解決のために様々な方々と相談することが大切だと実感することができました
- ・講義6に同じ、加えて、地域づくりの基本は、やはり「人」という事が再認識した
- ・何事も目的と理由を明確にして情報を共有（周知）すること。リーダーとして求める「人物像」をハッキリさせる
- ・講師の方が心理学を学んでいることもあり、人と人との橋わたしの方法なども学べてよかった
- ・テクニカルなお話が聞けたのでよかったです
- ・コーチングを利用した住民の意志決定支援について具体的に話をされた。保健師として保健指導の際は、支援手法として活用しているが、地域づくりにも活かしていきたい
- ・チーム作りの方法や地域の人をやる気にさせる方法、地域資源の発見方法を学んだ。どれも、実は簡単なことだと思うが実行する勇気を出すのは難しいと感じた

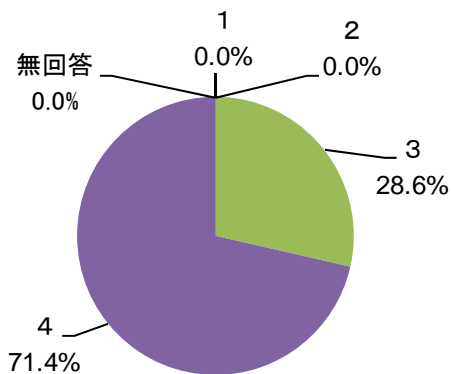
[理解度 2]

- ・感情と実際に話している内容を切り離し、冷静に見ることが大切だと思いました。

【講師との直接対話】 小澤講師

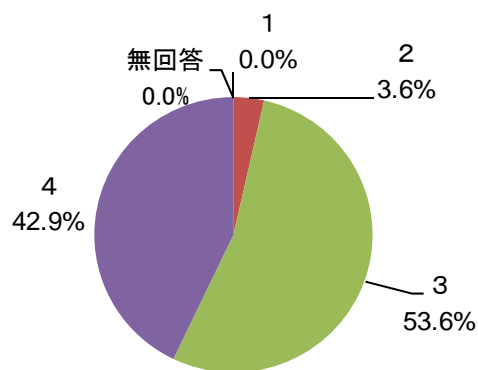
N= 28

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	8	28.6%
	4	20	71.4%
	無回答	0	0.0%
合計		28	100.0%



N= 28

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	3.6%
	3	15	53.6%
	4	12	42.9%
	無回答	0	0.0%
合計		28	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・自分も本消防に入っていることもあり、とても共感できる部分が多かったです。また、団員不足はどの自治団でも大きな問題となっており、どこも苦勞されているようです
- ・自分自身、消防団として活動している中で「自分たちのまちは自分たちで守る」精神でやっているが、団員確保は急務である
- ・10名受講のうち、8名が消防団員ということに驚きました。その中でも1人女性団員がいて操法大会に出たとのことで、団員確保の幅を考えるきっかけになりました
- ・消防防災活動以外に消防団が担うこれからの地域づくりの役割や活動等の話が聞きたかった（事前アンケート記載有）
- ・人財確保のノウハウや他自治体での取組み、今後消防団の今後あるべき姿など、良い話を聞けて良かった
- ・防災、消防団の役割りや課題について、理解することが出来ました。各地域の成功事例も聞けて参考になりました
- ・私は、消防団員です。今後、若者や女性が入団しやすい団作りが必要だと思いました
- ・消防団員確保が契機の課題である。その障害は色々意見が出たところです。若者のメンタリティの変化が一番とらえております
- ・消防団についてのイメージがかわった。その重要性を改めて認識した
- ・女性の消防団ならではの活動の在り方を知ることができました
- ・あまり縁がなく知らなかった消防団の実情についても知ることができました

- ・都市部の消防団がどのような活動をしているのか、機能別消防団の可能性も理解できた。西予市でも取り入れる部分多く、帰庁したら調べてみたいと思う
- ・消防団は、地域にとって重要な組織であるので、自分も今後かかわって行くとともに、団員を増やす仕組みについて、もっと勉強して行きたいと思います
- ・地域コミュニティの中でも、自衛の面で多くの役割を消防団が担っている点や、その現状、課題から、今後の展望まで大変参考となりました
- ・消防団の話、それも女性ということで小澤先生の話は興味を持ちました。男性ばっかの世界で女性が入らざるを得ない状況でも性別、年齢関係なく防災対策、自分の町は自分で守る意識を持つ必要性を改めて感じました。女性目線、機能的消防として消防団加入をすすめていければと思いました
- ・地域防災の重要性と今後のにない手の問題について検討する事ができ参考になりました
- ・新入職員が男女を問わず消防団に入る義務がある自治体が意外と多く驚きだった。地域活動は、まず行政マンからやってみせることで住民の感心を引き起こせるという、一つの事例だと思いました。
- ・専門的というか、消防に限られるが、話が聞けてよかった。この分野の研修も有効。続けてほしい
- ・現在消防団のおかれている現状と、消防団活動の重要性について改めて考える機会となりました

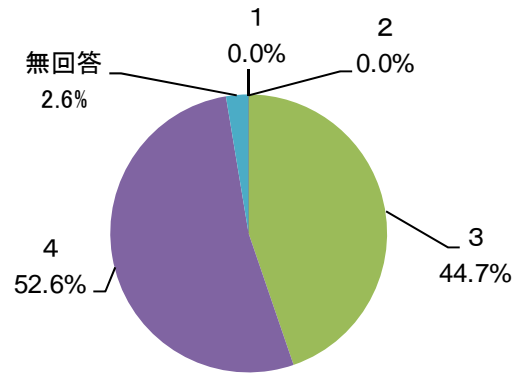
[理解度3]

- ・消防団員の確保活動を目的意識的に進める必要性を感じた
- ・防災、安全という点から見た地域との関わりを学べよかった
- ・消防団のイメージが変わりました。地域の消防団の方々の活動に注目していきたい
- ・消防団のルーツや現状がよく分かった。機能別団員という制度があることや留学生を機能別団員として活用していることはとても興味深かった
- ・消防団としてあるべき姿、原点に戻る事が出来た
- ・私自身消防団に入っていますが、改めて消防団の役割大切さについて再認識しました
- ・消防団の仕組みや活動についてあらためて知ることができた。防災分野に関わる女性が増えてくれることを願っている
- ・女性の消防団について地域での役割りがよく分かりよかったです

【講師との直接対話】 前神講師

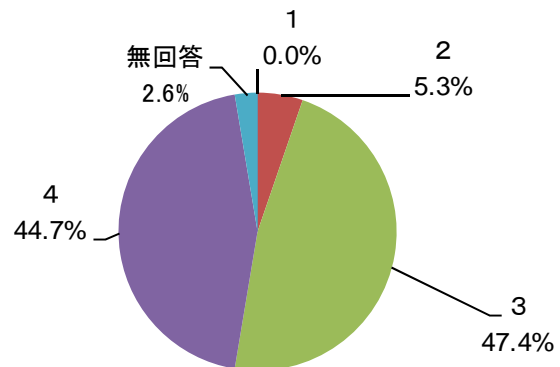
N= 38

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	17	44.7%
	4	20	52.6%
	無回答	1	2.6%
合計		38	100.0%



N= 38

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.3%
	3	18	47.4%
	4	17	44.7%
	無回答	1	2.6%
合計		38	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・人をまき込みには、まき込みではなく、楽しさを見せてまき込んでいく、協働にむけたヒントをいただきました
- ・ご自身の体験を踏まえて、個人（私人）と公人との切り分けや、実際に現場に出るコトの重要性など大変分かりやすく感銘を受けました
- ・県職員という立場でありながら、今までで会った県職員のなかでそんなパワーのある人がいたんだと思わせる。そして惹きつける人でした。公私の立場の使いわけをしっかりと自分の興味と、できることは何か。あとネットワークも上手に使って、熱意と努力と色々と動かしていける人だと感じました
- ・私人、公務員の立場をハッキリさせることで、どんどん飛び出せると勇気をいただけた
- ・「巻き込まない」の意味が分からなかったが、その後に NPO 桑原さんとの会話で落ちた。やはり、現場にいかに行くかが大切
- ・行政側の問題点がよくわかっている
- ・地域に飛び出す公務員になれるよう前神先生の活動を参考にさせていただきます
- ・立場をはっきりさせて公務と私の区別をすることも必要であるとわかった
- ・課題を解決するために動くだけではなく、未来の姿に近づくために動くようにしていきたいと思いました
- ・私も翻訳コンニャクを得意といえるような公務員になり、地域にとっても良い住民になりたいと思いました

- ・行政の視点からの気づきや関わり方の実体験を聞くことができた
- ・行動力の力に圧倒されました。でも、動かなければ始まらないので少しずつでも動いて行きたいと思います
- ・どこの自治体にもパンドラの箱があると思います。必要であれば開けることはいとわなくていいんです。今、何が求められるのかをきちんと判断していきたいです
- ・同じ年とは思えない程パワフルで行動派であると感心しました。勉強になる点が多々ありました
- ・地域の中での公務員のあり方を学びました
- ・ともすれば、決まった仕事を機械的にこなしていただくだけになりがちな公務員というお仕事ですが、先生の行動力や熱意がないと、あれくらいの活動はできないなと思いました。モチベーションが上がりました
- ・楽しみながら参加し「公」の立場と「私」の立場をともに活用する。地域への参加へのハードルが下がった気がします
- ・「地域にとび出す」という言葉の意味を理解できたと思います。まず、一步踏み出してみないと、自分が体験しないと伝わらないものが多くあると感じました
- ・高齢者虐待への取り組みのお話は、庁内に味方がいない中、地域の様々な組織の有志と連携して取り組むという、エネルギーの使い方の参考になるものでした

[理解度3]

- ・仕事とプライベートの先引きについて、自身の体験を用いて興味深い講演でした
- ・地域にとび出す公務員として、公私をしっかりと分別して、地域を知ることが大切と感じた
- ・田舎はダジャレで笑い飛ばして楽しみながらやるのがやりがいにつながる。再考、再興、最高。自分の立ち位置を明確に
- ・答えは現場にある！！地域の中で真の声が真の地域づくりであることを再確認した
- ・高齢者虐待問題をきっかけに、より地域や現場に目を向けて活動してこられたこと（地域に飛び出す公務員活動）がよく分かった
- ・地域活動のユニークな取り組みなどを話していただき、今後の参考になりました
- ・「アド坊」という高齢者の為の劇は、市の職員の方も一緒に見るので、その場で相談できることが良いと思いました
- ・まずは、自分が楽しむことが必要
- ・県職員としてどのようにネットワークを広げていくかを考えさせられました。みきちゃんもかわいかったです
- ・地域住民の声を聞く場所をつくり、その課題解決の為にまわりの人をコントロールしていく事大切
- ・お話の中で、役場から言われて行った事業より、地域の方の悩みから始めた方が成功しているという言葉が印象に残りました
- ・行政マンが住民として地域に出ていく事で地域でキャッチできる情報量も増え、未然に手立てを講じる事が出来る事に対して共感する事が出来ました
- ・自分も「地域に飛び出す公務員」なれるようにしようと思った

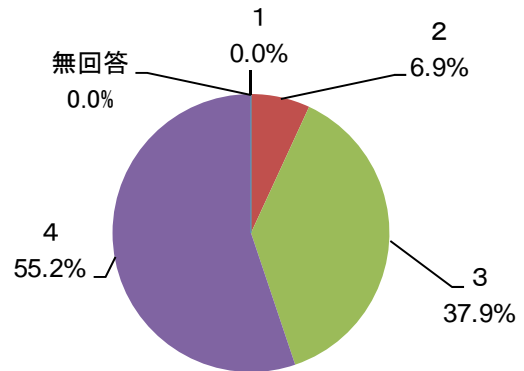
[NA]

- ・地域づくりには根気強さが必要と感じた。あきらめずに取り組んでいきたい

【講師との直接対話】 牧野講師

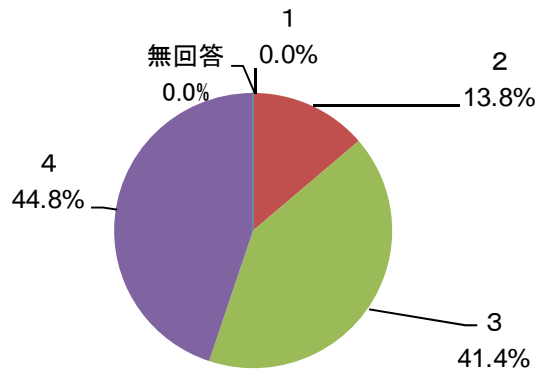
N= 29

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	6.9%
	3	11	37.9%
	4	16	55.2%
	無回答	0	0.0%
合計		29	100.0%



N= 29

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	13.8%
	3	12	41.4%
	4	13	44.8%
	無回答	0	0.0%
合計		29	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・地域おこしへの ITC の活用の事例が学べよかった
- ・地域づくりに ITC を組み込むことで発展できる事例を聞くことができ、参考になった
- ・人がつける活動量計を牛につけて広くデータをとったらさらに色々分かるかもしれませんね。ICT が人の幸せにつながる取組みの広がりに加わりたいです
- ・地方ほど、ICT の必要性を感じました。また、新しいビジネスを実現するために ICT を活用していきたいと思いました。鳥獣対策にドローンを使用する方法にも興味を持ちました
- ・IT の視点から見た地域づくりがよく分かりよかったです。もう少し時間があればよかったです
- ・民間企業が自らの得意分野で、地域活性化に協力している意図が分かり良かったです
- ・「しごと」分野における ICT の活用について視野を広げることができました。牛の授精時期センサの話は面白かったです
- ・マイクロソフト社の偉い方のお話を聞けることなんて今回くらいだろうと思えずごくよい経験になりました。ICT も最近、職場で直通しており興味を持って聞けました。色々なデータをもとに活用できるさまざまなしくみづくりを考えてくれ、それを本来の IT に反映してくれ、それが地域づくりに活用されるように将来性がみえました。活用できるかどうかはわかりませんが理想です

- ・まちづくりに ICT を活用し課題解決ができる
- ・普段何げなく活用している ICT の可能性におどろきました。使用していても活用まではできていない自身の環境を少しでも変え、地域の方々に還元できればと思います
- ・ICT というとクラウド等ネットワークを使った庁外連携を思い浮かべていましたが、牛や道路の管理にも活用できると知りました
- ・今後の IT の発展が楽しみになる講義だった。受入れ側も柔軟な対応や発想が必要と思った
- ・ICT の導入事例などを知り、今後取りくまなければならないと再認識した。地域の活用方法をよく理解できました。本市でも導入出来るか検討していきたい
- ・地域の中での ICT の現状や取組事例についてとても面白い話が聞けました

[理解度 3]

- ・自分の勉強不足もあるが、何かしら地域づくりに使えそうと思いつつ、現状では、まだみえてこない
- ・民間企業との協力を積極的に行うべきことを熱く語ってもらった。山口ももっとやるべきか。ICT 活用ももっとやるべきと感じた
- ・ICT の必要性は、感じていたが、具体的な事例（牛の IT 化）の話聞き、どう ICT を活用するのか理解できた
- ・ICT の導入事例などを知り、今後取りくまなければならないと再認識した
- ・業務効率には、ICT が必要。財政の理解も必要
- ・ICT を効果的に活用することで情報発信が広がると感じた
- ・これからの時代如何に、ICT を上手に活用していくか。民間企業との連携が不可欠だと感じました
- ・牧野先生のグローバルな活動には、驚くことの連続でした。一見無関係に思える IT ー農業の連携についてお話を聞き今後の未来への希望が見えました。ICT←すごいです
- ・なぜマイクロソフト社が地域づくりなのかを教えて頂けた。ICT は、田舎でも都市部とは違った形で取り入れ、それがビジネスチャンスになることを教われよかった
- ・土佐町には、酪農家がたくさんいます。ICT をそこで利用できれば、大きく変わると思いました
- ・ビッグデータの活用が参考になりました。自治体でもリーサスによるデータ分析が可能であり、産業構造をひもときながら、マーケティングへの活用にむすびつけられたらと思う

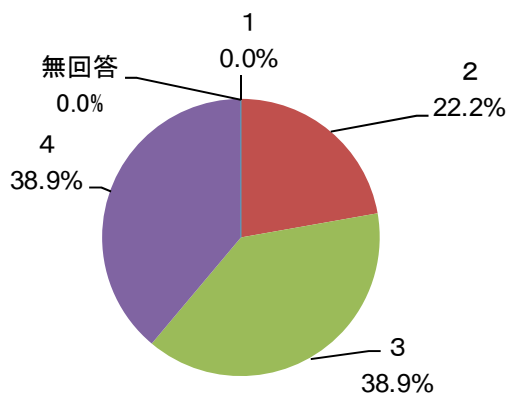
[理解度 2]

- ・講義の中では、ICT で出来る大枠の事例が多く、もっと地域の中でのまちづくりやコミュニティの中で活用できる具体例を知りたかった。また、テレワークやサテライトオフィスの具体的取組や効果などビジュアルではなく実体を知りたかった

【講師との直接対話】 宮城講師

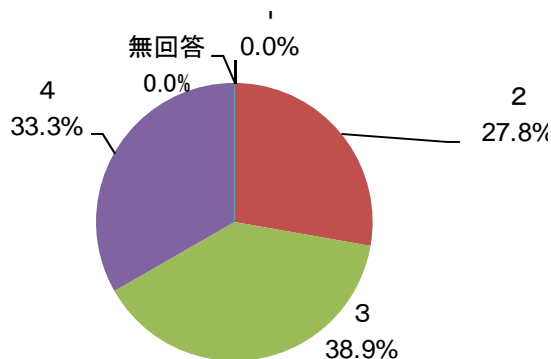
N= 18

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	22.2%
	3	7	38.9%
	4	7	38.9%
	無回答	0	0.0%
合計		18	100.0%



N= 18

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	5	27.8%
	3	7	38.9%
	4	6	33.3%
	無回答	0	0.0%
合計		18	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・ IU ターン、全国の自治体で行っているが、しきりを下げ、期待をもたない、ゆるく、余地を試しているいく必要性は、これからの移住政策に必要だと感じた
- ・ 私の市にはまだないインターンという制度について学ぶことができ参考になった
- ・ 学生の力を行政に取り入れていきたいと感じました
- ・ 1度講演をきかせてもらいましたが、異なった内容を取り入れていただいたので新しい事が学べてよかったです
- ・ 地域おこし協力隊を支援するための地域おこし協力隊の採用について考えを深めるきっかけとなった。我慢することをどう共通認識としていくか考えていきたいと思います
- ・ どの先生にも共通する”人は命令や共生では動かない”ということをわかりやすく教えてくれました
- ・ 多方面からとらえた考え方、物事のアプローチの方向を変える事でもっと活用の幅が広がっている

[理解度 3]

- ・ 優秀な学生をコーディネートした事例が挙げられる中で、実際にそのパイをベッタウンという町で獲得できるのか少し不安になった。しかし、先生に意図的に生み出した関係性ということで進めていけば可能性があるという勇気もらえる言葉にチャンスを感じた
- ・ 地域活動のための支援の支援、支援した人の成功が続く事業が続く、長期間やられているだけあり話に重みがありました
- ・ 今のところ本市では、想定してない内容であったが、いくつか学ぶべき点もあった

- ・地域づくりにおける、人材育成の重要性について学び、今後の業務の参考にしたいと思いました
- ・”職”はUIJターン、地域を盛り上げる上でも重要なテーマだと思うので、しっかりとりくんでいきたい
- ・学生のやわらかい考えを新しい風として受入れ、活性化につなげる事例を聞いた。意欲ある学生との交流で市職も刺激を受けれると思う

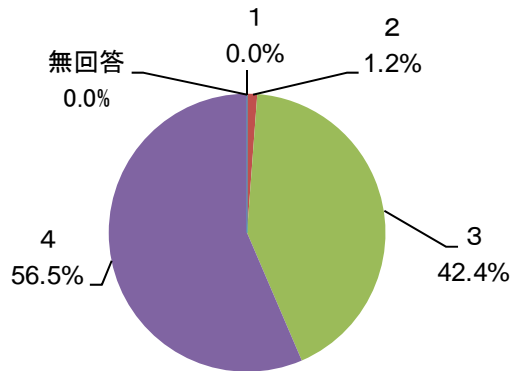
[理解度 2]

- ・人材の活かし方、組み方、よく考えられていると思った
- ・これからどんどん人が減る中で外部の力は重要だと思う。若い世代が何を考え、何に動かされるαがもっと学びたいと思う
- ・言葉巧みな講義であったが何を伝えたいのかよくわからなかった
- ・なかなかすんなりと内容を理解しにくかったが、コーディネーター後に若い力が必要ということがわかった

【事例報告】 千葉市保険福祉局保護課 渡辺 大樹 講師

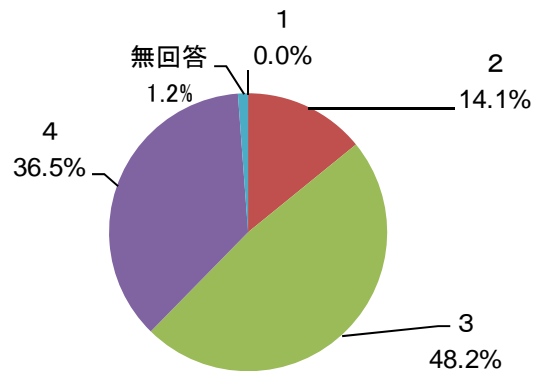
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	36	42.4%
	4	48	56.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	12	14.1%
	3	41	48.2%
	4	31	36.5%
	無回答	1	1.2%
	合計	85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・職場内での活動から、市外県内への垂平共有、一人では限界があるため、仲間づくり
- ・地域づくり人財塾から、その次につなげ、効果を波及させていくにはどうするか、どうしたか、分かりやすく参考になった
- ・もう少し人財塾の体験を話してほしかった
- ・皆さん、事例報告するだけあり、積極的に活動していらっしゃるなど思いました。なかなか、すぐに同じ様に活動することは出来ませんが、自分の出来ることから1つずつ進んで、遠くないうちに同じテーブルにつけたらと思います
- ・ちば活参考にさせていただきます
- ・どのように周りに理解を得て、実行していったのかを分かりやすく教えて頂いた
- ・講師が既に活動を実践し、活動し、成果を上げていることについて感心しました
- ・人財塾で塾内のつながり、講師の方とのつながり、その上で何ができるか、仲間とともに、地域の資源や活動について考えていければと思います
- ・自主研究会をぜひ立ちあげたいと思った。その際、目標をしっかりみずえたい
- ・やる気のある若者の行動力を感じた。地域を元気にすることを楽しんでいることやネットワーク作りもメーリングリストと若さと行動力を感じた
- ・先輩の事例を学べてよかった
- ・研修会を受けて、その後、自分の職場に持ち帰り、共有していることはすごいと思いました。声を上げてくれることは大変かと思いますが、それに賛同する人は意外にいたので、継続していてもらえるといいなあと思いました
- ・研修をきっかけとして、地域への積極的な関わり、「ちば活」として、市の職員のみならず、企業の職員や学生などプロジェクトの報告を広く行なうなど、やれることから実現されていることに共感しました。見習いたいです
- ・次々と新たな事業やネットワークを立ち上げていく姿勢が刺激になった
- ・「飲み会の向こう側へ」というフレーズにとっても共感した。地域のために、こんなことをしたらよくなるのに！という思いを共有する。職員は意外と多くいるのに、行動という一歩が出ていない。皆そこから一歩進んだ先輩に学んだ
- ・ちば活など、積極的な職員が集まる場を教えていただき、参加したくなりました
- ・今まで知らなかった千葉県での活動について知ることができ、勉強になった。また、この研修を持続していくことの必要性を認識した
- ・市原市でも、「いち活」を始めたいと思います
- ・研修を終え、満足するのではなく、学びをいかに地域に生かすかが大事である。その中で、再度、同志が集まることによってモチベーションの持続をすることは大切だと感じました。考えの幅を広げる意味でもフォローアップは必要になると思います
- ・研修内容を活かし、しかもアイデアがたくさんある。すごいです
- ・自らの行動計画に基づき実現されている事が大変すばらしいと感じました
- ・若い人から率先してグループ作りをしていて参考にしたいと思った

- ・飲み会を二日酔いだけで終わらせないで、何か少しでもプラスの行動につながれたらと思いました
- ・「ちば活」→やれそうでやれない。でも、もしかすると、やれなさそうで、「やれる」取組みかも？ TTPしてみたいと思いました
- ・職員間のコミュニケーションの取り方がよくわかりました。本市でも参考にしていきたいと思えます
- ・人材塾をきっかけとして仕事にうまく生かしている
- ・ITは子ども達にとって、問題解決ツールということで、仮想のIT大学の事例が参考になりました。横のつながりづくり、地元でもやってみようと思えます
- ・自治体を越えたコミュニケーションの場を設ける重要性と同じ目的意識の仲間がいる事の心強さを感じました。まずは、小さな事から自分も始めていきたいと思えます
- ・プロジェクトの継続には定期的な水やりが必要ということばが心に残りました。大体のプロジェクトは1回きりでなく、2回、3回とつづけていくことで、より良いものになっていくと思うので、継続的、長期的な気持ちで携わっていきたいです
- ・人財塾を受けられ、自主研究という形で実践にうつされていることがすばらしいと思う。市内にとどまらず県内にも波及させており、今後も頑張ってください
- ・自治体職員が自発的にやられていることを聞かせていただき参考になった。個人的には佐世保市職員で行っている「朝活」にも参加しているので、今後の取組の参考にしていきたい
- ・自発的なグループとなっているのが印象的でした。自分たちのアイデアを政策に結びつけて行けるのは良いと思えます
- ・同じ公務員として活動されているのが刺激となった
- ・自分もあれだけ、行動出来るだろうか？
- ・自主研究会の立ち上げなど、様々なプロジェクトを行なわれている行動力に驚きました
- ・「飲み会の向こう側」を参考に、実行、行動に移したいと感じました。「互学互習」も実行したい。は面白い仕掛けだと思いました
- ・地域づくりには仲間が必要であり、同じ想いの仲間を多く見つけることが重要。今以上に、地域活動に多く参加し仲間を多くしたいと思う
- ・積極的に周囲と関わりを持ち活動の輪は確実に広がっている。すばらしい！！
- ・地域に戻ってからの実際の取組活動が参考となった
- ・飲み会だけで話を終わらせないことは大事なことだと思います。志のある職員と連携した取り組みは成果が多そうだと思います。
- ・本講座受講後に、組織内で地域活性化のための勉強会を開くなど実践されている点が印象に残りました
- ・行動していく上で、今後の仲間づくりをしていこうと思っています。共通の問題意識の醸成など、スタートを大事にしていきたい
- ・「飲み会の向こう側へ」の発想がおもしろいと思いました。今後の発展に期待したいと思います
- ・モチベーションを維持する、し続けることは難しい

[理解度3]

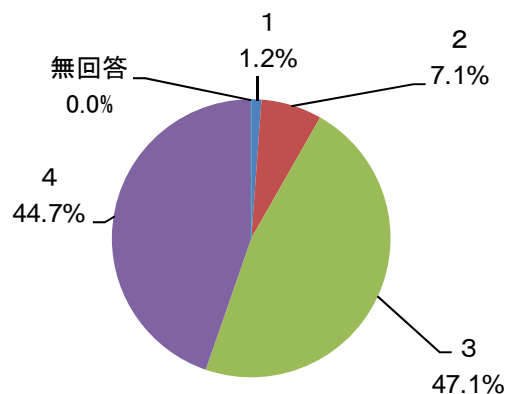
- ・自分自身の市は小さく、小・中しかない地域である。この話をきいて、外部の方との連携をして、町を盛り上げられることが重要だと感じた
- ・同志10人で、自主研修グループを立ち上げ目的・行動指針の策定など、参考とさせていただきます
- ・職場を取り込む行動力
- ・自治体に戻ってからの活動、ちば活チーム千葉県の活動が大変参考になり是非取り組みたいと思いました
- ・スライドの字が小さくて見づらい
- ・子どもをからめた事業展開等、受講経験者だけあって、今回私が学んだ事をきちんと事業にとりいれていたり、モチベーションの継続等、様々なアイデアをだして素晴らしいと思いました
- ・同じ想いの仲間を如何に見つけ、その仲間ととりあえずやってみる。その一歩が大切であると感じました
- ・他の組織と交流・情報共有して連携していくような取り組みはすぐに実践できると思いました。
- ・千葉にしながら千葉の活動を知りませんでした
- ・貴重なお話ありがとうございました
- ・「飲み会の向こう側」を参考にして、実行、行動に移したいと感じました。「互学互習」も実行したい
- ・人財塾の先輩の話は具体的でわかりやすい
- ・研修でマンダことを形にした点は素晴らしいと思った。新潟県内でも、同じ事業の担当者では県主催の研修や会議、イベントで（自治体職員との）つながりがあるので、これをベースに県全体でも情報共有をして地域活性化につなげていければと思った
- ・工夫して実践していた
- ・仲間づくりが、今後の取り組みに大きく影響するとのこと。同感です
- ・共通の問題意識の共有、目標設定（初期段階）、達成感（成果）の可視化
- ・エネルギーで素晴らしいです
- ・「ちば活」や「チーム千葉県」等、若い職員ならではの活動が見られ、自分も入庁2年目なので、刺激になりました
- ・チーム千葉県という取り組みが印象に残っています。自分の市町村だけでなく、県内の職員同士の交流会が気軽に出来るので、お互いに助け合えると思いました
- ・team NARA ができれば、ぜひよろしくお願いします
- ・まずは身近な所からスタートとし、展開はスピーディーに！多様な人と人とのつながりは何をするにも重要ですね
- ・ちばレポは興味がわきました。地方でも ICT の活用が重要だと牧野先生から学び、自分の地区に導入出来ないか考えたいと思います
- ・市の職員として、課を越えて活動している1つの事例が聞けて良かったです。私の市でも同じような学習の場があります。今までは他人事でしたが、考えるところがあります
- ・飲みにケーションも必要な事なのかなあと感じました。信頼を深めていくのが重要なんだろうなと思いました

- ・「行動力」がなければ、変化がないことを改めて学ぶことができました
- ・ちば活の取り組みが印象に残った。「飲み会の向こう側へ」をきっかけとして職員有志による自主研修への取り組みは、共感できる
- ・職員の中でフォローアップ研修をしているところがすごいなーと思った。職場内で、何ができるかも考えていく必要があると感じました
- ・ちば活性の行動指針5つは、見習いたいと思う
- ・ちば活を始めたということで、東北 OM に参加していたが、こういうつながりが広がっていくことが重要ななと思った
- ・千葉市の公務員の活動がよくわかった。県レベルでも何かできればと感じるとともに全国でのつながり、づくりをどうしたらよいかと感じた（山口はあまり活発ではないと思う）

【事例報告】 長野県木曾町農林振興課スローフード木曾事務局 都竹 亜耶 講師

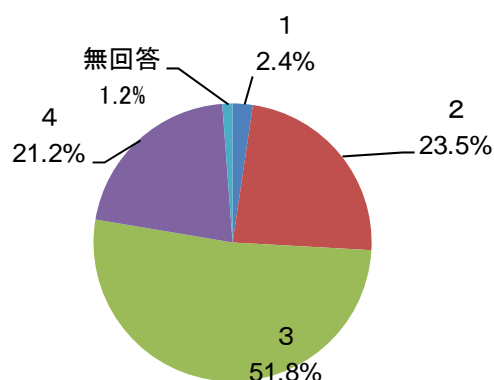
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	6	7.1%
	3	40	47.1%
	4	38	44.7%
	無回答	0	0.0%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.4%
	2	20	23.5%
	3	44	51.8%
	4	18	21.2%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・誰かの苦手が誰かの得意である。子どもの為に10年、20年先、1代、2代先の地域の為の活動
- ・講師の様々なしかけ、巻き込み力のすばらしさに感動です。また、笑顔、エネルギーも素直にかっこいいと思いました
- ・みさなん、事例報告するだけあり、積極的に活動していらっしゃるなと思いました。なかなか、すぐに同じ様に活動することは出来ませんが、自分の出来ることから1つずつ進んで、遠くないうちに同じテーブルにつけたらと思います
- ・様々な経験をされてきて、シングルマザーならではの視点でお仕事をされている姿に感銘を受けました
- ・ご自身の経験をお話いただき、その中で、地域への貢献と何よりその行動力を見なりたいと考えました
- ・人生の色々なことを経験されてきたからこそその説得力、魅力があった。ふみ出す勇気を持ちたい
- ・自分の中に1本すじが通ってブレない方で、興味を持っている”食”を地域にうまくつなげ広げていると感じた
- ・自分の経験、立場をよくわかって町や住民に還元できることを実践している人だなと感じました
- ・スローフードを自ら学び、様々な経験から、移住をして、地域へ飛び込む。そして、その場に合った取り組みをされて、地域と自分どちらも心から満たされていくのだろうと思った
- ・遊びの延長に学びがある。お子さんに対しての言葉だったが、ご本人もその言葉のとおり、自ら楽しみながら活動しているのが伝わった。7世代先を考えた取りくみというスケール感に考えさせられた
- ・食に関心があるので、もっと深く、聞いてみたいと思いました。お話できる機会が今後あればぜひ参加したいです
- ・情熱を持って郷土と接することにより多くのプロジェクトを起こし、実践している人の事例を聞くことができよかったですと感じた
- ・発酵のこと知りたいです
- ・二歳の子持ち、沖縄好き（友人が沖縄）として、とても興味のあるお話でした。木曾町に行ってみたくくなりました
- ・活動精神の北風よりも太陽で、あれは、これからも私も取り入れて行きたいです
- ・苦労がわかった
- ・都竹さんの情熱に圧倒されました。守るべき人がいる人は、強いなと感じました
- ・木曾町に行ってみたくなるプレゼンでした。縁とタイミングを大事にしたいと思いました。
- ・感動しました！！ありがとう
- ・様々な経験が、今の成果にむすびついていることに感動しました。自分もチャンスを逃がさないように頑張りたいと思いました
- ・人材塾も含め色んなところで得たものを、うまく自分のものにしてステップアップされている
- ・食をテーマにした地域づくりはもとより、先生の生き方が定住や地域おこし協力隊の在り方、採用の仕方について、考えさせられるきっかけになりました

- ・地域おこし隊は任務完了後、必ずしも永住してもらう必要がないかも？という気づきを教えられた
- ・スローフードに興味がありもう少し詳しい内容の講座であればよかったと思います
- ・女性ならではの視点でご活躍されている方のお話は、とても刺激的でした。やはり今後のまちづくりには、女性の視点もキーワードになってくるのではないかと思います。私も、地元の女性の力をまちづくりに活かしていけるよう、何か考えられたら、と思いました
- ・波乱万丈の人生とおっしゃったが、だからこそ、今の人生に活かされているのだと思う。もっと聞きたかったです
- ・自身の体験や現在置かれている環境の中から自分のできることでと苦手なことを理解し、他の人に支えてもらうという先生の話が、地域単位で行われるときっといい地域になるのではと感じました
- ・経歴もすごい、行動もすごい。小さな体から大きなエネルギーをいただいた。たくましい！！
- ・木曾は、実家が長野であることもあり、イメージしやすかったです。母子家庭にもっと応援を。また、子供のために地域暮らしを考えるという視点に気付かされました
- ・色々な地域と交流されながら、そこで得たものを木曾町に還元されているという点が印象に残りました
- ・ひとり親世帯に積極的にアプローチしていく視点を得ることができました。場づくりにおいてしっかりと含めていきたいと思います
- ・まさに、地域でがんばる若いお母さんという感じだった。このような人を発見できたらいいのになと感じた

[理解度3]

- ・様々な体験が地域づくりに生かしていけると感じた。人材発見をする上で人材選考は重要と感じた
- ・地域づくりのカギは「子供」との研修で受けたが、外から入る側のカギとなる事例と思った
- ・いろいろな体験を聞くことができました。また協力隊についても参考になりました
- ・様々な経歴を持っており、その経験や体験が地域づくりへの情熱になっていると感じました。色々な経験や出会いが、地域づくりにはとても重要な事だと感じました
- ・物事を恐れずに行動する熱意が伝わり、自分一人ではできない事を理解することが大切だと感じました
- ・自分の過去の経歴が現在の死後にうまく生かされていることについて感銘を受けました
- ・まちづくりとは、そこに住んでいる人が、「ここが好きだ」と言える地域。地域の人が「ここに住んで幸せだ」と思えることが、一番だと共感しました
- ・地元で愛着をもって活動されている姿に感動しました。今後の活躍が楽しみです
- ・地域づくりに引き込まれていく人生ストーリーと「苦手な事を補いあう」スタンスは学びになった所沢の資源も考えたい
- ・貴重なお話ありがとうございました。
- ・「誰かの苦手な誰かの得意になる」そこで大切なのは苦手をかくさないことです。かくさないことによって生まれるサポートがあり、物事を前進させることができると感じました
- ・子供の遊びの延長に学びがある。確かにそう思いました。又、自分の不得手は、その道のプロフェッショナルにサポートしてもらい使っていきたい

- ・私自身が協力隊担当者なので、任期終了後の生活の糧を得る事例として参考になった。別の場面で、隊員としての活動中のお話もっと聴いてみたいと思った
- ・マクロビオティックや美でのまちづくりは、市でもやっていたが地域や自然をうまく利用することが大事だと感じた
- ・ご自身が体験されたことから話された内容には、説得力があり、心を動かされた
- ・北風より太陽
- ・不便はアイデアの源
- ・「きそうだ」がとても良かったです。スローフード体験ツアーや歌を聞いて、木曾町に行きたくなりました。一人親家庭にとっても、地方は住みやすい所なのだと思います
- ・自分に苦手な事があるから得意な人に出会い、支え合う事が出来る・・・に共感します
- ・地域力創造とは少し視点が違うような感じがしました。個人としては賛同できる部分もありますが、今回のテーマとしては活用度は低いのかなと思います
- ・自分の出来ない分野は無理せず、プロの方にまかせて、効果を上げる取り組みには共感できるものがありました。遊びの延長に学びがあるという言葉に魅力を感じました
- ・自分のできないことをきちんと理解し、支えてもらうことの重要性を学ぶことができました
- ・「食」をテーマにした活動の様子が分かった。いろいろなところで経験された知識などが生かされていると思う
- ・必要と思った所に積極的にコンタクト取られている様子が印象的でした
- ・常に目標をもって前に進まれている事に感銘を受けました
- ・人のつながりに加え、縁とタイミング。自身の努力と感性が必要なことに共感した
- ・SNSの時代、顔の見える関係は、とても大切であると思う。また、自分の苦手は隠したくなるが、打ちあけることで、その分をサポートしてくれる方が出てくるというヒントをいただいた
- ・地域での人材づくりのヒントになると感じました。楽しそうにとり組んでいるのが印象的でした
- ・資料にあった木曾町共催のスローフード体験ツアーの様々なイベントは参考になった。あと、表面化してない電設や慣習を大事にする、というところは印象に残った
- ・少し違った立場からの視点での話をうかがえた
- ・行動力に驚きました。目標があるからこそ動くことができるのだと感じた

[理解度 2]

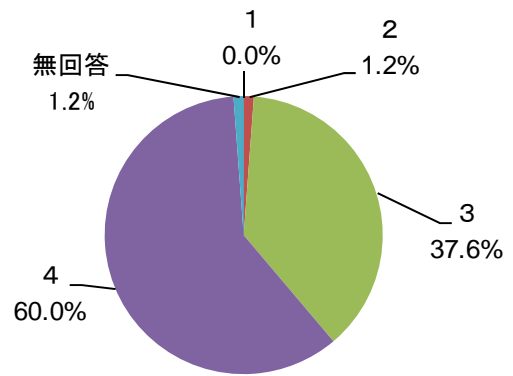
- ・地域のきれいな水や特産品を活かして、パンを作ったりする等の苦労があったはずなので、そのような過程がもっと聞きたかったです。あと、都会育ちの人はやっぱり田舎の素朴さ、人のつながりは新鮮に映るのですね
- ・もし自分の子どもが地域に入れば、その友達が集い、親、近所の方々を引き出せるかも・・・
- ・ご自分の得意分野の料理の知識を生かして活動されているので、自分も得意分野を生かした活動をしたいと思いました
- ・私X地域・人の化学反応という言葉が印象に残った

[理解度 1]

- ・話す情報が多すぎて何を伝えたいのかよくわからなかった

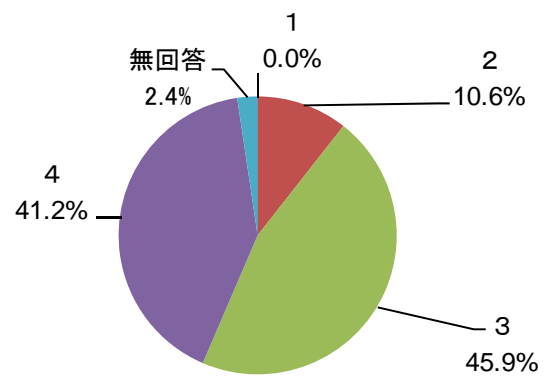
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	32	37.6%
	4	51	60.0%
	無回答	1	1.2%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	9	10.6%
	3	39	45.9%
	4	35	41.2%
	無回答	2	2.4%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・職員間の温度差解消の為の行動自主研究会の立上げ、住民は無償で時間を提供してくれている事を忘れてはいけない
- ・住民や課同士の温度差の乗り越え方が、またチャンス逃さず積極的に行く姿勢に感銘を受けた
- ・町が好きだから町のために何かしたいという、本当に基本的な部分ですが、自分が普段そう思って仕事していたか考えさせられました
- ・地域の人とのイベントについて、いろいろ考えさせられました
- ・みさなん、事例報告するだけあり、積極的に活動していらっしゃるなと思いました。なかなか、すぐに同じ様に活動することは出来ませんが、自分の出来ることから1つずつ進んで、遠くないうちに同じテーブルにつけたらと思います
- ・共感する部分が多かったです。これからの活動に活かしていきたいと思います
- ・職員としてまちの魅力に気づき、そこから自分がどのように動くのか具体例で示して頂き、分かりやすかったです
- ・あまり考えすぎないで地域に飛び出していくことも必要であると思った
- ・1人の行動力で、これだけ変われるということを感じた
- ・印象に残った言葉は、「前例にとらわれない」「住民は無償で自らの時間を使ってくれることを忘れるな」再認識させられました
- ・行政職員として、地域の為にやれる事を自ら自主研究会を立ち上げるなど職場と地域の橋渡しをされた活動を参考にしたいです
- ・役所主導のえせ協働事業にまちの人々がやらされ感を感じている状態の打破をお手本にしたい
- ・地域とどうかかわるか。役所がイベントやまちづくりの絵をかくのではなく、町の人が自ら創造するお手伝いサポートする重要性を学んだ。職員同士のつながりとして自主研究というスタイルで各課連携がされる
- ・同じ職員という立場の方が実践していることについて、また姿勢について大変勉強になった
- ・条例を変えさせて町から出るという気持ちになれる町への愛が自分も欲しいです
- ・まちづくりは、住民の幸せのため
- ・住民は、無償で自らの時間を提供し参加していることを忘れない。心に響きました
- ・今回の講義で一番、同調、同感でき自分が今やらなければならない事を発見させて頂きました。※当町職員に聞かせたい
- ・失敗談を聞く事ができて参考になりました。地域住民の方々への還元をしっかりと行ないたいと改めて感じました
- ・自分のまちの悩みのヒントがたくさんあり大変参考になりました。自信をもらえました
- ・世界にまで活躍されていた
- ・与えられた機会、チャンスを大切に、情報収集の場を逃がさないようにしてこうと感じました
- ・皆さん共通ですが郷土愛が大切と感じました。僕には、その部分が欠けているので、もっと地元と地元の人を知りたいと思いました
- ・「まちを好き」が出发点ということがよく表れていました。自分も初心に戻り、頑張っていきたい

- ・地方公務員の立場から地域づくりをしていくための立ち位置、心構えなど参考としたい
- ・鶴田さんの実体験に基づいた失敗談等を聞いて良かったです。鶴田さんのパワーを感じ、モチベーションが上がりました
- ・まちづくり活動、ワーキングの運営についての工夫が実際に自分も体感しているところなので、共感しました。「まちづくり」は”住民の幸せ”のため
- ・行政のスタンスの難しさを理解した上で行動されている
- ・地域のまちづくりを行政マンとしてではなく住民の方の目線で実践するべきだという事を強く感じる事が出来ました。自分を変える為にまず1歩からの取り組みを実践していきたいと思えます
- ・信念がありすごいなあと思いました。理想が現実になれるということを実感させられました
- ・鶴田さんは、まさに地域に飛び出す公務員だと思いました。色々なことにチャレンジし、失敗しながら地域の人との信頼関係を築かれており、私も失敗を恐れずに、色々なことに積極的にチャレンジしていきたいです
- ・綾町が大好きだという気持ちがすごく伝わってきて、そのために色々頑張っておられる姿がとてもすてきだと思った
- ・何事も、自分達から行動する努力が必要だと学ぶことができました。後悔のないよう、嫌なことでも、1歩進んでいきたいと思いました
- ・地域活動に可能な限り関わりながら地域の人に知ってもらい、信頼関係を築くことが大切。職場内で想いを共有できる仲間をつくり、一歩ふみだすことが大切であると感じた
- ・地域を好きになること。その意味はとても大きく、深いものだと感じました。その気持ちを持って住民の方に接すればきっと伝わるものがあるのだと感じました
- ・地域活動に参加することはとても重要。自分の公民館活動や、イベントに参加するように心がけている。今後も色々な場面に参加して、つながりを深めたいと思う
- ・地域との関わりについて、体験談をまじえ、話された。生きた講義でした。本人は心配されていたが、話はとても聞きやすかったです
- ・リアルな実体験の話であった。町に対する熱意が感じられた
- ・町民を信頼して、任せるようにする。その為に信頼関係を結べるようにしなければならないが、一歩ふみ出す勇気を持って欲しいというアドバイスが心に残りました
- ・ご自身の失敗談などを伺い、地域で活動していくことの楽しさ、大切さを感じる事が出来ました
- ・まずは、第一歩をふみ出す気持ちを忘れずにします。良いアイデア、良いつながりは行動しないと生まれませんと思っています。住民のために還元できるよう頑張ろうと思いました
- ・町が好き、町のためにという気持ちが伝わってきました。やはり根本はこの言葉に尽きるのだと思いました
- ・まず、1歩の行動から、次につながるのだと再確認しました

[理解度3]

- ・職員同士の自主研修は重要
- ・仕事に対する意欲、行動力に感心した。その町を、人を好きになることがエネルギー源となっていると思った

- ・失敗を経験して、地域と人と結びつきが強くなったり、町づくりの意識が高い職員同志での会の結成等、やはり根底には地元愛があるのだと感じました
- ・地域に愛着を持っており、その愛着心が行動の原動力になっているのだと思いました
- ・地域コミュニティはもちろんのこと、いかに町に対して愛着を持って活動をおこしていけるかを学びました
- ・自分から気づく、感じることができ、それに対して努力、勉強、つきつめて実践できる人だと感じました
- ・住民を信頼して地域づくりを任せることの大切さを考えていただきました
- ・苦労話を熱心にお話いただき刺激を受けました
- ・貴重なお話ありがとうございました
- ・自分のまちをどれだけ好きになれるか、その部分が弱いとどうしても住民との距離が生まれてしまう。また、どれだけ住民に「任せられるか」が大事であり、そうなるためにコミュニケーションがとれているかが重要だと感じました
- ・いかに自分の地域、地域の人を好きになれるかが、モチベーションを保つ方法なのだろうと思った。
- ・自分の地域でも旧村があり活かせる話と感じた
- ・住民との信頼関係。機会とチャンスを大切に自己を育てる
- ・緊張されてましたが、想いは伝わってきました！
- ・協力する姿勢をどう作るか、その過程を聞いて良かった
- ・職員からの視線も気になるが、できるだけ沢山の方々と協働で動きたい
- ・チャンス、時期を逃がさない。町、人に愛着をもつことが地域づくりに不可欠は共感
- ・一番は「ノミネーション」が印象に残りました。自分の飲むのは好きですし、色々な意見が出てくる時間になるかなと思いました。あと自分も緊張しやすいのですごく気持ちがわかりました
- ・役割を与えると喜ぶというのは他の講師の方も話されていましたが、地域だけじゃなく普段の仕事にも活かしていきたいと思います
- ・協議会後の飲み会などは、参加者の本音を聞き出す場として私達も実施している。まず一步を行動される勇気は見習おうと思う
- ・地域好きな気持ちとエネルギーがすごく伝わってきました。好きの力はすごいと思います
- ・地域づくりの担当としての工夫、注意は参考になった
- ・祭りを通しての住民の方々との接し方、住民を信頼する事
- ・役場職員としてどうあるべきかレクチャーいただいた。まず、一步をふみだすことが大切だと感じました。
- ・まちの課題、多様な分野（5つ）をまとめて複合的に取りくみ、他課との緊密な連携をとっているというところは参考になった
- ・やはりまちづくりは「人」だと思った
- ・やってみたいことはやってみる。とても大事なことだということがわかった。山口に戻って協力者をまず探してみたい

[理解度 2]

- ・まちづくり活動に大事なこととして、懇親会がありました。実際に飲み会の場では、様々な地方の取り組みや特徴をきくことが出来たので、その通りだと思いました

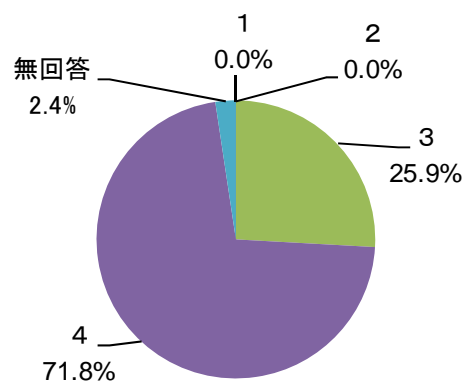
[NA]

- ・自分でどんどん切り開いていかれてる様子が、私自身にも励みになりました

【事例報告】 愛知県宇和島市総務部企画情報課 村上 将司 講師

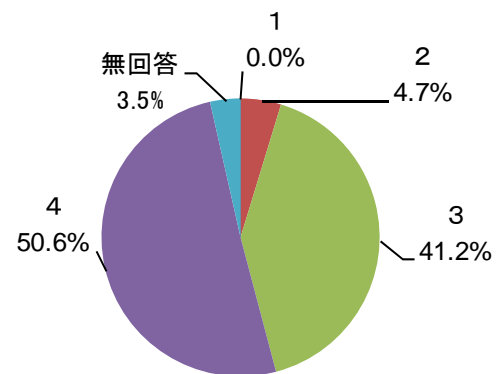
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	22	25.9%
	4	61	71.8%
	無回答	2	2.4%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	4.7%
	3	35	41.2%
	4	43	50.6%
	無回答	3	3.5%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・地域の人達を「おっちゃん、おばちゃん」と呼んでいたが地域の人達と信頼関係が築かれていると思った
- ・人財塾から学んだことをどう生かした、参考にしたのか分かりやすく、自分も同じように人財塾をスタートとして地域づくりに取組んでいこうと思った
- ・楽しんで仕事をしている姿が目につきました。自分も楽しんで仕事をしたいので、そのために何をしたら良いか考えていこうと思います
- ・明日以降、今回の研修のふりかえるための参考となりました

- ・みさなん、事例報告するだけあり、積極的に活動していらっしゃるなと思いました。なかなか、すぐに同じ様に活動することは出来ませんが、自分の出来ることから1つずつ進んで、遠くないうちに同じテーブルにつけたらと思います
- ・昨年の研修で学んだことを早速実践されていて、とてもすばらしいと思いました。参考にさせていただきます
- ・公私を区別せずに、やらされずに自らやるを実践していて、一自治体職員として憧れる方でした
- ・ご自身が受講後、どうアウトプットを行い、初めて分かったことがある、など経験からのお話をいただき大変参考となりました
- ・肩の力を抜いて、得られたことは柔軟に活かしていくことが良いのだなと思った
- ・ひょうひょうと地域課題を解決していると感じた
- ・とにかくモチベーションと前向きな姿勢に感心しました。地域活動や日頃の業務に活かしていきたいと思いました
- ・実際の業務に最大級に活かしていると感じました。自分の生まれ育った地域で仕事をしているメリットも活かせていて楽しく仕事をこなしている様子がよくわかりました。人柄もよいので人徳かと思いました
- ・セミナー受講前から、地域づくりに参加されている姿から、地元を愛し守っていこうという気持ちが伝わり、まずは行動して見るという事の大切さを再認識できました
- ・とにかくエネルギーに圧倒された。楽しむこと（苦難も多いと察するが）実践することを真似していきたい
- ・市民の方の「あれやりたい！」を形にする。とても、まっすぐで、つぎつぎに起こる「これもやりたい！」の形をみていて、そのスピード感に、今は憧れる気持ちだけでいっぱい。自らも前に進みたい
- ・前向きな活動の数々、村上さんの姿勢に少しでも近づければと思いました
- ・村上さんの実践を聞き、自分の市にも反映できる点が多く、参考になった
- ・自分も動いて、周囲も上手くコーディネートされているなと感じました。家族も居て、さすがだなと思いました
- ・学んだことをどれだけ生かせるかが一番大切です。とりあえず、やらなければ何も生まれない、アウトプットするまで自分の中でどれだけかみくだけるかが重要になると感じました
- ・同じ職員として、行動と積極性、自己啓発力がすごいと感じさせられました。※当町職員にも聞かせたい。
- ・学んで、やってみたことを発表してるだけ、というサラッとしたところがすごいです
- ・行動力のすごさを実感しました。研修前から実践されていて見習うべき所がたくさんありました
- ・研修後の実践力を感じました。ぜひ、見習いたい
- ・研修の成果が出ていた
- ・しかけ作りとその気にさせることが大変参考になりました
- ・「こうかもしれない、ああかもしれない」と思うより、まずやって見るということを心がけたいと感じました

- ・住民の人、関わる人、全員が主役になれる様に演出する。とても大切だと思いましたが、とても難しいスキルとも思いました
- ・熱かったです！
- ・現場でのいきいきとした姿が浮かぶ研修でした。また、お会いしてお話を伺いたいです。姫路市も離島があります
- ・「聞くだけ研修」「見るだけ視察」にしない、といった村上さんの主体的で向上心あふれる姿勢に共感しました
- ・廃園になった園が、気軽にみんなが集まれるランチバイキングが素敵だと思いました。富重先生の、巻き込むな！引き出せ！を実践していることがすごかったです
- ・とにかくシンプルなパウポの使い方までわかりやすかったです。また、ユーモアをまじえて活動を報告されていたので、共感しやすかったです
- ・お米のパッケージの事例が目からウロコでした。昨年の講師の方の講義を受けた後の行動参考になりました。TTPしたいと思います
- ・彼の上司の手腕と（おそらく）土量は優れていると思う
- ・色々と吸収した今回のヒントや例題をまず実践してみようをまさしく実行に移した報告が分かりやすく、今後の業務への意欲を頂いたようで、親しみやすかったです
- ・お話が上手であつという間に時間になりました。人をひきつけるというのも必要なあとと思います
- ・村上さんは、プライベートでもまちづくりに参加されていて、すごいと思いました。私は、自分が地域を活性化しなければ、と思っているにも関わらず、実際に何も行動できていないので、小さなことからでも、地域に貢献していければと思いました
- ・おとなりの市でもあり、頑張っておられる姿は励みにもなる。西予市でも活用できそうなお話もあり、お米のパッケージの話は出してみたいと思った
- ・様々な角度から、地域活動を起こし、チャンスを全て活かしている姿をみて、とても尊敬すると共に、自分も動かなければならないと思いました
- ・地域の方々と協力して取り組まれていることがよく分かった。積極的に質問するという姿勢には大変刺激を受けた
- ・自分が取り組まないといけない事に近い事例のため参考になりました
- ・行動力がすごいと思った。事業を進める中で周りの協力、反対等ほどの様な状況なのか・・・この様なやる気職員がもっと増えればいいなと思った
- ・人まかせではなく、まずは自ら行動することが大切。イノベーションをおこすには、実戦が大事だと感じた。すべては自分の気持ち次第だ
- ・村上さんの行動力におどろきました。しかし、村上さんは仕事の中でも楽しそうに仕事をされている印象を受けました。前向きな気持ちと行動力を見習って地域の方に接していきたいと思えます
- ・研修で学んだことをすぐに実践していることが素晴らしいと思った。自分も明日からできることを1つずつ実践していき良い地域を作って行きたい
- ・地域を愛している感が伝わってきた。研修で得た知識を地域に還元している。行動力もあり、すばらしい
- ・地域に根差した生の取組を知ることができた

- ・人から引き出す、得意とすることをやってもらえるようになるまでのプロセスが、より聞きたいと思いました
- ・お米の販売方法等ユニークな事例を聞くことが出来、良かったです
- ・TTP の精神のもと、学んだことをすぐに実践に移す姿が素敵だと思いました。やってみないと説得力がないという言葉、心に刻んでおきます
- ・地域づくりに積極的なところをもっと聞きたかった。自分でどうやったら、積極的になれるかを考えてみたい
- ・実践された結果（成果）を聞くことができよかったです。やれば結果が伴ってくるという証拠だと思いました
- ・インプット、アウトプット、実践されているからこそ、生まれる言葉だと感じました

[理解度3]

- ・役割分担で得意な事をしてもらう。義理でうまく人と人をつなげる
- ・事例を発表していた際に私の町でも参考にできる点があり、活かしていきたいと思った
- ・とても楽しそうに地域づくりをされているのが印象的でした。何かを学ぼう、発言しようとの意識が高く、やはり、地域づくりは、情熱、地元愛が大切だと感じました
- ・地域活動における、活動力、積極的な姿勢を見なりたいと思いました
- ・塾生の心を引きつけるすばらしい発表でした。地域の魅力が伝わる動画に感動しました
- ・面白いと思える形で活動に研修に取り組みたいと思いました
- ・職員として、住民として、両方から地域づくりを見ることは重要と思いました
- ・いち住民として参加することができれば楽しい企画が生まれるのだろうし、自分も楽しくまちづくりができるのだろうと思った
- ・自分たちで主体的に空き地を利用していたのは活用したいと思った
- ・数字でみせる。まちの人事部（就労マップ）
- ・神楽坂には参加できません・・・次回、機会があればよろしくお願いします
- ・学んだことは、やってみなければわからない、を徹底的にパクリながらも実践されている姿に勇気をもらいました
- ・「地域の活動に可能な範囲関わるようにする」自分から、今、おこなっていることの次のステップについて、非常に参考になりました（「考え過ぎない！」）
- ・地元で熱い想いをもって活動に参加されている様子が伝わってきました。昨年の内容もわかってよかったです
- ・TTP（徹底的にパクリ）、そして、それを地域に合わせて加工する。研修で得たことを地域に伝える。ということをしっかりしようと思う
- ・やってみないとわからない。まずやって見る。これが大事だと感じた

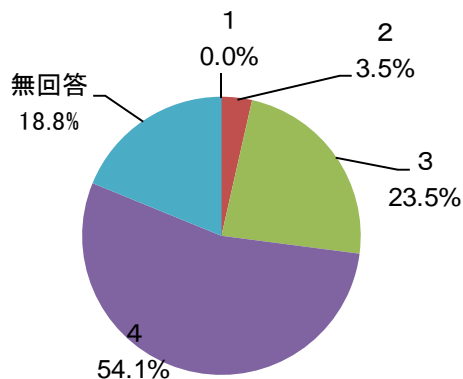
[NA]

- ・すばらしい方が、町の企画課にみえることにびっくりしました。参考になります
- ・研修で得られたことをうまく利用して地域づくりに生かしておられる

【成果と振り返り】

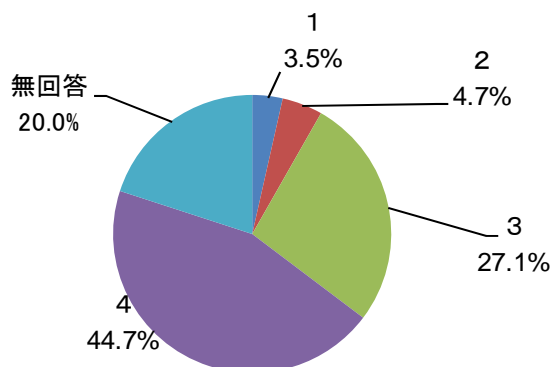
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	3.5%
	3	20	23.5%
	4	46	54.1%
	無回答	16	18.8%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	3.5%
	2	4	4.7%
	3	23	27.1%
	4	38	44.7%
	無回答	17	20.0%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度 4]

- ・富重先生の言葉が心に響いた。飯盛先生の「知行合一」の言葉を持ち帰ります
- ・あらためて実践することの大切さを確認させられました
- ・各講師の講話はとても胸にきざまれました
- ・発表はしませんでした、負けないようにがんばりたいと思います
- ・地域に対する愛着力を持つことが行動する際の大きな原動力となることを再認識しました
- ・大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この3日間の研修を最大限活かしながら、まちづくりに貢献していきたいです
- ・皆の行動計画を知り、自分自身もこの自分の計画に基づき実践していこうと思います
- ・「ちょいボラ」から元気をもらい、上尾での「ちょいカツ」を宣言します。出来る時に出ることをする自分を認め、一歩でも前に進みます
- ・他の受講生、講師の方からの発表、講評を聞くことで自らのモチベーションを再認識することができた
- ・他の方の意見や考え方が参考になりました
- ・とにかく行動することが大事である。やってみないと分からないことも多くある。知っていてやらないことは知らないことと一緒にある。ゴールを決めて動きたいと思います
- ・皆さんの行動宣言を聞いてとても新鮮でした
- ・皆さんの行動宣言の書き方が参考になりました
- ・皆の思いや講師の評価は今後の励みになった

- ・たいへん有意義でありました。ありがとうございました
- ・代表の方の行動計画をきいて、私も「子供」をテーマにした事業を考えていきたいと感じました
- ・一度っきりの人生、だから社会貢献。この研修を機に一步踏み出したいと思う
- ・3日間学んだことを文字にするのは大切。そして実行すること
- ・発表者の情熱が伝わってきました。私も負けないように頑張っていきたい
- ・成果発表では、取り組んでみたいという面白いアイデアが多く、実現してもらいたいと感じました。富重先生の「一度っ切りの人生だから、社会貢献する」という言葉をきき、改めて保育士として何が出来るかを考えました
- ・小さくても、まずはやってみることの大切さ「人」は宝モノだということ。具体的な事から哲学的な事まで多くのことを学びました。今回の方とのネットワークが出来たので今後に活かしていきたいです
- ・地域づくりに関する気持ちを新たに明日からの活動に生かしていきたいと思います
- ・この講義の内容をみなさんがよりよく取り入れてすごいいい発表でした
- ・講師の方からの熱い言葉は、今後のはげみになりました
- ・皆真剣に考え行動宣言され、発表にもユーモアをもって話され、すごく参考になった。最後の先生方のお話もよかった。
- ・3日間一緒に学んだ方たちの今後の目標を聞いてよかったです。講師の先生方から学んだ知識を地域に還元していきたいと思います
- ・行動宣言が実現できるように、できることから始め、継続して取り組むようにしたいです。子供たちに良いまち（地域）を作って行きたい
- ・積極的な意見が聞けた。講師の熱い想いを受けた。ありがとうございました
- ・積極的に発表された方々の姿が素晴らしかったです
- ・知行合一。行動に移そうと思った
- ・自らの考えなどが整理でき、この様な時間をもうけていただいて良かったです
- ・一つ一つの言葉が重かった。やりたいこと、思ったことをやりたい

【理解度3】

- ・行動宣言を聞いて、みんな様々な思いを感じました。地元に戻って、それぞれの地域の問題と関わっていく上で、今回の研修は大変有意義なものでした
- ・ふりかえりができて良かったと思います。しっかり実践していきたいです
- ・今回の研修をきっかけに一步を踏み出したい
- ・少し時間が足りず、消化不要な面もありましたが（われわれの力不足もあり・・・）色々考えを聞いて良かった。ふれあい囲碁は活用したい
- ・様々な行動宣言による熱意やアイデアを聞くことで自己意識の高揚につながった
- ・もの足りず
- ・自分に何が出来るか、何がやりたいかを見付けたい
- ・自分にあてはめて考えることで改めて決意を新たにすることができました
- ・”最初の一步” 踏み出す勇気が大切

- ・皆がきちんと行動について宣言しているのを見て、自分が「業務と地域」のつながりを上手くできていないことに気づき、痛感しました。必ず、行動に移したいです
- ・3日間同じ研修を受けた方々のそれぞれの立場での行動宣言を知ることができ、とても参考になった。また講師の方々の講評もとても心に残るものだった
- ・ふりかえりの時間も大切だと感じた。行動宣言したことをきちんと行動にうつせるようにしたい
- ・講師の先生の行動宣言を受け、自分もしっかり行動宣言を実行しようと思った

[理解度 2]

- ・残りの人生、短くもなく、長くもない。一步、二歩、力んで踏み出してみようと思った
- ・PR が中心で中身が分かりづらかった

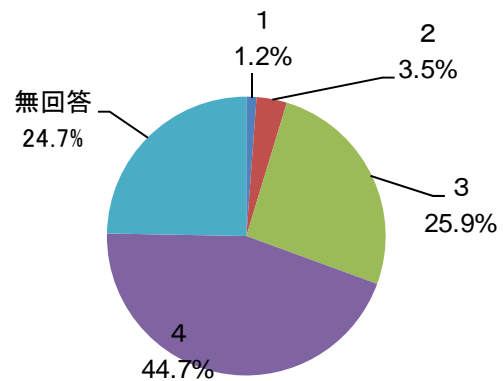
[NA]

- ・6名の行動宣言と講師の方からのエールを頂き、感化されました
- ・発表はできませんでしたが、行動宣言が作れてよかったです。講師先生のまとめも心に残るものとなりました
- ・最後にまた元気（エール）を頂いた仲間が田舎で活躍される事を祈りたい

【グループトーク】

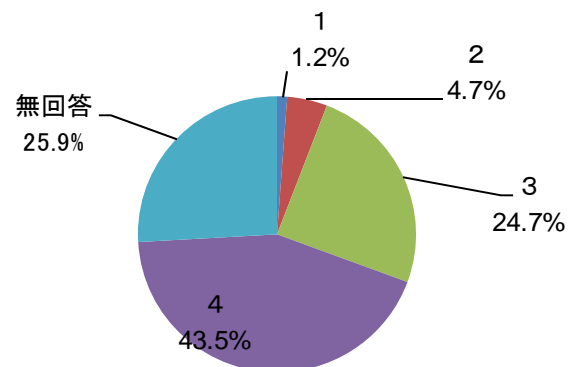
N= 85

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	3	3.5%
	3	22	25.9%
	4	38	44.7%
	無回答	21	24.7%
合計		85	100.0%



N= 85

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	4	4.7%
	3	21	24.7%
	4	37	43.5%
	無回答	22	25.9%
合計		85	100.0%



<感想>

[理解度4]

- ・お互いの気づき、またそこからどう生かしていくかを共有でき、有意義だった
- ・共通の悩みを持った全国の仲間と積極的な意見交換ができとても有意義であった。もっと時間があればなお良かった
- ・いろいろな人の考えを聞くことができ有意義なディスカッションとなった。ただ、ひとつの班であればもっといろいろな考えが聞けたと思う
- ・他の受講生の話をきくことができ、とても有意義だった
- ・すぐに振り返りが出来ていいのですが、全て同じ会場で、小さくまとまっているのに聞こえにくい所がありました
- ・一日目のグループトークでは、人それぞれ感じる事がわからないと思い、2日目のグループトークでは、ふれあい囲碁を通じてのコミュニケーションを学ぶことができました
- ・他自治体の方との意見交換が行うことができ、とても参考になりました
- ・他の参加者の方の意見が聞けてよかった。交流の機会にもなった
- ・いろいろな方とコミュニケーションがとれて大変よかったです
- ・グループでの気付きや発見を皆でトールできて良かったです
- ・行動宣言を記すことで、決意が固まった。また、その状態で、講師の皆さまからエールをいただいたのは、本当に心に響いた
- ・ふれあい囲碁を使ったグループトークで、ぐっと距離が近づきました。本当にありがとうございました
- ・それぞれの自治体において、同じ講義を受けてもう違う問題提起を聞くことができ、広い視野を持つことの必要性を認識することができた
- ・皆様とふれ合える良い機会が出来ました
- ・他地域の方々との交流をすることができて大変、刺激を受けました
- ・1日目の課外、2日目の朝のメンバーが最も話ができて、つながりもできそうだったので、この縁を大切に、活かして（生かして）いきたいと思った。良い出会いになった
- ・情報交換ができ。
- ・ボンヤリと頭で思っていたことが、他の人の口から、かぶさって言うことで、自分の中にしっかり落とすことができた。また、自分が気づいていない点に気づかせてくれる
- ・色々な自治体等の方と、色々な話ができて、色々な視点の話ができて、よかったです
- ・コミュニケーションがとれてよかったと思います
- ・日本各地の熱意あふれる職員の方々からお話を聞くことで、いい刺激になりました。今回情報交換したことについては、今後の業務の参考にしていきたいです
- ・グループトールのおかげで、緊張もほぐれ他地域の方とも話ができるようになった。ふれあい囲碁は、囲碁経験がなくてもすんなりでき、活用してみたいと思った
- ・ふれあい囲碁が印象に残った。ふだんは出にくい意見も、あのような形（アイスブレイクの）にすれば出しやすい

- ・発表をさせていただき、振り返りと共有を行なうことができました。ふれあい囲碁も楽しかったです
- ・それぞれ違った視点での意見を聞くことができて良かった。また、グループトークでゲームを取り入れるなどの手法があることも学べて良かった
- ・発表がない方が、いろいろな悩みを聞けて、有用な情報交換が出来た。発表があると「たて前」感を感じる
- ・様々な地域の様々な意見を聞けて、参考となった
- ・ふれあい囲碁だと最初から笑いながらできそうと感じた。話し合うのはかたくならないでやった方がよいという感じか

[理解度3]

- ・ふれあい囲碁はとても良かったと思います。グループ発表だと意見を発表しないといけない等の気持ちから、あまりグループ内がもりあがらないため、このような囲碁は純粋にコミュニケーションがとれてよかったです
- ・ふれあい囲碁を併せたグループトークで和やかな意見交換ができた
- ・講義のふり返り、他の受講者の思いを共有できよかった
- ・トークというより悩みを聞いてもらえる場でもありました。考えの幅を広げていきたいと思えます
- ・ふれあい囲碁は必要ないです
- ・他の方の意見を聞く中で自分とは違った視点や感想を得られた
- ・時間不足
- ・人口規模等同様の自治体のグループでのトークもあればと思いました
- ・他の研修生の方とお話する機会が持てて良かったです
- ・たくさんの方との出会いがあり多種多様な気づきがありました
- ・囲碁が良かったです。アイスブレイクで機会があれば、使いたいと思います
- ・色々な方の悩みや共有できる情報を頂ける場として本当にネットワークを広げる事が出来ました
- ・様々な地域の話が聞くことができ、良い勉強になりました
- ・シェアするなかで色々な考え方や視点をみつけることができた。また、自分の考えをアウトプットすることができるいい機会となりました
- ・他市町村の地域づくりや業務の様子をきくことができ、業務、地域づくりのモチベーションが上がった
- ・他の人のまちづくりに対する想いをそれぞれ聞けて刺激になった
- ・お互い質問する時間があればよかったと思います。言うだけ、聞くだけで終わってしまった気がします
- ・なかなか思うようには進まず、コミュニケーションをとるだけでいっぱいでした

[理解度 2]

- ・何となく消化不良
- ・碁のルールが気になりました。振り返りの機会になってよかったですが、面白い話にはならなかったのは残念です
- ・振り返りとしては良かったので、もう少し時間をとって良かったと思う

[理解度 1]

- ・発表役を引き受けたのは良い経験になりましたが、緊張しすぎて、他のグループの発表が頭に入りませんでした

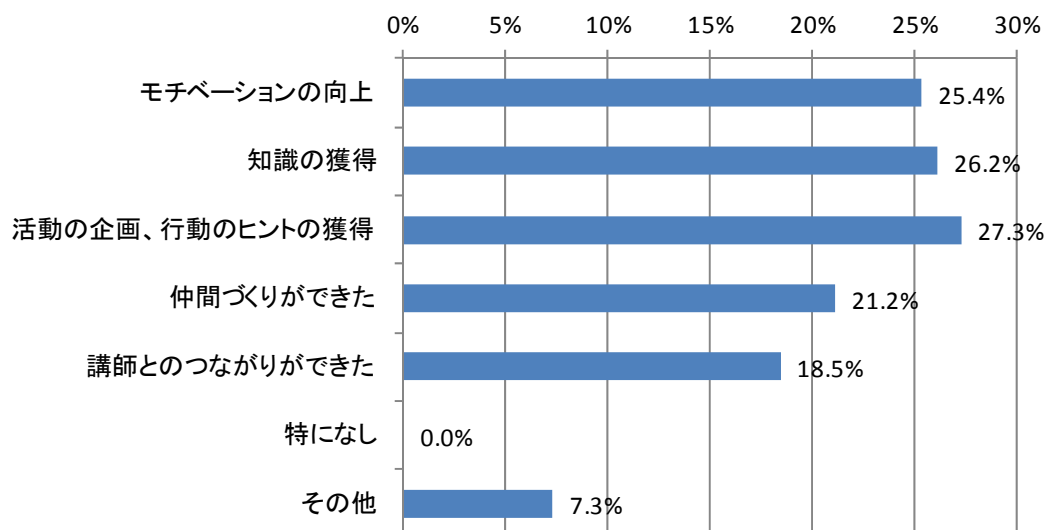
[NA]

- ・司会がうまくできなかつたため反省がある。盛りあげる何かが必要かもしれない
- ・グループトークもせっかく近くの席になった人たちなので話す機会があつて良かったです。ふれあひ囲碁は楽しかったです

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

		N= 85	
		回答数	%
1	モチベーションの向上	66	25.4%
2	知識の獲得	68	26.2%
3	活動の企画、行動のヒントの獲得	71	27.3%
4	仲間づくりができた	55	21.2%
5	講師とのつながりができた	48	18.5%
6	特になし	0	0.0%
7	その他	19	7.3%
合計		260	100.0%



<その他>

〔講師〕

- ・共感できる講義、感動するような講義ばかりで、このような講師陣をお招きいただいたことに感謝です
- ・講師の方々の熱い話を聞く事ができ大変参考になりました
- ・とにかく講師の先生が素晴らしかったです。普段受けている研修とは面白みが違いました。また、全国からいらしている熱意あふれる研修生の方と交流ができて、自分のモチベーションも上がりました。ありがとうございました！！
- ・講師の先生方が超一流の方々であり、また一緒に受講され、懇親会も出ていただける、とても贅沢な研修であった。先生方が本気で接していただくため、こちらも本気で受講できた。ありがとうございました
- ・地域づくりだけでなく講師の方々の考え方や発想、物のとらえ方など、知る事ができ学べて良かった
- ・机に座っていながら豪華な講師陣の話を聞いて大変良かった。最終日の第4ラウンドは、騒々しい中での開催で<仕方がない>聞きとりにくく少し残念であった。3日間大変お世話になりました
- ・様々なトップの講師、想いのある職員の皆さんとお話できてとても刺激的でした。課外の牧野先生のお話もすごく勉強になりました。ICTをどういするか、ICTを使って何を豊かにできるのか、びっくりするお話ばかりで楽しくきくことができました

〔モチベーション・刺激〕

- ・これからの地域づくりについて、いろいろなヒントをもらいました。また来年の新規事業の地域おこし協力隊の受入れについても自分としてのモチベーションを高くすることができました
- ・研修を通じて、何かやらなきゃ・動かなきゃという勇気をもらえた。何か動いてみようというやる気とモチベーションを得られたと思う
- ・他の自治体の方々と話をする事ができて刺激を受けました
- ・今回の人財塾は、特にモチベーションの向上になり、良かったです。講師の方、受講生の方、お会いした方の誰もが、真剣に地域の活性化を考えられていて、自分も丸亀に帰ったら改めて頑張っていこうと思いました
- ・日本の地域の諸問題に対しての危機意識の低さを感じた。(再認識した)やはり自分が動かなければと感じた。

〔気づき・解決〕

- ・モチベーションの向上に入るかも知れませんが、自分が地域づくりに対して思っていた悩みの1つが解決できて良かったです
- ・カリキュラムについては、時間的な制限もあり、かなり厳しいものではありましたが、講師の方の順番や日程(1日目は地域づくりの中心者、2日目は数値化や周りで支える人)については、本当に参加をしてすっきりとさせて頂いた感じがしています

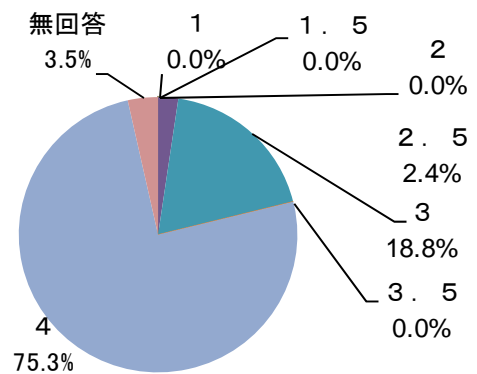
- ・色々な講師から色々な角度からの地域づくりの話を知ることができ、とても勉強になった。地域づくりに経営感覚が必要という意識が今までの自分に欠けていた点だと気づいた。モチベーションの向上や知識の習得はもちろんのこと、全国の多くの仲間と出会い、様々な意見を交換できたことが大きな成果だと思う
- ・特に地域づくりで「協力を呼びかけ、動く人の方が少ない」「ゴール設定をしっかりとすることが必要」という2点は自分にとって大きな気づきだった
- ・研修を通じて、講師の方々から、多くのはげみになる言葉とハッとさせる視点を頂きました。また、気候も人口も異なるさまざまな地域の職員の方と同じ講義を受け、それが違う問題を解決するツールになったり、違うポイントをとらえたり、抱えている問題が異なることで、互いに学ぶことが多くありました

[その他]

- ・若手職員20代にもっと参加を促した方がよいと思いました
- ・同じような業務内容について意見交換でき、また全く異なる業務、分野についても詳しく聞くことができ、今後連携していく上で参考になった。また講師の方々から様々な視点からのお話を伺えたのが良かった
- ・今後の宝となるようなつながりができよかったです

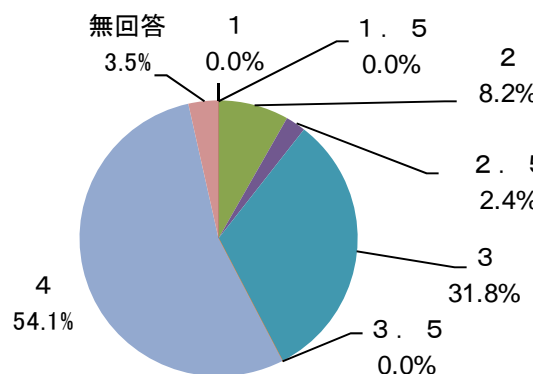
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

		N= 85	
		回答数	%
↑ 思わない 思った ↓	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	0	0.0%
	2.5	2	2.4%
	3	16	18.8%
	3.5	0	0.0%
	4	64	75.3%
	無回答	3	3.5%
合計		85	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

		N= 85	
		回答数	%
↑ 良くなかった	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	7	8.2%
良かった ↓	2.5	2	2.4%
	3	27	31.8%
	3.5	0	0.0%
	4	46	54.1%
	無回答	3	3.5%
合計		85	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

[時間]

- ・素晴らしい講師、講義の連続でしたが、もっと時間があればと思うことが度々ありました。日程の延長もしくは講師を減らすなど、もっと余裕のある日程でディスカッションできればと思いました
- ・講師の方も、受講生も熱い方が多く、時間オーバーすることがありましたが、色々な制約もありスタート時間は、変わらない所は、結構ハードでした
- ・時間がタイトだった
- ・大変素晴らしい研修だと思います。ただ、講師との直接対話、受講生どうしのふれあいの場（話し合いの場）が少なかったように感じました。1日延びてもかまわないので、その時間をとっていただきたいです
- ・内容が盛りだくさんで、もう少し余裕があればいいと思います
- ・講師の方との直接対話は、2Rでよいのでもう少し時間があってもよいのではと思います
- ・直接対話の時間が少し短かったため、ラウンドを3回ではなく、2回にすれば良いのではないかと思います。
- ・多くの講師の話聞くことができ、勉強になったが、対話はほとんど対話になっておらず、ほぼ話を聞くだけで終わった印象があるので、1Rあたりの対話の時間をもう少し長くともってもらってもよかったと思う
- ・多様な講師の話をお聞きできたのは良かったが、少々詰め込み過ぎ感がありました。もっと一人一人の講師の話聞きたかった
- ・時間割にももう少し余裕がほしかったです。集中力が続きませんでした
- ・講師の先生方の熱意が伝わってきたと共に、受講生の皆様方の真剣さ、又、大小の差はあるものの、どこの自治体も抱える悩みも共有、共感出来ました。尚、改善点という事では無いですが、休憩時間を長くして、考える（振り返る）時間が欲しかった

- ・ 2日目の夜についてもお弁当を用意するか食べる時間を取って欲しかった
- ・ 研修を受けた後の振り返りの時間が短い。様々な講師との出会いも貴重だが、全国から集まった自治体職員との振り返りの時間が少なすぎると感じました

[開催日数]

- ・ 2泊3日の研修は大変良かったです。一週間職場を開けるのは大変であるので・・・
※本当は、1週間程度の研修でないと、勉強はもちろん、研修者との絆ももっと深まると思っています
- ・ 今回の内容は5日間位で運営して頂ければ、もっと深く理解や関係づくりが出来たと思います（3日間でも満足していますが）

[人数]

- ・ 人数が多すぎるのではないのでしょうか？交流会でも席がびっちり動きまわられるような感じではなかった
- ・ 3日間と短い日程なので、半数程度で、もっと交流できれば良かったかと思います。最終日は、帰りの便の関係もあるので、時間にゆとりがほしかったです

[講師との直接対話]

- ・ 講師との直接対話は、講師1人に対して、最大6人までが限界。これまでの参加者で今日の発表者の方が中心になり、直接対話ができないのでしょうか？
- ・ たくさんの講師の活動が聞けてよかったが、もう少し直接対話の時間があると更によかったと思う
- ・ 今年度より講師との直接対話の時間を増やしていただいたとのことでしたが、まちづくりの第一線で活躍する先生方と密の濃い時間を過ごせる事は貴重なことなので、来年度以降もつなげてもらえればと思います
- ・ 講師との対話時間が短かったと思います。もう少し、時間を割いてもよいのではと思いました
- ・ 多様な事例や、志を同じくする仲間を得ることが出来ました。時間割の中の講師との直接対話が少し見づらかったように思います。3日間、運営や設営など大変お世話になりました。ありがとうございました
- ・ 講師との直接対話では、講義のない先生がどのような話をされるか事前に分かると、選ぶ際と実際の話聞いた時のギャップが少ない気がしました
- ・ 講師の先生や他市町村の職員の方と直接対話する時間をより充実させて頂きより多くの事例を伺うことができればと思います
- ・ 直接対話の講師は、講義後に選択できるとありがたい。悩みを解決できる先生かどうかは経歴だけではわからない
- ・ できれば、講師との対話が第3希望まで叶うと良かったです。しかし、自分があまり関わりないと思っていたテーマのお話も、聞いて見るととても面白く、結果的には良かったです
- ・ 講師の話をもっと聞きたかった。時間の長さは程度良かったが、他の講師との対話もしたかった

[進行]

- ・4Rはやはりきつい、できればゼミ方式で2人くらいからじっくりディスカッションができるようにしてもらいたい。また班も固定した方がいろいろと情報交換がしやすくなる。1日目は班ですごし、2日目は慣れてからいろいろな方と情報交換できるようになればいい
- ・最初にアイスブレイクの時間を設けてはいかがですか？
- ・全く知らない方ばかりであり、最初はぎこちなかったが、最終日には、会話ができるようになった。2回あった懇親会のおかげだと思う。ただ、初日のオリエンテーション後ぐらいに、グループトークやアイスブレイクみたいな感じで一度、参加者同士話す機会が最初にあってもよいのかもしれないとは感じた
- ・ふれあい囲碁の進め方について。今回グループ(6~7人)内の輪番で一方向的に感想を述べ行われましたが、発表に気を取られ囲碁の楽しさや発表する内容も消化不良ぎみに感じました。発表者の次の者が発表者にコーディネート(発表を引き出す)しながら輪番をする方法はいかがでしょうか
- ・2日目18:30の個別の対話。他の班の話が混ざって全体の会話ができない状態だったため、パーテーションの仕切りや教室を利用する等の方法を探っていただけるといい
- ・2日目課外のグループトークでのふれあい囲碁は振り返りを行なう上では非効率的だったと感じました
- ・たくさんの情報がつまっていたので、消化しきれない部分もあったが充実していた。もっと小さいグループでグループトークを多くしたかった
- ・2日目の午前の講義を初日に聞いた方が良いように思いました。内容は、充実していると思いました
- ・事務局のみなさんのほか、関係するスタッフの皆様のお陰で、すばらしい環境の中で研修を受けられたと思います。ありがとうございます。グループトークは、1日目より、2日目の方が充実しますね
- ・2日目、朝イチのグループ発表は、まだ関係性のできていない中の発表形式だったので、プレッシャーに思われる方もいたのではないかと感じた。シェア方法については、1日目はもう少し気軽な感じがいいように思った(ex イゴ形式など)
- ・2日目の講義を先に受講した方が入りやすかったのではないかと思います。2日目の18:30からの講義は教室がいということでも話やすかったが、人数が多く(11人)他のグループとも近く、声が届かず聞きづらい時もあったので、1グループの人数を調整して頂くかもう少し広い部屋でできたら良かったです。お世話になりました。ありがとうございます
- ・夕食時の交流会がもう少し長く自由に動けるといい機会だったと感じました
- ・グループトークや交流会など、もう少し詳しい説明が欲しいと思う場面があった
- ・全体的に段取りが悪い。(共催のためだとは思いますが)必要な情報がしおりなど、数部に分かれており、つかみづらかった
- ・2日目の和室での講師の方との対話までに夕食を食べなければならなかったということが分かりませんでした
- ・事務局の説明・説明資料が分かりにくいです
- ・お部屋の利用についてももう少し説明してもらえるとよかったです(しおり以外)

- ・最終日の塾の卒業生4名のお話は、人によって質にバラつきがあったような気がします。経験は皆さんすばらしいと思いますが、プレゼンの上手、下手がちょっと著しかったです。あと、研修初日の入口で食堂ではプリペイドカードしか使えない旨、教えてほしかったです

[その他]

- ・席や講義などでなかなか近くなれない方と交流のタイミングが少なく、全く話せない方もいて、心残りです。これは自分の課題として次につなげます
- ・講師の方々が多いと感じました。もっと深く話が聞けたらよかったです
- ・せっかくなのですべての講師の方のお話を聞きたかったです
- ・より多くの市町村職員に受けていただきたい
- ・今後もこのシリーズの研修があれば、参加していきたいです
- ・先生方全員との関わりが持てたことが本当に嬉しかったです
- ・初めてのアカデミー研修でしたが、どの講師の方も素晴らしく、あっという間の3日間でした。ありがとうございました
- ・貴重な機会を頂き感謝しております
- ・豊重先生、名刺をお渡しできずすみません、なくなっていました。4ラウンドでの直接対話、とてもありがとうございました。ぜひ、地元で頑張ります。
- ・とても為になる、あつい思いを聞かせていただけて、ありがとうございました。明日からの行動に変化をもたらす衝撃的な研修でした
- ・講師がすばらしく、又、その配列が巧みであると感じた。スタッフの人脈と知識が豊富で、進行にも色々とお苦労されていると思います。ありがとうございました
- ・様々な自治体の職員と交流できて非常に楽しかったです
- ・せっかくなので、最初のうちに集合写真を撮る機会があると良かった
- ・懇親会に少しくらいはお酒もあった方がより打ち解けやすく本番で話やすいかとも思いました（先輩とかが、前はあったよ、とかいう話を言っていたため・・・）
- ・ありません
- ・特になし

③今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修として、どのようなことに取り組みたいですか？

[フィールドワーク]

- ・各講師の方の活動の場面を直で体験をしたい
- ・先進地視察
- ・日程的に厳しいかもしれませんが、今回、学ばせていただいた事を実際に体現、実行している現場に伺い、フィールドワークのようなものが出来れば、良いと思いました
- ・実際に活動されているところに入りこんで活動をする研修をしてみたい
- ・講師の皆さんの実践活動に参加したい
- ・講師が活動している所への視察
- ・実際の現場を視察して肌で感じたい。可能なら1週間ほどインターンしたい
- ・現地視察。フィールドワーク
- ・やねだんのような先進地、もしくは先進地でなくとも過疎地域に行って、一つのプロジェクトを成し遂げてみたいと思います（まずは自分の地域のことを一生懸命！）
- ・フィールドワークのように、やねだん等は学習をしてみたいです
- ・フィールドワークをやったことがないので、地域づくりのフィールドワークに興味があります
- ・様々な取り組み事例をお聞きしましたが、話だけでは見えない部分もあるので、実際に現地へ行つてのフィールドワークができると良い。※いつか事例発表ができるような取組みを行なっていけたらと思っています
- ・実践編ということで、現場に出かけて解決策を考えるなどフィールドワークに取り組みたい
- ・今回は座学だったので、実践的な研修が出来ればと思っています
- ・実施中、又は実施予定の取り組みを直接見てみたい
- ・奈良県から来ているので、関西圏（大阪、京都等）で、ステップアップ研修があれば、参加したいです。産学でも良いですが、できれば実際に地域づくりに参加している地域へ実地研修など

[実践的な課題]

- ・勤務する職場を基点として、具体的な地域づくり事業の企画
- ・受講生の現状と課題を持ち寄つてのディスカッション
- ・実践していく過程のプロセスについて詳しく検証していくように取組みたいです
- ・直接対話の形式をとりながら、個人個人で解決したい課題をどうしていくか、どうやって、解決していくかをまとめ、プレゼンテーションを行なうなど、実際におとしこむ作業をしてみたいです
- ・仮想（実例でも）の地域づくりのテーマを設定して、その課題の中で、どのような地域づくりが出来るかをグループトークを行ない発表する
- ・実際に課題を抱えた地域についての研究や検討、最終的には政策提言まで行なうなど、この研修を通して得られた知識をさらに深める、活用できるような研修があれば参加してみたい

[内容]

- ・経営学（民間の方はどのような研修を受講しているのか知りたい）行政職員と市民のギャップ（感覚とか考え方）を小さくするような手法や知識を学べるもの。ありがとうございました。有意義な3日間でした。職場に戻って早速実践していきたいです
- ・地域経営についての考え方。みせる方法（プレゼンテーション）→住民の行動変容につながるプレゼンテーション
- ・公務員の方々の「危機感」の薄さをとても感じたので危機意識を高められる研修をしてみたいか
- ・失敗話、成功話をグループトーク中心とした意見交換、発表と講師による意見をいただくような場。
- ・他市町村の事例についてのケーススタディなど
- ・参加者の実活動をお聞きしたい
- ・人づくり、ものづくり、場づくり
- ・地域づくり活動で成果のあった者が集まったの意見交換、学び
- ・実際の取組現場で、住民の意見を聞いてみたいです。また、継続的な情報交換を行ってみたいです
- ・地域づくり、人財塾、フォローアップ研修、経営についての研修

[フォローアップ]

- ・今回研修を終えてから、どんな事にとり組んできたかを再度検証するようなこと
- ・機会があれば、フォローアップ研修や、やねだん等の研修に参加してみたいです
- ・情報交換会
- ・ブロック毎の活動報告会等、参加させていただきます。今回は、参加させていただきます

[個人的な課題等]

- ・より一層、地域活動に力を入れていきたいと思います。ありがとうございました
- ・まずは、自分にできることから取り組もうと思います。始めに地域の歴史や文化についての理解を深め、地域行事などにも積極的に参加していきたいと思います
- ・日々の業務や市民に対し、今までとは違った視点で捉えて、自分自身においても日々、考えるきっかけを見つけて地域づくりに取り組んでいきたいと思いました
- ・講師先生を地元へ招待して、講演を関係各位に聞いてもらいたい
- ・自分の業務上で地域起こしになるものを見つけ地域の人をまき込める様なベースを作りたい
- ・どの部署であっても地域を意識した取り組みは必要であり、通常業務の中で改善を行なうこと。また、一住民としても地域で活動を行ないたいと思います
- ・現在、少年サッカーのコーチをやっているので、まず自分で考えて動ける子どもを育てたいと思います

- ・各講師の先生方の講義、特に「人・物・金・情報」の人づくり（人財育成）に力を注ぎ、地元自治体に帰りましたら、積極的に地域づくり活動に参加し、自分自身のモチベーションを上げ、地域活性化に活かしたいと思います。又、役人考えを捨て、住民視点からの経営能力を身に付けたいと思います
- ・まずは、笑顔で、人と接していきたい
- ・他市町村職員も皆それぞれの悩みを持っており、自分だけが悩んでいるわけではないと、気づかされた。悩みながら、一歩ふみ出す勇気をもって地域の再生に取り組みたい
- ・まずは、今いる自分の仕事について再度考えてみたいと思います。自分を変える事が出来れば、今ある壁も少しずつ登れる様な気がします
- ・現在の業務として関わることはないかもしれないが、地域のことに目を向けてみようとするきっかけとなった
- ・機会があれば、他の地域づくり研修も受講したい
- ・自分の町だけでなく、他の市町村の取り組みを調べてみたいと思いました
- ・学んだことを少しでも外部に出したい

[その他]

- ・実行するとフォローしてもらいたい事がでてくると思うので、今はわかりません
- ・特になし

■参考資料2. 全国地域づくり人財塾 課題解決編 受講者アンケート

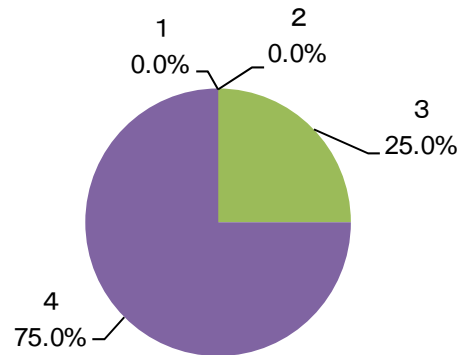
1. ケーススタディ型

①各プログラムに対する評価

【事前課題の発表】講師講評

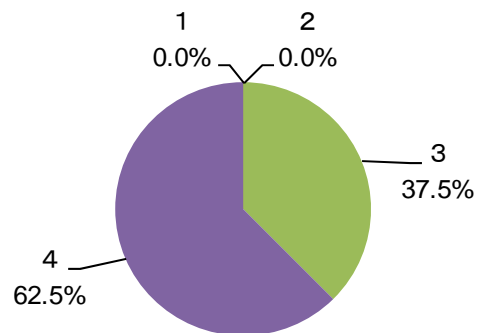
N=8

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	25.0%
	4	6	75.0%
合計		8	100.0%



N=8

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	37.5%
	4	5	62.5%
合計		8	100.0%



<感想>

[活用度 4]

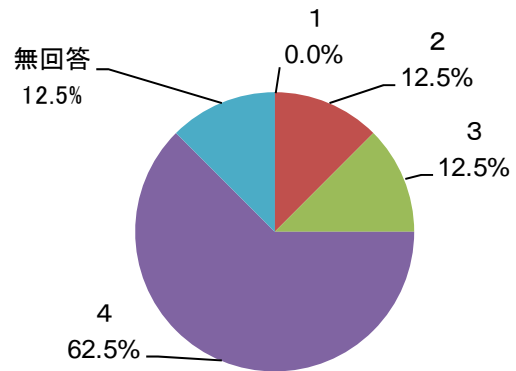
- ・成功事例等参考になることが多く、とても良かった
- ・自分（山武市）を振り返ることができた
- ・柔軟な発想で色々なご意見もいただき、とても参考になりました。ありがとうございました
- ・多世代交流の場所として、具体的な事例を教えていただいたので良かったです。自分の自治体の課題解決に参考になりました

[活用度 3]

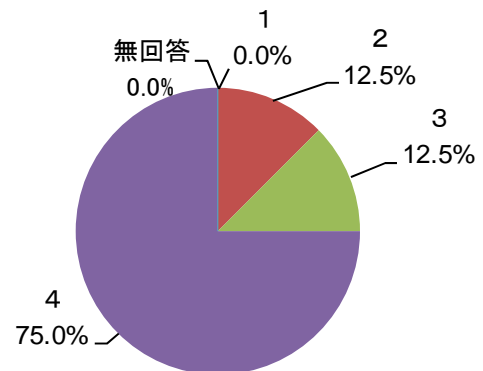
- ・それぞれの地域の取組が良く分かった
- ・今回の発表資料のまとめ方、自分の思いの整理をして感じた事、立場を考え直す。上滑らないことに留意
- ・アクターのインセンティブ

【グループトーク】

<理解度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	12.5%
	3	1	12.5%
	4	5	62.5%
	無回答	1	12.5%
合計		8	100.0%



<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	12.5%
	3	1	12.5%
	4	6	75.0%
	無回答	0	0.0%
合計		8	100.0%



<感想>

[活用度 4]

- ・様々な立場の方と、様々なアイデアを出し合うことが出来て良かった
- ・超ハード！！行政職員はこのような場を体験することが必要かも。調べるツールとして班に一台でもパソコンがあると良かったかも
- ・集中して地域の事を考える事ができ、尚かつ新しいつながりの人々と新たな発想を醸成することが出来たのがとてもよかった。すぐに提案書ができそうである
- ・民間の方とグループワークすることで、行政ではない視点から物事が見られましたし、課題解決策が普段より幅広く出てきました。自分の自治体でも民間とグループワークする必要性を感じました
- ・グループメンバーよりの意見を聞くと自分が少し見えてきた。反省しきり

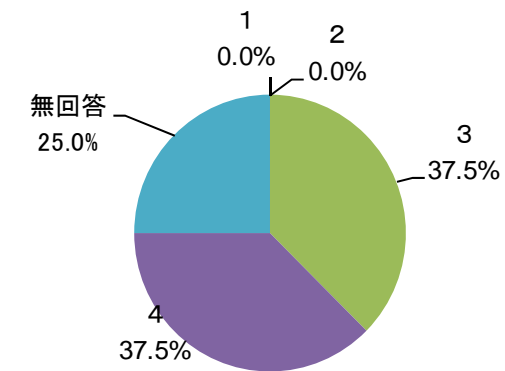
[活用度 3]

- ・具体的な組織が抱えている問題点の改善という観点だった。今の活動と直接重なる内容では無かったが、何かの機会に参考としたい

【グループ発表】

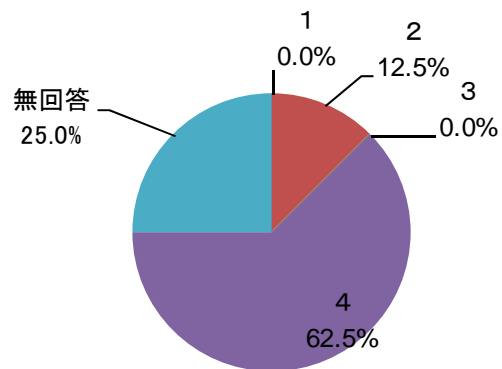
N=8

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	37.5%
	4	3	37.5%
	無回答	2	25.0%
合計		8	100.0%



N=8

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	12.5%
	3	0	0.0%
	4	5	62.5%
	無回答	2	25.0%
合計		8	100.0%



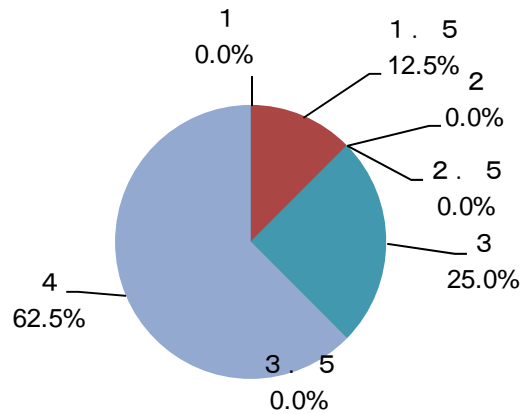
<感想>

[活用度 4]

- ・ 20分の発表時間をもっと効果的に使えれば良かった
- ・ 模造紙いいですね。発表するスキルも場数を踏むことが大事、どんどん公務員が受講できるようにしてほしい
- ・ お互いの発表と意見交換がいい意味でゆるくできたので良かったです
- ・ 発表について行政マン小田さんをお願いした。話す言葉と表現力に、自分自身の不足分が感じられた。皆の能力に感謝をしています

②本研修は現在取り組んでいるまたは取り組み予定の活動に活用できる内容でしたか？

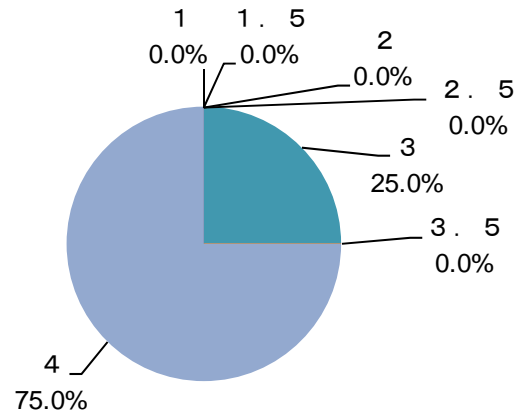
<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 活用できない	1	0	0.0%
	1.5	1	12.5%
	2	0	0.0%
	2.5	0	0.0%
活用できる ↓	3	2	25.0%
	3.5	0	0.0%
	4	5	62.5%
合計		8	100.0%



③他の地域との交流・ネットワークについてお伺いします。

●本研修に参加して、他の地域のメンバーと交流は深まりましたか？

<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 活用できな かった	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	0	0.0%
	2.5	0	0.0%
交流が 深まった	3	2	25.0%
	3.5	0	0.0%
	4	6	75.0%
合計		8	100.0%



●研修後も今回参加のメンバーと交流を深めるためのアイデアがあればお聞かせください

- ・FB、メール等での情報交換、共有を図る！！+飲み会 (in Tokyo)
- ・研修参加者専用の Facebook ページを作成し、個々の活動や取組が情報として見られるようにする
- ・FB グループになる。マスコットキャラクター大会 (交流会)
- ・SNS の活用
- ・ネットワーク化。自由な意見交換の場があればよい
- ・何か課題や抱えた時に、気軽に皆さんに相談できるようなネットワークがあると良いです
- ・是非メーリングリスト作成をして、今後の意見交換や相談関係づくりで活かしたい
- ・場づくり (振り返りの)、メーリングリスト

④研修全体についてお伺いします。

●研修の開催時期、実施機関（1泊2日）、開催場所、参加条件はどうでしたか？

- ・ 試飲開会時期以外 2泊3日
- ・ NPOさんの負担分を除外して欲しい
- ・ 駅からも近く良い場所でした
- ・ 1泊2日の必要があるのか。参加した半分以上が自発的でないのであれば、内容、時期を検討した方が良いと思います
- ・ 時期→行政職員が参加しやすいよう、議会前と会期中は避けた方が良い。条件→ハードルが高かった
- ・ 自宅に近かったのが楽な反面、他の地域にも行ってみたいとも思った。研修場所として快適だった
- ・ 時期は良かったし、期間的にも適切だと思います。場所は都内の方が良いです
- ・ 1泊2日でぎゅっと講義とグループワークが詰まっていた良かったです
- ・ 主旨は大変良かったと思いますが、時期として特に役所関係では、議会時期と重ならない工夫をお願いしたい
- ・ 特に不満等なし、今度は西日本で…

●本研修は期待に沿った内容でしたか？

- ・ はい！！
- ・ 行政の方、NPOの方、様々な方の取組や考え方を知ることができて良かった
- ・ 内容的にグループワークのファシリテートも学んでも良いかも。座学、室内のみではなく、外へ出る内容も入れた方がアイデアが出る
- ・ 想定以上にハードだったが、自分を振り返ることもできて良かった
- ・ 久しぶりに集中して考えることができて、とてもよかった。自分の考え方や、地域に対する勘どころをディスカッションの中で確認することができた
- ・ はい
- ・ 課題解決に向けて、グループワークしている中に講師の先生が入ってきてくださったので、より問題提起がされて良かったです
- ・ 思いとして沿っていました

⑤人財塾では、JUMP、JIAM等での2泊3日程度の大教室での講義中心の研修を行うとともに、当該研修の既受講者等を対象とした、今回のような課題解決型の比較的少人数の研修を実施しています。大教室での研修とは別に、既受講者等を対象とした研修を実施するとしたら、どのような内容の研修が望ましいと思いますか？

- ・現地視察、フィールドワークを組み合わせたもの
- ・小人数、小グループは集中できて良いと思う。より濃密にディスカッションでき、マルチステークホルダーでの違う角度での意見交換はとても刺激になる。創発を求める人たちはWS型で、事例を知りたい人は講義型でと、ニーズは色々だと思う。OJTなどもあっても良いかも
- ・講師の先生との個別相談が欲しい
- ・実際のとある地域の課題解決法を具体的に検討して、その地域で活かしていってもらうような研修であると、実りがあって良いかもしれません。他の自治体でも考え方は参考になると思いますし
- ・NPO 法人としては、人財教育となり、利用したい
- ・ディスカッション(事前にテーマは周知する)

⑥今回の研修についてのご感想をご自由にお書きください。

- ・参加者の方々の立場や状況、また議題等を確認できたことは、とても貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- ・仕事以外で地域の事を考える良い機会になりました。本研修で学んだことや、知ることが出来た他地域の取組を今後の業務に活かしていきたいです
- ・全国の地域づくり人財を育てるのであれば、メンバーももう少し広げ、広い地域から参加が必要だと思われれます。参加者の発表ではなく、別な方の事例や、先生の話をもう少し伺いたかったです。考え時間（ワークショップ）をタイトにし、全体のスケジュールをスマートにする
- ・ネット環境があれば良かったかも。（ラウンジでwifiできたけど、研修室には届かなかった。）内容が濃かっただけに参加者が少なくて残念でした
- ・違う立場の人たちでの濃密なディスカッションはとても楽しく、良い勉強になった。自分の振り返りもできるので、とてもためになった
- ・急に参加が決まった為、資料作り等が中途半端となった。中身は具体的な話が出来て良かったです
- ・「実際に実施出来る内容で考えて」ということで、現実的な課題解決法を考えることができました。少人数で先生や目黒さんからも意見をいただけたのが良かったです
- ・今後ともスキルを高めたいので継続的に受けたい

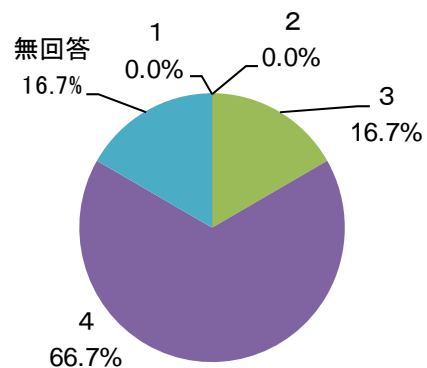
2. フィールドワーク型

①各プログラムに対する評価

【事前課題の発表】講師講評

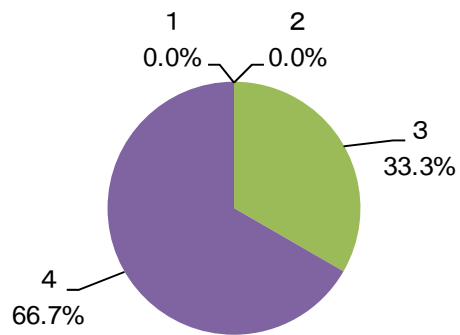
N=6

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	1	16.7%
	4	4	66.7%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



N=6

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	33.3%
	4	4	66.7%
	合計	6	100.0%



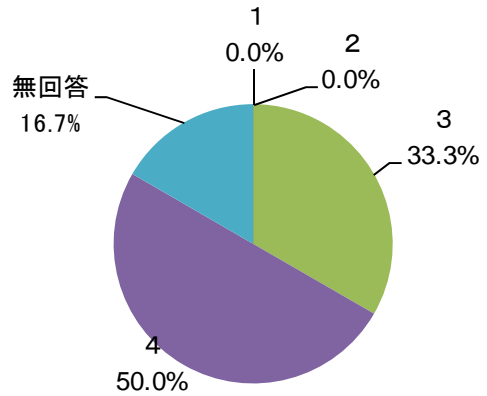
<感想>

- ・市の方や地域おこし協力隊の方の活動を聞いて刺激になりました
- ・つかみをするのに必要だったし、一人一人の個性が出て楽しかった
- ・事前課題の資料を作成する際に、市のことを調査したため、改めて自分が住んでいる市を知る良いきっかけとなった
- ・日常生活から一旦離れ、自分の Vision 確認ができて良かったです！
- ・時間配分が悪く、言うべきところに力点を置くことができなかつたことが、とにかく心残りです。他の方の発表は参考になりそうです

【フィールドワーク①】

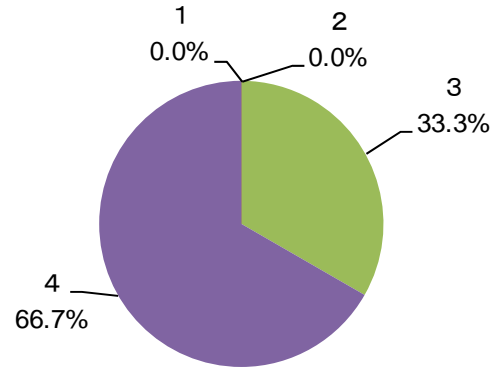
N=6

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	33.3%
	4	3	50.0%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



N=6

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	33.3%
	4	4	66.7%
	合計	6	100.0%



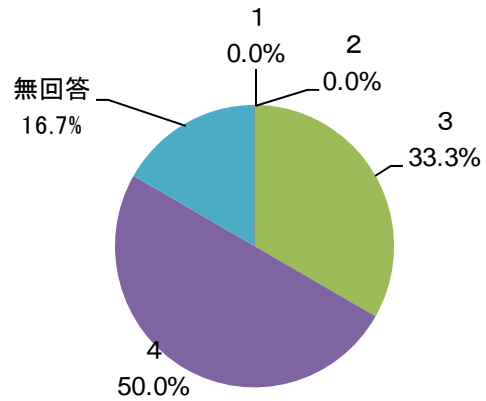
<感想>

- ・2人とも行政からの地域参加ということが聞いて大変面白かったです。料理をおいしく、地域の温かみが伝わってきました。協力者の大切さを学びました
- ・北川さんのあの人柄がキーになっているんだと感じました
- ・自分の活動と重なる部分が多かったため、大変参考になりました
- ・時間が少し短かったように思えます
- ・北川さんはまさに私にとってのロールモデル！！ありがとうございました！！
- ・情熱を行動に移し、それを何年にもわたって持続させることのすごさとパワーに驚きました

【フィールドワーク②】

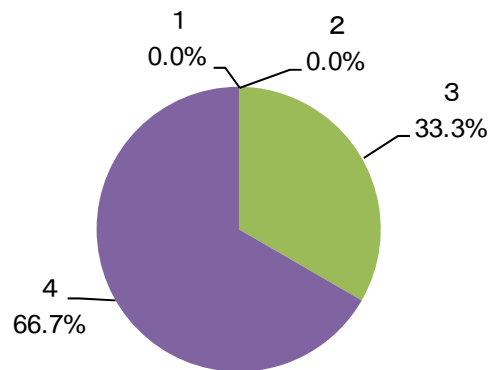
N=6

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	33.3%
	4	3	50.0%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



N=6

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	33.3%
	4	4	66.7%
	合計	6	100.0%

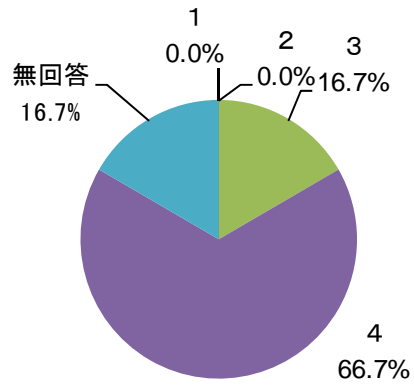


<感想>

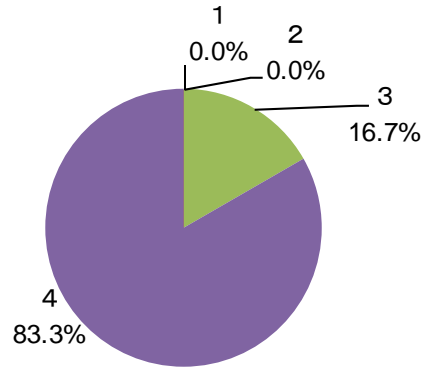
- ・発想の面白さがありました。その発想にいたるまでに、相手のことを良く理解していたんだと感じました。お互いの利になる行動を考えることは、相手を知ることが大事だと思います
- ・岸川さんの力強さを感じました
- ・ないものではなく、あるものを活用することや、交流の場、きっかけづくりの重要性を学べた
- ・相可高校の和紅茶プロジェクトは、私が木屋平地区の管理放棄茶畑活用プログラムと重なりが大きかったです！
- ・若い人のポテンシャルを引き出し、社会に送り出す、活躍できる人材を育てることは次世代の投資です。自分に何ができるか考えさせられました

【グループワーク】

		N=6	
<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	1	16.7%
	4	4	66.7%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



		N=6	
<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	1	16.7%
	4	5	83.3%
	合計	6	100.0%



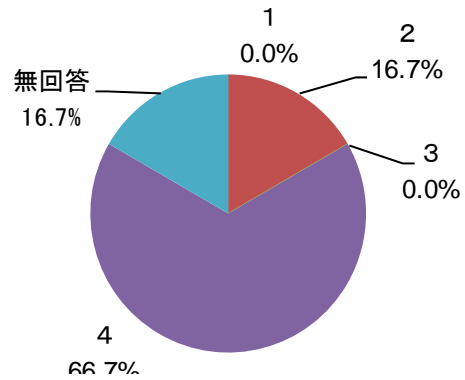
<感想>

- いろんな意見の衝突もあり大変でした。あの後、ラーメンを食べていたら、どうなったかなあとも思います。実際ラーメンを食べずロジックを組み直し、意見を言い合えたのがすごく勉強になりました
- こんなに初見の人たちでグループワークを上手にできたのは初めてです
- 短時間で集約することの難しさを改めて感じました
- 途中途方にくれかけましたが、きちんと(!?)まとまった発表になり、達成感が大きかったです。夜間までお付き合いいただきありがとうございました！
- 夜の発表準備は体力が尽きてしまい、全く役に立つことができませんでした。みなさんの邪魔になったと反省しています

【グループ発表】

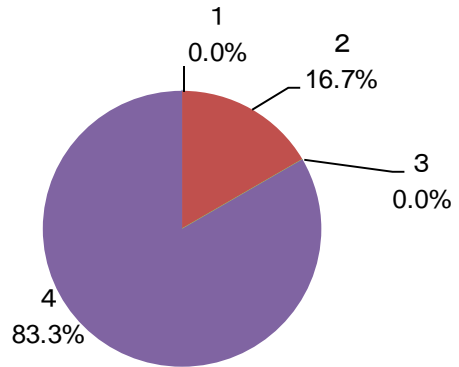
N=6

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	16.7%
	3	0	0.0%
	4	4	66.7%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



N=6

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	16.7%
	3	0	0.0%
	4	5	83.3%
	合計	6	100.0%



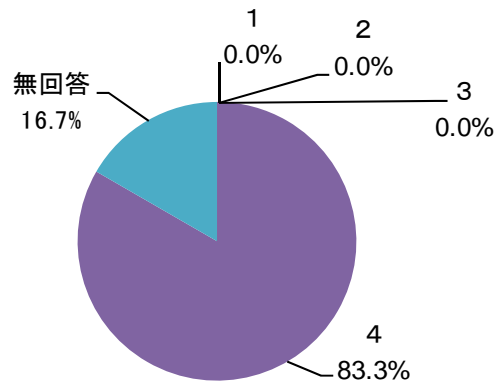
<感想>

- ・周りの人のプレゼンのうまさに惹かれました。なかなかプレゼンする機会がないので勉強になりました。ロジックの構築、プレゼンの意味を教えていただいたので実践できればと思います
- ・まだまだ反省点も多かったと思います
- ・ほっとしました！！反省点はありつつ、形にできてよかったです
- ・一人ではこの短期間にここまで作り上げることは不可能であり、チーム作業の尊さ、楽しさを改めて味わうことができました

【行動宣言】

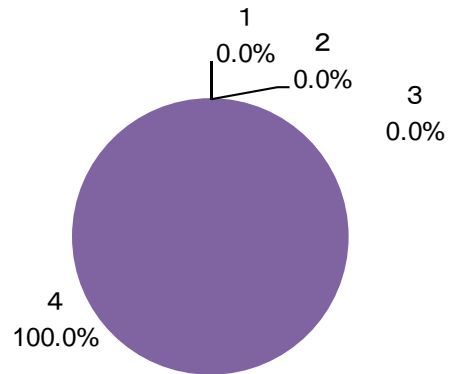
N=6

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	0	0.0%
	4	5	83.3%
	無回答	1	16.7%
合計		6	100.0%



N=6

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	0	0.0%
	4	6	100.0%
	合計	6	100.0%



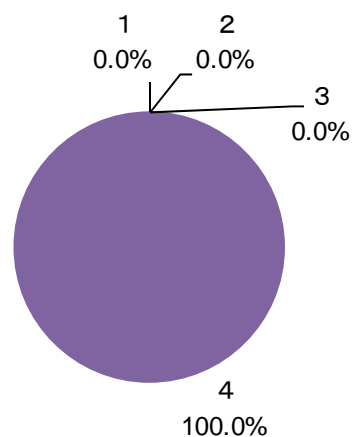
<感想>

- ・とにかく頑張ってみようと思います。役所だからどう、NPO だからどうかなく、みんな課題解決を考えており、枠組みはあまりないと感じました
- ・そうなるように頑張ります
- ・みなさんの今後の活動を聞いて刺激になりました
- ・今後ビジョンを明確にすることで、自分に何ができるか何をすべきかを考える良いきっかけとなった
- ・未来ビジョンを改めてバージョンアップさせる機会をいただきありがとうございました！！
- ・皆様の発表を聞いて、クオリティと志の高さに感激しました。私が発表した取組を実現させ、「すごい」と言って頂けるよう努力していきたいと思います

②本研修は現在取り組んでいるまたは取り組み予定の活動に活用できる内容でしたか？

N=6

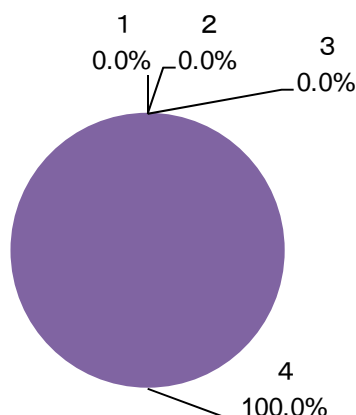
<活用度>		回答数	%
↑ 活用できない 活用できる ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	0	0.0%
	4	6	100.0%
	合計	6	100.0%



③他の地域との交流・ネットワークについてお伺いします。

●本研修に参加して、他の地域のメンバーと交流は深まりましたか？

		N=6	
<活用度>		回答数	%
↑ 活用できなかった 交流が深まった ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	0	0.0%
	4	6	100.0%
合計		6	100.0%



●研修後も今回参加のメンバーと交流を深めるためのアイデアがあればお聞かせください

- ・連絡を取り合い、後にも飲み会など交流
- ・SNS グループ立ち上げ。LINE グループなど
- ・Facebook グループを作って、みなさんの今後の活躍を聞けたらと思います。みなさんが活動している現場研修ができれば嬉しいです！
- ・1年後等に交流会や意見交換の場を設定し、意見交換を行う
- ・Facebook などにつながる
- ・SNS より実際に合える機会を作ればと思います。東京出張を合わせるとか・・・

④研修全体についてお伺いします。

●研修の開催時期、実施機関（1泊2日）、開催場所、参加条件はどうでしたか？

- ・ちょうど良かった。もう少しいたい
- ・開催時期は適切でした。参加人数が最初は少ないと感じましたが、この6人と学べて良かったと思います
- ・2回飲みに行けたことで仲間との交流が深まった気がします。ごはんがおいしくて嬉しかった。特に海なし県として魚がおいしかったのは嬉しい
- ・特に問題はないと思います
- ・充実していてよかったです！
- ・時期や期間は適切だと思います。場所は空港や主要駅から近いとありがたいです・・・

●本研修は期待に沿った内容でしたか？

- ・期待以上でした。(3名)
- ・2日目夜の研修がきつかったですが、一番役に立ちました
- ・様々な地域の課題を学べ、また成功者の方々のお話も聞ける機会がなかった為、非常に勉強になりました
- ・はい！自分の活動テーマに近く、というかどんぴしゃで、本当に感謝申し上げます！！

⑤人財塾では、JUMP、JIAM等での2泊3日程度の大教室での講義中心の研修を行うとともに、当該研修の既受講者等を対象とした、今回のような課題解決型の比較的少人数の研修を実施しています。大教室での研修とは別に、既受講者等を対象とした研修を実施するとしたら、どのような内容の研修が望ましいと思いますか？

- ・現況報告
- ・牧野さんのようにビシバシ横で言ってくれる講師の圧力を感じながら、限られた時間でアイデアを出すプレッシャーゲームのようなものが一番役に立つと思います
- ・決算書の書き方。お金の話に弱いので、お金にまつわる様々なことを教えていただきたい
- ・それぞれの実行中プログラムの課題持ち寄りと解決策探し
- ・特定課題の解決型研修だと、同じ傾向の方と深い議論ができるかもしれません

⑥今回の研修についてのご感想をご自由にお書きください。

- ・すごく自分のためになりました。自分を見つめ直すきっかけになりました
- ・こんなに濃い研修・体験ができると思いませんでした。とても役に立ったし、勇気づけられたし、やるんだという気持ちが湧いてきました
- ・とてもためになり、今後の活力になりました！ありがとうございます
- ・研修を通じて知識の習得はもちろん、仲間づくりができたのが非常に良かった
- ・おかげさまで、とても充実の3日間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました！6人で課題に取り組み、最後にはそれぞれの方の未来も想像でき、とても良い刺激を頂きました。ありがとうございました！！
- ・本当にお世話になりました！

■参考資料3 全国地域づくり人財塾修了者に対するフォローアップ調査票

地域づくり人育成講座・全国地域づくり人財塾修了生 地域づくり活動調査

※全国地域づくり人財塾(課題解決編)を受講された方は、このアンケートではなく、課題解決編受講者向けのアンケートにご回答願います。

【貴方ご自身についてお伺いします】

問1 最初に貴方ご自身のことについてお伺いします。下記欄にご記入ください。

お名前		年齢		性別	
自治体名					
現在のご所属 (受講時のご所属)	()	現在のお役職 (受講時のお役職)	()		
E-mail					

(注) NPO 等の方は、「ご所属」の欄に団体名をご記入下さい。

問2 地域づくり人育成講座または全国地域づくり人財塾(以下、「人財塾等」という。)を受講した理由についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 人事担当部署からの要請・命令	5. 人財塾等の修了生からの紹介
2. 当時の上長からの要請・命令	6. 従前から受講してみたいと思っていた
3. 庁内の地域づくり関係者からの紹介	7. 特になし
4. 地域づくり団体やNPOからの紹介	8. その他(具体的に)

問3 人財塾等の受講により、貴方の意識はどのように変化しましたか。下記の項目それぞれについて、5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	変 わ っ た と て も	変 わ っ た	ど ち ら と も い え な い	変 わ ら な い あ ま り	変 わ ら な い
1. 地域の見方・考え方	5	4	3	2	1
2. やる気、元気	5	4	3	2	1
3. 活動の企画、行動のヒント・アイデアの捉え方	5	4	3	2	1
4. 改めて地域のことを学ぶ気持ち	5	4	3	2	1
5. 地域の人とのコミュニケーションに対する意識・認識	5	4	3	2	1
6. 人的ネットワークの大切さに対する意識・認識	5	4	3	2	1

問4 人財塾等の受講により、貴方の行動はどのように変化しましたか。下記の項目それぞれについて、5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	該当している とても	該当している	どちらとも いえない	あまり該当 していない	該当してい ない
1. 新たな「地域活動」を色々と計画している	5	4	3	2	1
2. 新たな「地域活動」を色々と始めた	5	4	3	2	1
3. 休止していた活動を次々に再開した	5	4	3	2	1
4. 従来から行っている「地域活動」方法の見直し等を行った	5	4	3	2	1
5. 人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている	5	4	3	2	1
6. 「地域活動」に関する勉強会に度々参加している	5	4	3	2	1
7. 「行動宣言」を実践している	5	4	3	2	1
8. 自分の知見やネットワークを後任者に引き継いだ	5	4	3	2	1

(注)「地域活動」...ここでいう「地域活動」とは、産品開発やまちづくりなど地域の活性化に係る直接的な活動のほか、子ども会や自治会活動の手伝い、バザーや募金への協力など間接的・個人レベルの活動も含まれます(ただし、自身が趣味を楽しむ活動は除く)
(以下、同様)

(注)「行動宣言」...研修最後の振り返りで発表もしくは整理した、自分が現場で取り組むべき具体的な行動

問5 どのような仕組みが人財塾等にあると、受講意欲が高まると思いますか。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 修了証発行の事前周知	5. 修了生からの受講の呼びかけ
2. 修了生ネットワーク(総務省SNS等)の周知	6. 多彩な自治体職員の活動紹介
3. ステップアップ研修(課題解決編)の周知	7. その他(具体的に
4. 自主勉強会(フォローアップ研修)の周知)

【現在の「地域活動」についてお伺いします】

問6 貴方が、現在、業務として行っている「地域活動」についてお伺いします。取り組まれている活動の概要についてご記入ください。現在、担当が無い場合は、事業の名称等の欄に「なし」とご記入ください。また、活動が複数ある場合は、9ページの様式をご使用ください。

事業の名称等		(例) 地域支え合いの仕組みづくり事業	
活動の分野(最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援 7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他(具体的に)	
事業主体の属性(いずれか一つに○)		1. 行政 2. NPO法人 3. 大学 4. 高等学校 5. 住民グループ 6. 地域企業 7. その他(具体的に)	
連携団体の属性(該当するもの全てに○)		1. NPO法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他(具体的に)	
活動概要 (活動期間を含む) ・右記記載例のように、活動概要と経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。		(記載例) ●NPO法人と大学との連携により、地域力・市民力向上のための研修及び実践事業を平成◆年度からスタートさせた。 ●初年度はワークショップやまち探検、座学により地域づくり手法の学習と地域課題の把握を行う。研修は月1回、休日午後に行う。 ●2ヶ年度は、前年度に明らかにした地域課題等を解決する地域協働の組織と活動を検討するとともに、実際に組織を立ち上げ、地域課題を解決する具体の事業を開始した。 ●3ヶ年度も引き続き住民協働事業の活動を行いつつ、地域の要望を踏まえて地域や組織の枠を超えた交流会をスタートさせた。 ●4ヶ年度に、人事異動のため業務外となったが、住民同士の交流会に参加しながら引き続き「地域活動」に従事している。	
地域活動の規模	活動の範囲(最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 2. 都道府県エリア 3. 市町村をまたぐエリア 4. 市町村エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 7. 集落エリア	
	関係者の規模(スタッフ数等)	人 団体	参加者の規模(集客・参加者等) 人 団体
	その他の実績 ・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc	

問7 貴方が現在、業務外で行っている「地域活動」についてお伺いします。その活動をご紹介します。その活動をグループ活動、個人活動の別は問いませんので幅広くご記入ください。記載できる活動が無い場合は、「地域活動」の名称の欄に「なし」と記入し、問9にお進みください。また、活動が複数ある場合は、10ページの様式をご使用ください。

「地域活動」の名称		(例) 募金活動、子ども会の手伝い、祭の運営、特産品の開発など	
実施主体の名称			
活動期間		年	ヶ月
活動主体の属性(いずれか一つに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. 個人 7. その他(具体的に)	
活動の分野(最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 7. 社会教育、生涯教育 2. 地場産品発掘・ブランド化 8. まちなか再生、集落再生 3. 起業、産業振興 9. 環境保全 4. 移住、定住促進 10. 安心安全なまちづくり 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 11. その他(具体的に) 6. 高齢者福祉、生活支援	
活動主体における貴方の役割(いずれか一つに○)		1. 地域の様々な主体が行う「地域活動」に対する相談などサポート役として参画 2. 当該活動の一参加者として参画 3. 活動主体の一員として参画 4. 活動主体の中心メンバーとして企画運営 5. 自ら活動主体を立ち上げて実践 6. その他(具体的に)	
連携して活動している団体名			
連携団体の属性(該当するもの全てに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他(具体的に)	
活動の内容と経緯		(例) ●知人に誘われ地元農産物を活用した産品開発とその販売イベントの開催を実施。 ●平成N年度からNPO法人の設立に向けて活動。平成■年度に設立。 ●活動3年目の平成■年度から、商工会議所や地域の自治会などとの連携をスタート。	
・例のように、活動内容と活動のきっかけ、これまでの経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。			
地域活動の規模	活動の範囲(最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 2. 都道府県エリア 3. 市町村をまたぐエリア 4. 市町村エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 7. 集落エリア	
	関係者の規模(スタッフ等の数)	人 団体	参加者の規模(集客・参加者等) 人 団体
	その他の実績	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc	
・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。			

問8 貴方の活動を人財塾等で報告（または発表）していただくことは可能ですか。（○は一つ）

- | | |
|---|------------|
| 1. 発表したい | 3. 発表したくない |
| 2. いずれ発表したい（発表できる時期：_____年度以降） ←数字を記入してください | |

問9 これから実施しようと計画している活動があればご記入ください。

--

問10 問7のシートにご記入できなかった方にお伺いします。その理由を、下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. モチベーションが続かなかった | 5. 親の介護等の家庭の事情で活動時間がない |
| 2. 体力的にきつくなった | 6. 子どもの卒業等で参加理由が無くなった |
| 3. 身近に共感する活動がない | 7. 特に理由なし |
| 4. 業務が多忙なため | 8. その他（具体的に_____） |

➡ 問15にお進みください。

【現在行っている「地域活動」の課題等についてお伺いします】

問11 貴方が現在、行っている「地域活動」で感じているご自身の問題意識・課題についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 「地域活動」の理論や哲学が脆弱 | 5. 6次産業化や福祉等の専門情報の入手先が不明 |
| 2. 計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足 | 6. 相談相手やサポート体制がない |
| 3. 熱意や意欲の低下 | 7. 一緒に活動してくれる人がいない |
| 4. 行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足 | 8. その他（具体的に：_____） |

問11-2 貴方が現在感じているご自身の問題点・課題を具体的にご記入ください。

--

問12 問11、問11-2でお答えになられた問題意識や課題の解消の方法についてお伺いします。

下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 参考文献を読むなどの独学	5. 人的ネットワークを使った応援依頼
2. 先輩や地元関係者への相談	6. アドバイザー等専門家の招聘
3. 自主勉強会の開催	7. 研修会への参加 (■セミナー、●塾など)
4. 人財塾講師の招聘	8. その他 (具体的に:)

問12-2 問12で「7. 研修会への参加」とお答えの方にお伺いします。受講された研修の名称、学習内容について具体的にご記入ください。

【名称】
【学習内容】

問13 「地域活動」を続けていくモチベーション維持の方法についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 小さな目標を幾つも立てている	5. 他地域の修了生と積極的に交流、情報交換している
2. 自分に対して活動の動機づけをしている	6. 市内に人財塾等の修了生を増やしている
3. 積極的に地域住民との接点を持っている	7. その他 (具体的に:)
4. 自主勉強会や研修会に参加している	

問14 貴方ご自身、あるいは、地域の「地域活動」に対するモチベーション維持に向け、人財塾等の場の活用についてお伺いします。下記の項目それぞれについて、5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	役に立つと思 う	役に立つと思 う	どちらとも いえない	役に立つと思 わな い	役に立つと思 わない
1. 人財塾の場で自らの活動を発表すること	5	4	3	2	1
2. 近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること	5	4	3	2	1
3. 総務省 SNS やホームページ、人財塾教材等で自らの活動が紹介されること	5	4	3	2	1
4. 人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらうこと	5	4	3	2	1
5. 人財塾 (フィールドワーク型) の訪問地として自らの活動地が選ばれること	5	4	3	2	1
6. 総務省 SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること	5	4	3	2	1
7. メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること	5	4	3	2	1

【貴方が今後、受講したいと考える研修についてお伺いします】

問15 全ての方にお伺いします。貴方が今後受講したいと考える研修内容についてお伺いします。下記の項目それぞれについて、5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	あまり 思わない	思わない
1. 地域住民のモチベーションの上げ方や合意形成手法など住民協働に関する知識や技法を学ぶ研修	5	4	3	2	1
2. 事業計画づくりや効果測定などマネジメントに関する知識や技法を学ぶ研修	5	4	3	2	1
3. 地域コーディネートに関する知識や技法を学ぶ研修	5	4	3	2	1
4. それぞれの「地域活動」の課題を取り上げ、その解決法を探求する研修	5	4	3	2	1
5. 先進的な事例のケーススタディからハウツーを学ぶ研修	5	4	3	2	1

問16 貴方が今後受講したいと考える研修のスタイルについてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)。

1. 講義を中心とした研修	5. 人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修
2. 講師との対話やディスカッションを中心とした研修	6. 講師から個別指導が受けられる研修
3. ワークショップや演習を中心とした研修	7. その他(具体的に:)
4. フィールドワークを中心とした研修	

問16-2 問16で「5. 人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」とお答えの方にお伺いします。どのようなスタイルが良いですか。下記の項目それぞれについて5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	あまり 思わない	思わない
1. 同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会	5	4	3	2	1
2. 近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会	5	4	3	2	1
3. SNSを通じた修了生有志等による勉強会	5	4	3	2	1
4. 人財塾等の講師がいる勉強会	5	4	3	2	1
5. 参加者が互いの活動報告をして相互に学び合う勉強会	5	4	3	2	1
6. 新たな「地域活動」を立ち上げることを目的とした勉強会	5	4	3	2	1

問17 貴方が人財塾等の受講後に、さらに受講したいと考える研修や人財塾に求めるサポート等についてご自由にご記入ください。

【アンケートは以上です。ありがとうございました。】

<<問6用回答用紙>> 問6に記載する活動が複数ある場合は、このページの様式をご使用ください。

事業の名称等		(例) 地域支え合いの仕組みづくり事業			
活動の分野 (最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援		7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他(具体的に)	
事業主体の属性(いずれか一つに○)		1. 行政 2. NPO法人 3. 大学 4. 高等学校 5. 住民グループ 6. 地域企業 7. その他(具体的に)			
連携団体の属性(該当するもの全てに○)		1. NPO法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他(具体的に)			
活動概要 (活動期間を含む) ・右記記載例のように、活動概要と経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。		(記載例) ●NPO法人と大学との連携により、地域力・市民力向上のための研修及び実践事業を平成◆年度からスタートさせた。 ●初年度はワークショップやまち探検、座学により地域づくり手法の学習と地域課題の把握を行う。研修は月1回、休日午後に行う。 ●2ヶ年度は、前年度に明らかにした地域課題等を解決する地域協働の組織と活動を検討するとともに、実際に組織を立ち上げ、地域課題を解決する具体の事業を開始した。 ●3ヶ年度も引き続き住民協働事業の活動を行いつつ、地域の要望を踏まえて地域や組織の枠を超えた交流会をスタートさせた。 ●4ヶ年度に、人事異動のため業務外となったが、住民同士の交流会に参加しながら引き続き「地域活動」に従事している。			
地域活動の規模	活動の範囲 (最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 4. 市町村エリア 7. 集落エリア		2. 都道府県エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 3. 市町村をまたぐエリア	
	関係者の規模 (スタッフ数等)	人 団体		参加者の規模 (集客・参加者等) 人 団体	
	その他の実績 ・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc			

<<問7用回答用紙>> 問7に記載する活動が複数ある場合は、このページの様式をご使用ください。

「地域活動」の名称		(例) 募金活動、子ども会の手伝い、祭の運営、特産品の開発など		
実施主体の名称				
活動期間		年 月 日		
活動主体の属性 (いずれか一つに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. 個人 7. その他 (具体的に)		
活動の分野 (最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援 7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他 (具体的に)		
活動主体における貴方の役割 (いずれか一つに○)		1. 地域の様々な主体が行う「地域活動」に対する相談などサポート役として参画 2. 当該活動の一参加者として参画 3. 活動主体の一員として参画 4. 活動主体の中心メンバーとして企画運営 5. 自ら活動主体を立ち上げて実践 6. その他 (具体的に)		
連携して活動している団体名				
連携団体の属性 (該当するもの全てに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他 (具体的に)		
活動の内容と経緯 ・例のように、活動内容と活動のきっかけ、これまでの経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。		(例) ●知人に誘われ地元農産物を活用した産品開発とその販売イベントの開催を実施。 ●平成N年度からNPO法人の設立に向けて活動。平成■年度に設立。 ●活動3年目の平成■年度から、商工会議所や地域の自治会などとの連携をスタート。		
地域活動の規模	活動の範囲 (最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 2. 都道府県エリア 3. 市町村をまたぐエリア 4. 市町村エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 7. 集落エリア		
	関係者の規模 (スタッフ等数)	人 団体	参加者の規模 (集客・参加者等)	人 団体
	その他の実績 ・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc		

全国地域づくり人財塾（課題解決編）修了生 地域づくり活動調査

【貴方ご自身についてお伺いします】

問1 最初に貴方ご自身のことについてお伺いします。下記欄にご記入ください。

お名前		年齢		性別	
自治体名					
現在のご所属 (受講時のご所属)	()	現在のお役職 (受講時のお役職)	()		
E-mail					

(注) NPO 等の方は、「ご所属」の欄に団体名をご記入下さい。

問2 「全国地域づくり人財塾（課題解決編）」を受講したきっかけについてお伺いします。下記の選択肢から最も該当するもの一つに○をつけてください。(○は一つ)

1. 人事担当部署からの要請・命令	6. 人財塾等の修了生からの紹介・後押し
2. 当時の上長からの要請・命令	7. 従前から受講してみたいと思っていた
3. 庁内の地域づくり関係者からの紹介	8. 特になし
4. 地域づくり団体やNPOからの紹介	9. その他（具体的に
5. 募集要項（MLを含む）を見て)

問3 貴方にとっての「全国地域づくり人財塾（課題解決編）」の効果についてお伺いします。下記の項目それぞれについて5段階（5：とても変わった、4：変わった、3：どちらともいえない、2：あまり変わらない、1：変わらない）でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

1. モチベーションの向上	5	4	3	2	1
2. プレゼンテーション力の向上	5	4	3	2	1
3. 課題発見力の向上	5	4	3	2	1
4. 仮説形成力の向上	5	4	3	2	1
5. 討論力の向上	5	4	3	2	1
6. 論理化力の向上	5	4	3	2	1
7. 観察力の向上	5	4	3	2	1
8. 分析力の向上	5	4	3	2	1
9. 企画立案力の向上	5	4	3	2	1
10. 講師とのつながりができた	5	4	3	2	1
11. 仲間づくりができた	5	4	3	2	1

【現在の「地域活動」についてお伺いします】

問4 貴方が、現在、業務として行っている「地域活動」についてお伺いします。取り組まれている活動の概要についてご記入ください。現在、担当が無い場合は、事業の名称等の欄に「なし」とご記入ください。また、活動が複数ある場合は、7ページの様式をご使用ください。

(注)「地域活動」...ここでいう「地域活動」とは、産品開発やまちづくりなど地域の活性化に係る直接的な活動のほか、子ども会や自治会活動の手伝い、バザーや募金への協力など間接的・個人レベルの活動も含まれます(ただし、自身が趣味を楽しむ活動は除く)
(以下、同様)

事業の名称等		(例) 地域支え合いの仕組みづくり事業	
活動の分野(最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援	7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他(具体的に)
事業主体の属性(いずれか一つに○)		1. 行政 2. NPO法人 3. 大学 4. 高等学校 5. 住民グループ 6. 地域企業 7. その他(具体的に)	
連携団体の属性(該当するもの全てに○)		1. NPO法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他(具体的に)	
活動概要 (活動期間を含む) ・右記記載例のように、活動概要と経緯がわかるよう簡条書でご記入ください。		(記載例) ●NPO 法人と大学との連携により、地域力・市民力向上のための研修及び実践事業を平成◆年度からスタートさせた。 ●初年度はワークショップやまち探検、座学により地域づくり手法の学習と地域課題の把握を行う。研修は月1回、休日午後に行う。 ●2ヶ年度は、前年度に明らかにした地域課題等を解決する地域協働の組織と活動を検討するとともに、実際に組織を立ち上げ、地域課題を解決する具体の事業を開始した。 ●3ヶ年度も引き続き住民協働事業の活動を行いつつ、地域の要望を踏まえて地域や組織の枠を超えた交流会をスタートさせた。 ●4ヶ年度に、人事異動のため業務外となったが、住民同士の交流会に参加しながら引き続き「地域活動」に従事している。	
地域活動の規模	活動の範囲(最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 4. 市町村エリア 7. 集落エリア	2. 都道府県エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア
	関係者の規模(スタッフ数等)	人 団体	参加者の規模(集客・参加者等) 人 団体
	その他の実績 ・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積...etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数...etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数...etc	

問5 貴方が現在、業務外で行っている「地域活動」についてお伺いします。その活動をご紹介します。グループ活動、個人活動は問いません。幅広にご記入ください。記載できる活動が無い場合は、「地域活動」の名称の欄に「なし」と記入し、問7にお進みください。また、活動が複数ある場合は、8ページの様式をご使用ください。

「地域活動」の名称		(例) 募金活動、子ども会の手伝い、祭の運営、特産品の開発など	
実施主体の名称			
活動期間		年 月 日	
活動主体の属性 (いずれか一つに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. 個人 7. その他 (具体的に)	
活動の分野 (最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援 7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他 (具体的に)	
活動主体における貴方の役割 (いずれか一つに○)		1. 地域の様々な主体が行う「地域活動」に対する相談などサポート役として参画 2. 当該活動の一参加者として参画 3. 活動主体の一員として参画 4. 活動主体の中心メンバーとして企画運営 5. 自ら活動主体を立ち上げて実践 6. その他 (具体的に)	
連携して活動している団体名			
連携団体の属性 (該当するもの全てに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他 (具体的に)	
活動の内容と経緯		(例) ●知人に誘われ地元農産物を活用した産品開発とその販売イベントの開催を実施。 ●平成N年度からNPO法人の設立に向けて活動。平成■年度に設立。 ●活動3年目の平成■年度から、商工会議所や地域の自治会などとの連携をスタート。	
・例のように、活動内容と活動のきっかけ、これまでの経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。			
地域活動の規模	活動の範囲 (最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 2. 都道府県エリア 3. 市町村をまたぐエリア 4. 市町村エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 7. 集落エリア	
	関係者の規模 (スタッフ等数)	人 団体	参加者の規模 (集客・参加者等) 人 団体
	その他の実績	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc	
・右記記載のように、定量的な指標でご記入ください。			

問6 貴方の活動を人財塾等で報告（または発表）していただくことは可能ですか。

- | | |
|--|------------|
| 1. 是非発表したい | 3. 発表したくない |
| 2. できれば発表したい（発表できる時期：_____年度以降） ←数字を記入してください | |

問7 これから活動しようと計画している活動があればご記入ください。

【貴方が、「地域活動」を行うにあたり、現在感じている問題点・課題についてお伺いします】

問8 貴方が現在、行っている「地域活動」で感じているご自身の問題点・課題についてお伺いします。下記の項目それぞれについて5段階（5：とてもそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：あまり思わない、1：思わない）でお答えください。

1. 「地域活動」の理論や哲学が脆弱	5	4	3	2	1
2. 計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足	5	4	3	2	1
3. 熱意や意欲の低下	5	4	3	2	1
4. 行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足	5	4	3	2	1
5. 「地域活動」に関する情報の入手先がない	5	4	3	2	1
6. 相談相手やサポート体制がない	5	4	3	2	1
7. 一緒に活動してくれる人がいない	5	4	3	2	1

問8-2 貴方が現在感じているご自身の問題点・課題を具体的にご記入ください。

問9 問8、問8-2でお答えになられた問題意識や課題の解消の方法についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 参考文献を読むなどの独学 | 5. 人的ネットワークを使った応援依頼 |
| 2. 先輩や地元関係者への相談 | 6. アドバイザー等専門家の招聘 |
| 3. 自主勉強会の開催 | 7. 研修会への参加（■セミナー、●塾など） |
| 4. 人財塾講師の招聘 | 8. その他（具体的に：_____） |

問9-2 問9で「7. 研修会への参加」とお答えの方にお伺いします。受講された研修の名称、学習内容について具体的にご記入ください。

<p>【名称】</p> <p>【学習内容】</p>

問10 「地域活動」を続けていくモチベーション維持の方法についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 小さな目標を幾つも立てている	5. 他地域の修了生と積極的に交流、情報交換している
2. 自分に対して活動の動機づけをしている	6. 庁内に人財塾等の修了生を増やしている
3. 積極的に地域住民との接点を持っている	7. その他(具体的に:)
4. 勉強会に参加している(他団体開催分も含む)	

問10-2 貴方ご自身、あるいは、地域の「地域活動」に対するモチベーション維持に向け、人財塾等の場の活用についてお伺いします。下記の項目それぞれについて、5段階(5:とても役立つと思う、4:役立つと思う、3:どちらともいえない、2:あまり役立つとは思わない、1:役立つとは思わない)でお答えください。

1. 人財塾の場で自らの活動を発表すること	5	4	3	2	1
2. 近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること	5	4	3	2	1
3. 総務省 SNS やホームページ、人財塾教材等で自らの活動が紹介されること	5	4	3	2	1
4. 人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらうこと	5	4	3	2	1
5. 人財塾(フィールドワーク型)の訪問地として自らの活動地が選ばれること	5	4	3	2	1
6. 総務省 SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること	5	4	3	2	1
7. メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること	5	4	3	2	1

【貴方が今後、受講したいと考える研修についてお伺いします】

問 1 1 貴方が今後受講したいと考える研修の内容・スタイルについてお伺いします。下記の項目それぞれについて、5段階（5：とてもそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：あまり思わない、1：思わない）でお答えください。

1. 個人が設定した課題の実践や検証に関する論文を作成する研修	5	4	3	2	1
2. 個人が設定した課題の実践に対して講師による具体的な助言・指導を受けられる研修	5	4	3	2	1
3. 実際にプロジェクトを企画し、実践する実証実験的な研修	5	4	3	2	1
4. 類似の課題をもつ全国地域づくり人財塾の修了生が集まり、互いに教え合う勉強会的な研修	5	4	3	2	1
5. 地元の多様な主体をつなぐコーディネーターとなるために、コーディネート能力を身につけ、実践する研修	5	4	3	2	1

問 1 1 - 2 貴方が今後受講したいと考える研修や人財塾に求めるサポート等についてご自由にご記入ください。

<<問4用回答用紙>> 問4に記載する活動が複数ある場合は、このページの様式をご使用ください。

事業の名称等		(例) 地域支え合いの仕組みづくり事業			
活動の分野(最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 2. 地場産品発掘・ブランド化 3. 起業、産業振興 4. 移住、定住促進 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 6. 高齢者福祉、生活支援		7. 社会教育、生涯教育 8. まちなか再生、集落再生 9. 環境保全 10. 安心安全なまちづくり 11. その他(具体的に)	
事業主体の属性(いずれか一つに○)		1. 行政 2. NPO法人 3. 大学 4. 高等学校 5. 住民グループ 6. 地域企業 7. その他(具体的に)			
連携団体の属性(該当するもの全てに○)		1. NPO法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他(具体的に)			
活動概要 (活動期間を含む) ・右記記載例のように、活動概要と経緯がわかるよう簡条書でご記入ください。		(記載例) ●NPO 法人と大学との連携により、地域力・市民力向上のための研修及び実践事業を平成◆年度からスタートさせた。 ●初年度はワークショップやまち探検、座学により地域づくり手法の学習と地域課題の把握を行う。研修は月1回、休日午後に行う。 ●2ヶ年度は、前年度に明らかにした地域課題等を解決する地域協働の組織と活動を検討するとともに、実際に組織を立ち上げ、地域課題を解決する具体の事業を開始した。 ●3ヶ年度も引き続き住民協働事業の活動を行いつつ、地域の要望を踏まえて地域や組織の枠を超えた交流会をスタートさせた。 ●4ヶ年度に、人事異動のため業務外となったが、住民同士の交流会に参加しながら引き続き「地域活動」に従事している。			
地域活動の規模	活動の範囲(最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 4. 市町村エリア 7. 集落エリア		2. 都道府県エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 3. 市町村をまたぐエリア	
	関係者の規模(スタッフ数等)	人 団体	参加者の規模(集客・参加者等)	人 団体	
	その他の実績 ・右記記載例のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc			

<<問5用回答用紙>> 問5に記載する活動が複数ある場合は、このページの様式をご使用ください。

「地域活動」の名称		(例) 募金活動、子ども会の手伝い、祭の運営、特産品の開発など			
実施主体の名称					
活動期間		年		ヶ月	
活動主体の属性 (いずれか一つに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. 個人 7. その他 (具体的に)			
活動の分野 (最も該当するもの一つに○)		1. 地域経営、協働、自治 7. 社会教育、生涯教育 2. 地場産品発掘・ブランド化 8. まちなか再生、集落再生 3. 起業、産業振興 9. 環境保全 4. 移住、定住促進 10. 安心安全なまちづくり 5. 少子化対策、育児支援、子ども福祉 11. その他 (具体的に) 6. 高齢者福祉、生活支援			
活動主体における貴方の役割 (いずれか一つに○)		1. 地域の様々な主体が行う「地域活動」に対する相談などサポート役として参画 2. 当該活動の一参加者として参画 3. 活動主体の一員として参画 4. 活動主体の中心メンバーとして企画運営 5. 自ら活動主体を立ち上げて実践 6. その他 (具体的に)			
連携して活動している団体名					
連携団体の属性 (該当するもの全てに○)		1. NPO 法人 2. 大学 3. 高等学校 4. 住民グループ 5. 地域企業 6. その他 (具体的に)			
活動の内容と経緯 ・例のように、活動内容と活動のきっかけ、これまでの経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。		(例) ●知人に誘われ地元農産物を活用した産品開発とその販売イベントの開催を実施。 ●平成N年度から NPO 法人の設立に向けて活動。平成■年度に設立。 ●活動3年目の平成■年度から、商工会議所や地域の自治会などとの連携をスタート。			
地域活動の規模	活動の範囲 (最も該当するもの一つに○)	1. 都道府県をまたぐエリア 2. 都道府県エリア 3. 市町村をまたぐエリア 4. 市町村エリア 5. 中学校区エリア 6. 小学校区エリア 7. 集落エリア			
	関係者の規模 (スタッフ等数)	人 団体	参加者の規模 (集客・参加者等)	人 団体	
	その他の実績 ・右記記載のように、定量的な指標でご記入ください。	(記載例) ●実施: イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者(来場者)数、整備面積…etc ●協力: ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響: 問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc			

■参考資料4 地方創生関係資料（地方創生人材プラン・新型交付金ほか）

～まち・ひと・しごと創生本部HPより～

「まち・ひと・しごと創生総合戦略2015(改訂版)」全体像

1. 地方創生をめぐる現状認識 <直近の状況を踏まえ記述>

- ◎人口減少の現状 ⇒ 人口の減少幅は年々拡大。平成26年の合計特殊出生率1.42となり、9年ぶり低下。年間出生数も過去最低の100万3,539人。
- ◎東京一極集中の傾向 ⇒ 東京圏へ約11万人の転入増加(前年比約1万3千人増)、東京一極集中傾向が加速化。
- ◎地域経済の現状 ⇒ 有効求人倍率や賃金、就業者数など雇用面で改善も、消費の回復が大都市圏で先行するなど地域間でばらつき。地方を中心に人手不足が顕在化。

2. 人口減少と地域経済縮小の克服

- ①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現、③地域の特性に即して地域課題を解決の基本的視点から課題に対して一体的に取り組む。

3. まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

4. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定と改訂

「戦略策定」から「事業推進」の段階へ/一億総活躍社会の実現とTPPを踏まえた対応/「総合戦略」改訂と広報周知

政策の企画・実行に当たっての基本方針

1. 従来の政策の検証

「縦割り」「全国一律」「バラマキ」「表面的」「短期的」課題について、対処が必要。

2. 創生に向けた政策5原則

自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視の政策原則に基づく。

3. 国と地方の取組体制とPDCA整備

データに基づく総合戦略、各連携(産官学労労言、政策間、地域間)の推進

今後の政策の方向

1. 政策の基本目標

◎4つの「基本目標」

【基本目標①】

地方における安定した雇用を創出する

【基本目標②】

地方への新しいひとの流れをつくる

【基本目標③】

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【基本目標④】

時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

◎「地方創生の深化」を目指す

・ローカル・アベノミクスの実現

「稼ぐ力」「地域の総合力」「民の知見」を引き出す

◎新たな「枠組み」「担い手」「圏域」づくり

◎「地方創生版・三本の矢」

地方創生の深化に向けた施策の推進（政策パッケージ）

1. 地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする

(ア)生産性の高い、活力に溢れた地域経済実現に向けた総合的取組

- ・地域の技の国際化(ローカルイノベーション)、地域の魅力のブランド化(ローカルブランディング)、地域のしごとの高度化(ローカルサービスの生産性向上)
- ・地域企業の経営体制の改善・人材確保等、地域全体のマネジメント力の向上
- ・ICT等の利活用による地域の活性化、地域の総力を挙げた地域経済好循環拡大に向けた取組、総合的な支援体制の改善

(イ)観光業を強化する地域における連携体制の構築

(ウ)農林水産業の成長産業化

(エ)地方への人材還流、地方での人材育成、地方の雇用対策

2. 地方への新しいひとの流れをつくる

(ア)政府関係機関の地方移転

(イ)企業の地方拠点強化、企業等における地方採用・就労の拡大

(ウ)地方移住の推進

(エ)地方大学等の活性化

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(ア)少子化対策における「地域アプローチ」の推進

(イ)若い世代の経済的安定

(ウ)出産・子育て支援

(エ)地域の実情に即した「働き方改革」の推進(仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現等)

4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

(ア)まちづくり・地域連携

・まちづくりにおける地域連携の推進

・都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成に当たっての政策間連携の推進

・ひとの流れと活気を生み出す地域空間の形成

・まちづくりにおける官民連携の推進

・人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化

(イ)「小さな拠点」の形成(集落生活圏の維持)

(ウ)東京圏をはじめとした大都市圏の医療・介護問題・少子化問題への対応

(エ)住民が地域防災の担い手となる環境の確保

(オ)ふるさとづくりの推進

情報支援の矢

◎地域経済分析システム（RESAS）開発、日本版DMOへの情報支援

◎RESASの普及促進

人的支援の矢

◎地方創生リーダーの育成・普及

◎地方創生コンシェルジュ

◎地方創生人材支援制度

財政支援の矢

◎地方創生の深化のための交付金

◎地方創生関連補助金等の見直し

◎地方財政措置

◎税制

「地方創生版 三本の矢」

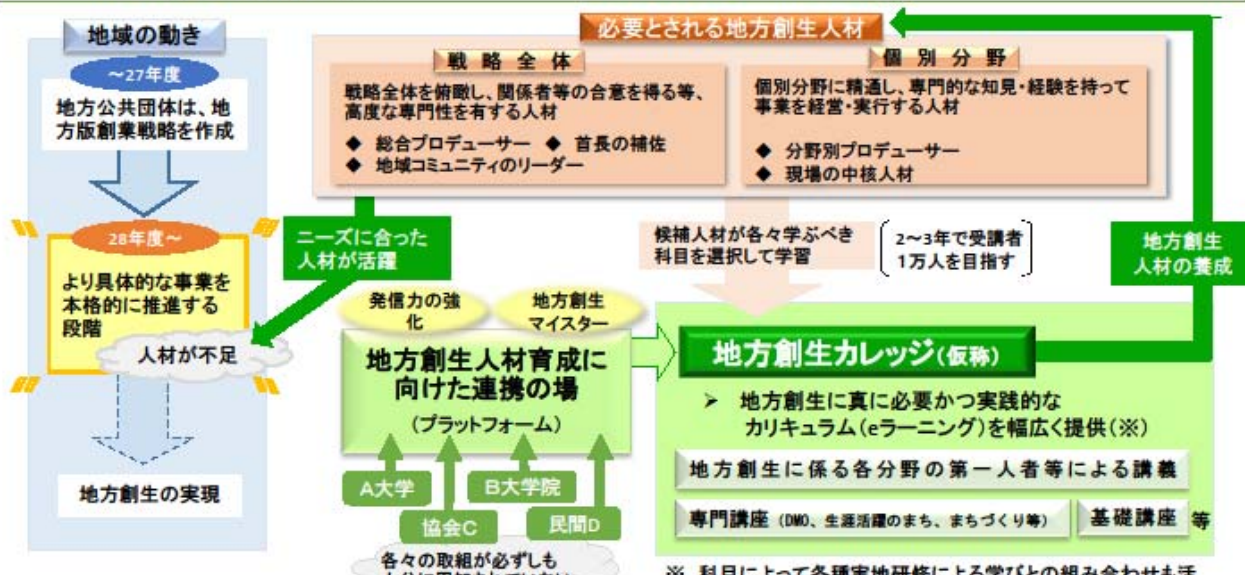
国家戦略特区制度、社会保障制度改革、地方分権、規制改革等との連携

地方創生人材プラン<概要>

現状 : 地方公共団体は、今後、地方版総合戦略に基づき、より具体的な事業を本格的に推進

課題 : 事業推進には、高度な専門性を有する人材等が必要となるが、地方では不足しがち

方向性 : ①国が主導し、広く養成機関等の参加を得て、地方創生人材育成に向けた連携の場(プラットフォーム)を形成
②地方創生カレッジを創設し、地方創生に真に必要なかつ実践的なカリキュラムを整備するとともに、eラーニングにより幅広く提供。



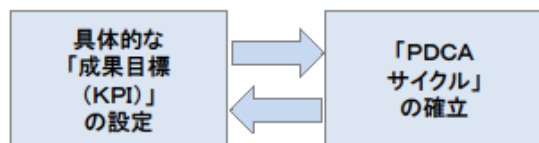
地方創生の深化のための新型交付金(地方創生推進交付金) (内閣府地方創生推進室)

28年度概算決定額 1,000億円【うち優先課題推進枠227億円】(新規)
 (事業費ベース 2,000億円)

事業概要・目的

○28年度からの地方版総合戦略の本格的な推進に向け、地方創生の深化のための新型交付金を創設

- ①自治体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを支援
- ②KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援
- ③地域再生法に基づく交付金とし、安定的な制度・運用を確保



事業イメージ・具体例

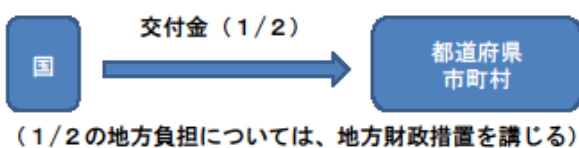
【対象事業】

- ①先駆性のある取組
 - ・官民協働、地域間連携、政策間連携、事業推進主体の形成、中核的人材の確保・育成
 (例) ローカル・イノベーション、ローカルブランディング(日本版DMO)、生涯活躍のまち、働き方改革、小さな拠点等
- ②既存事業の隘路を発見し、打開する取組
 - ・自治体自身が既存事業の隘路を発見し、打開するために行う取組
- ③先駆的・優良事例の横展開
 - ・地方創生の深化のすそ野を広げる取組

【手続き】

○自治体は、対象事業に係る地域再生計画(複数年度の事業も可)を作成し、内閣総理大臣が認定

資金の流れ



期待される効果

○先駆的な取組等を後押しすることにより、地方における安定した雇用創出、地方への新しいひとの流れ、まちの活性化など地方創生の深化の実現に寄与

地方創生の深化のための新型交付金における先駆的な事業例

◆地域の技の国際化(ローカルイノベーション)

・明確な出口戦略の下、大学、研究機関、企業、金融機関等の連携を促進し、日本型イノベーション・エコシステムの形成や地域中核企業等への支援等が出来るためのネットワーク形成等を通じて、IoTを活用した新たなイノベーションの創出をはじめ、地域の「稼ぐ力」を引き出す取組を行う。

◆地域の魅力のブランド化(ローカルブランディング:日本版DMO・地域商社)

・地域の「稼ぐ力」向上のため、様々な連携を図りながら地域経済全体の活性化につながる観光戦略を実施する専門組織として日本版DMOを確立し、これを核とした観光地域づくりを行う。
・地場産品を戦略的に東進、安定的な販路開拓・拡大に取り組む地域商社を核に、地場産品市場の拡大、地域経済の活性化を目指す。

◆地域のしごとの高度化(ローカルサービスの生産性向上等)

・地域経済を支えるサービス産業の生産性向上に向け、各業種に即した生産性改善の取組に加え、地域間、異業種間等を問わず、事業者等の様々な連携により新たなビジネスモデルを生み出し、ITの活用や対内直接投資も含めた生産性向上に資する戦略的投資を呼び込む取組などを促進する。

◆地方創生推進人材の育成・確保

・全国規模で行われる地方創生人材の育成・確保の取組(「地方創生カレッジ」を含む)と連動しながら、その地域独自の人材ニーズに基づき行われる人材育成・確保の取組を行うとともに、それを通じた地域の総合力の底上げを目指す。(他の分野の事業の中で併せて取り組む場合も含む。)

◆移住促進/生涯活躍のまち

・人材ニーズを踏まえた雇用創出・人材育成との連携や、地域コミュニティの活性化を伴う移住促進施策を実施する。
・特に、高齢者等が希望に応じて移住し、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活が送れるよう、「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた取組を進める。

◆地域ぐるみの働き方改革

・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、地方公共団体だけでなく、地域の産業界や労働界、金融機関等の地域の関係者が「地域働き方改革会議(仮称)」の下に集い、地域ぐるみで働き方改革に取り組む。

◆広域的な取組による「小さな拠点」の形成・活性化

・地域住民を主体とした「小さな拠点」が連携して、広域的な取組を行うことにより、生活機能の確保に加え、地域資源の活用によるコミュニティビジネスの活性化や都市部との交流を図り、持続的な集落生活圏の維持・形成を図る。

◆都市のコンパクト化と公共交通ネットワークの形成等

・都市のコンパクト化や公共交通網の再構築、公共インフラや既存ストックの有効なマネジメントなどに資する取組を推進するとともに、これらの取組との連携による「稼げるまちづくり」を目指したまちの賑わいを創出する等戦略的な取組を進める。

平成27年度 人材力活性化に関する調査研究事業 報告書
平成28年3月

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 人材力活性化・連携交流室
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話 03-5253-5111 (代)

(事業請負) 株式会社価値総合研究所
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
電話 : 03-5205-7901 FAX : 03-5205-7922

